

## 第3章 調査結果の比較

# 1 男女平等に関する意識について

## 質問1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識について

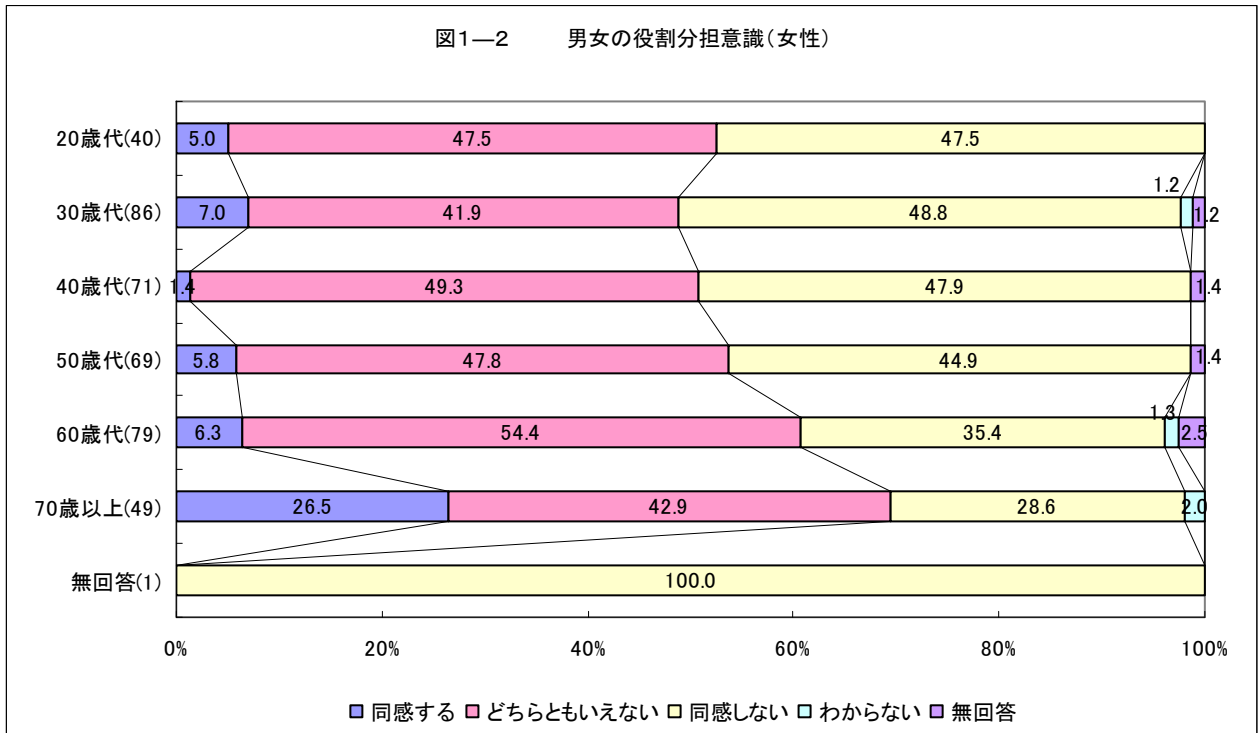
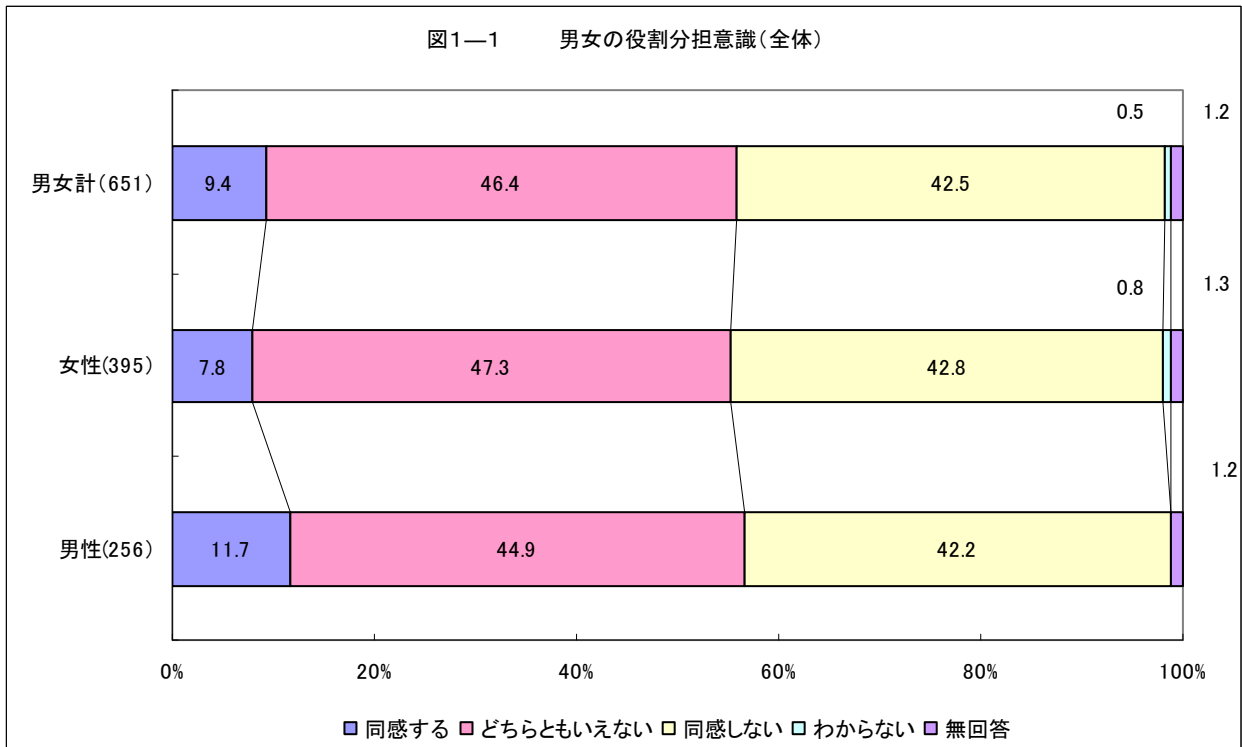
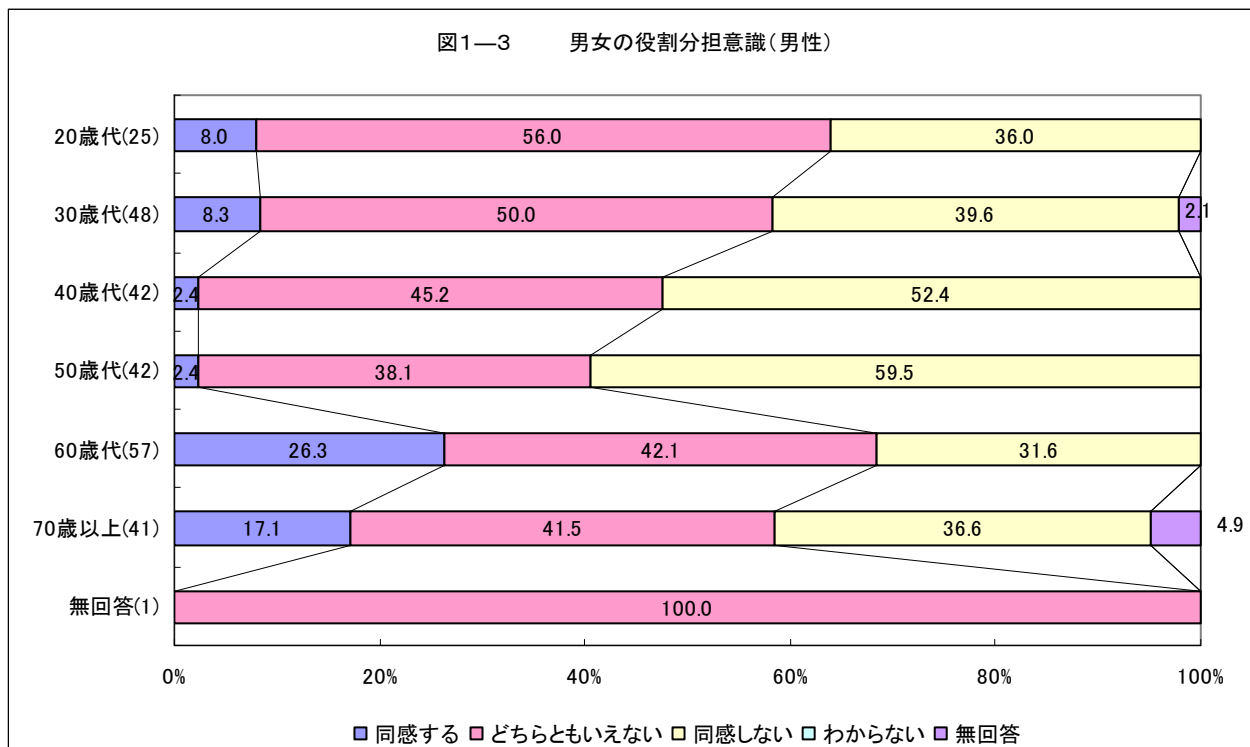


図1—3 男女の役割分担意識(男性)



〈全体の傾向〉

男女の役割分担意識について、女性全体では、「同意しない」(42.8%)、男性全体では「同意しない」(42.2%)とほぼ同様な数字となります。

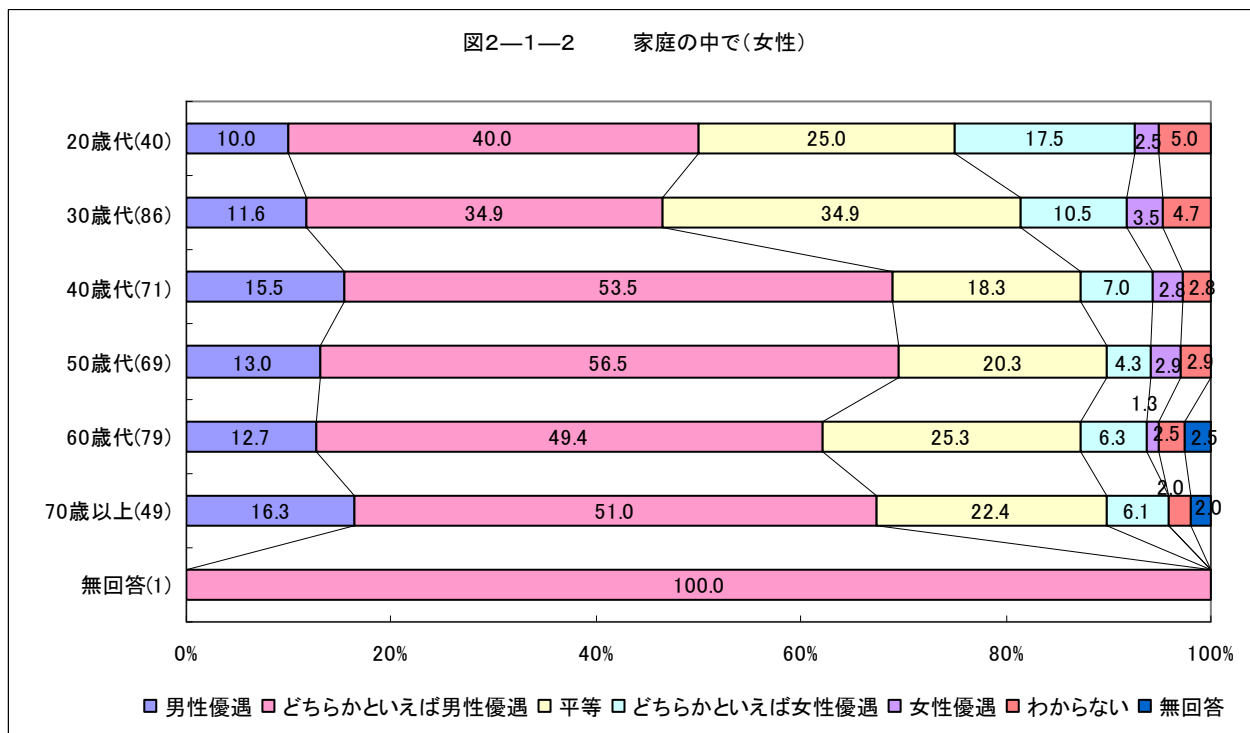
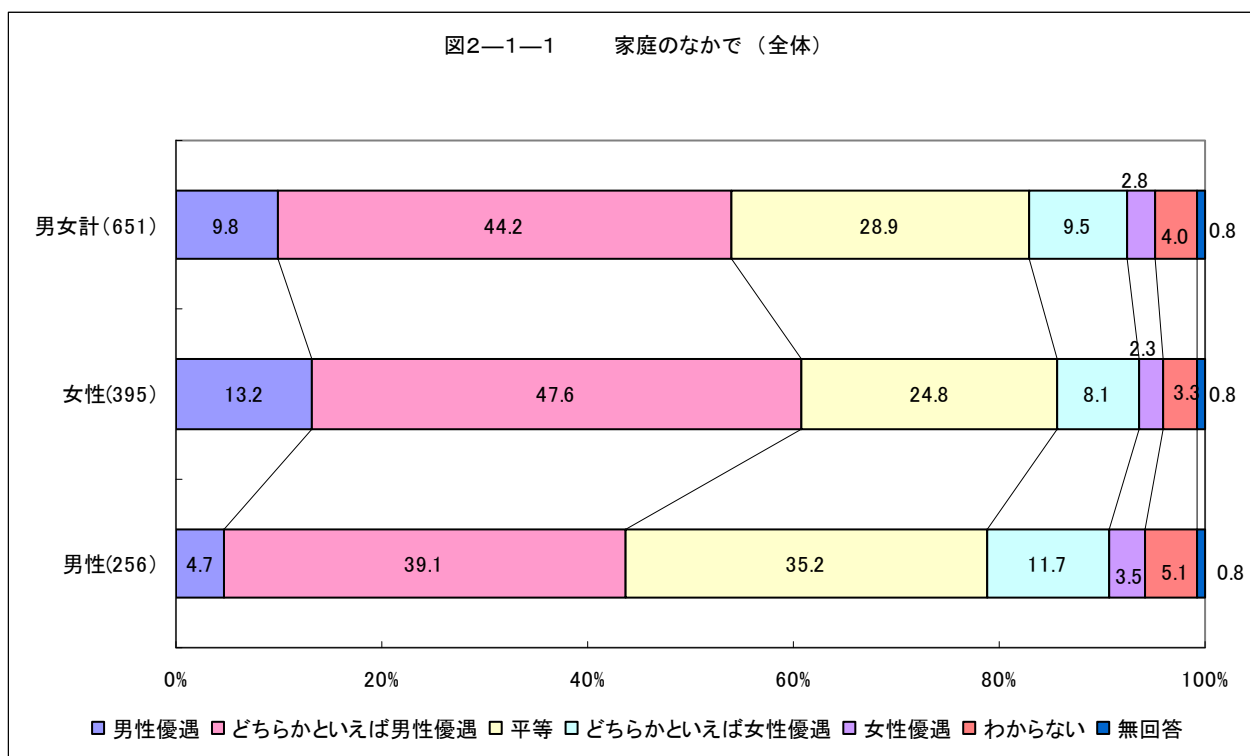
〈女性の傾向〉

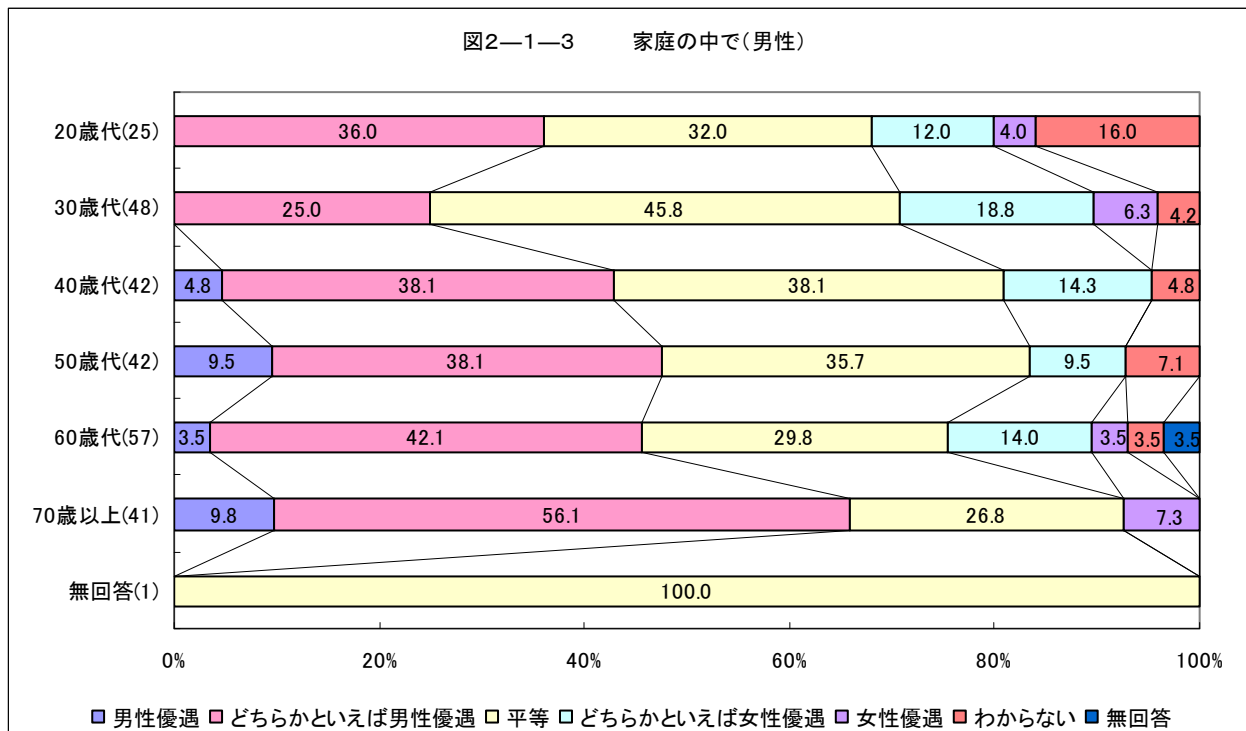
女性では、30歳代において「同意しない」(48.8%)と最も高く、続いて40歳代の47.9%とつづきます。

〈男性の傾向〉

男性では、50歳代において「同意しない」(59.5%)が最も高く、続いて40歳代の52.4%が続きます。

質問2 男性と女性の地位の平等について





#### <全体の傾向>

女性全体では、「男性優遇」(13.2%)、「どちらかといえば男性優遇」(47.6%)と合わせて60.8パーセントになります。男性全体では、「男性優遇」(4.7%)、「どちらかといえば男性優遇」(39.1%)と合わせて43.8%となります。それにより、17.0ポイントほど女性は家庭においても男性優遇との意識が上回っています。

#### <女性の傾向>

女性では、30歳代において「平等」(34.9%)と最も平等感があります。40歳代の女性が「平等」(18.3%)となり、30歳代との差が16.6ポイントとなります。

#### <男性の傾向>

男性では、30歳代において「平等」(45.8%)と最も平等感があります。

図2—2—1 職場の中で(全体)

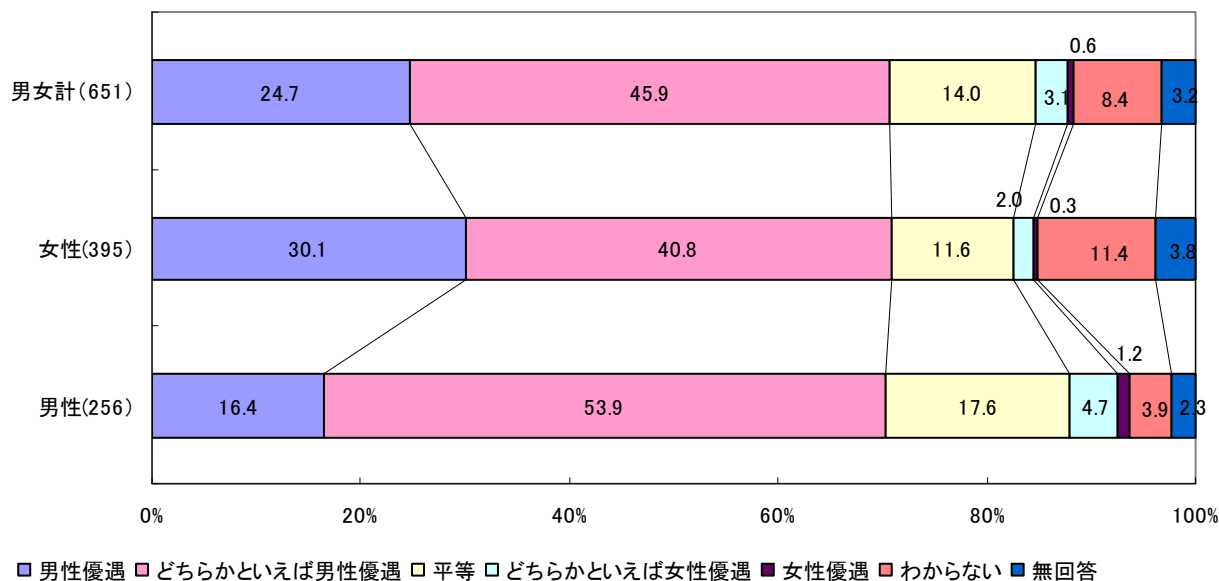


図2—2—2 職場の中で(女性)

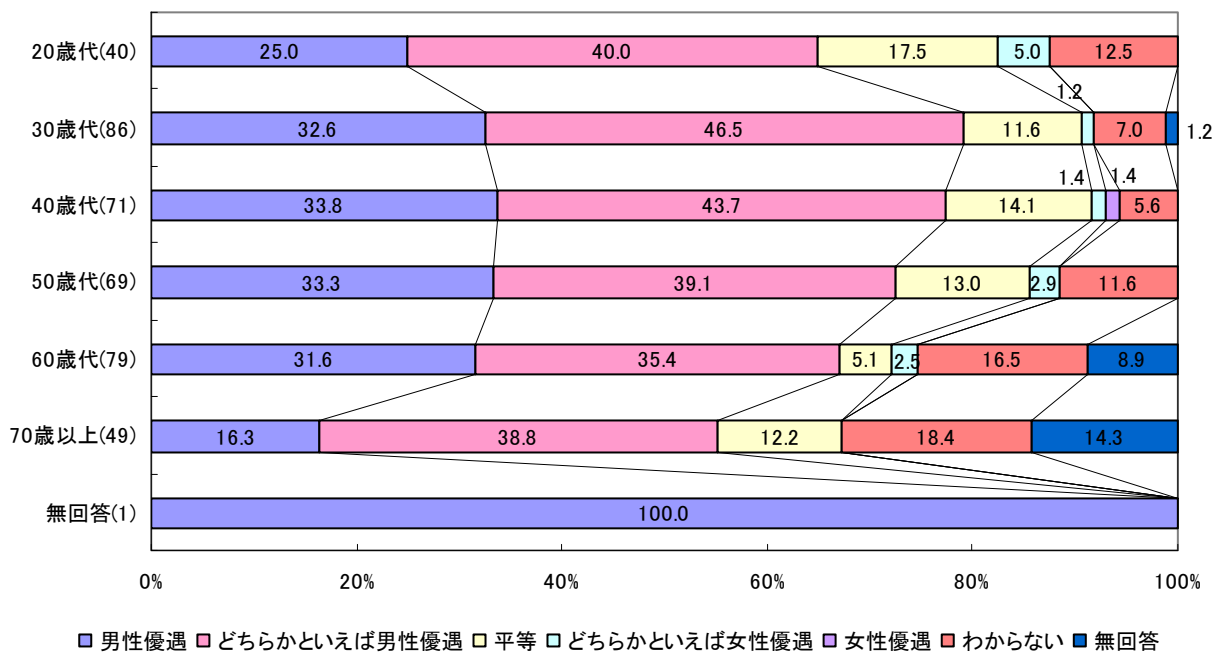
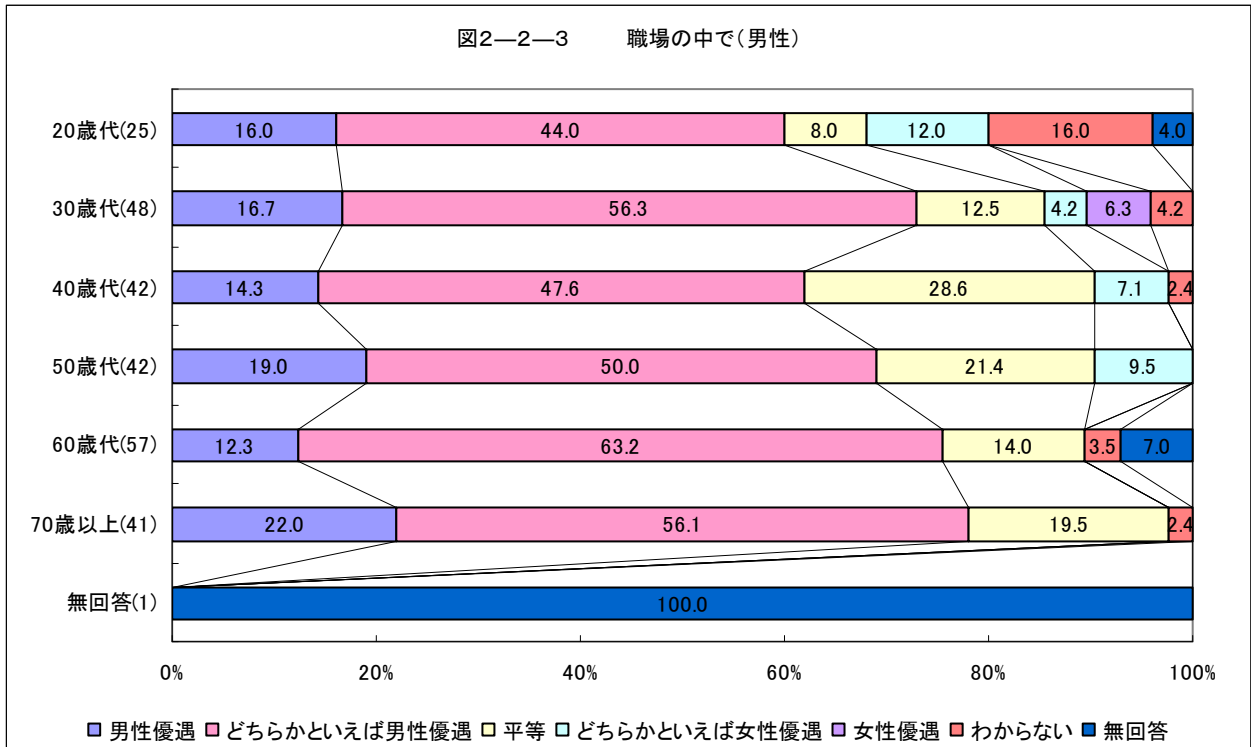


図2-2-3 職場の中で(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「男性優遇」(30.1%)、「どちらかといえば男性優遇」(40.8%)と合わせて70.9%になります。男性全体では、「男性優遇」(16.4%)、「どちらかといえば男性優遇」(53.9%)と合わせて70.3%となります。共に7割を超える回答で、男性が優遇されていると意識されています。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代、40歳代、50歳代と働きざかりの世代において「男性優遇」、「どちらかといえば男性優遇」が7割を超える回答となります。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代において「平等」(28.6%)との回答がありますが、「男性優遇」(14.3%)、「どちらかといえば男性優遇」(47.6%)と合わせると61.9%になり、その差が33.3ポイントあります。

図2—3—1 学校教育の場で(全体)

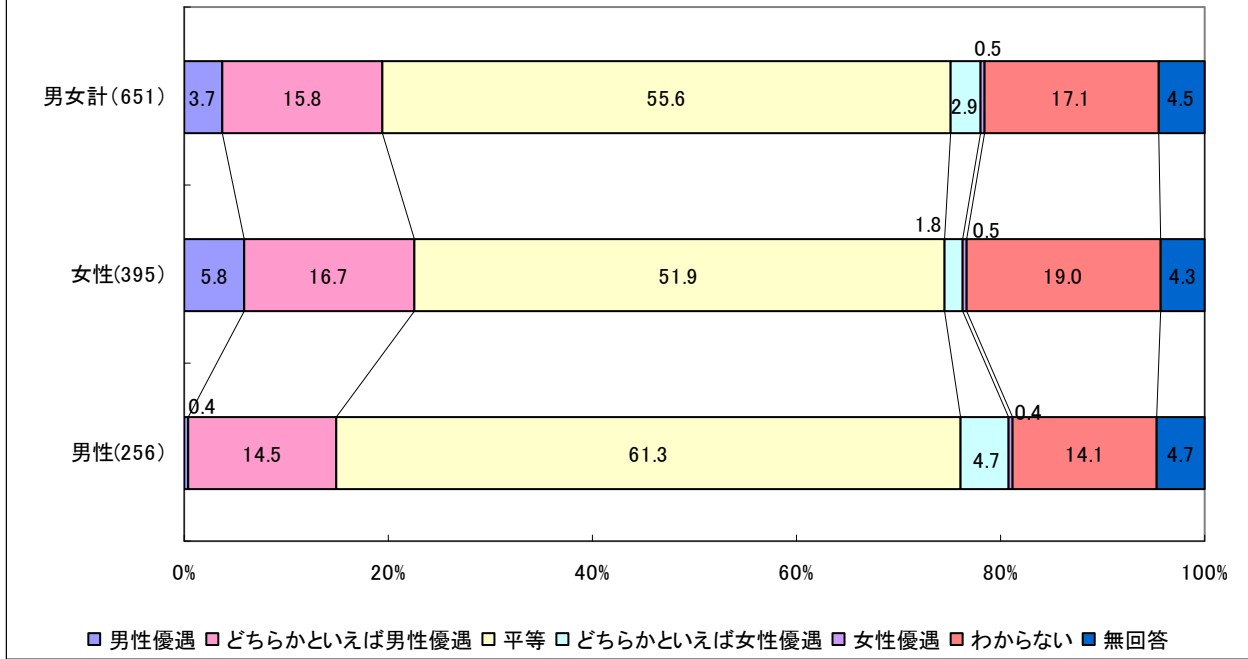


図2—3—2 学校教育の場で(女性)

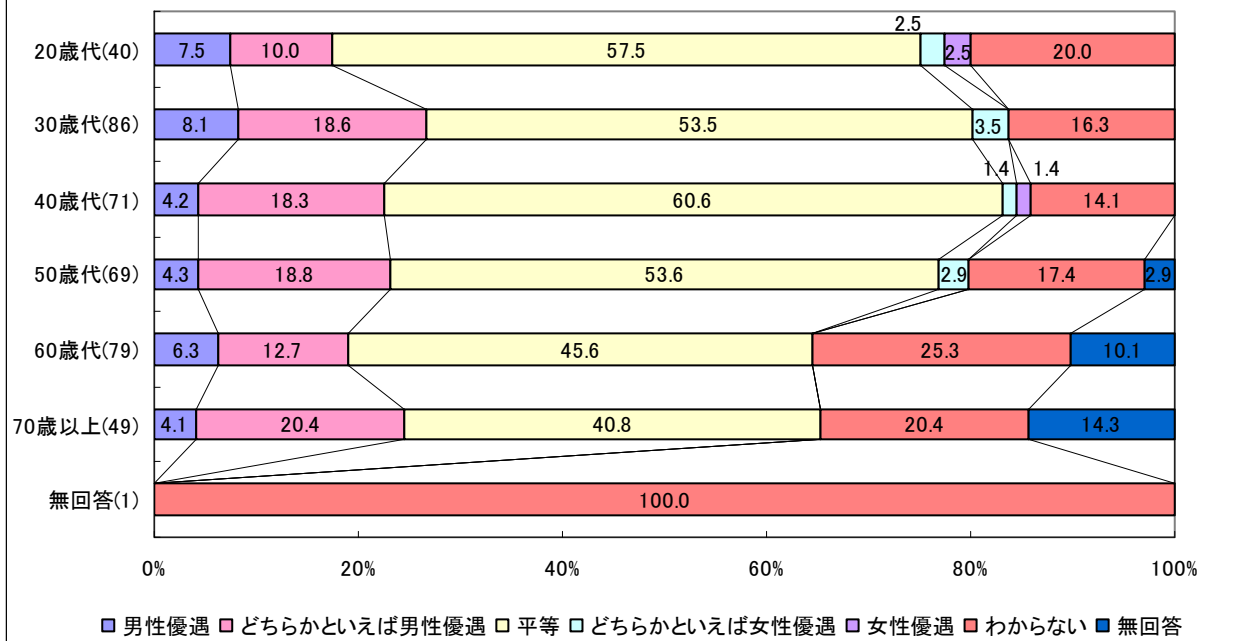
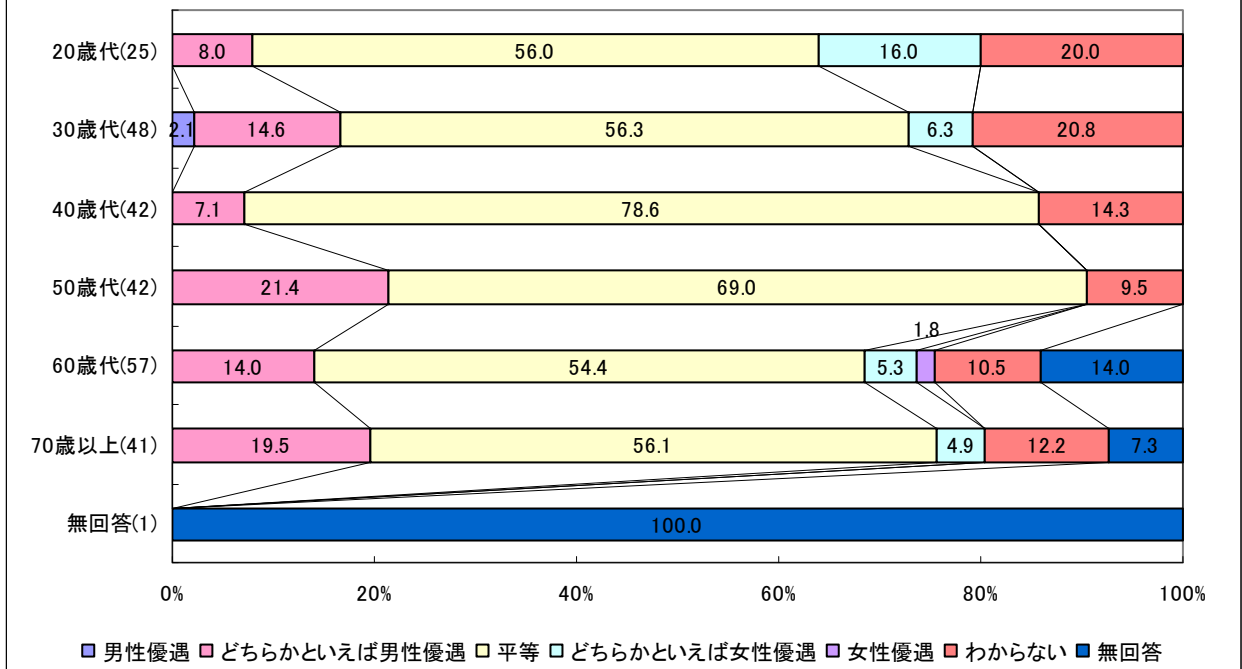




図2—3—3 学校教育の場で(男性)



〈全体の傾向〉

全体で、「平等」(55.6%)が平等感を持っています。女性全体では、51.9%、男性全体では、61.3%の人が平等感を持っています。

〈女性の傾向〉

女性では、各世代で4割を超える回答が「平等」となります。特に40歳代では、6割を超える回答が「平等」となります。

〈男性の傾向〉

男性でも、各世代で5割を超える回答が「平等」となります。40歳代においては「平等」(78.6%)との回答が得られています。

図2-4-1 政治の場で(全体)

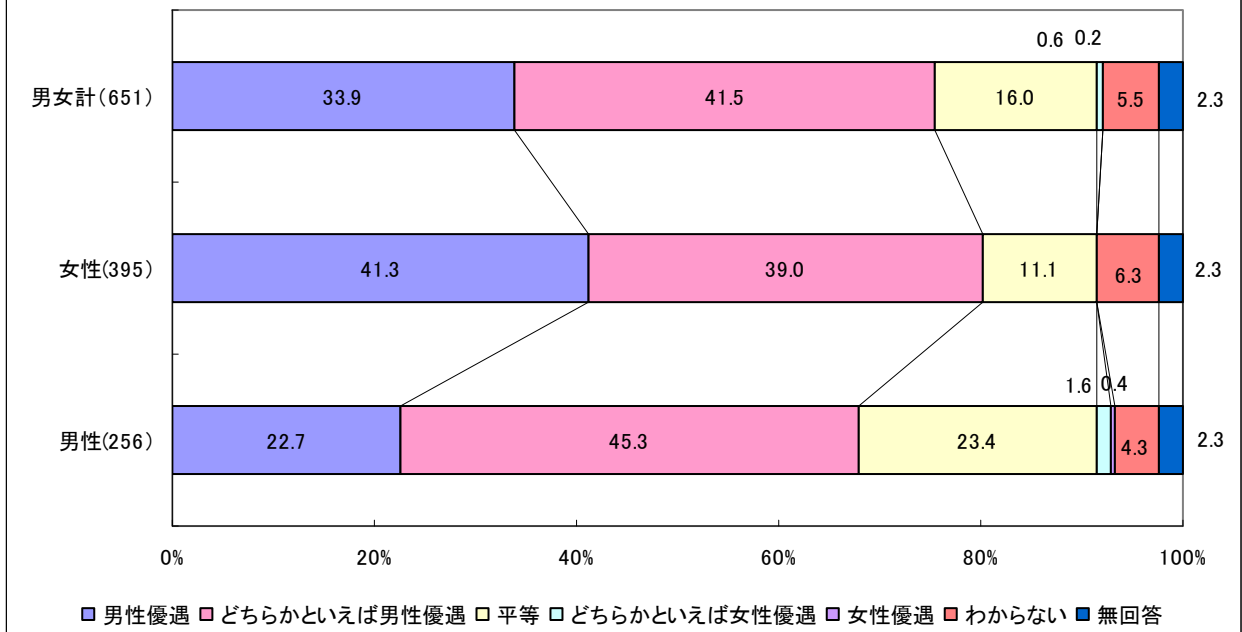


図2-4-2 政治の場で(女性)

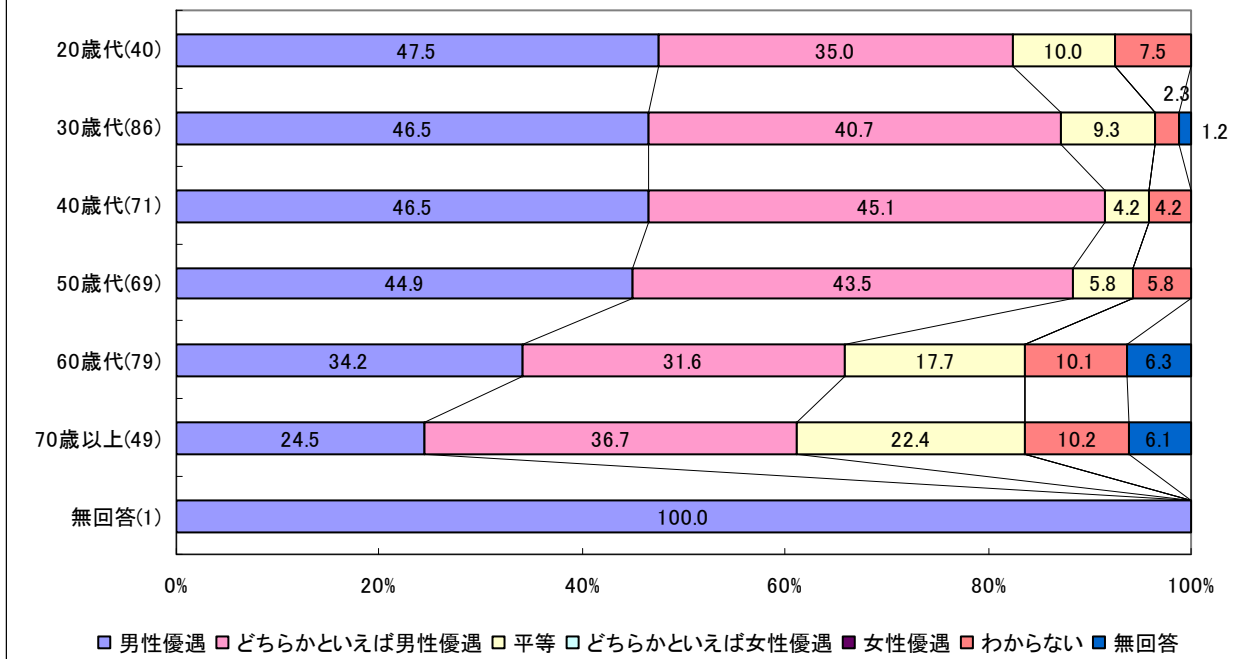
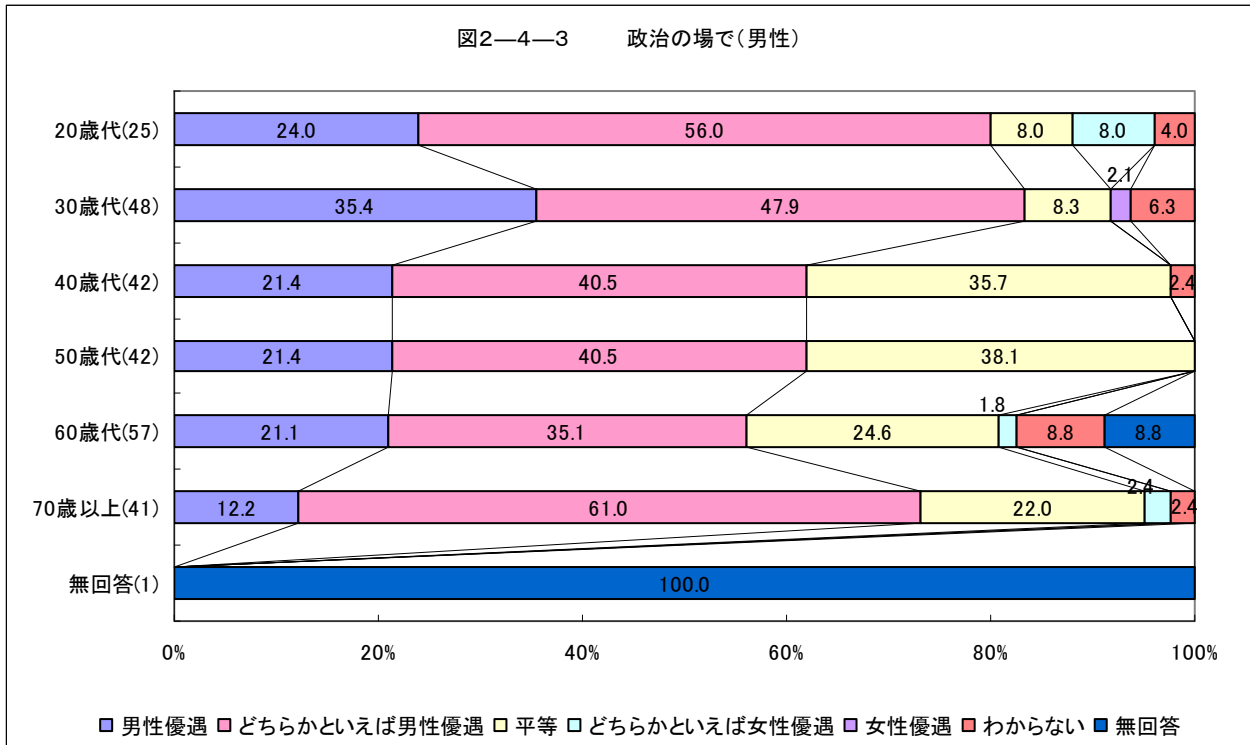


図2—4—3 政治の場で(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「男性優遇」(41.3%)、「どちらかといえば男性優遇」(39.0%)と合わせて80.3%になります。男性全体では、「男性優遇」(22.7%)、「どちらかといえば男性優遇」(45.3%)と合わせて68.0%となります。女性において、「女性優遇」、「どちらかといえば女性優遇」との回答は、ありませんでした。

〈女性の傾向〉

女性では、60歳代、70歳以上で他の世代より「平等」との回答が多くなっています。

〈男性の傾向〉

男性では、「男性優遇」、「どちらかといえば男性優遇」が、各世代において5割以上となります。

図2—5—1 社会通念や風潮で(全体)

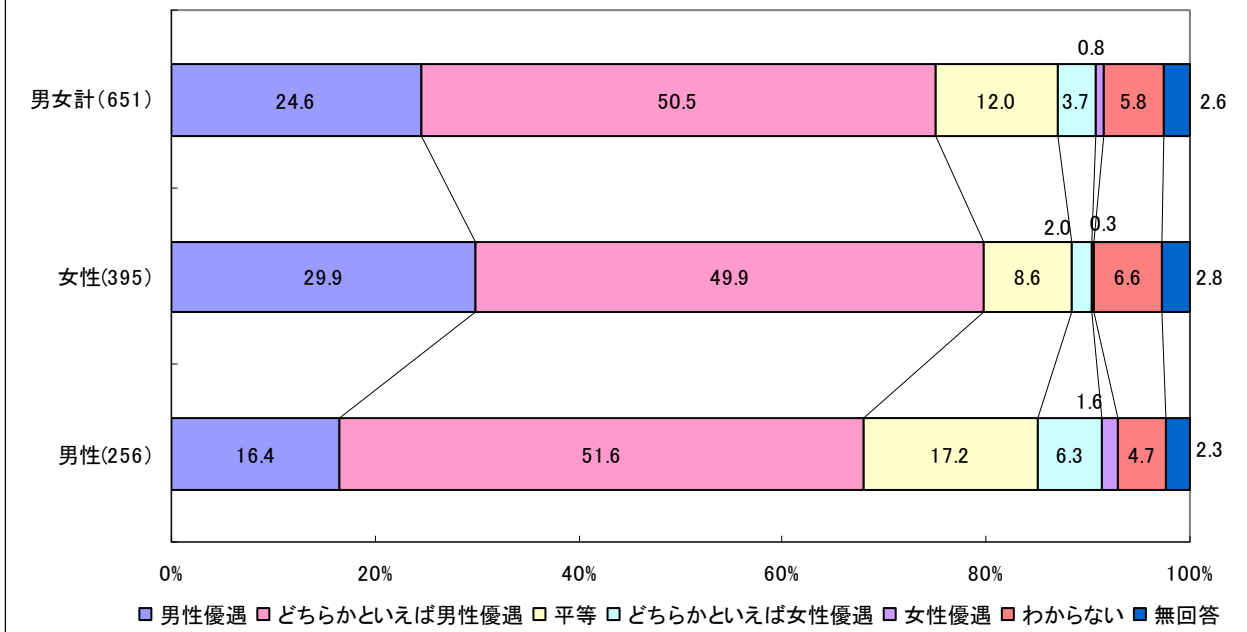


図2—5—2 社会通念や風潮で(女性)

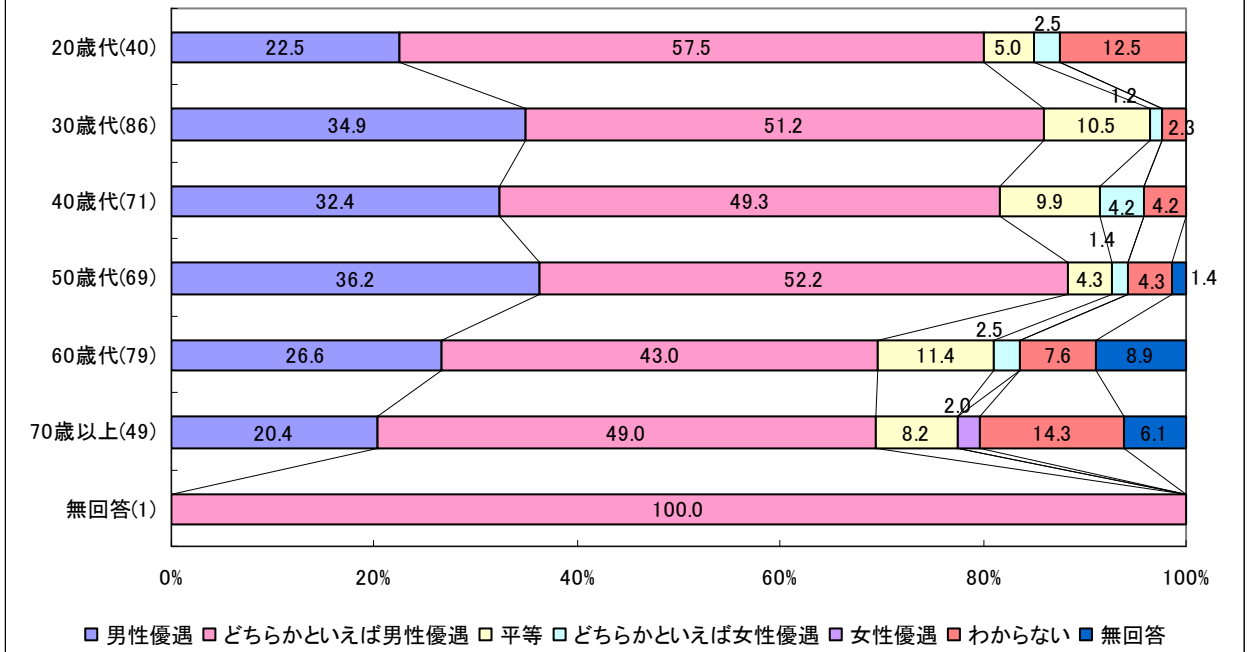
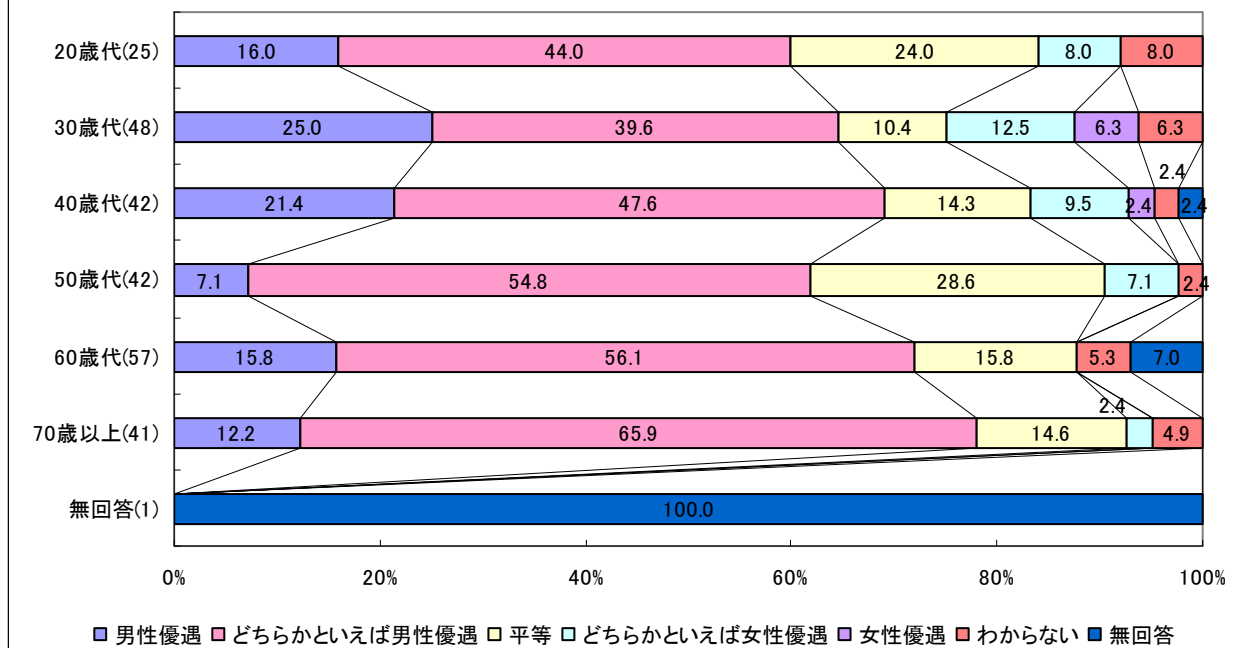


図2—5—3 社会通念や風潮で(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「男性優遇」(29.9%)、「どちらかといえば男性優遇」(49.9%)と合わせて79.8%になります。男性全体では、「男性優遇」(16.4%)、「どちらかといえば男性優遇」(51.6%)と合わせて68.0%となります。男女計においても、「平等」(12.0%)との回答が全体の1割となります。

〈女性の傾向〉

女性では、50歳代において、「男性優遇」(36.2%)、「どちらかといえば男性優遇」(52.2%)と9割近くの回答で、男性優遇となります。

〈男性の傾向〉

男性では、70歳以上で「男性優遇」(12.2%)、「どちらかといえば男性優遇」(65.9%)と8割近くの回答で、男性優遇となります。

図2—6—1 法律や制度で(全体)

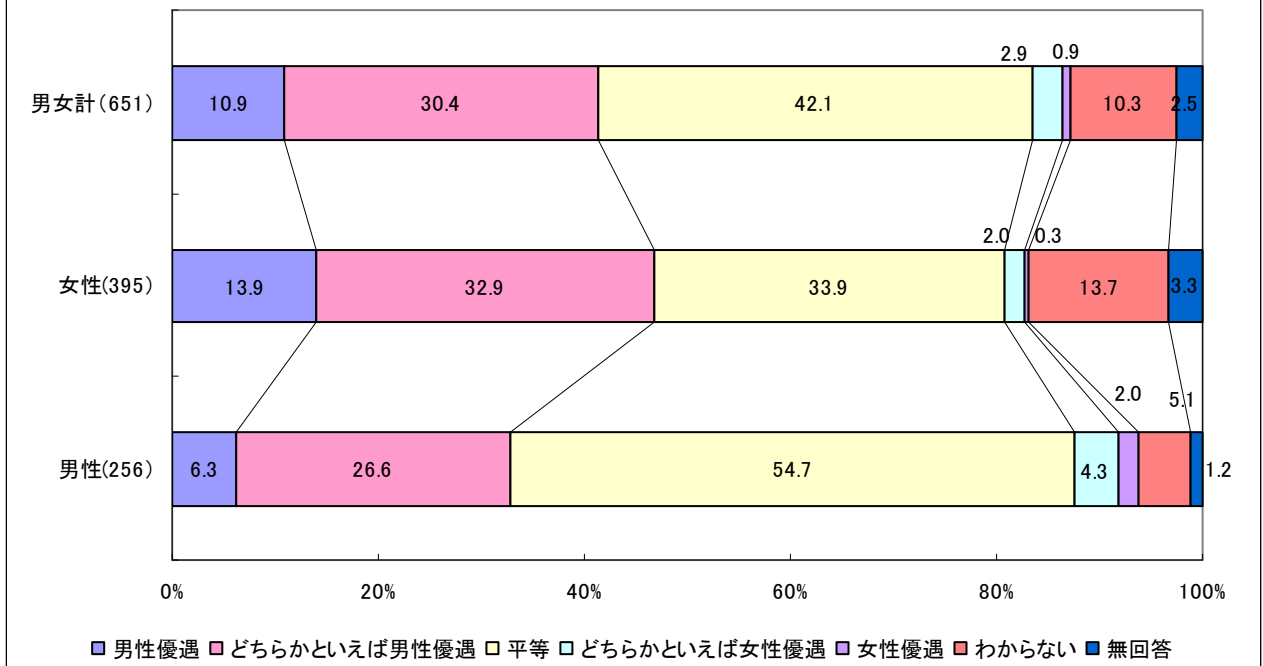


図2—6—2 法律や制度で(女性)

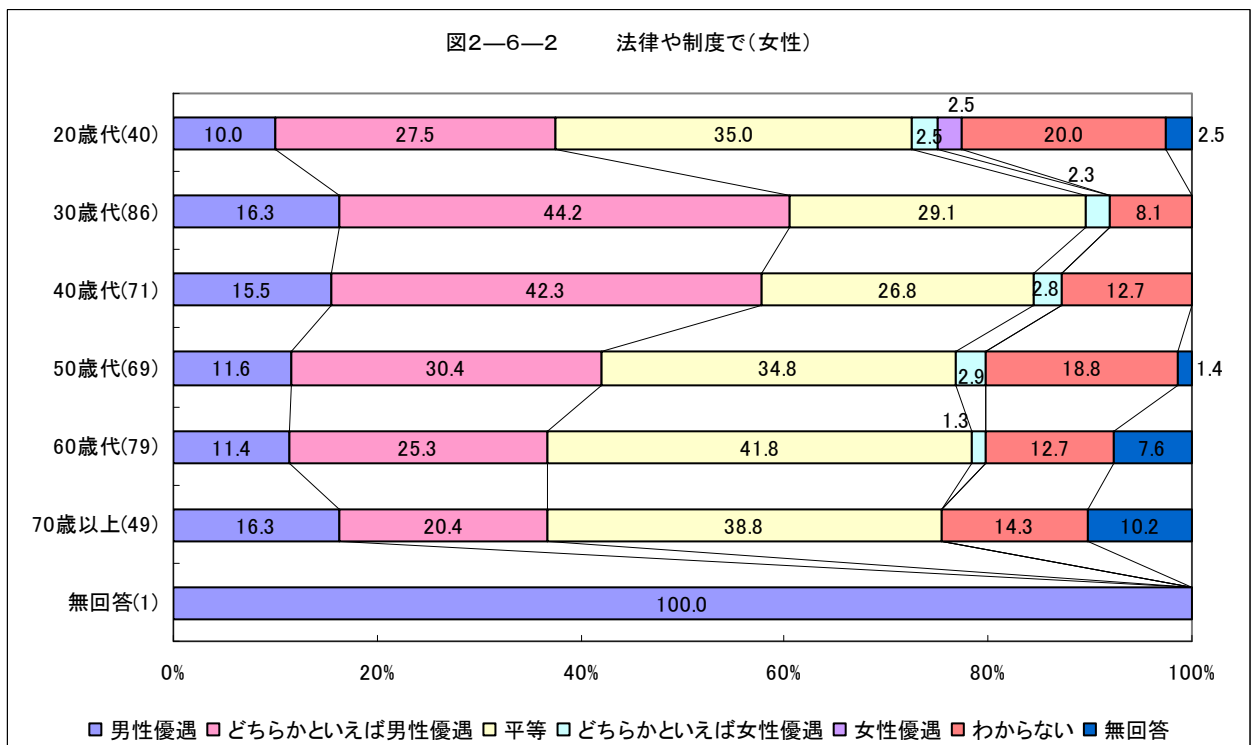
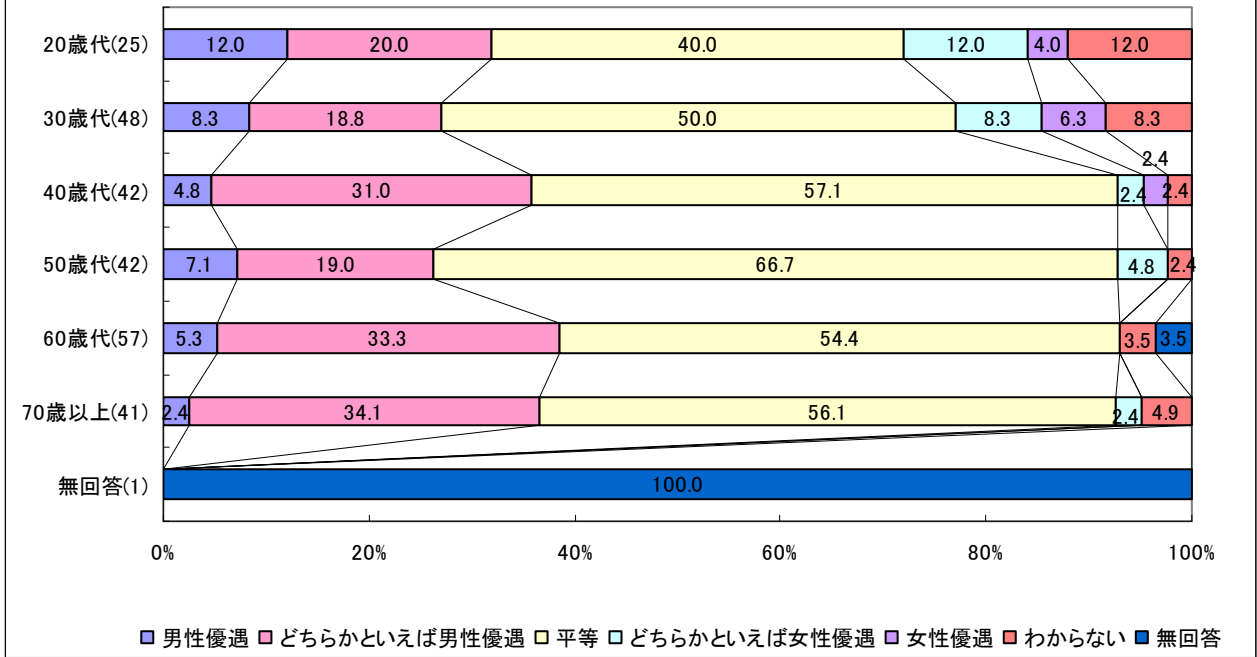


図2—6—3 法律や制度で(男性)



〈全体の傾向〉

男女計で「男性優遇」(10.9%)、「どちらかといえば男性優遇」(30.4%)と合わせて41.3%になり、「平等」(42.1%)とほぼ同じ割合となります。女性では、「平等」(33.9%)、男性では、「平等」(54.7%)となり、その差が20.8ポイントとなります。

〈女性の傾向〉

女性において、60歳代で「平等」(41.8%)となり、30歳代の「平等」(29.1%)と12.7ポイントの差があります。

〈男性の傾向〉

男性において、50歳代で「平等」(66.7%)となり、20歳代の「平等」(40.0%)と26.7ポイントの差があります。

図2-7-1 社会全体で(全体)

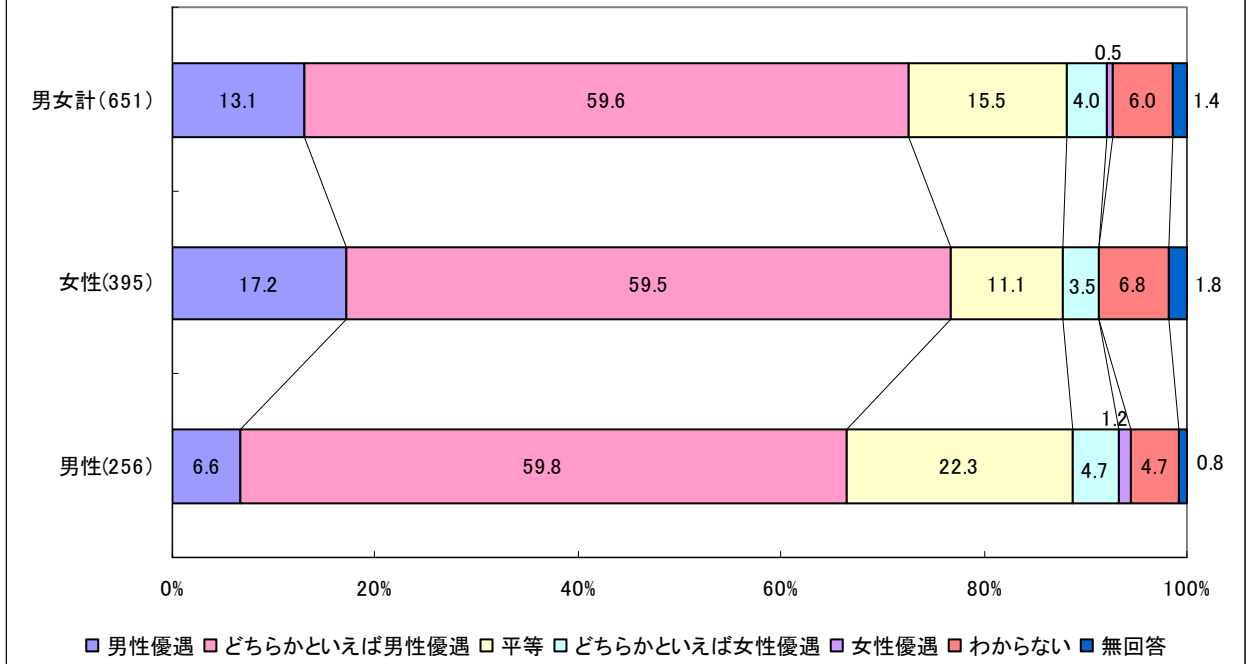


図2-7-2 社会全体で(女性)

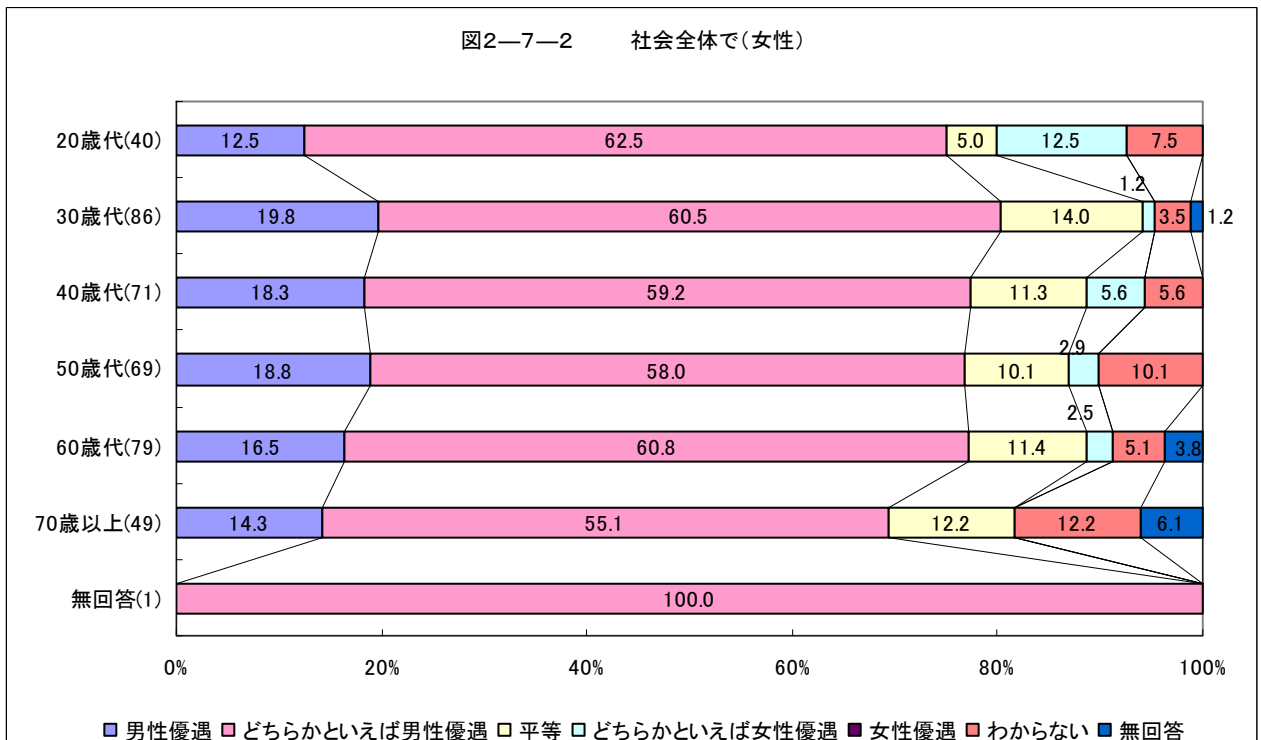
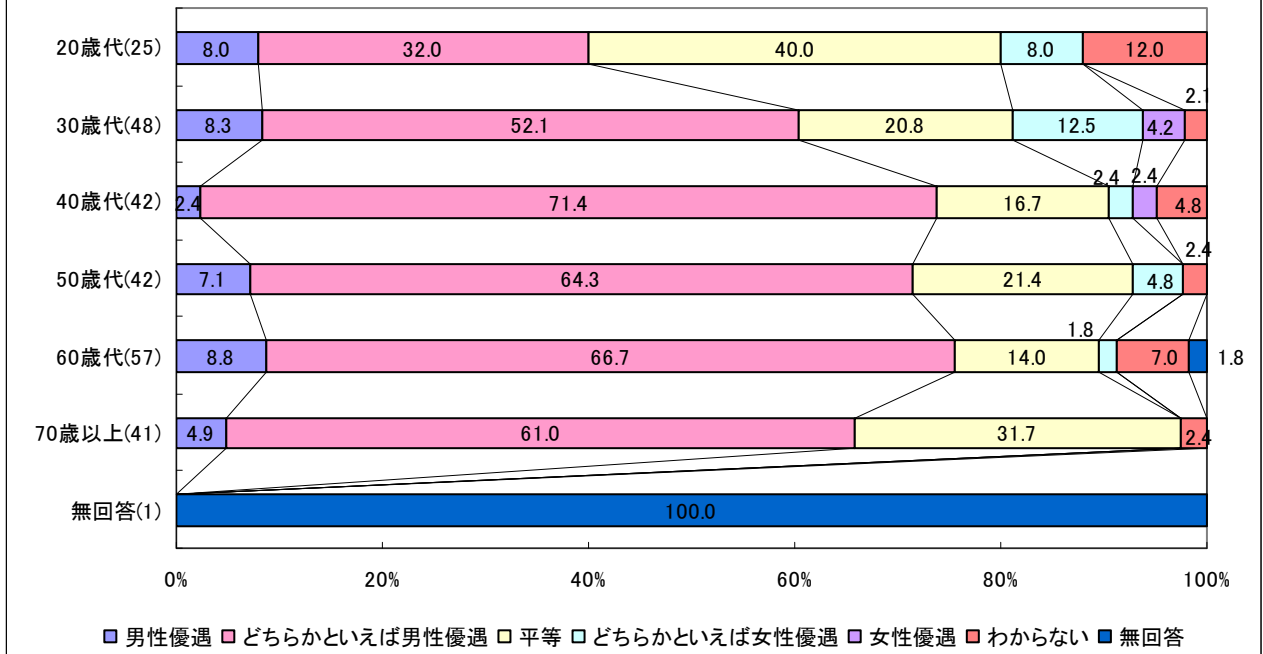




図2—7—3 社会全体で(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「男性優遇」(17.2%)、「どちらかといえば男性優遇」(59.5%)と合わせて76.7%になります。男性全体では、「男性優遇」(6.6%)、「どちらかといえば男性優遇」(59.8%)と合わせて66.4%となります。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代において、「男性優遇」(19.8%)、「どちらかといえば男性優遇」(60.5%)と合わせて80.3%の回答で、男性優遇となります。

〈男性の傾向〉

男性では、60歳代で「男性優遇」(8.8%)、「どちらかといえば男性優遇」(66.7%)と合わせて75.5%の回答で、男性優遇となります。

質問3 言葉の認知度について

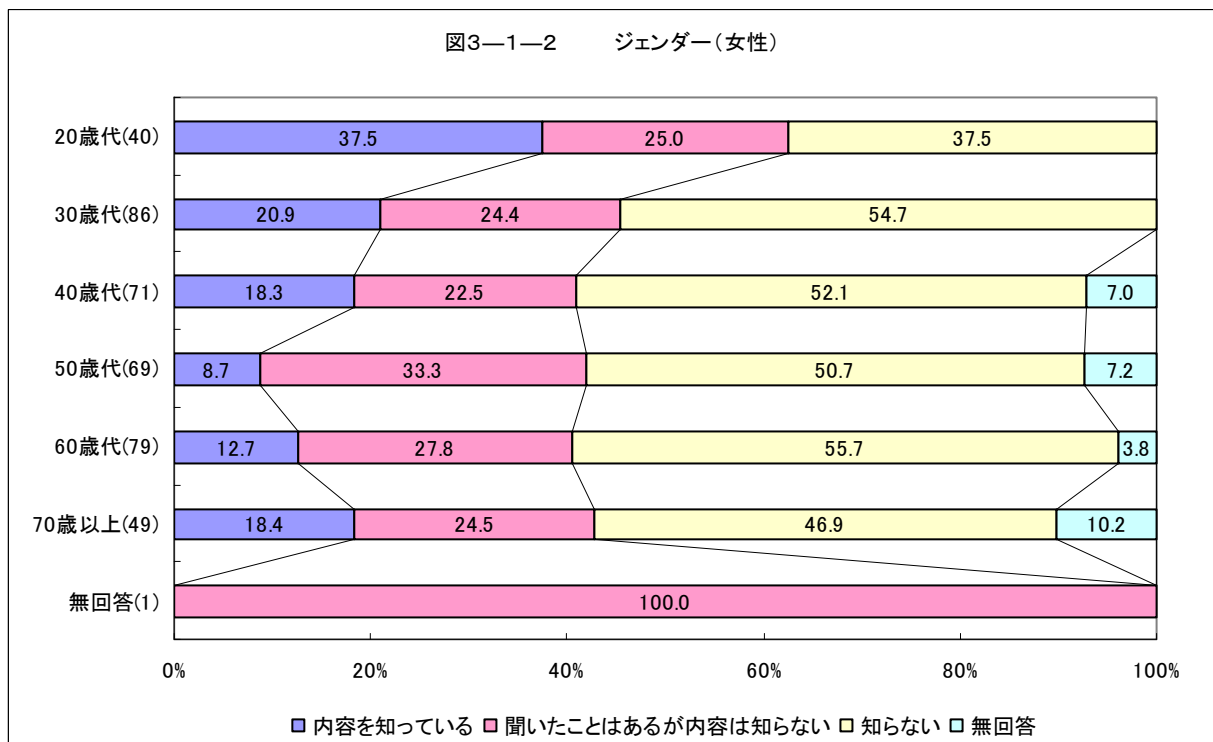
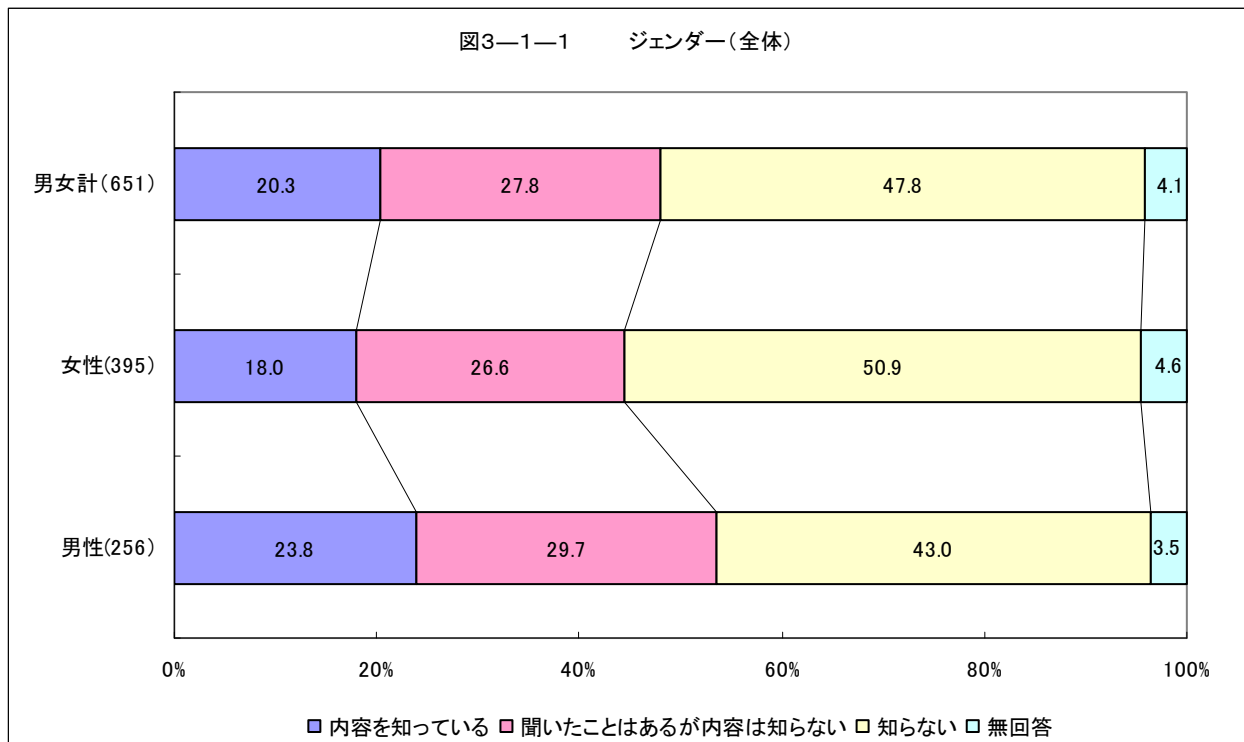
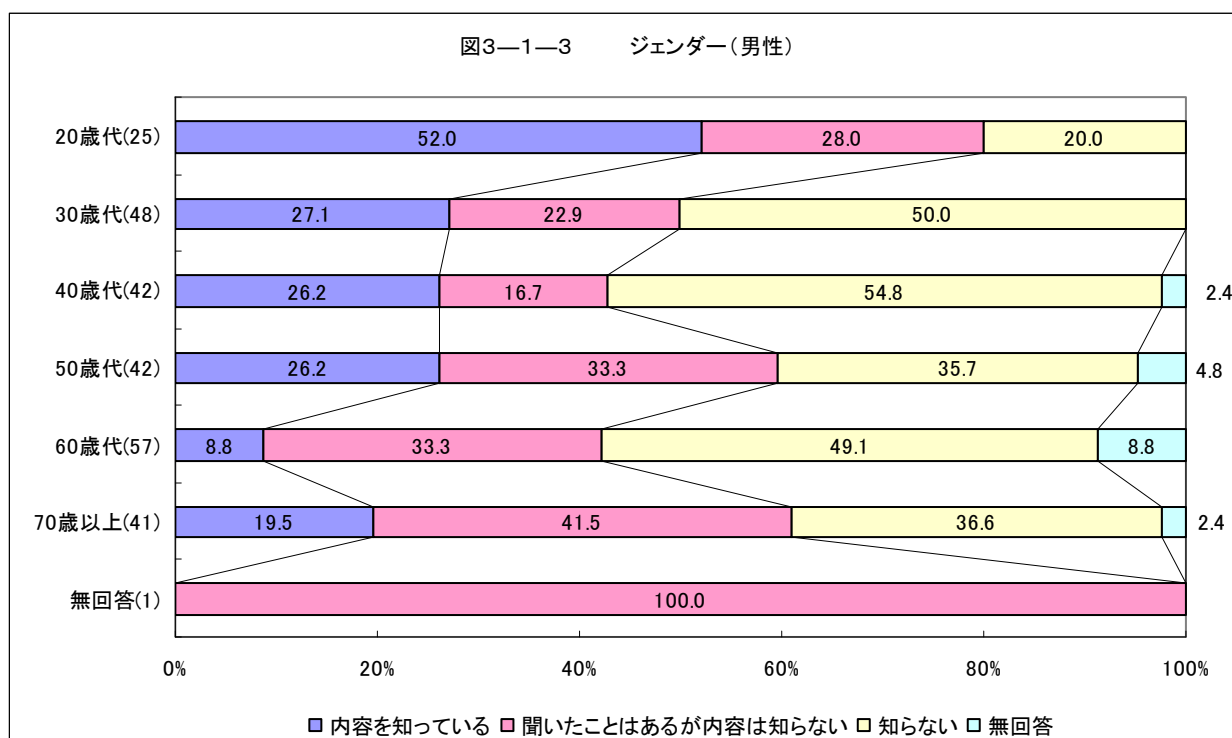


図3—1—3 ジェンダー(男性)



〈全体の傾向〉

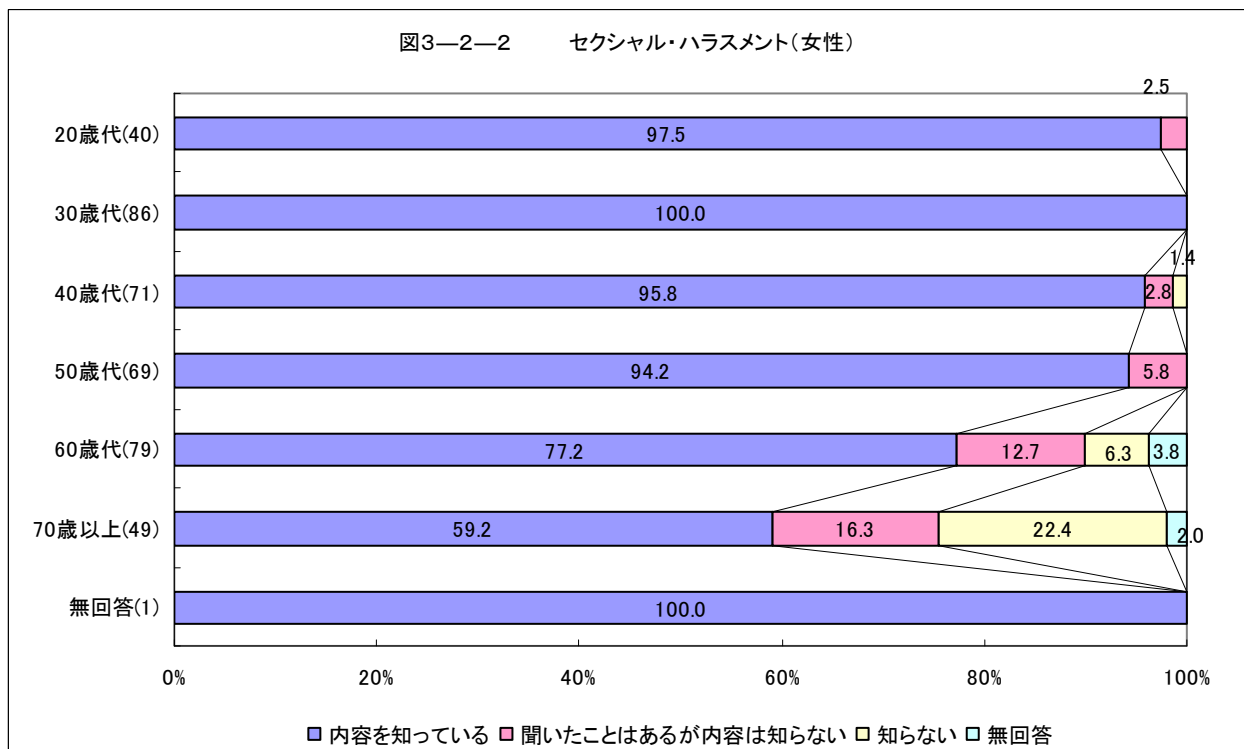
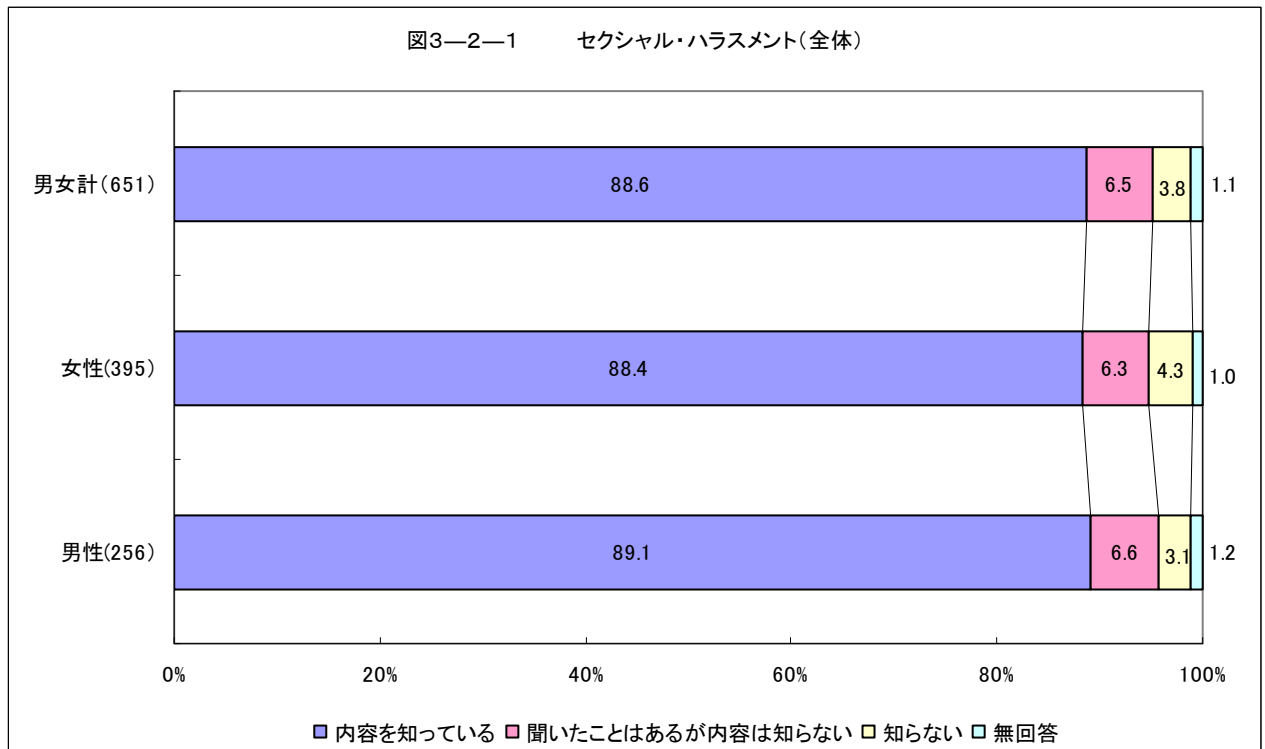
女性全体では、「知らない」(50.9%)、男性全体で「知らない」(43.0%)とその差が、7.9ポイントあります。

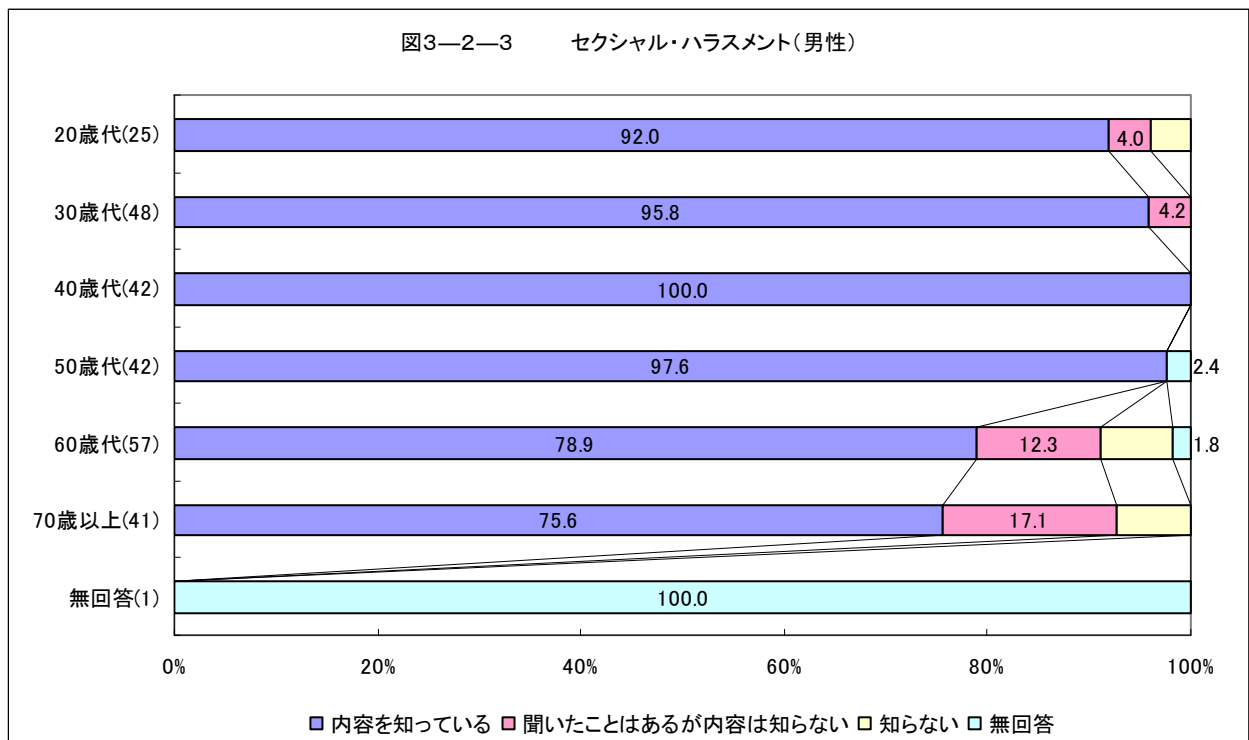
〈女性の傾向〉

女性では、20歳代において「内容を知っている」(37.5%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(25.0%)と合わせて62.5%の回答となります。

〈男性の傾向〉

男性では、30歳代において「内容を知っている」(27.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(22.9%)と合わせて50.0%の回答となり、「知らない」(50.0%)と同じ割合となります。





〈全体の傾向〉

男女計で、およそ9割の回答で「セクシャル・ハラスメント」が認知されています。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代において「内容を知っている」(100.0%)との回答が得られています。

〈男性の傾向〉

男性においても、40歳代において「内容を知っている」(100.0%)との回答が得られています。

図3—3—1 ドメスティック・バイオレンス(全体)

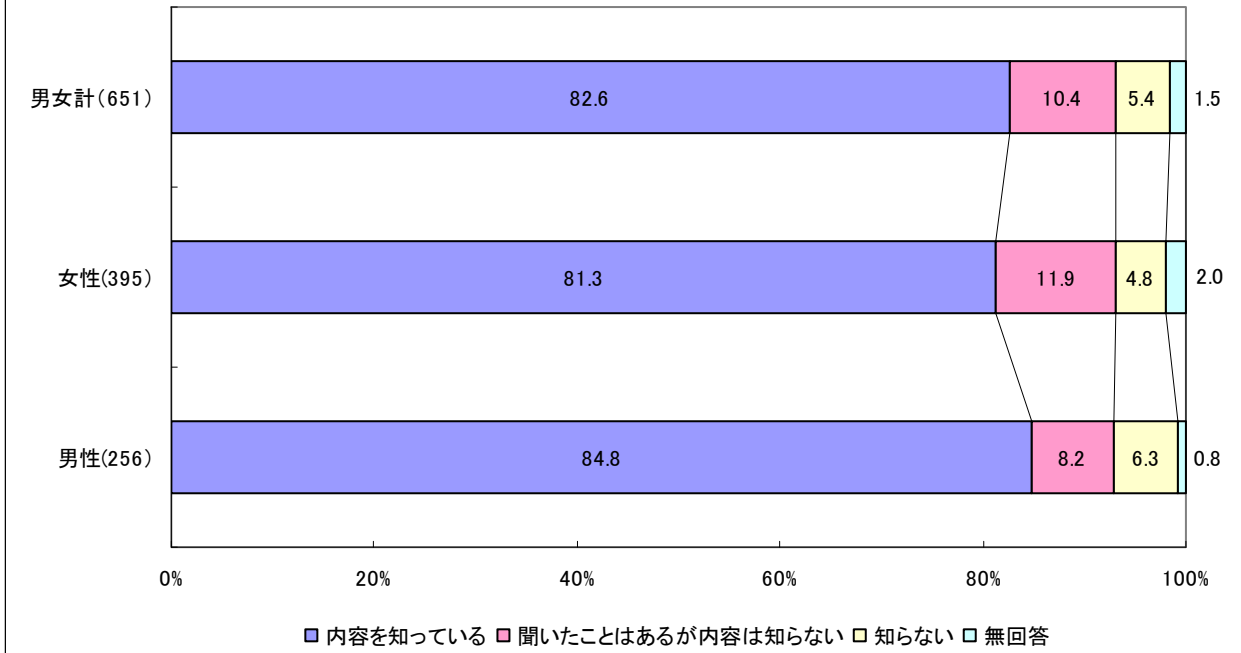
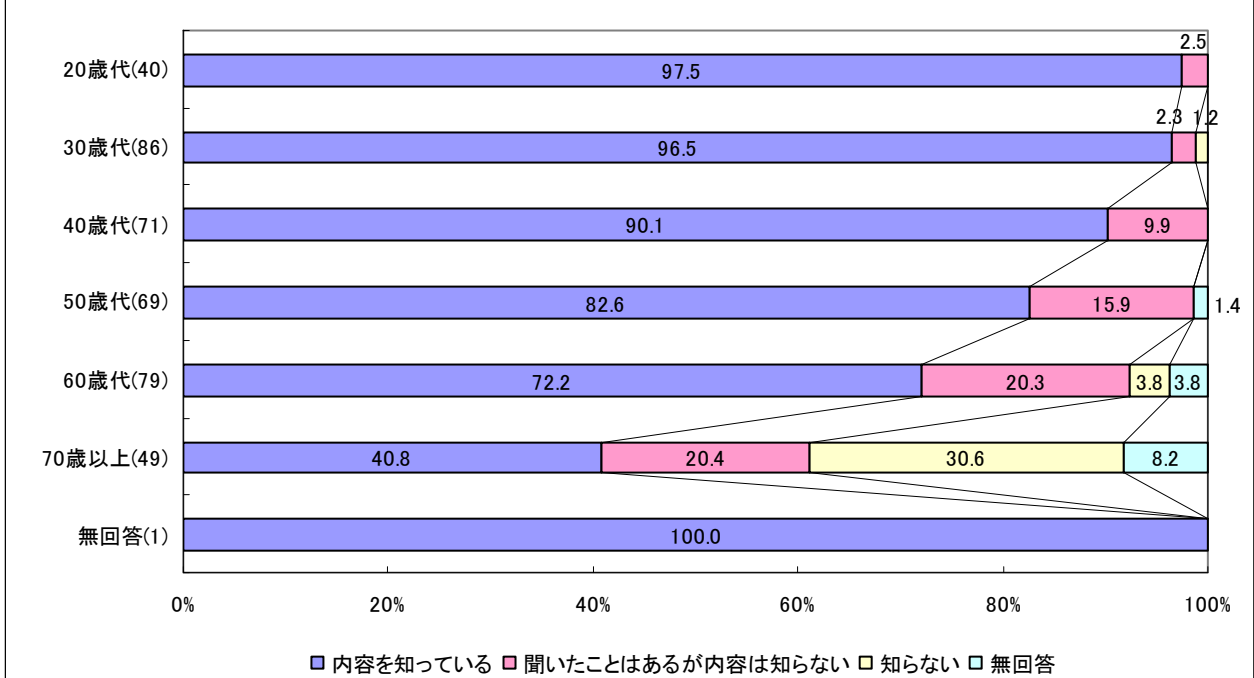
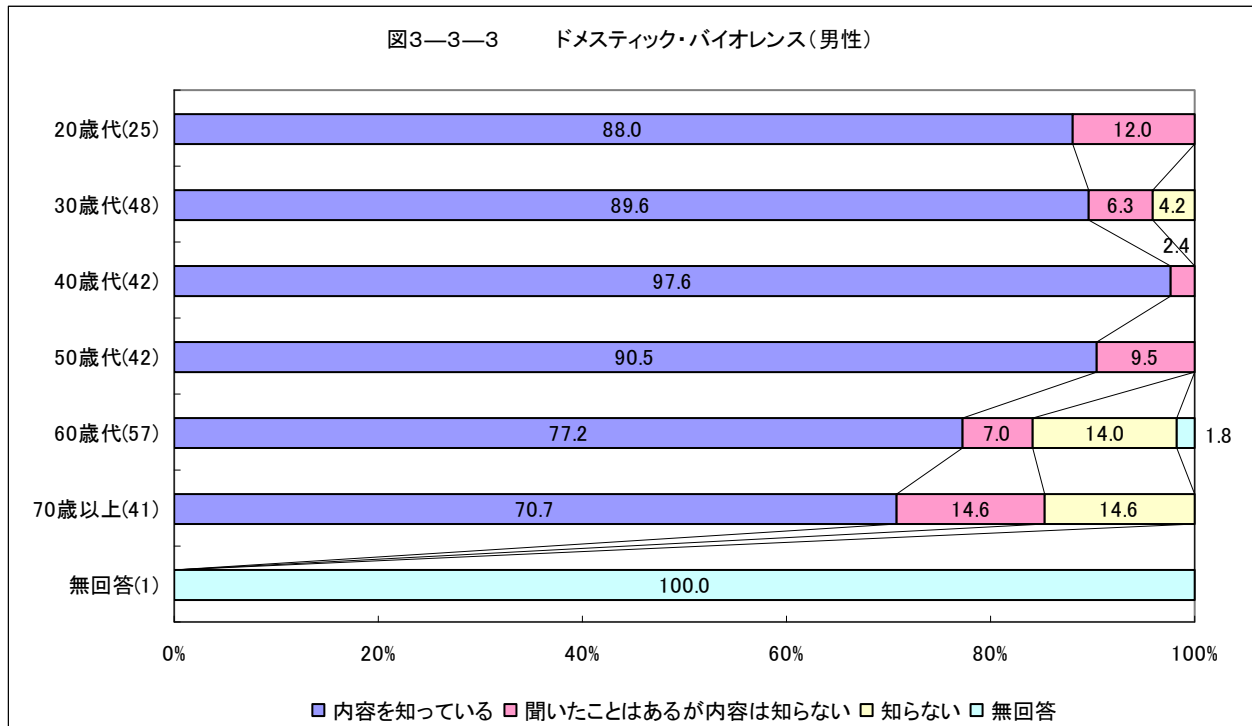


図3—3—2 ドメスティック・バイオレンス(女性)





〈全体の傾向〉

男女とも、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」をあわせると9割の回答で「ドメスティック・バイオレンス」が認知されています。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代において「内容を知っている」(97.5%)、30歳代で96.5%、40歳代で90.1%と続きます。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代において「内容を知っている」(97.6%)、50歳代で90.5%と続きます。

図3—4—1 ワークライフ・バランス(全体)

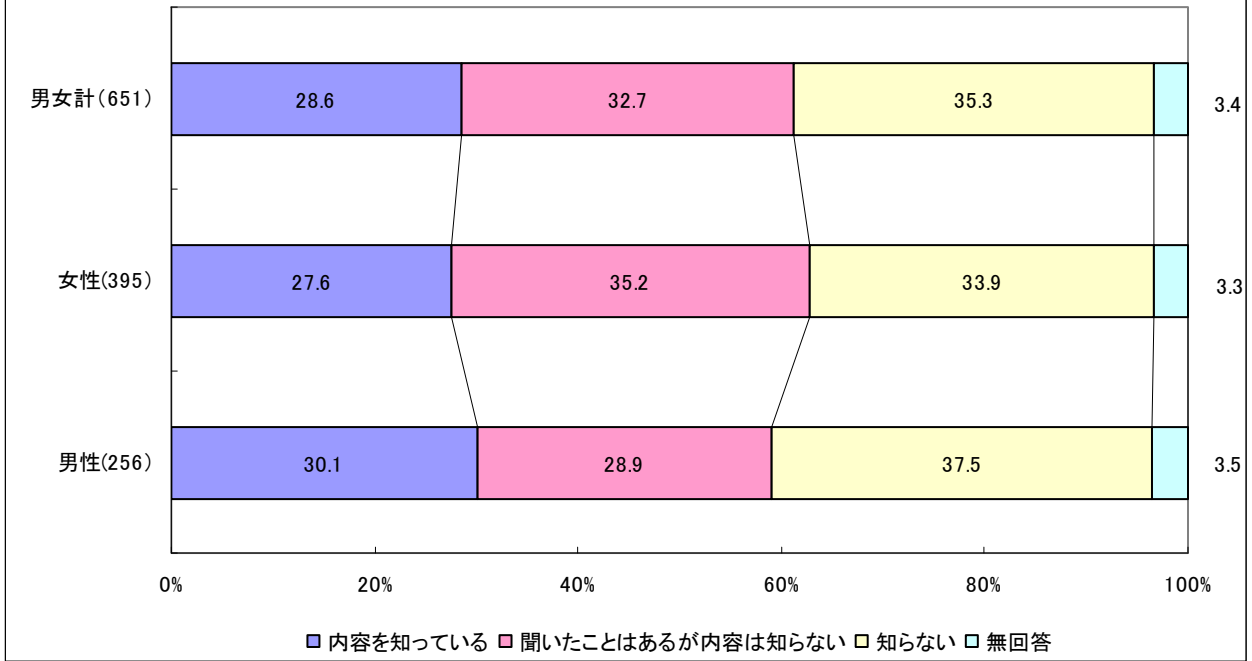
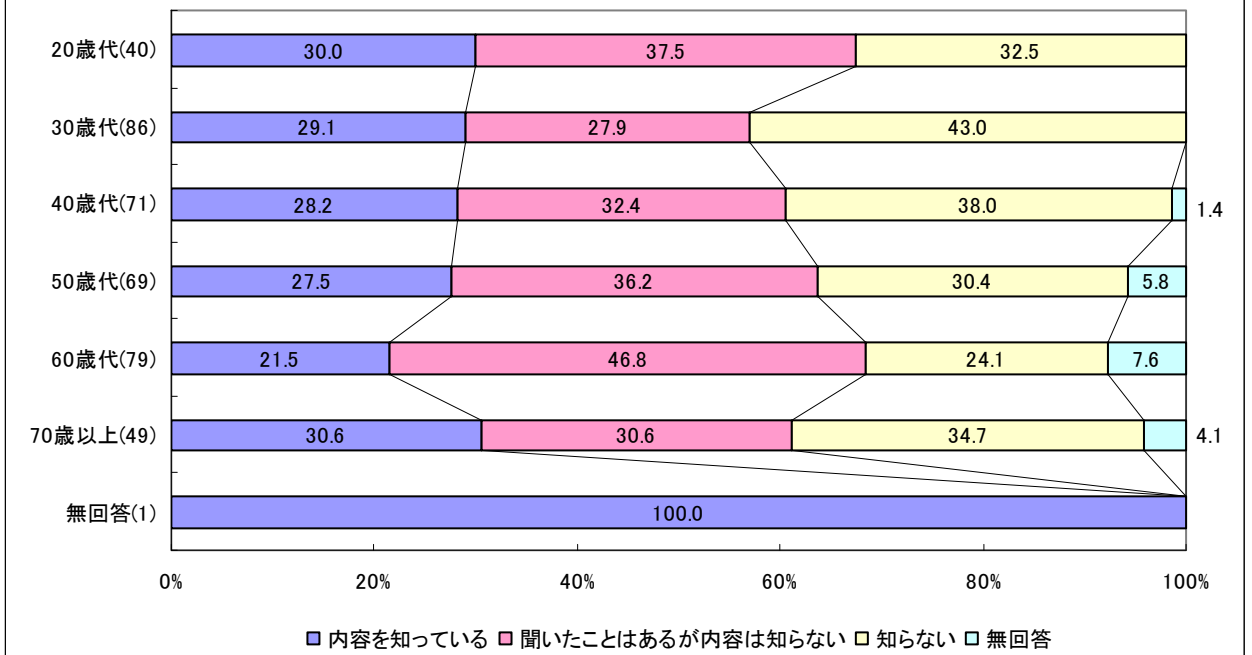
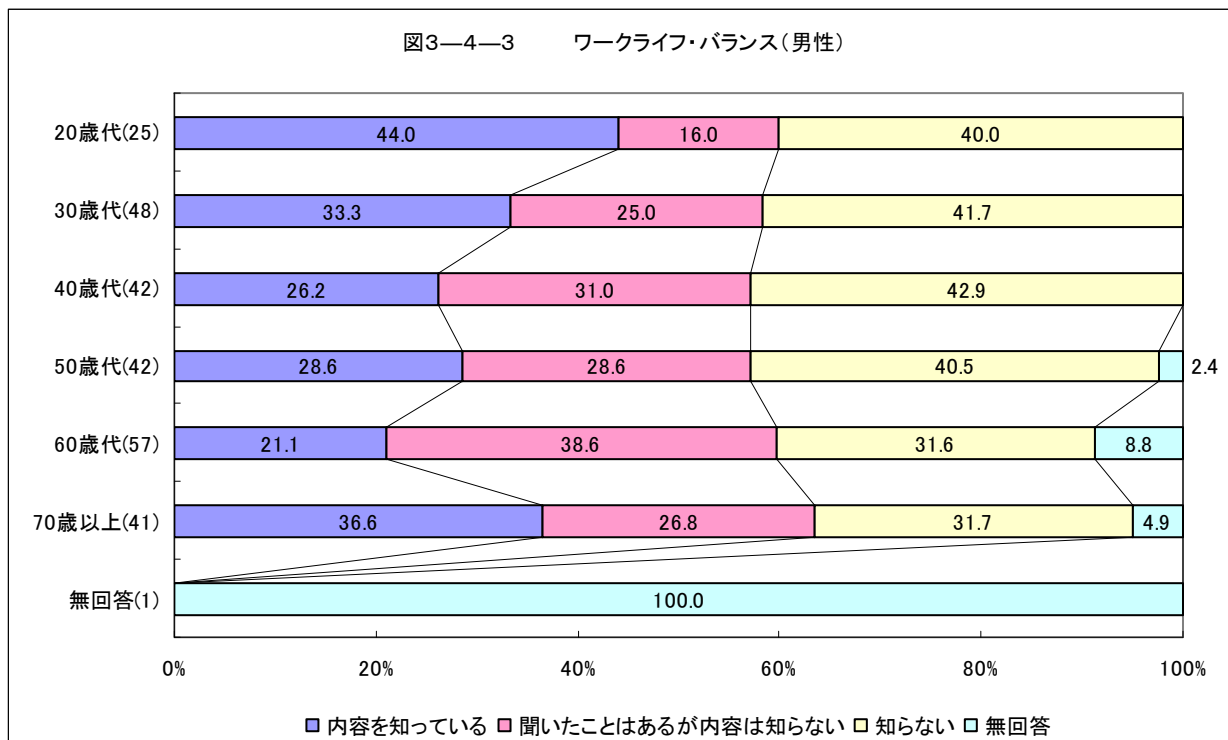


図3—4—2 ワークライフ・バランス(女性)







#### <全体の傾向>

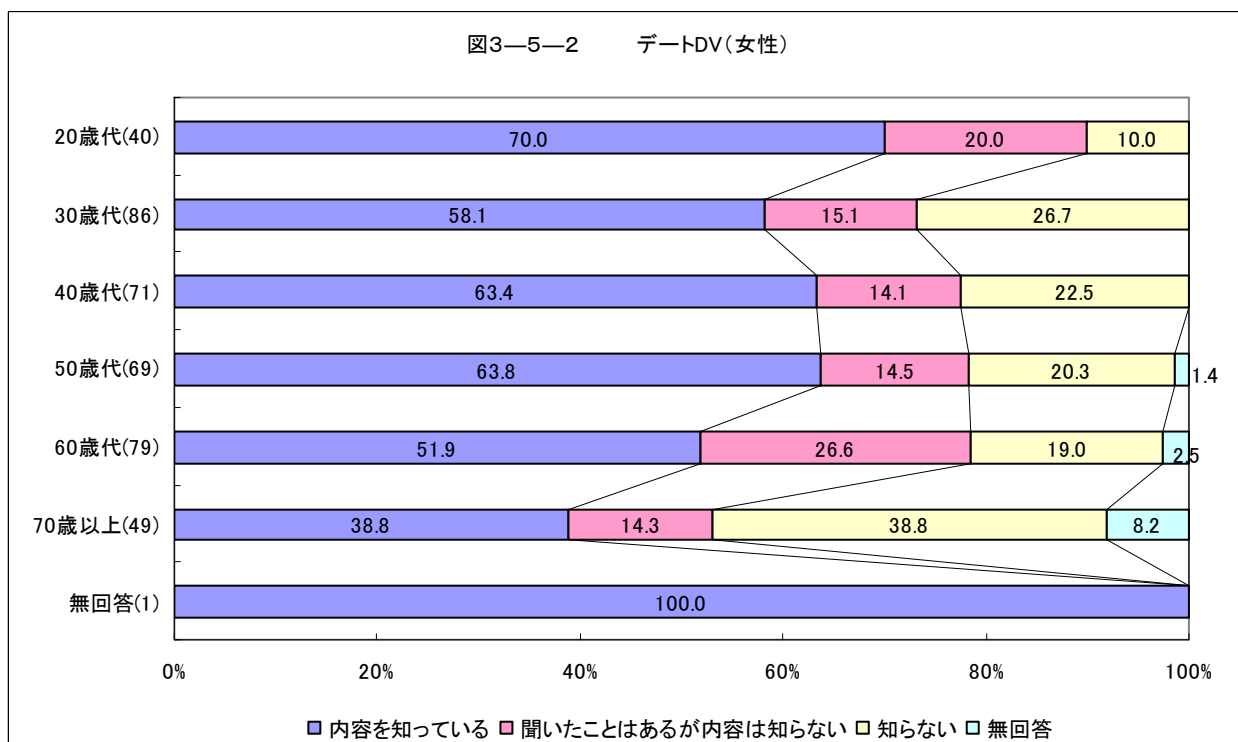
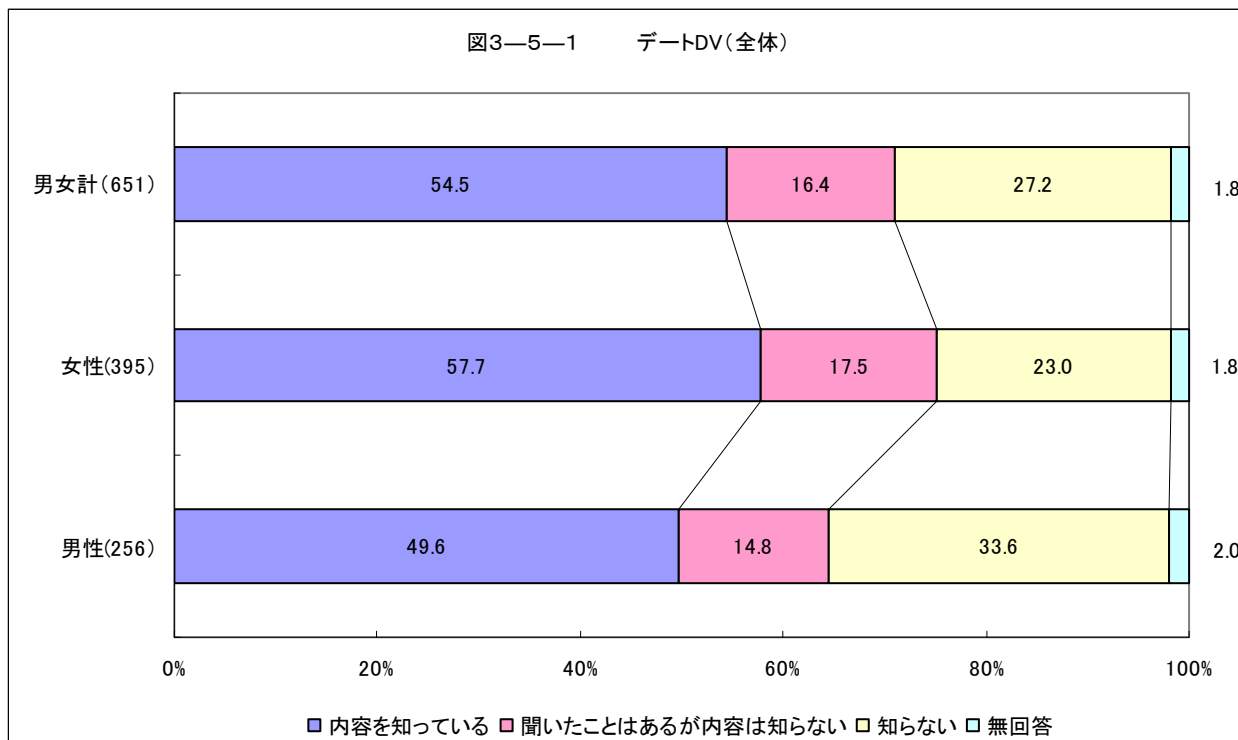
女性全体で、「内容を知っている」(27.6%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(35.2%)となり、合わせて62.8%となります。男性全体では、「内容を知っている」(30.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(28.9%)となり、合わせて59.0%となります。

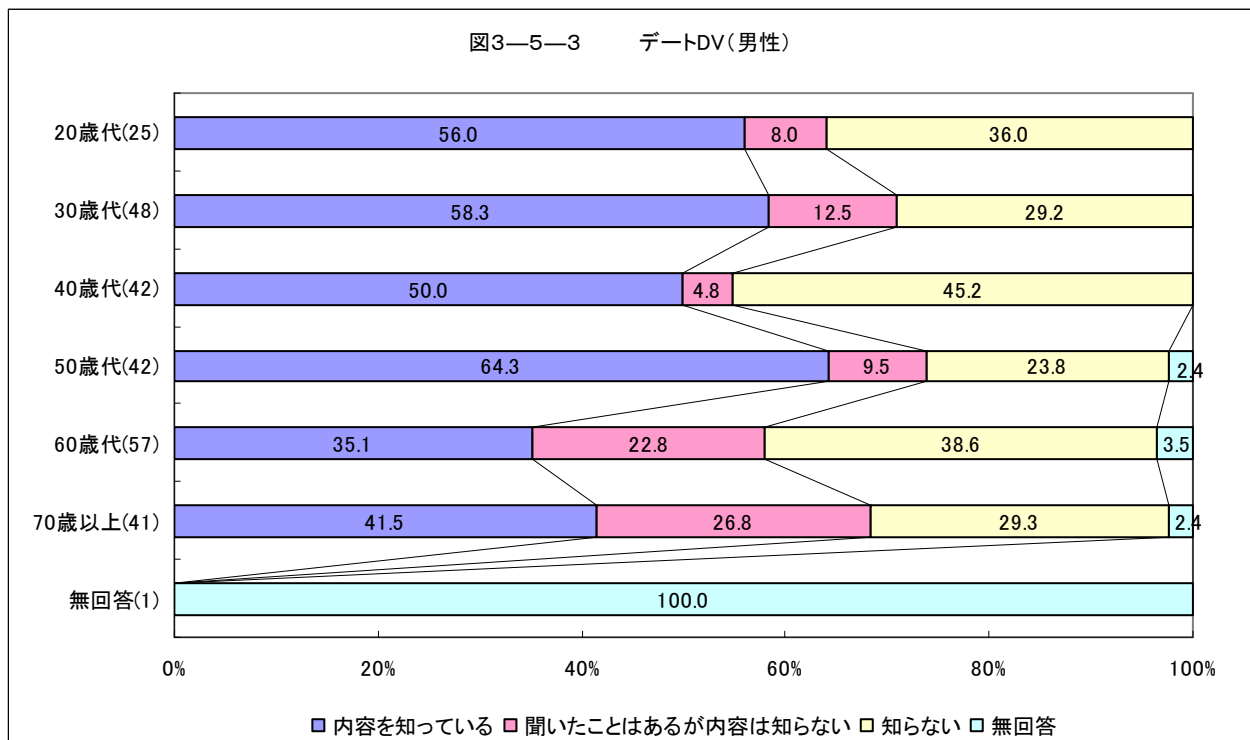
#### <女性の傾向>

女性では、30歳代において「知らない」(43.0%)となり、言葉の認知度で、20歳代と40歳代の谷間となります。

#### <男性の傾向>

男性では、各年代において、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせると5割を超える回答が得られています。





#### 〈全体の傾向〉

女性全体で、「内容を知っている」(57.7%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(17.5%)となり、合わせて75.2%となります。男性全体では、「内容を知っている」(49.6%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(14.8%)となり、合わせて64.4%となります。

#### 〈女性の傾向〉

女性では、30歳代において「知らない」(26.7%)となり、言葉の認知度で、「ワークライフ・バランス」同様20歳代と40歳代の谷間となります。

#### 〈男性の傾向〉

男性では、30歳代において、「内容を知っている」(58.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(12.5%)と合わせて70.8%の回答で「デートDV」が認知されていることとなります。

図3-6-1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(全体)

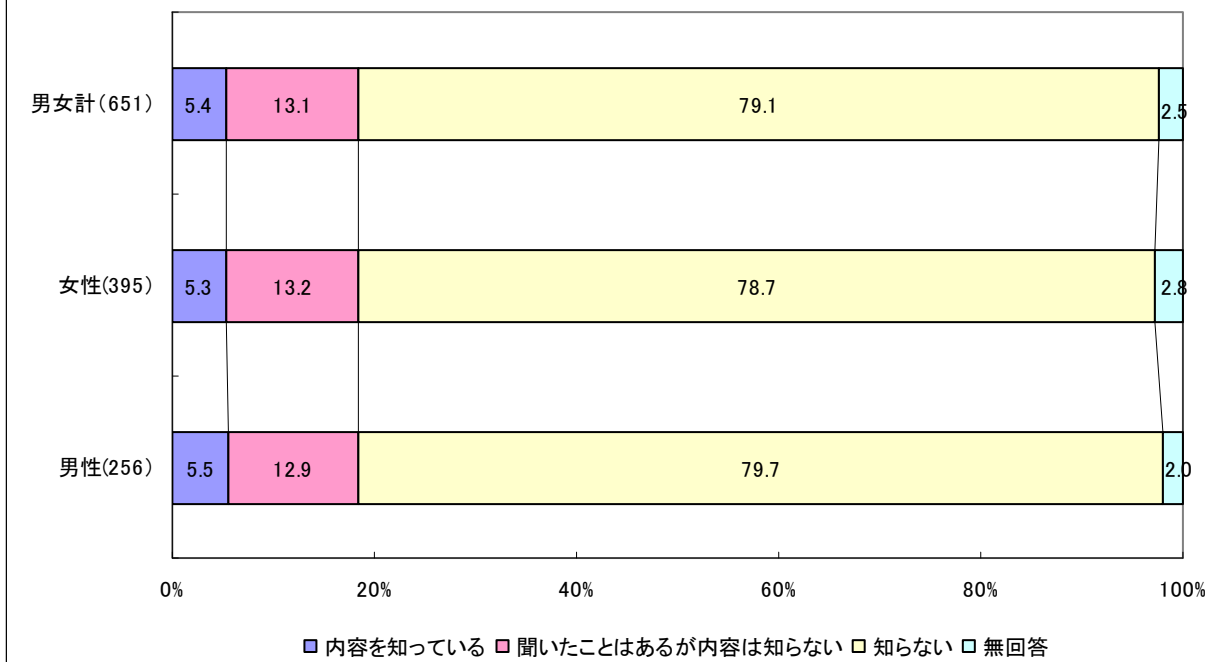


図3-6-2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(女性)

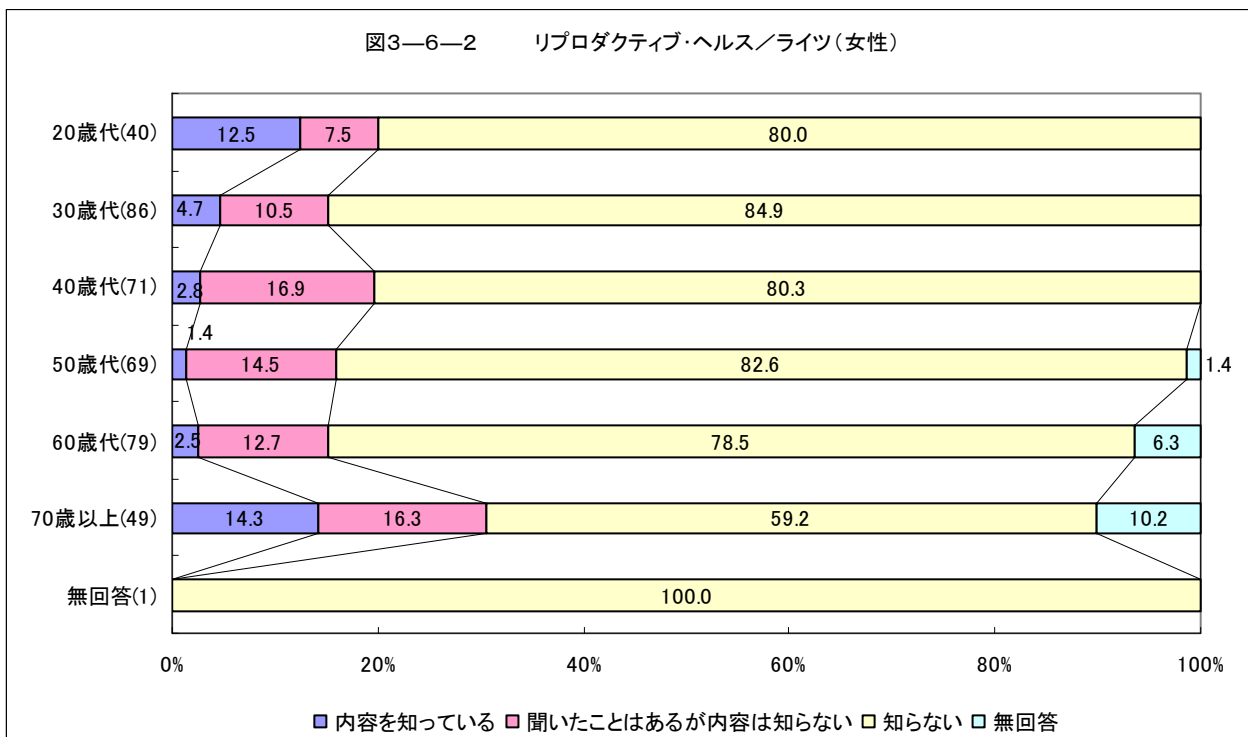
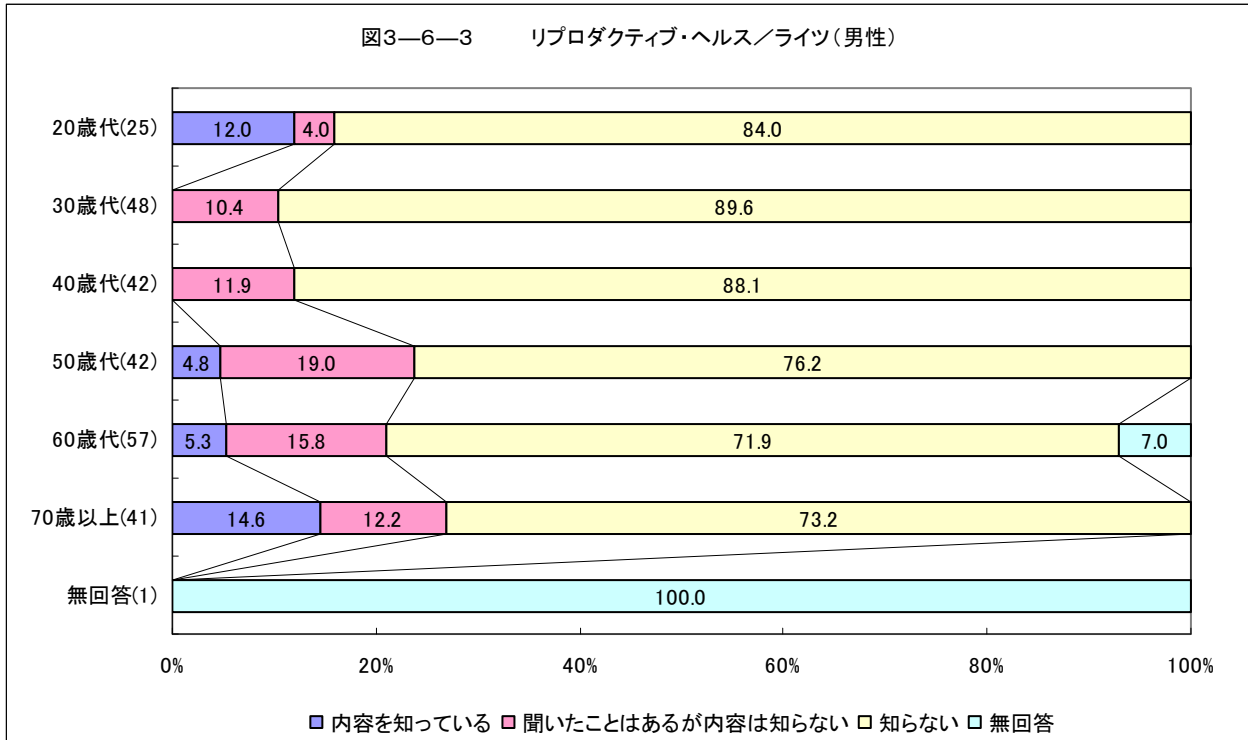


図3-6-3 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体、男性全体ともに「知らない」が8割近くの回答を占めます。

〈女性の傾向〉

女性では、70歳以上で、「内容を知っている」(14.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(16.3%)となり、合わせて30.6%となり、続いて、20歳代の20.0%が続きます。

〈男性の傾向〉

男性では、70歳以上で、「内容を知っている」(14.6%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(12.2%)となり、合わせて26.8%となり、続いて、50歳代の23.8%が続きます。

図3—7—1 上尾市男女共同参画推進条例(全体)

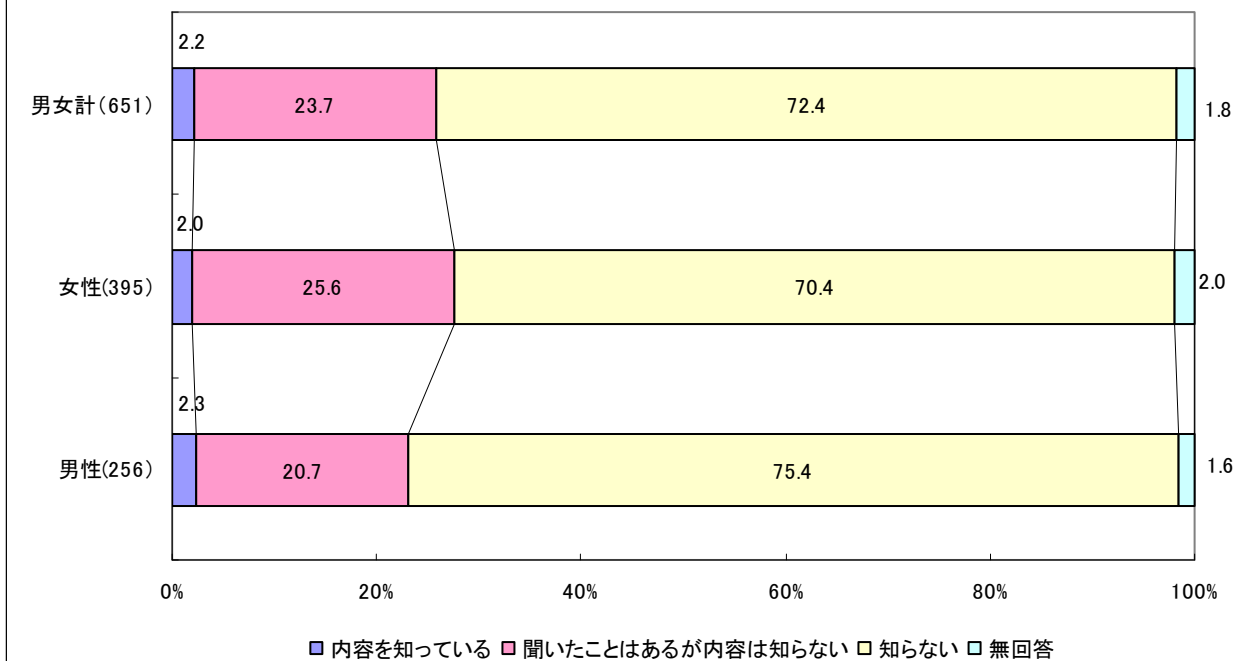


図3—7—2 上尾市男女共同参画推進条例(女性)

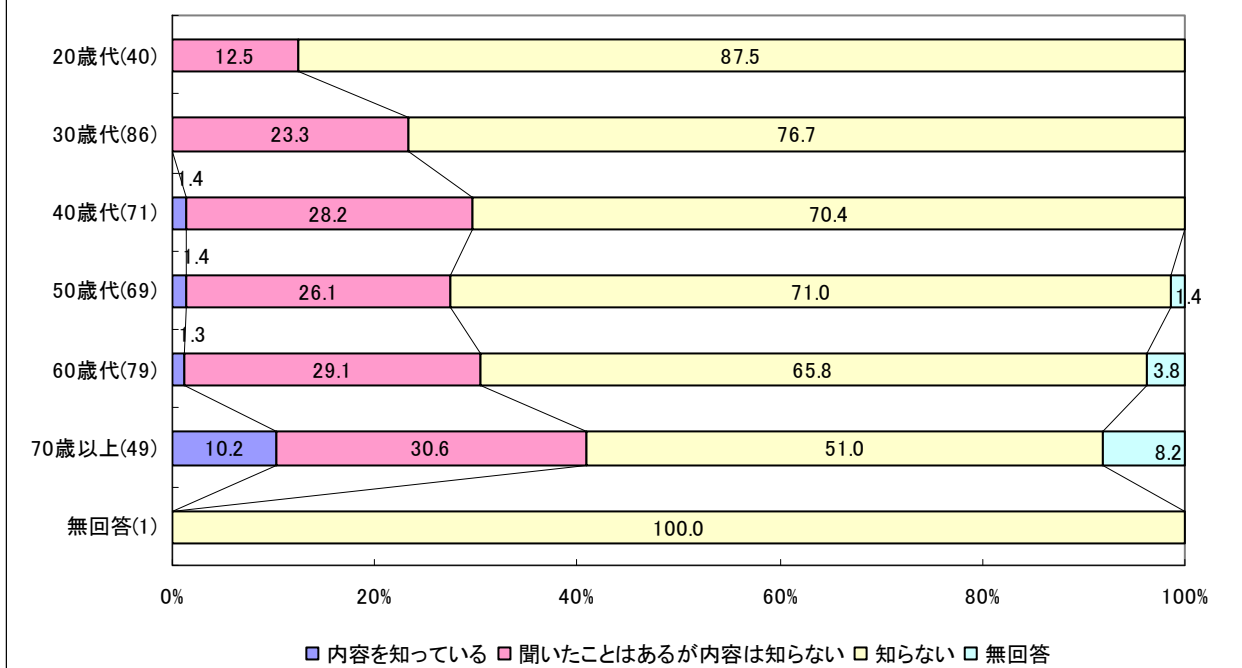
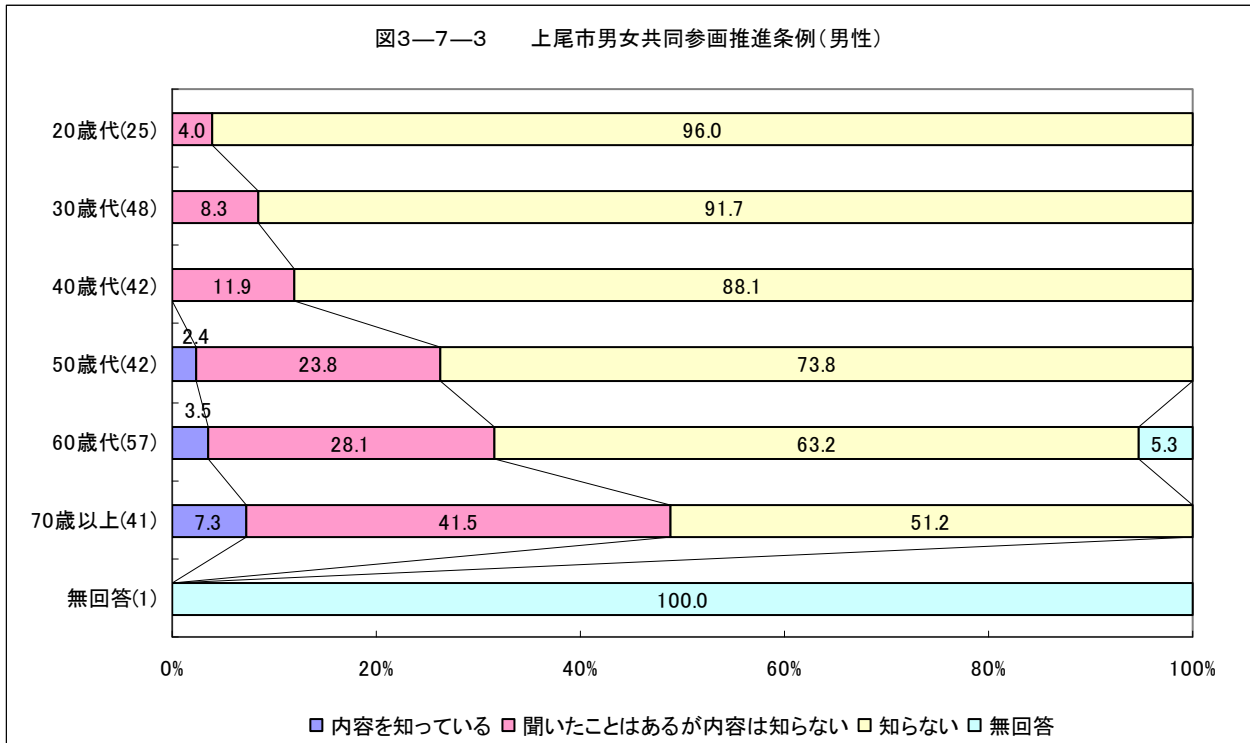


図3—7—3 上尾市男女共同参画推進条例(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体、男性全体ともに「知らない」が7割近くの回答を占めます。

〈女性の傾向〉

女性では、70歳以上の世代において「内容を知っている」(10.2%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(30.6%)と合わせて40.8%になります。

〈男性の傾向〉

男性では、70歳以上の世代において「内容を知っている」(7.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(41.5%)と合わせて48.8%になります。

図3—8—1 上尾市男女共同参画計画(全体)

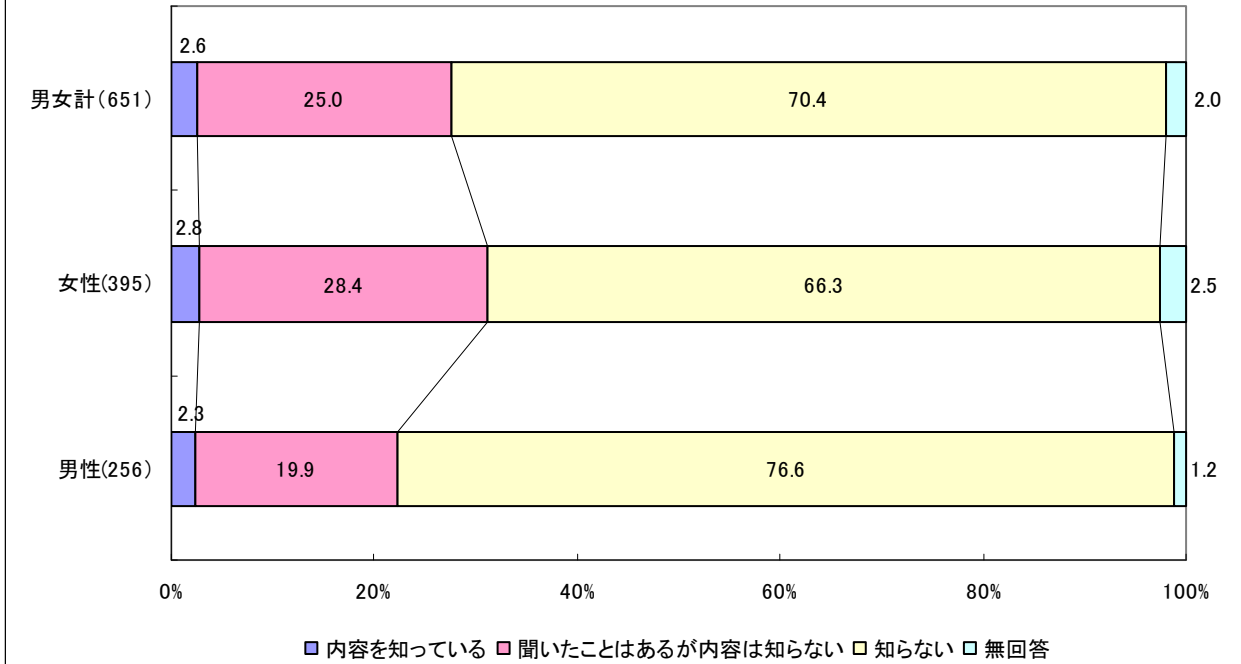


図3—8—2 上尾市男女共同参画計画(女性)

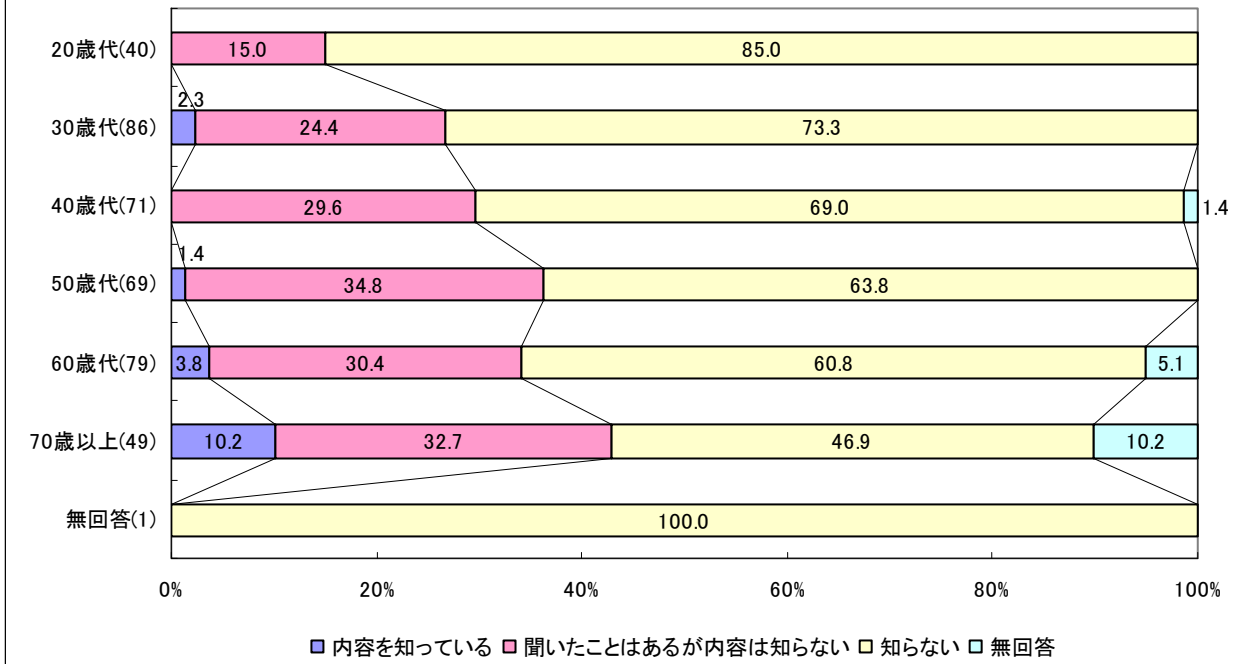
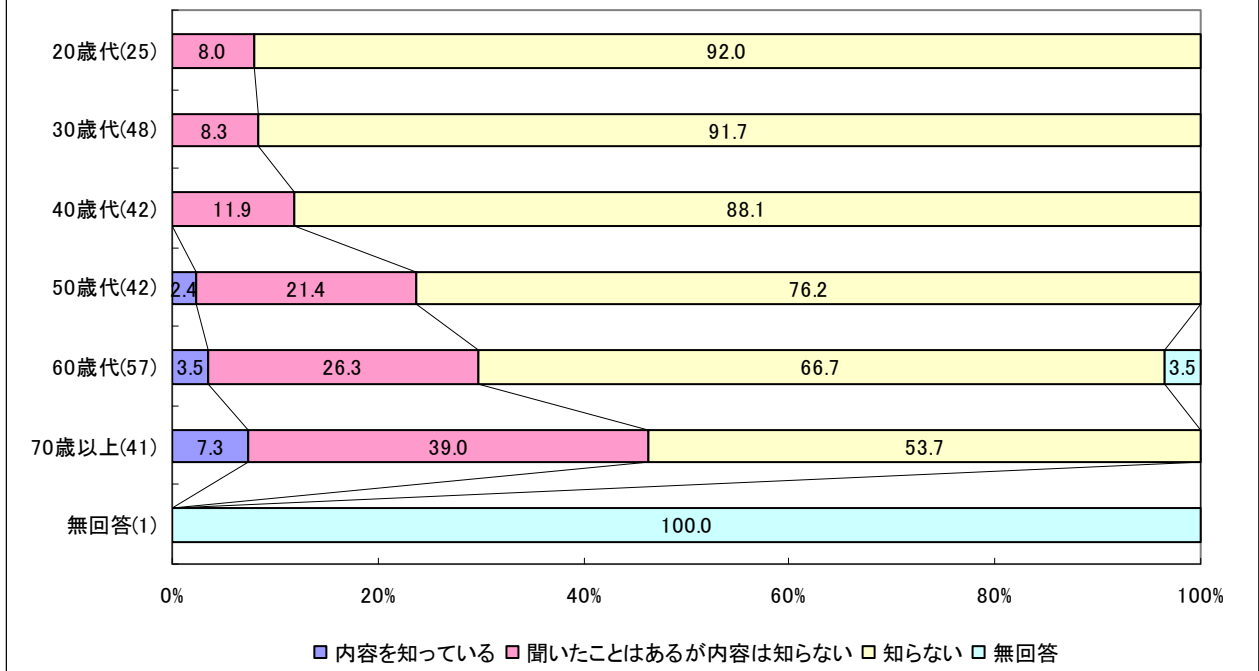




図3—8—3 上尾市男女共同参画計画(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「内容を知っている」(2.8%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(28.4%)と合わせて、31.2%になり、3人に1人が、上尾市男女共同参画計画を知っていることとなります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代と40歳代で「内容を知っている」の回答がありませんが、70歳以上で、「内容を知っている」(10.2%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(32.7%)と合わせて、42.9%になり、「知らない」(46.9%)との差が、4ポイントとなります。

〈男性の傾向〉

男性では、20歳代から40歳代までで「内容を知っている」の回答がありませんが、70歳以上で、「内容を知っている」(7.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(39.0%)と合わせて46.3%となります。

図3—9—1 男女共同参画情報紙(デュエット)—全体—

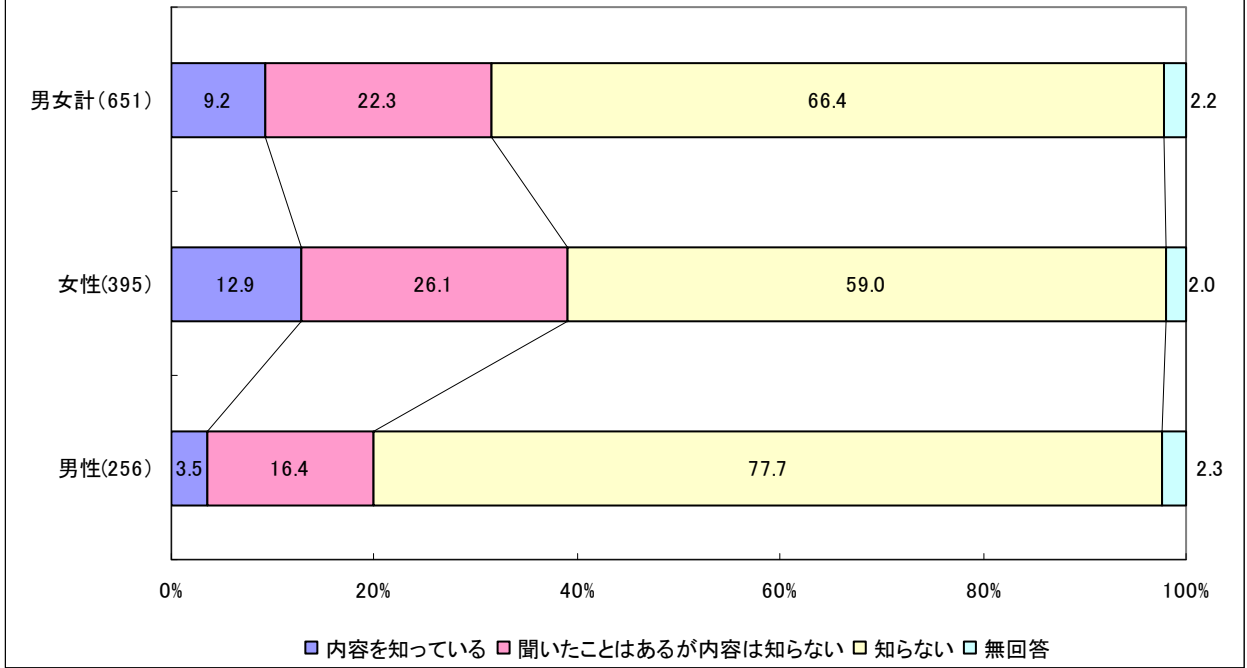


図3—9—2 男女共同参画情報紙(デュエット)—女性—

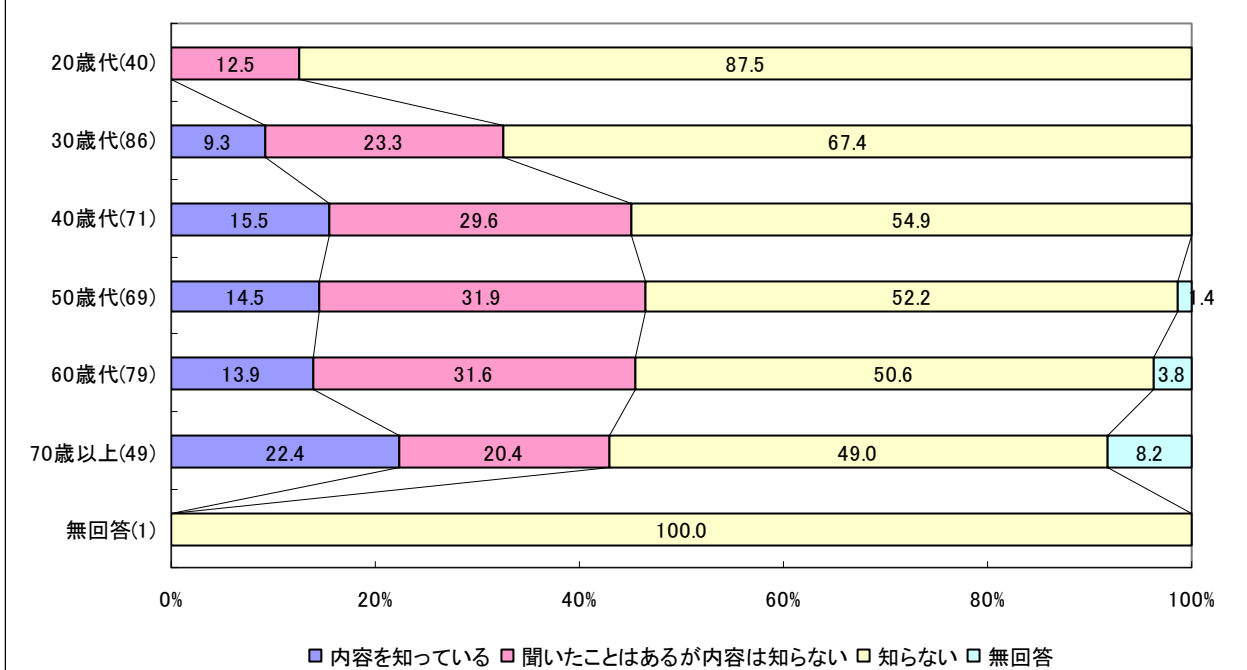
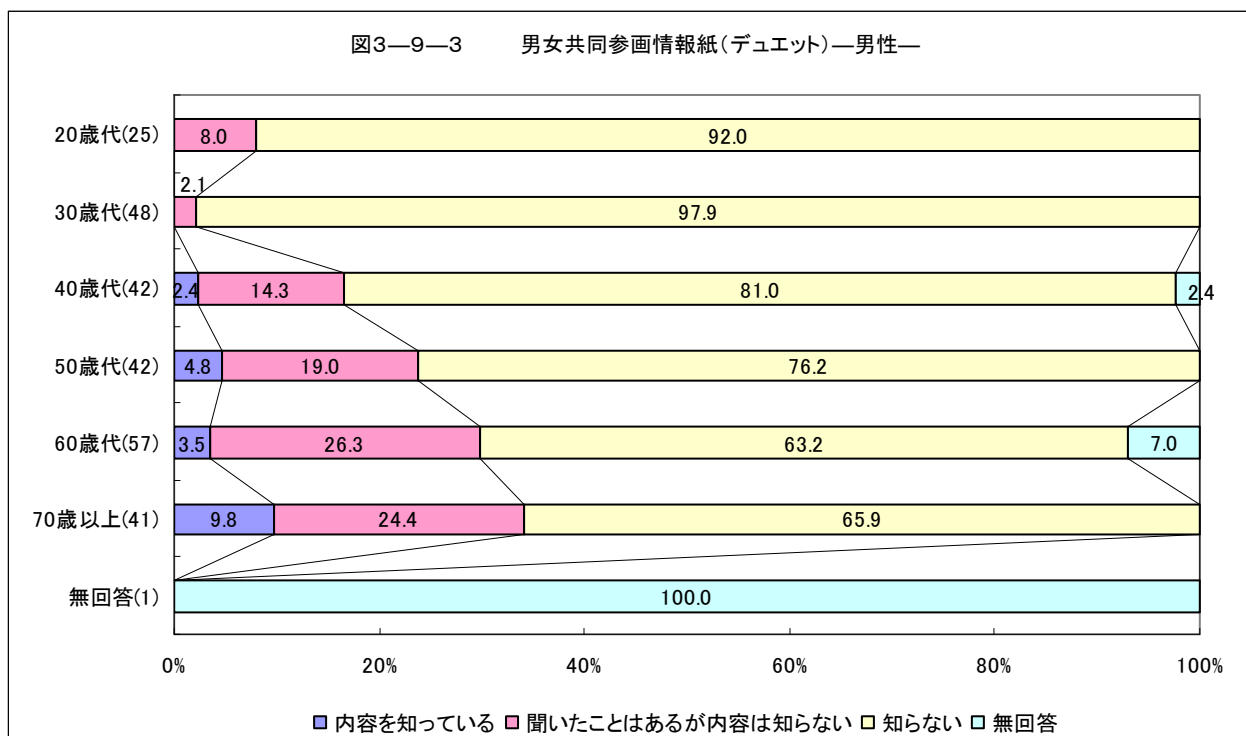


図3—9—3 男女共同参画情報紙(デュエット)—男性—



＜全体の傾向＞

女性全体では、「内容を知っている」(12.9%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(26.1%)と合わせて、39.0%になります。男性全体では、「内容を知っている」(3.5%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(16.4%)となり、合わせて19.9%となります。

＜女性の傾向＞

女性では、40歳代から、各年代で「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせると、4割を超える回答で認知されています。

＜男性の傾向＞

男性では、40歳代から順に、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」の回答が増加しています。

図3—10—1 男女共同参画社会基本法(全体)

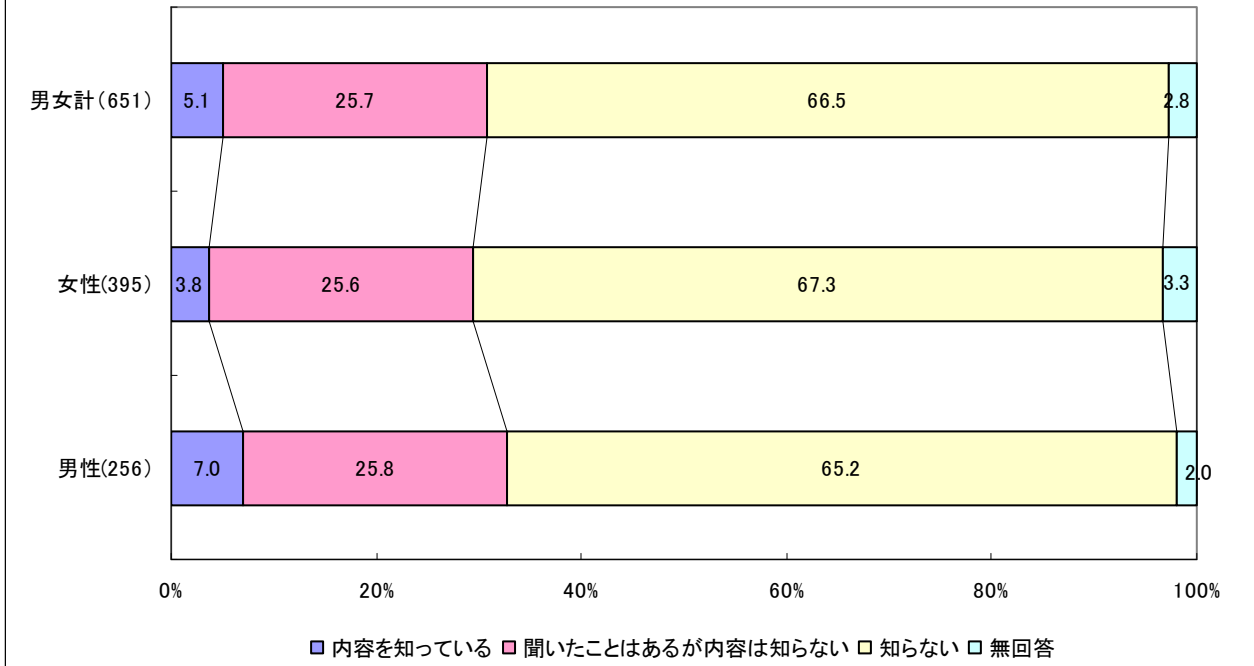


図3—10—2 男女共同参画社会基本法(女性)

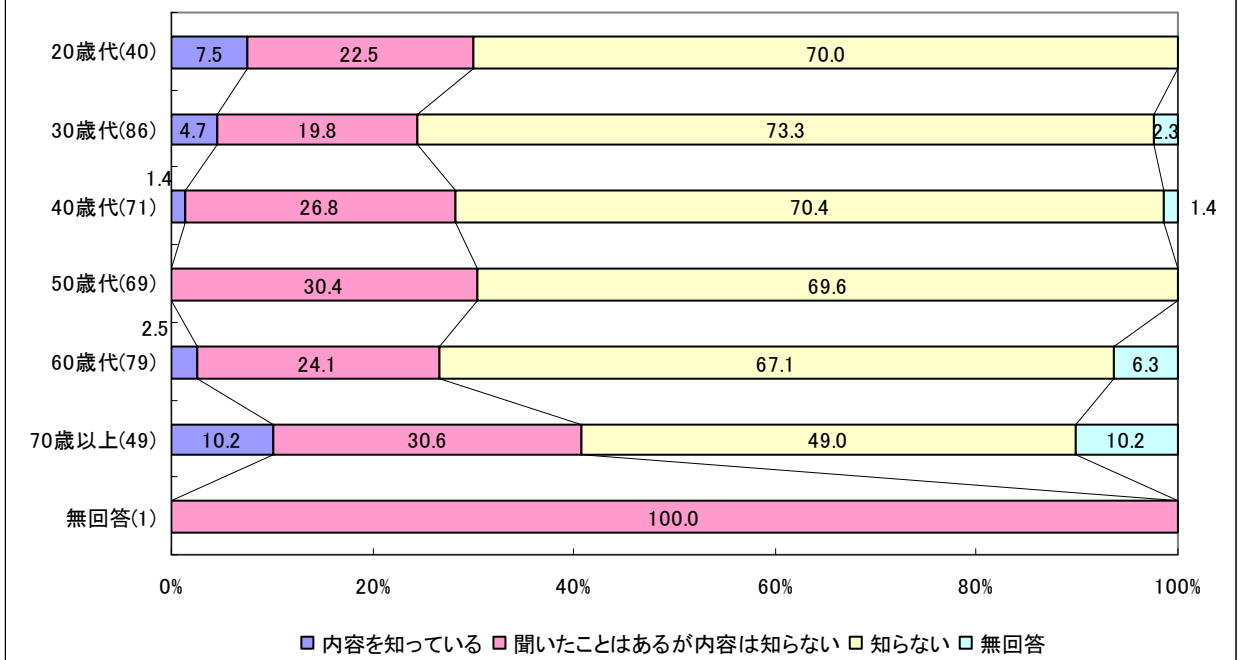
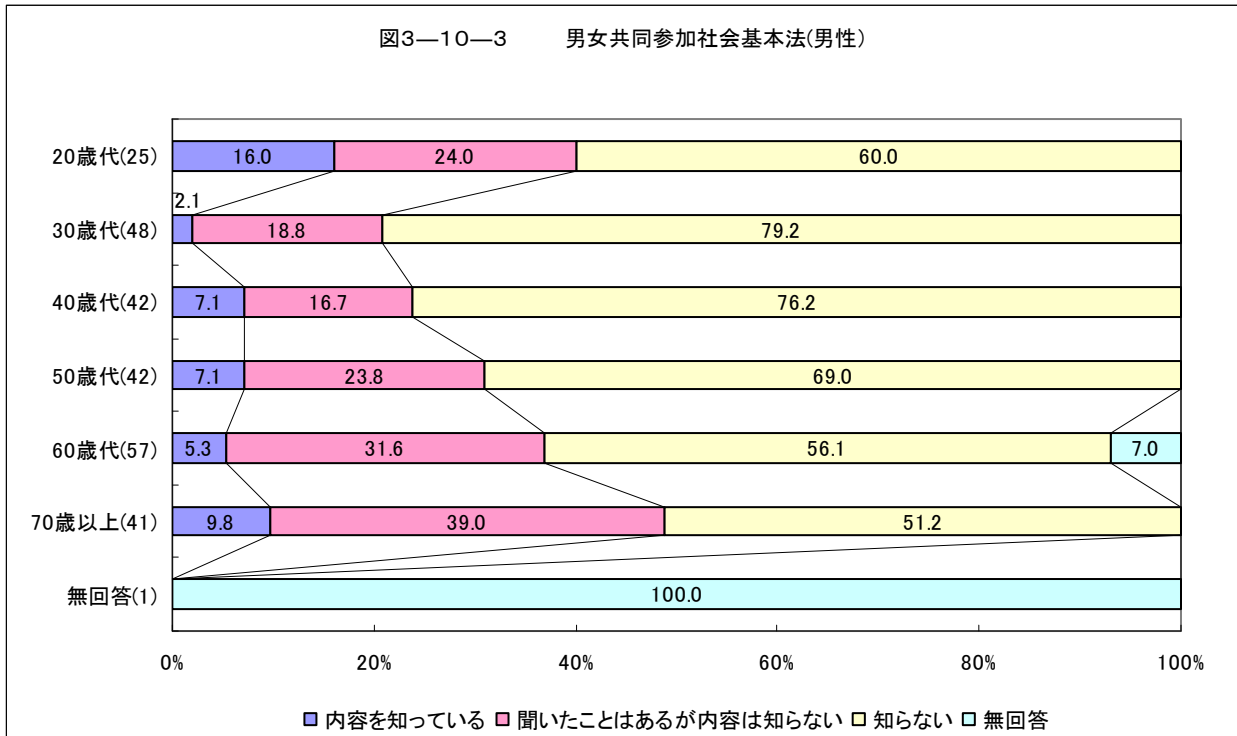


図3—10—3 男女共同参加社会基本法(男性)



〈全体の傾向〉

男女あわせて、「内容を知っている」(5.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(25.7%)と合わせて、30.8%になり、上尾市民の3人に1人が「男女共同参画社会基本法」を聞いたことがあることとなります。

〈女性の傾向〉

女性では、各世代で「聞いたことはあるが内容は知らない」との回答がおおよそ2割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、30歳代で「内容を知っている」(2.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(18.8%)と合わせて20.9%となります。

図3—11—1 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)—全体—

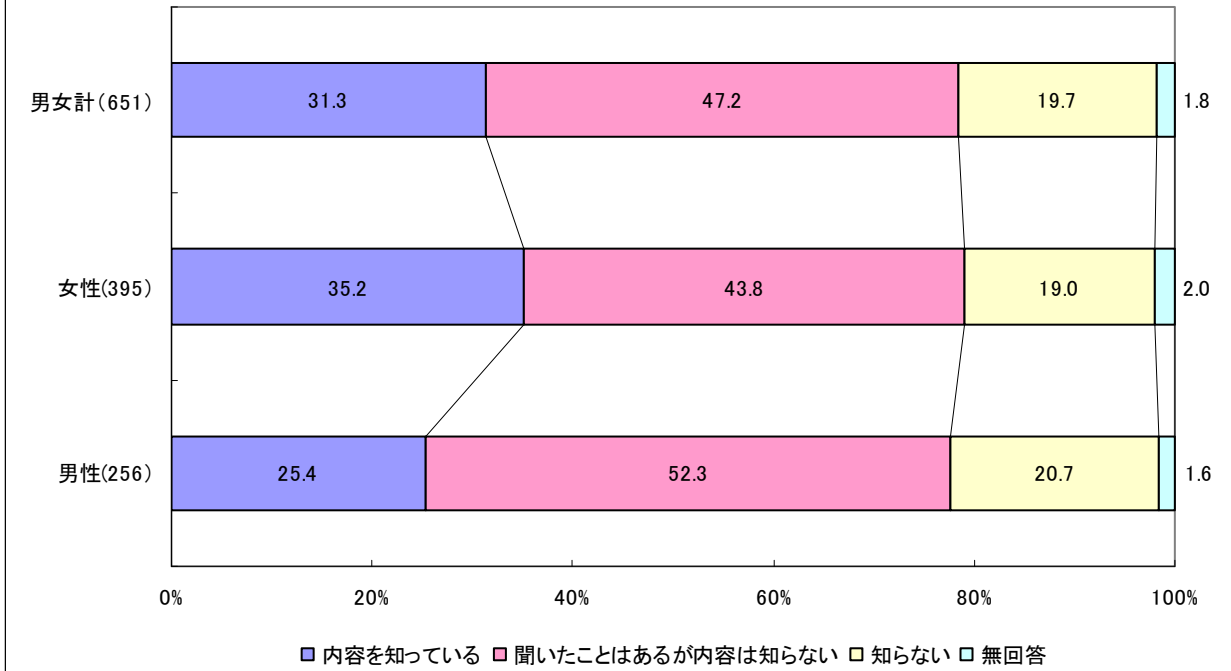


図3—11—2 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)—女性—

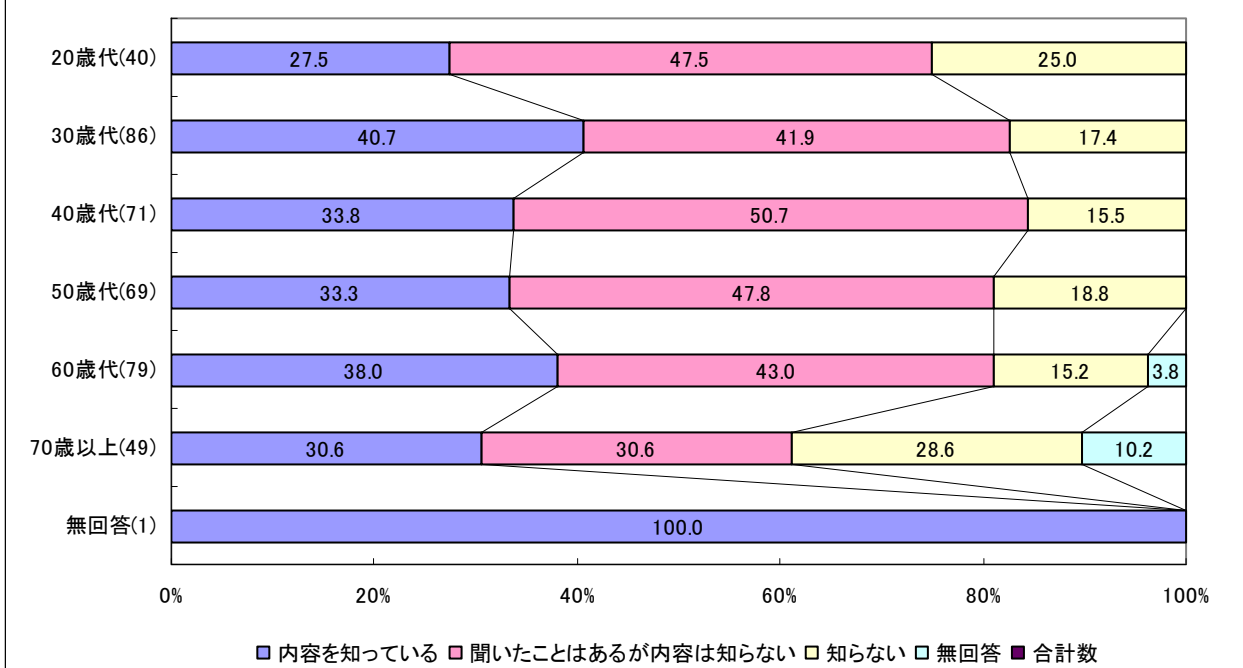
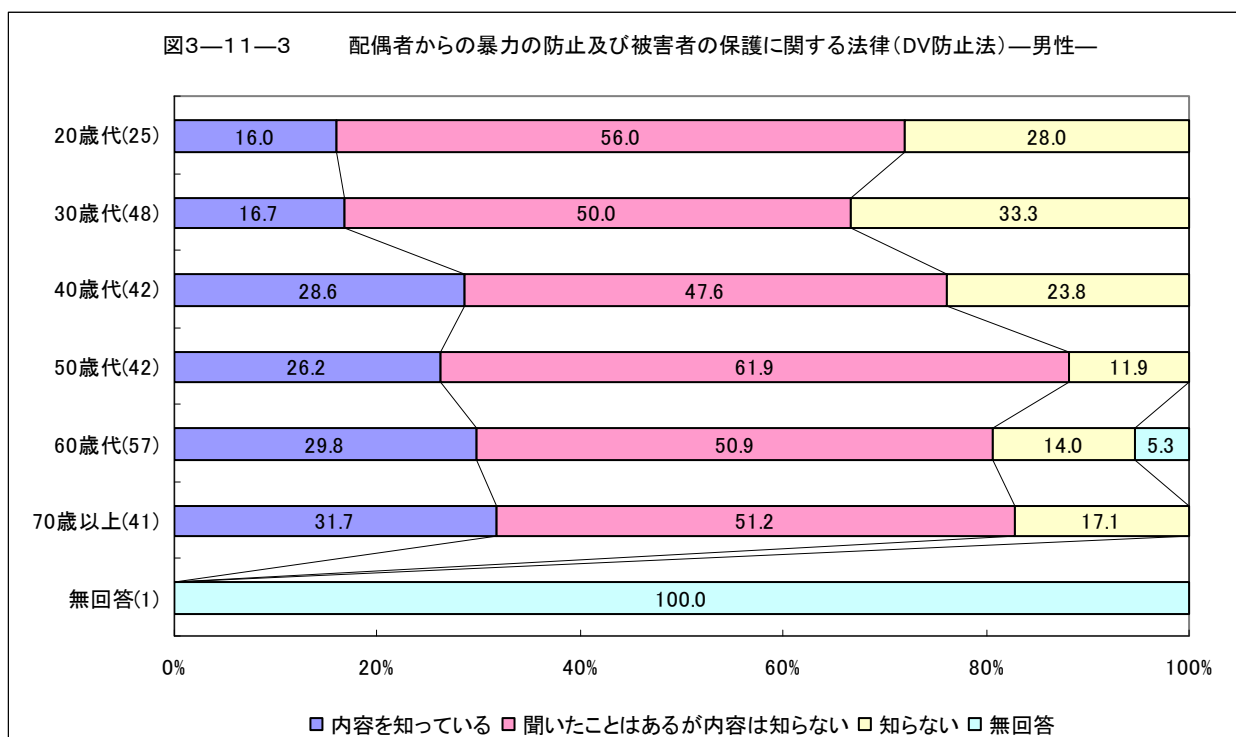


図3—11—3 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)—男性—



＜全体の傾向＞

男女あわせて、「内容を知っている」(31.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(47.2%)と合わせて、78.5%となります。

＜女性の傾向＞

女性では、40歳代で「内容を知っている」(33.8%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(50.7%)と合わせて84.5%となります。続いて、30歳代が同様の回答で合わせて82.6%となります。

＜男性の傾向＞

男性では、50歳代で「内容を知っている」(26.2%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(61.9%)と合わせて88.1%となります。続いて、70歳以上が同様の回答で合わせて82.9%となります。

図3—12—1 育児・介護休業法(全体)

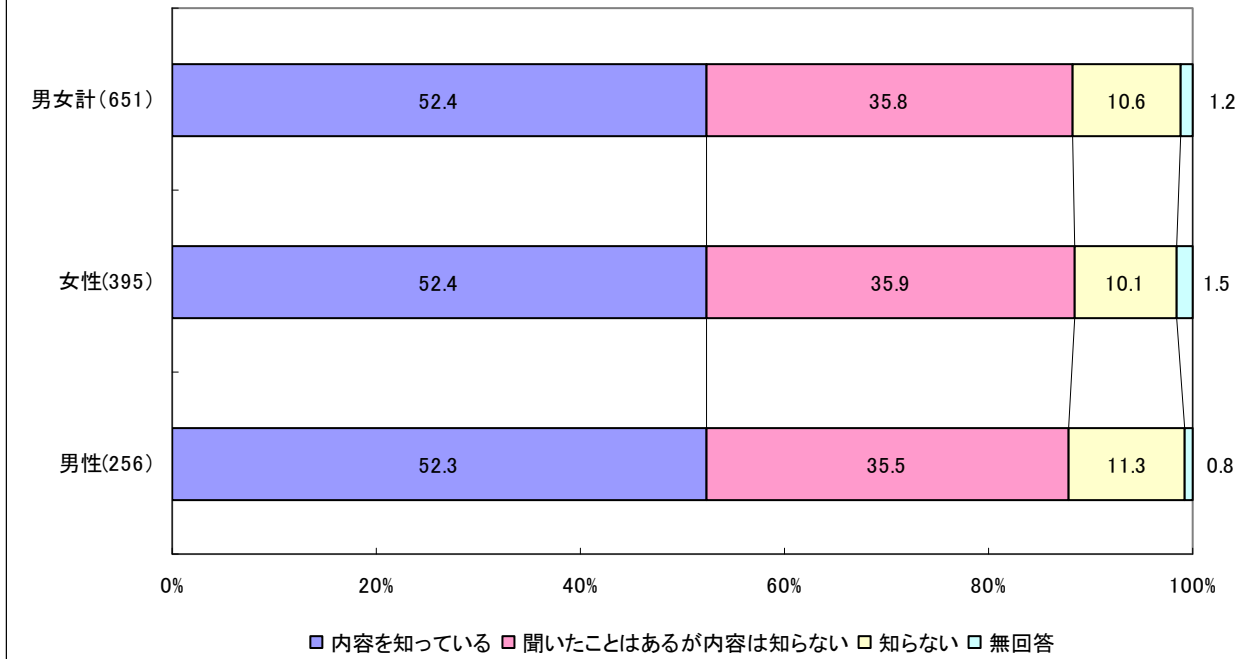


図3—12—2 育児・介護休業法(女性)

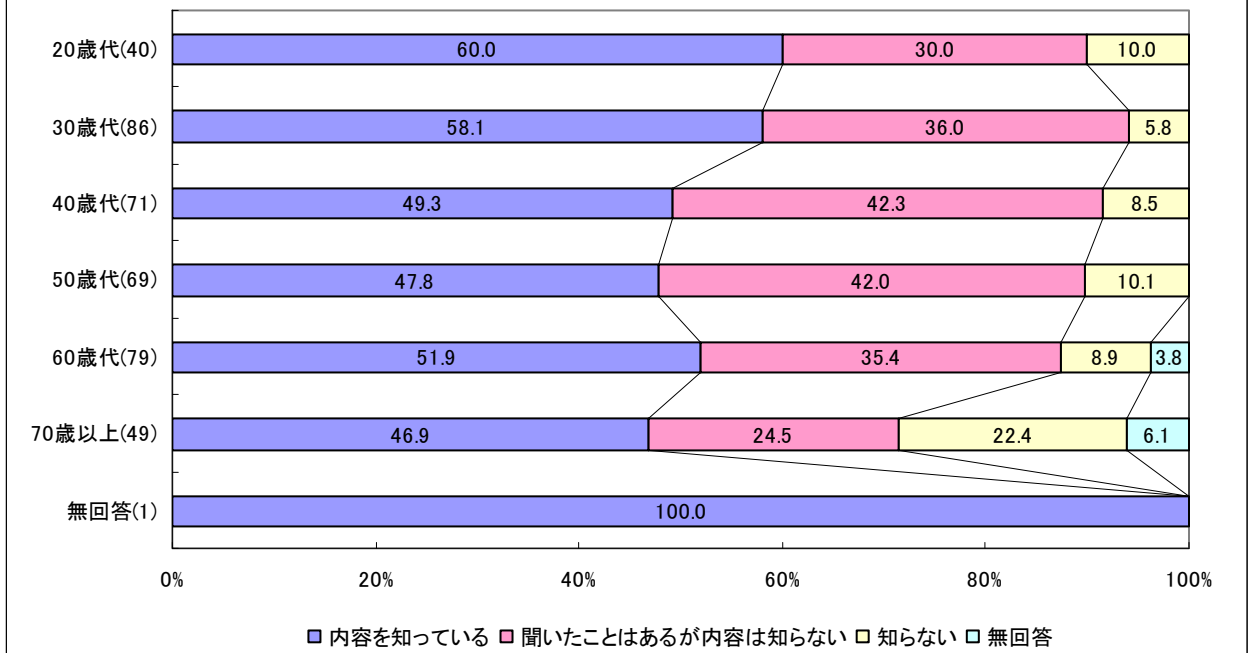
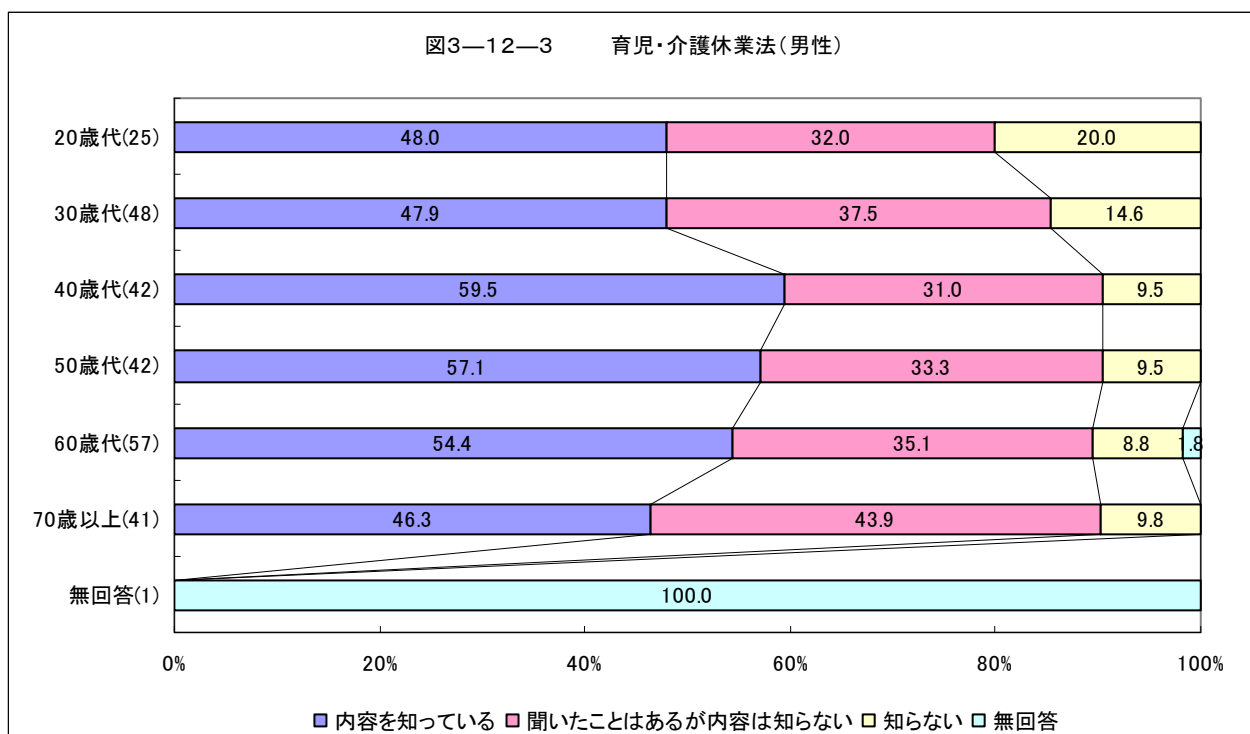




図3—12—3 育児・介護休業法(男性)



＜全体の傾向＞

男女ともに、「内容を知っている」が5割を超え、「聞いたことはあるが内容は知らない」においても3割を超えています。

＜女性の傾向＞

女性では、30歳代で「内容を知っている」(58.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(36.0%)と合わせて94.1%となります。続いて、40歳代が同様の回答で合わせて91.6%となります。

＜男性の傾向＞

男性では、20歳代から70歳代までの各世代で「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせると8割を超える認知度があります。

図3—13—1 男女雇用機会均等法(全体)

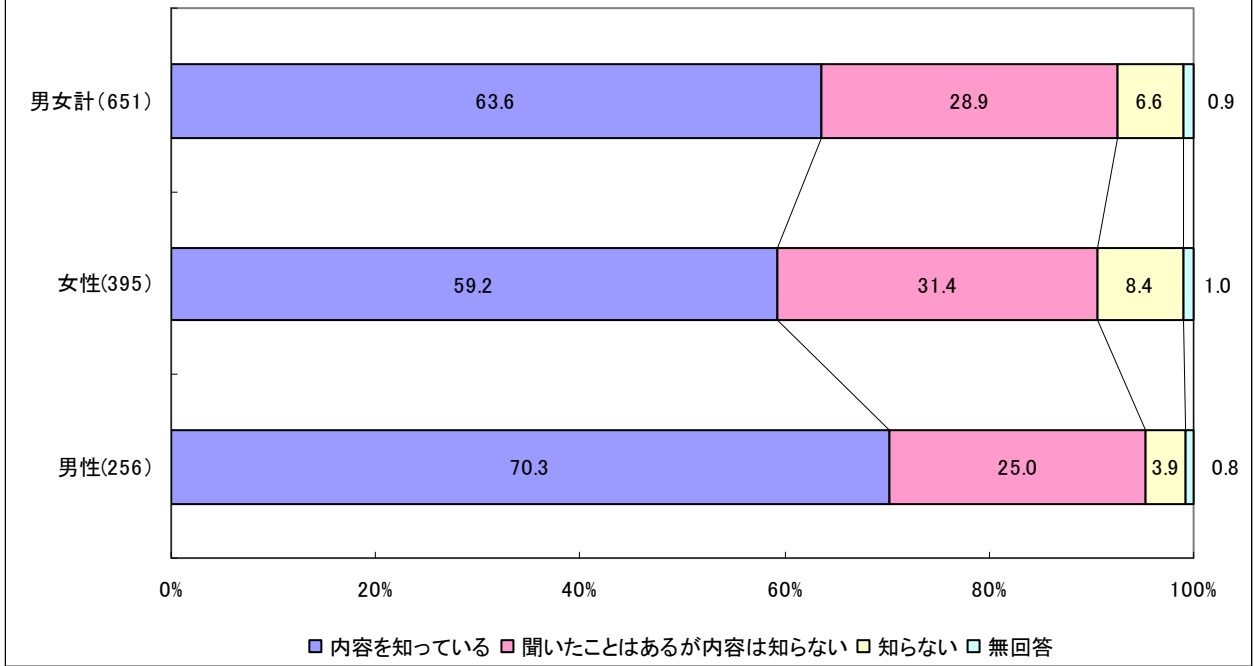


図3—13—2 男女雇用機会均等法(女性)

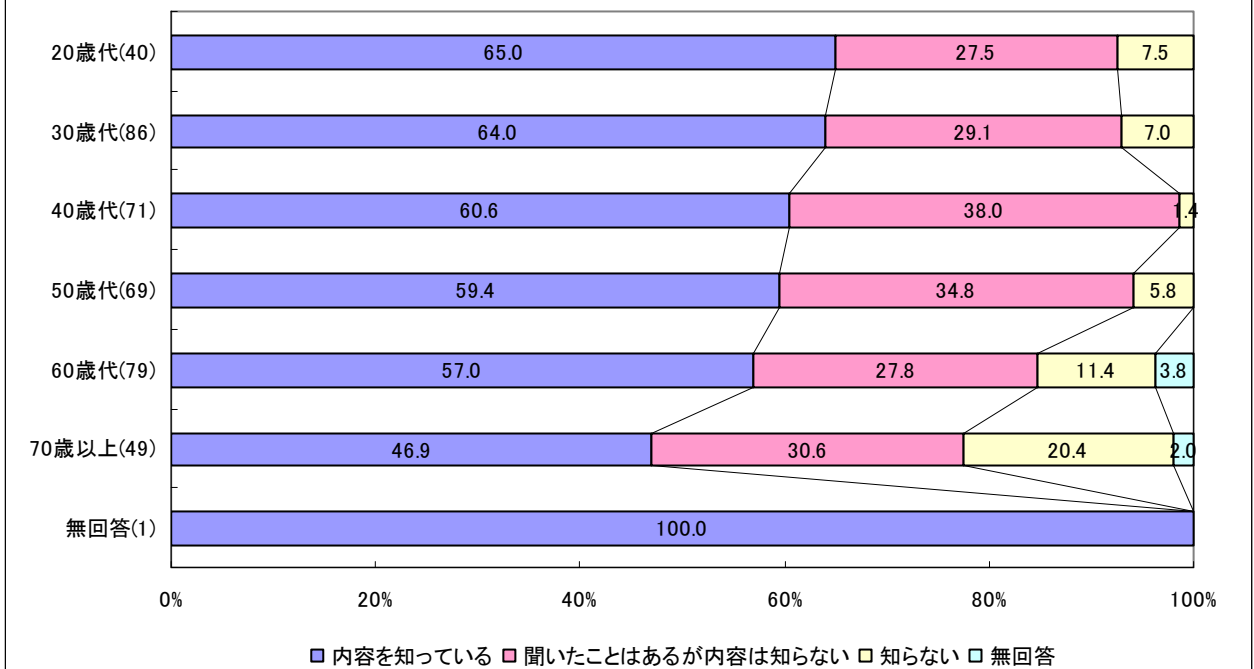
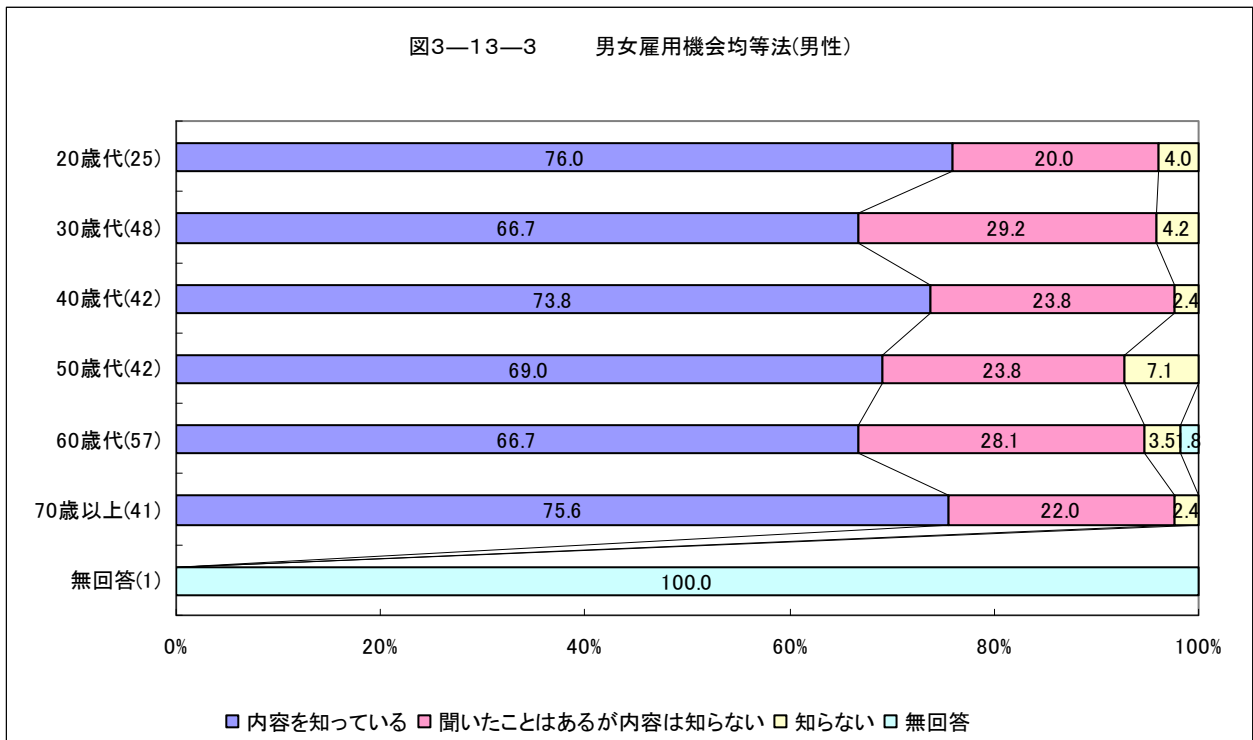


図3-13-3 男女雇用機会均等法(男性)



〈全体の傾向〉

男性全体で「内容を知っている」(70.3%)となり、女性全体の「内容を知っている」(59.2%)より 11.1ポイント差があります。

〈女性の傾向〉

女性では、40歳代で「内容を知っている」(60.6%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(38.0%)と合わせて98.6%となります。

〈男性の傾向〉

男性でも、40歳代で「内容を知っている」(73.8%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(23.8%)と合わせて97.6%となります。

## 2 家庭生活について

### 質問4 子育てについてのかかわり方について

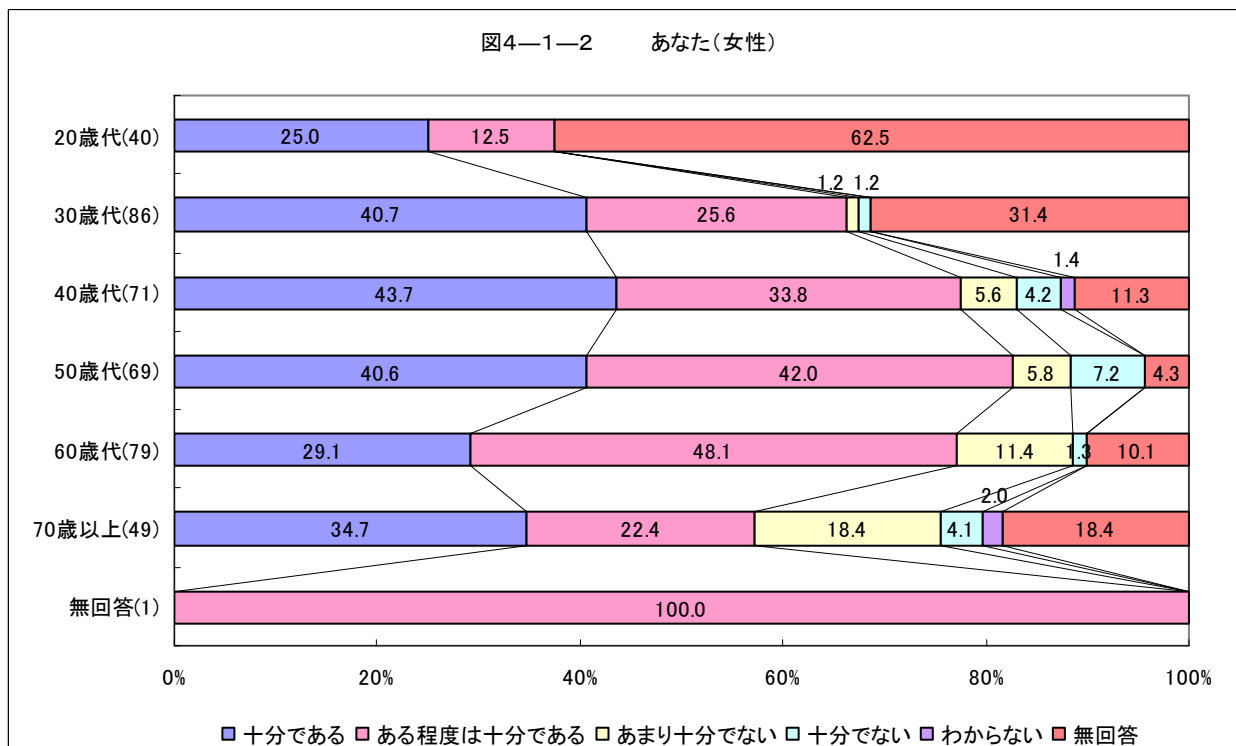
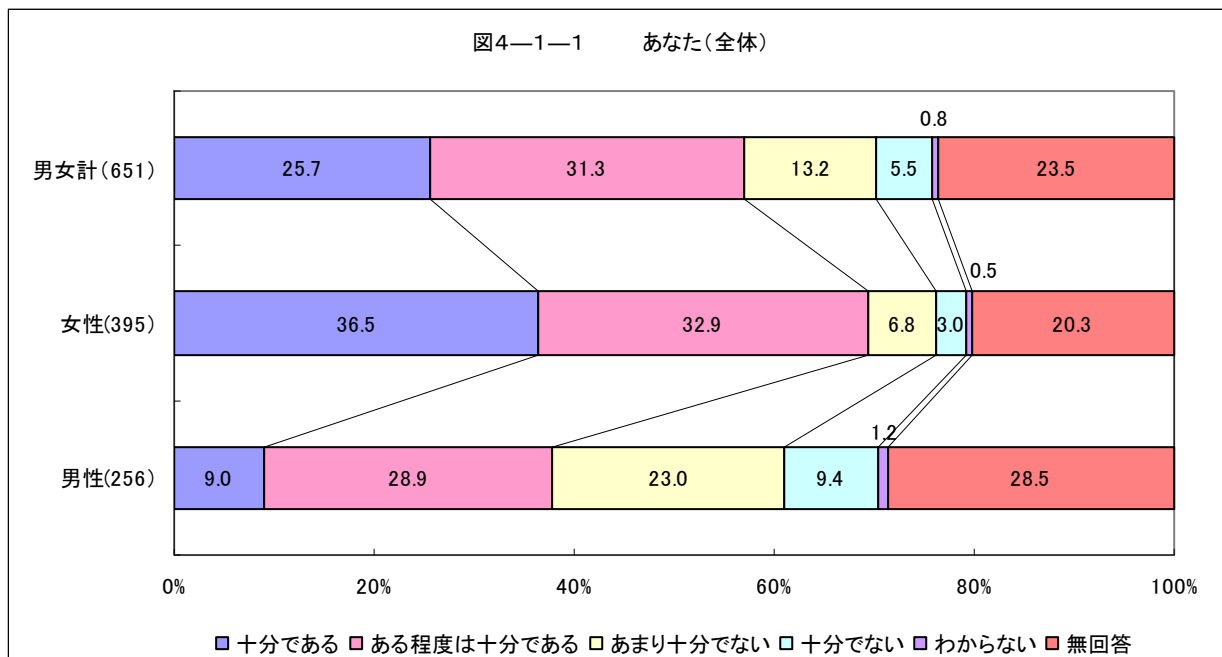
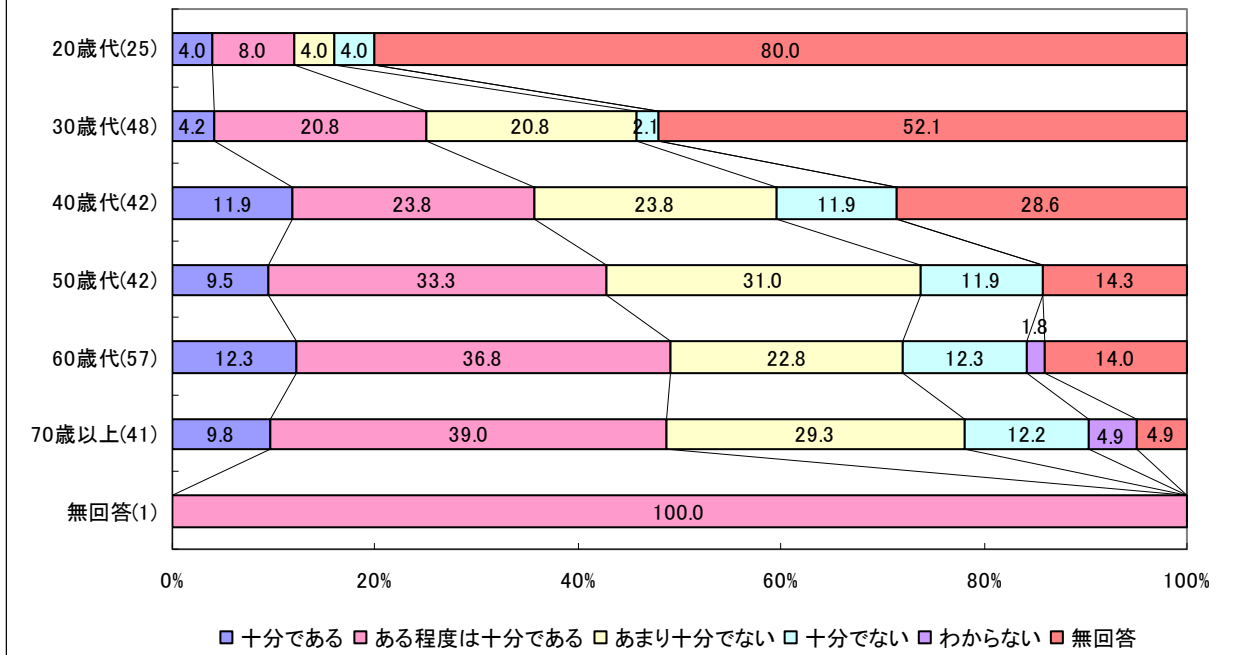


図4—1—3 あなた(男性)



＜全体の傾向＞

女性全体では、自分自身の子育てを「十分である」(36.5%)、「ある程度は十分である」(32.9%)と意識しており、合わせて69.4%の回答となります。男性全体では、自分自身の子育てを「十分である」(9.0%)、「ある程度は十分である」(28.9%)と意識しており、合わせて37.9%の回答となり、女性全体との差が31.5ポイントとなります。

＜女性の傾向＞

女性では、50歳代において「十分である」(40.6%)、「ある程度は十分である」(42.0%)と合わせて82.6%の回答となります。子育て経験の少ない20歳代を除いた各世代で、「十分である」、「ある程度は十分である」が5割を超えています。

＜男性の傾向＞

男性では、子育て経験の少ない20歳代を除いて、30歳代、40歳代、50歳代で「ある程度は十分である」と「あまり十分でない」との回答がほぼ同数となりますが、60歳代、70歳代になると「ある程度は十分である」と「あまり十分でない」が60歳代で14.0ポイント、70歳代で9.7ポイント「ある程度は十分である」が高くなります。

図4-2-1 配偶者・パートナー(全体)

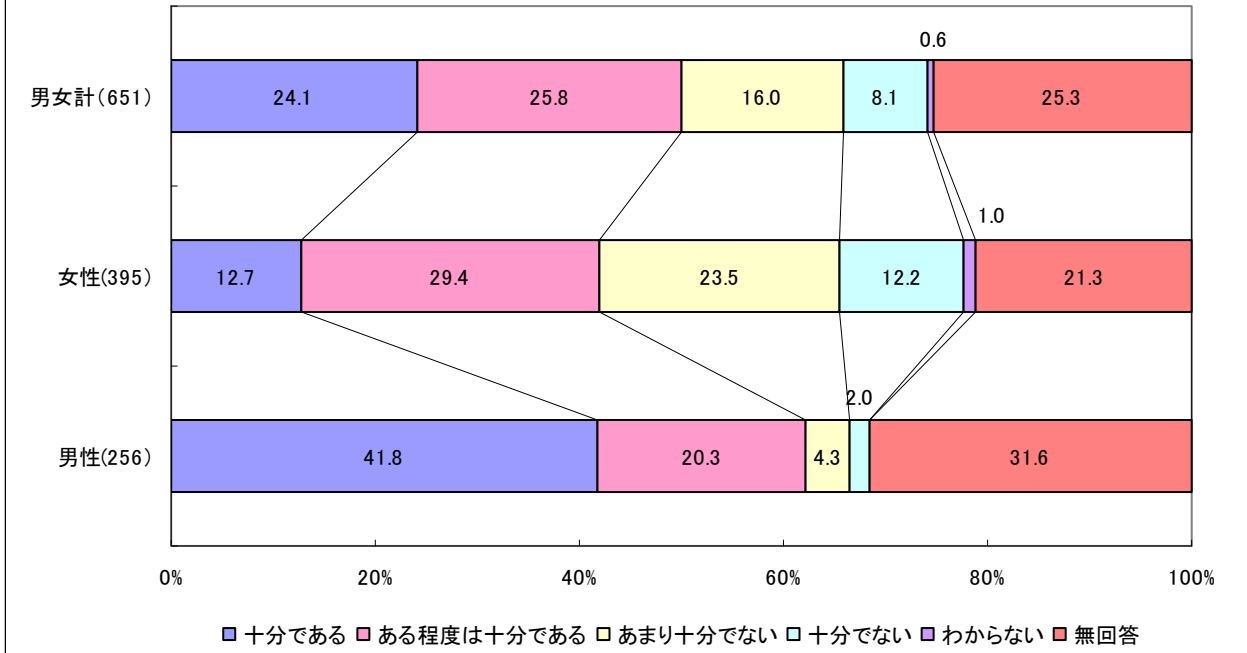


図4-2-2 配偶者・パートナー(女性)

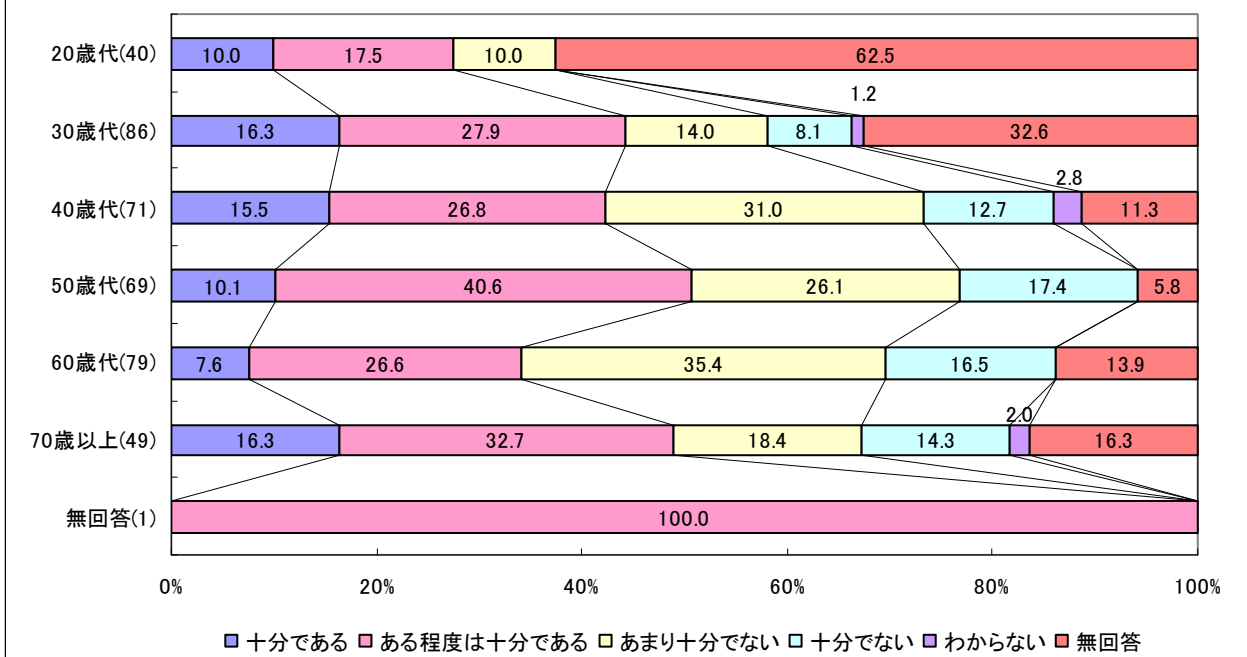
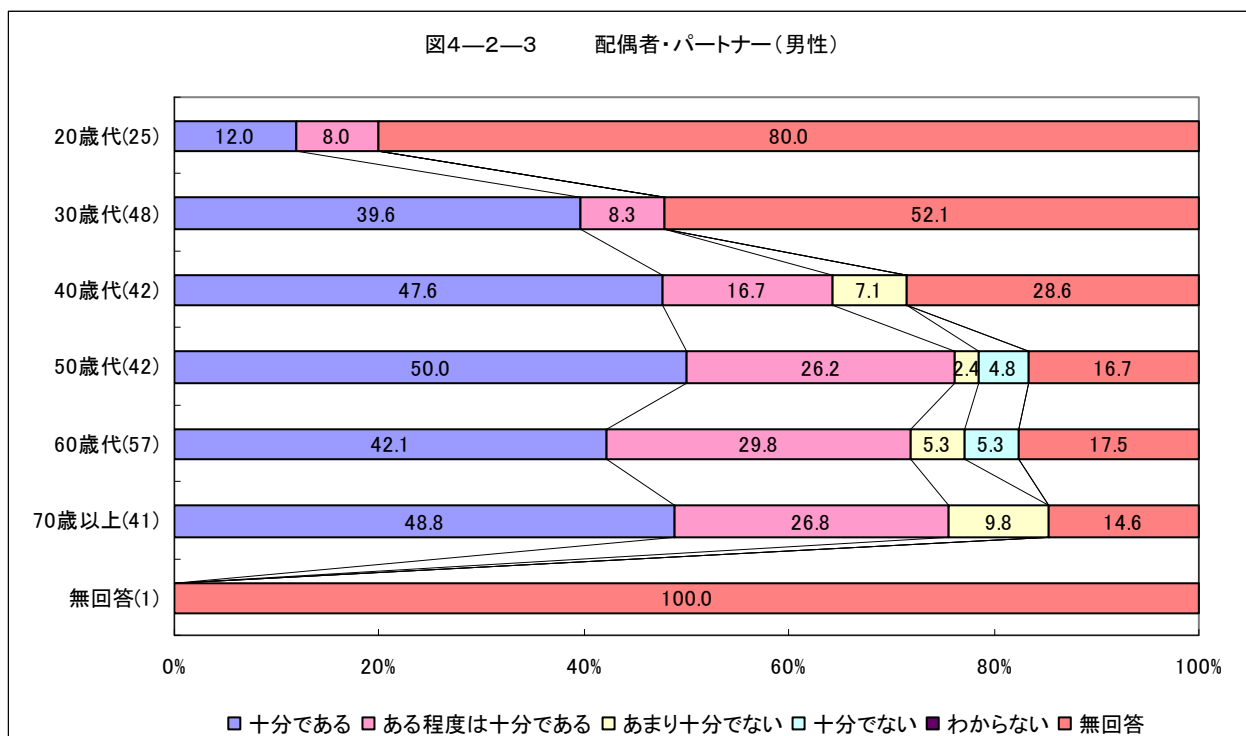


図4—2—3 配偶者・パートナー(男性)



＜全体の傾向＞

女性全体では、「配偶者・パートナー」の子育てを「十分である」(12.7%)、「ある程度は十分である」(29.4%)と考えています。男性全体では、「配偶者・パートナー」の子育てを「十分である」(41.8%)、「ある程度は十分である」(20.3%)と考えています。

＜女性の傾向＞

女性では、「配偶者・パートナー」の子育てを50歳代において「十分である」(10.1%)、「ある程度は十分である」(40.6%)と合わせて50.7%と2人に1人が認めています。

＜男性の傾向＞

男性では、「配偶者・パートナー」の子育てを50歳代において「十分である」(50.0%)、「ある程度は十分である」(26.2%)と合わせて76.2%と3人に2人が認めています。

質問5 家庭生活における役割分担（実態）について

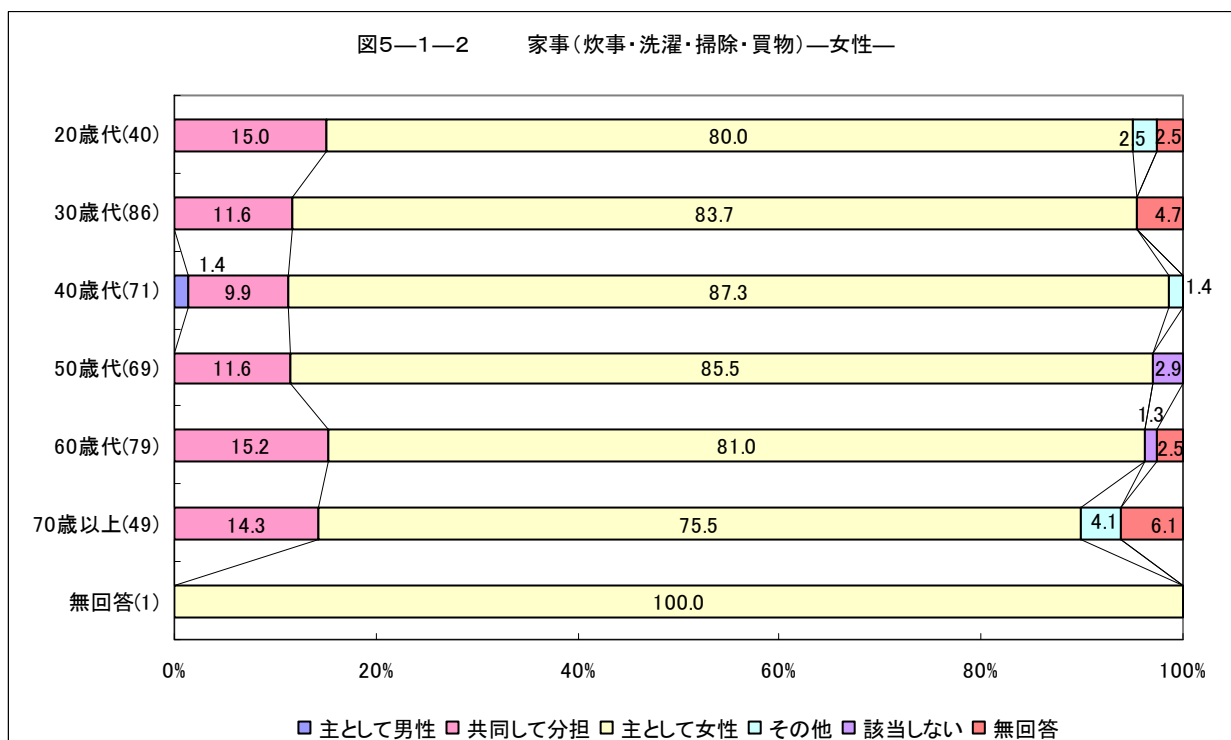
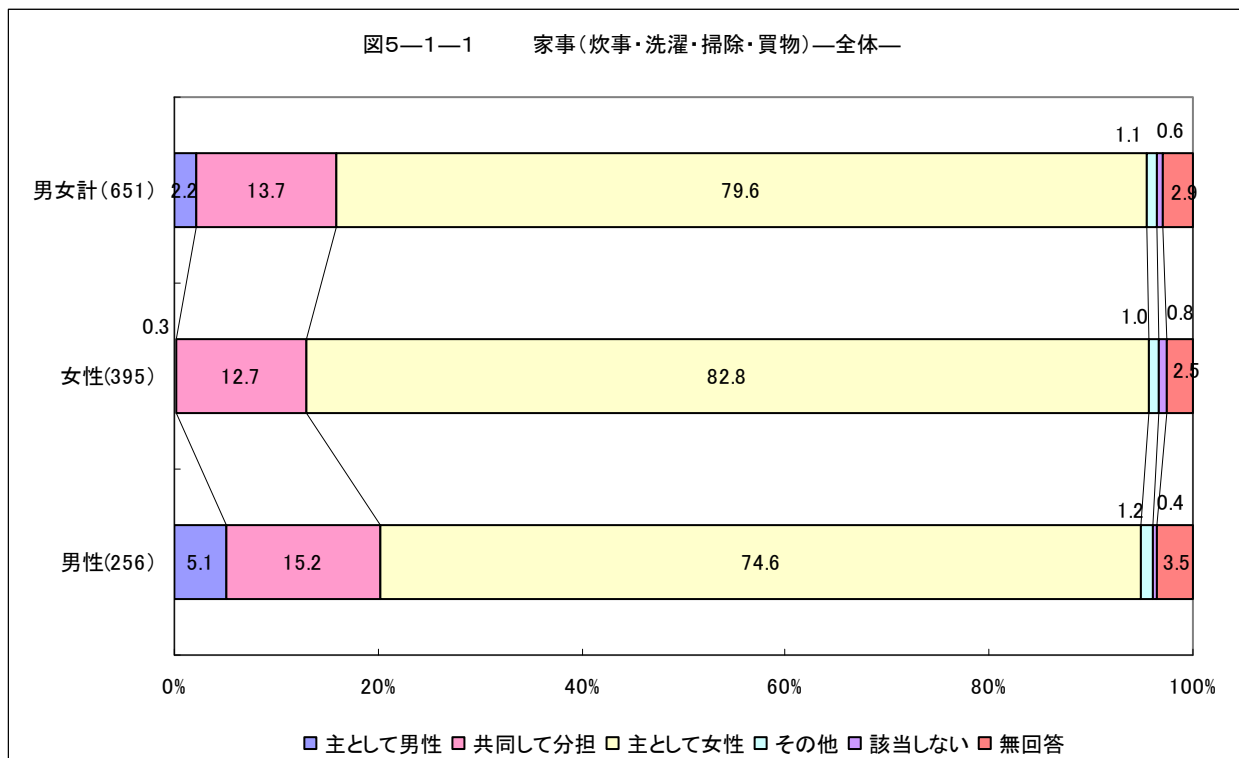
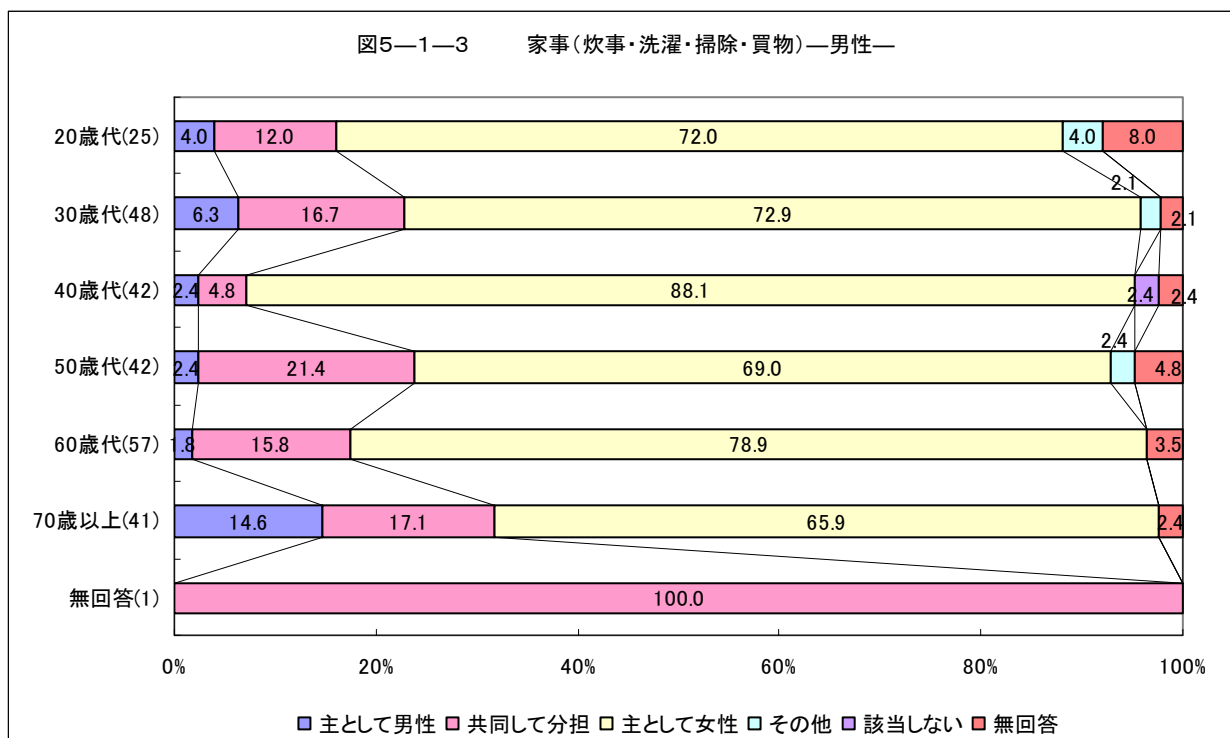




図5—1—3 家事(炊事・洗濯・掃除・買物)—男性—



<全体の傾向>

家庭における役割分担（実態）について女性全体では、「共同して分担」（12.7%）、男性全体においても、「共同して分担」（15.2%）とほぼ同じ割合になります。

<女性の傾向>

女性では、20歳代、60歳代において「共同して分担」が15%を超えています。

<男性の傾向>

男性では、70歳以上において「主として男性」（14.6%）となり、「共同して分担」（17.1%）となります。40歳代で「主として女性」（88.1%）と男性のなかでは、もっとも高くなっています。

図5—2—1 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—全体—

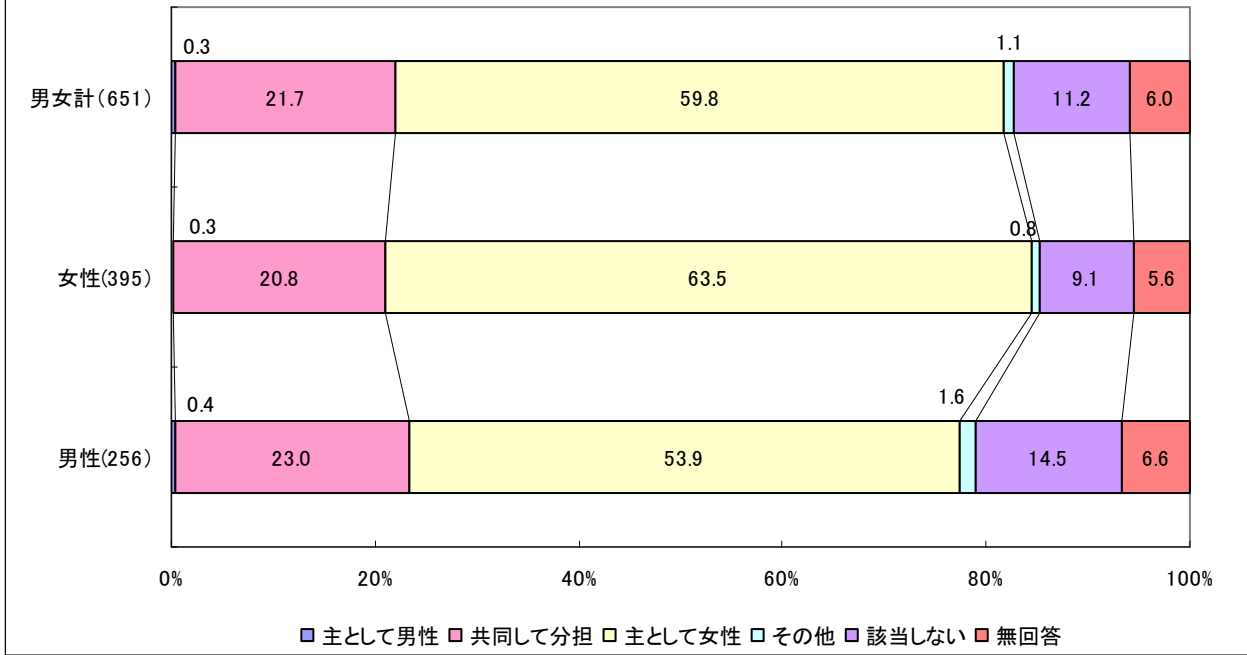


図5—2—2 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—女性—

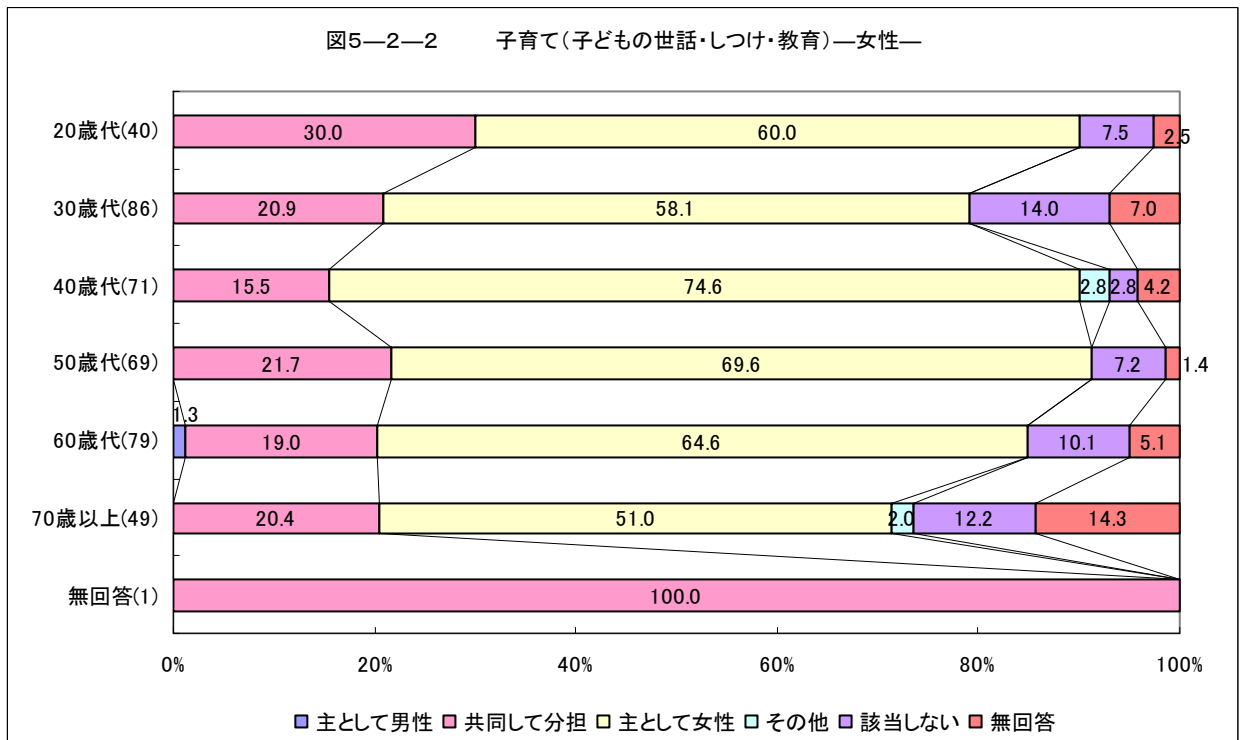
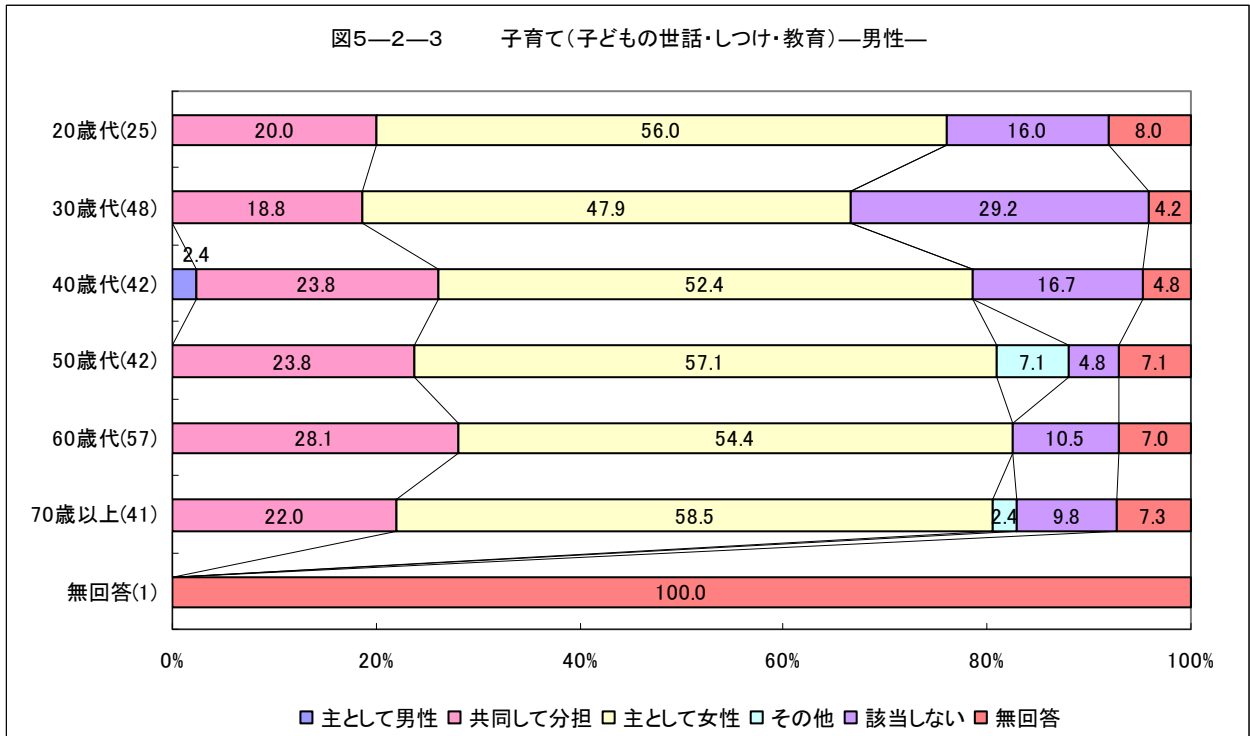


図5—2—3 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—男性—



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(20.8%)、男性全体においても、「共同して分担」(23.0%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、40歳代において「主として女性」(74.6%)となり、続いて50歳代の69.6%となります。

〈男性の傾向〉

男性では、60歳代において「共同して分担」(28.1%)となり、続いて40歳代の23.8%となります。

図5—3—1 介護(介護の必要な親の世話・病人の介護)—全体—

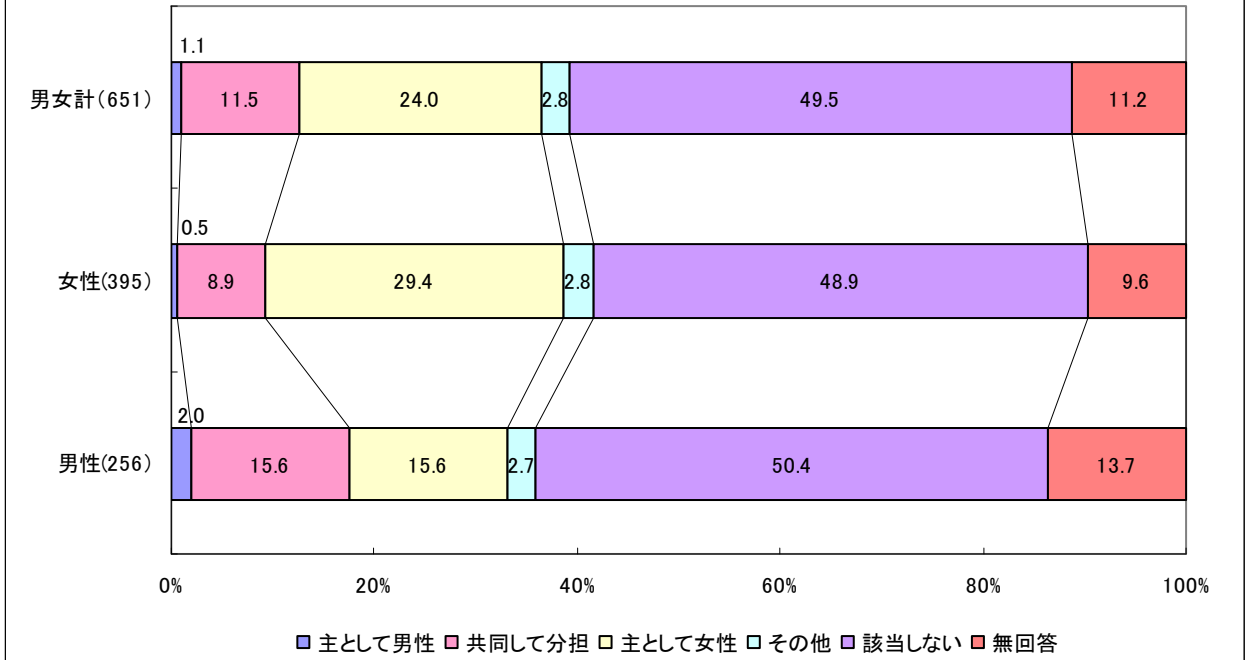


図5—3—2 介護(介護の必要な親の世話・病人の介護)—女性—

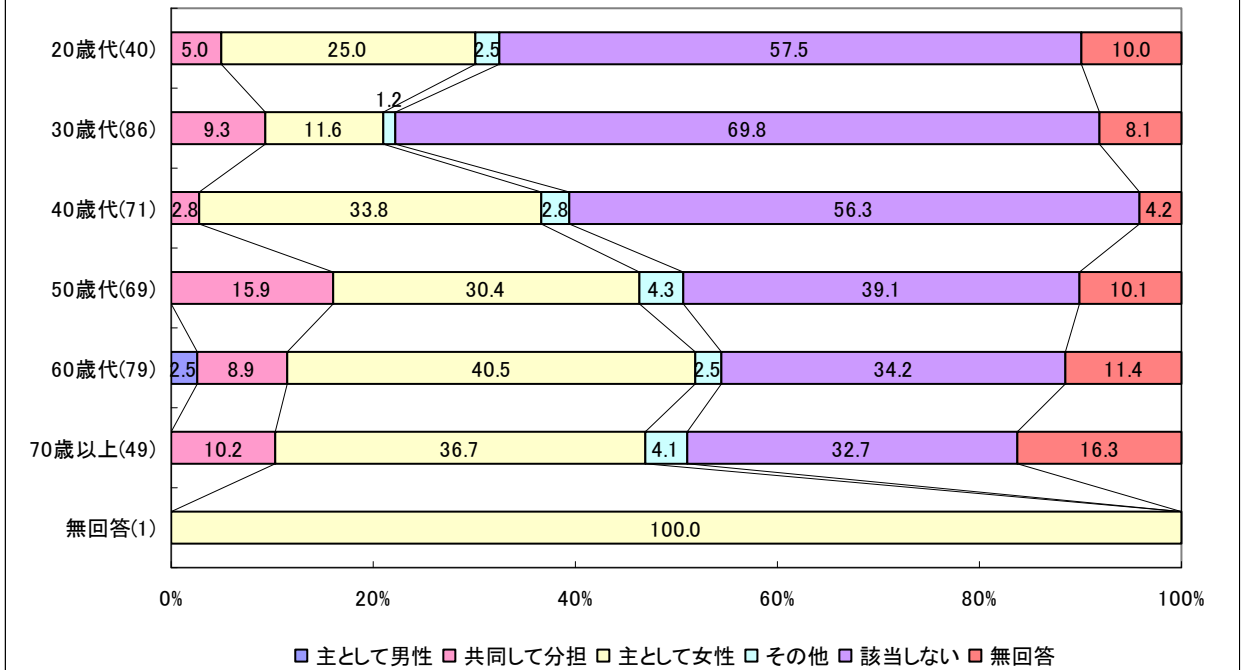
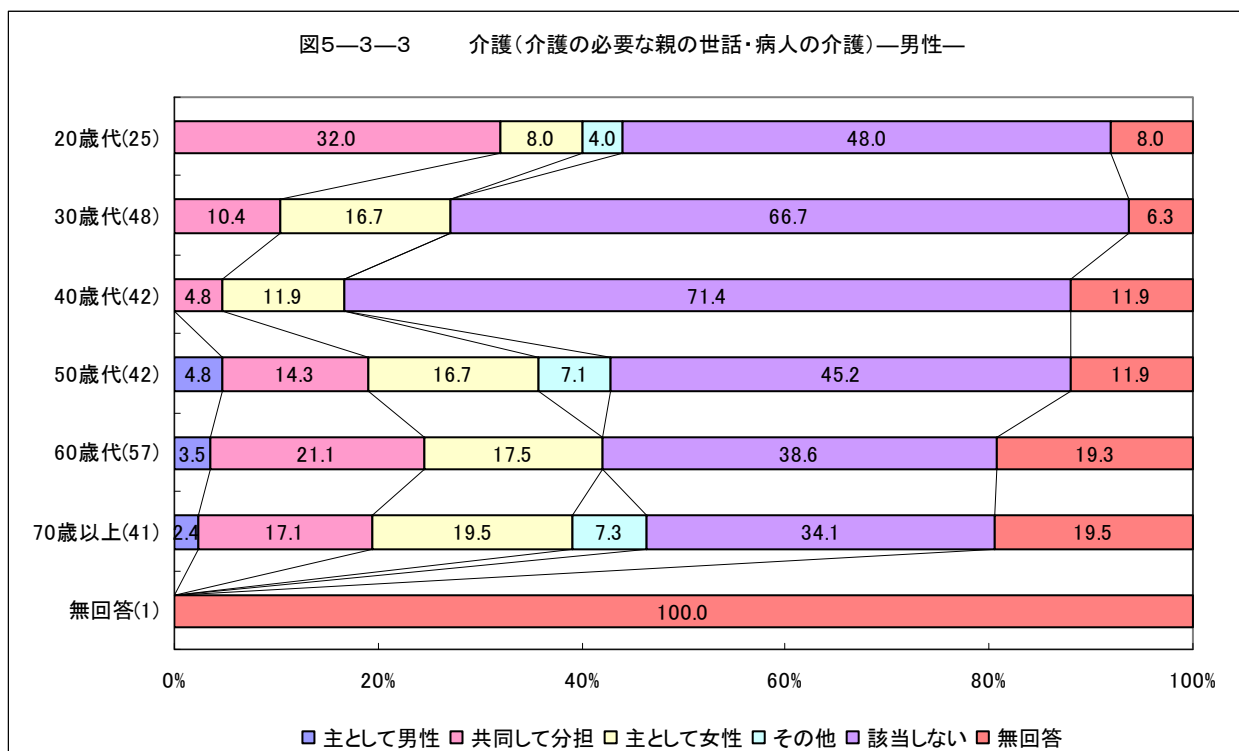


図5—3—3 介護(介護の必要な親の世話・病人の介護)—男性—



＜全体の傾向＞

女性全体では、「主として女性」(29.4%)、男性全体においては、「主として女性」(15.6%)となり、13.8ポイントの差となります。

＜女性の傾向＞

女性では、50歳代において「共同して分担」(15.9%)となり、40歳代の「共同して分担」(2.8%)と13.1ポイントの差があります。

＜男性の傾向＞

男性では、20歳代の「共同して分担」(32.0%)と40歳代の「共同して分担」(4.8%)と27.2ポイントの差があります。

図5—4—1 地域の行事への参加(全体)

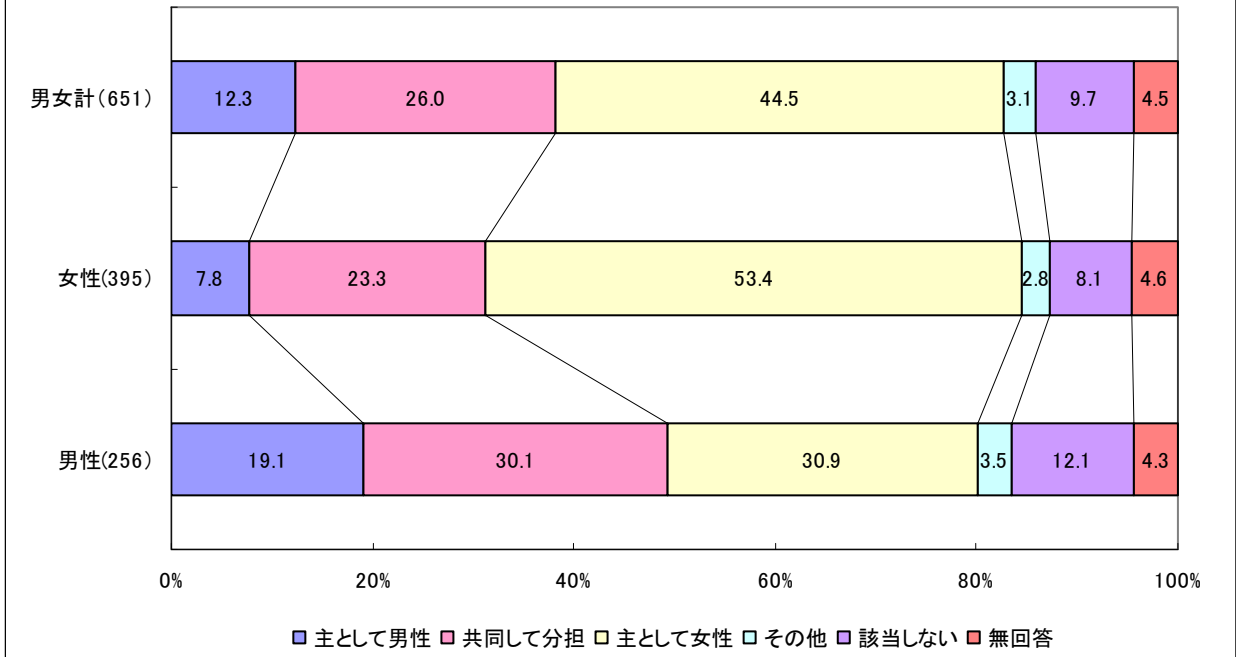


図5—4—2 地域の行事への参加(女性)

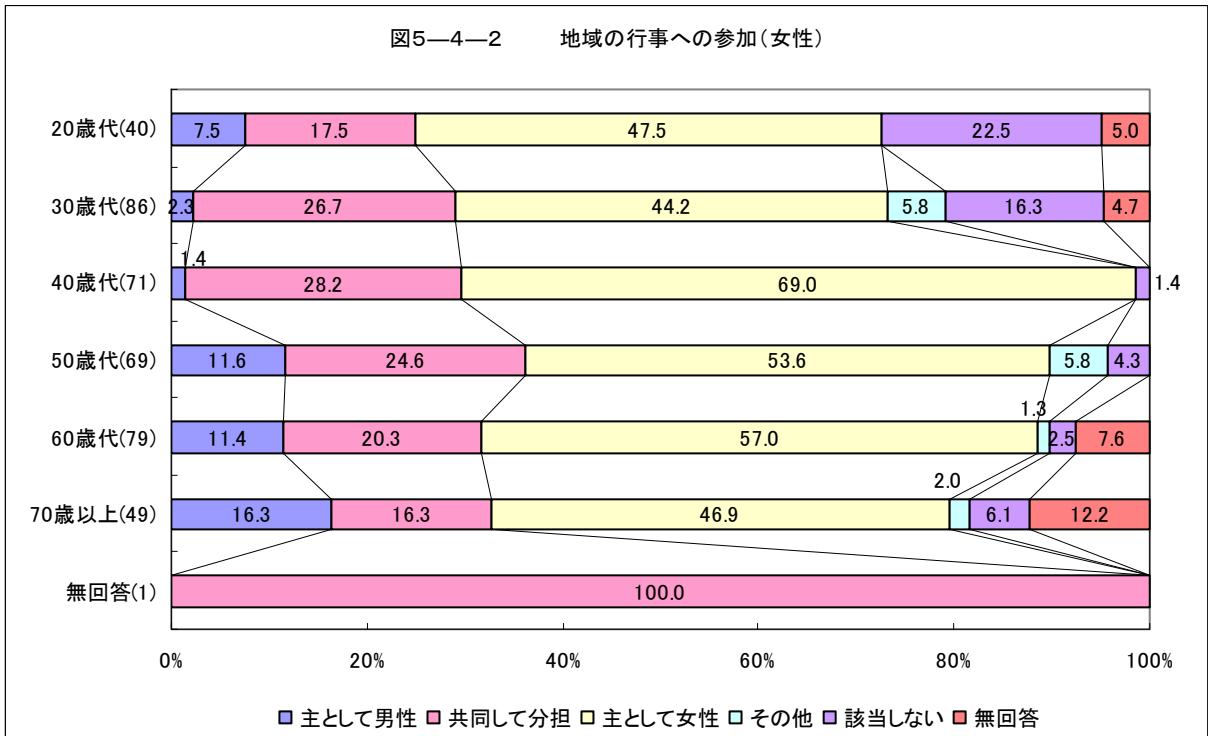
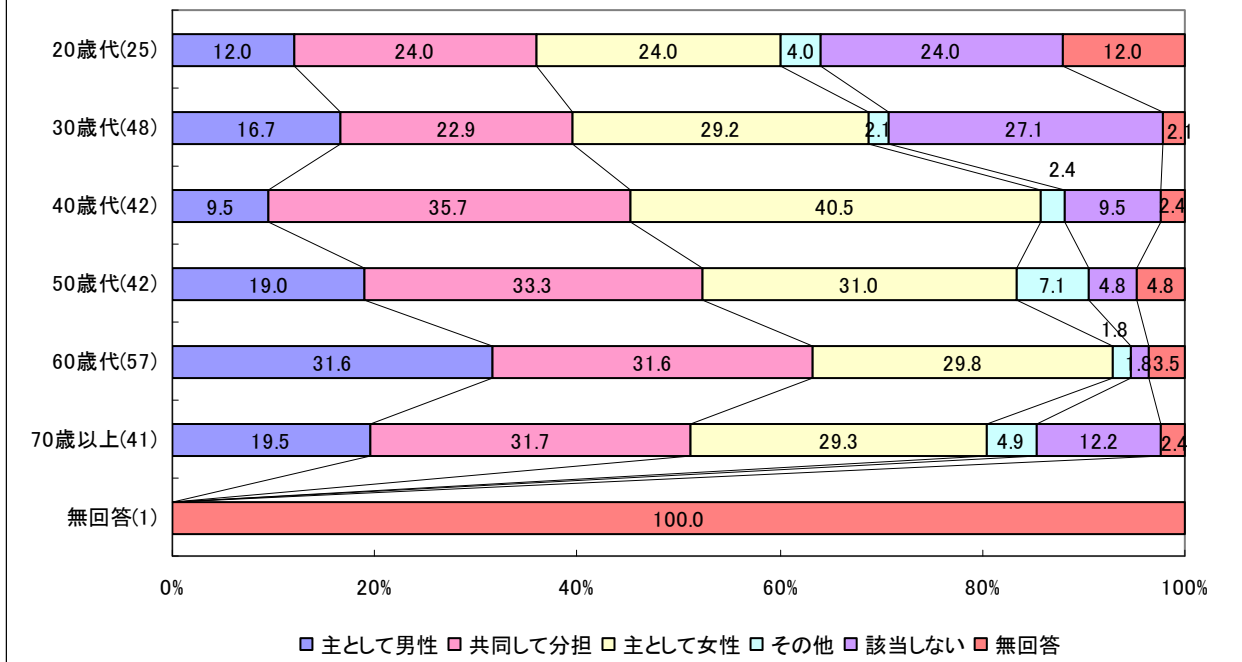


図 5—4—3 地域の行事への参加(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「主として女性」(53.4%)、男性全体では「主として女性」(30.9%)となり、22.5ポイントの差があります。

〈女性の傾向〉

女性では、40歳代において「共同して分担」(28.2%)とほぼ3人に1人の割合となります。反面「主として女性」(69.0%)との回答も7割を占めています。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代において「共同して分担」(35.7%)となりますが、一方、「主として女性」(40.5%)との回答もあります。

図5—5—1 自治会・PTA活動への参加(全体)

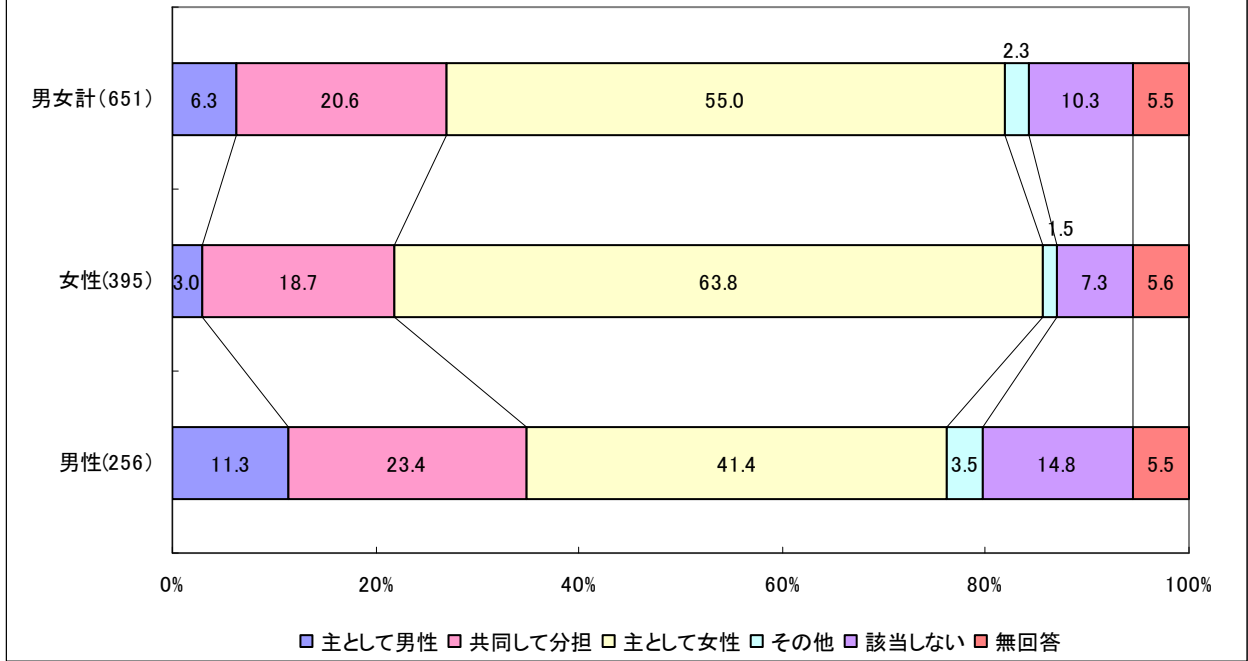


図5—5—2 自治会・PTA活動への参加(女性)

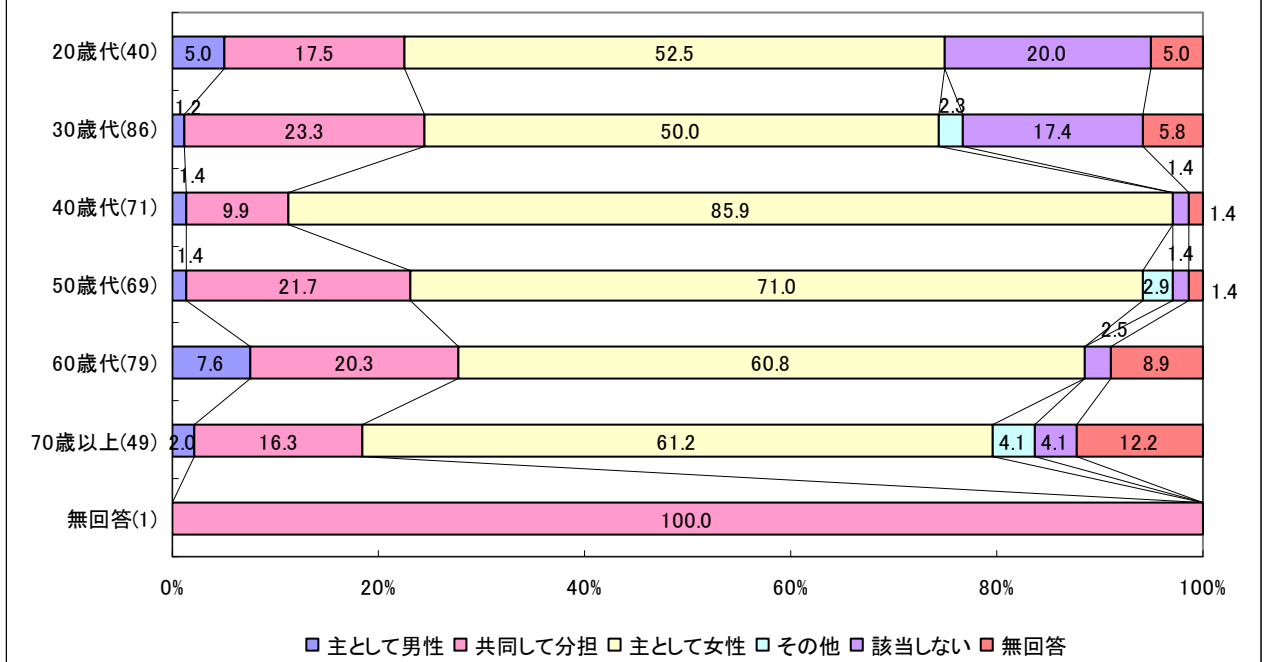
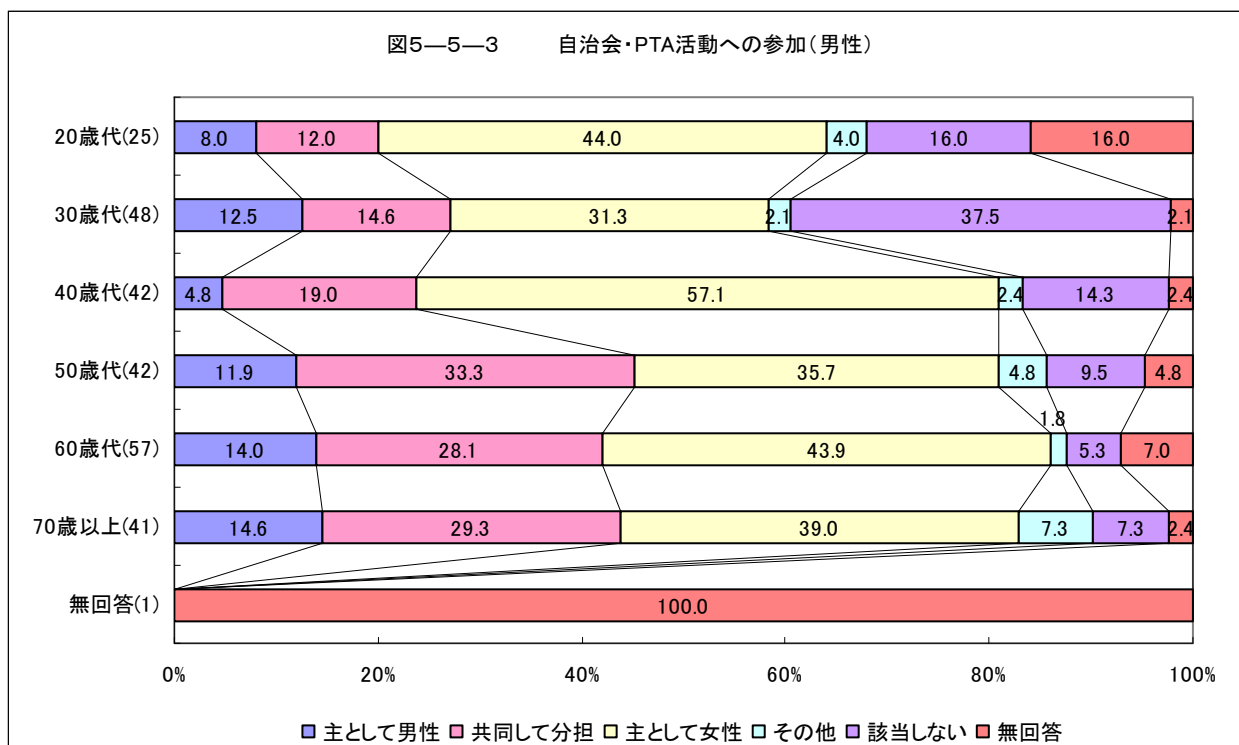




図5—5—3 自治会・PTA活動への参加(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「主として女性」(63.8%)、男性全体では「主として女性」(41.4%)となり、22.4ポイントの差があります。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代で「共同して分担」(23.3%)、「主として女性」(50.0%)となり、26.7ポイントの差があります。40歳代では、「共同して分担」(9.9%)、「主として女性」(85.9%)となり、76.0ポイントの差があります。

〈男性の傾向〉

男性では、50歳代で「共同して分担」(33.3%)、「主として女性」(35.7%)となり、2.4ポイントの差があります。40歳代では、「共同して分担」(19.0%)、「主として女性」(57.1%)となり、38.1ポイントの差があります。

図5-6-1 生活費の確保(全体)

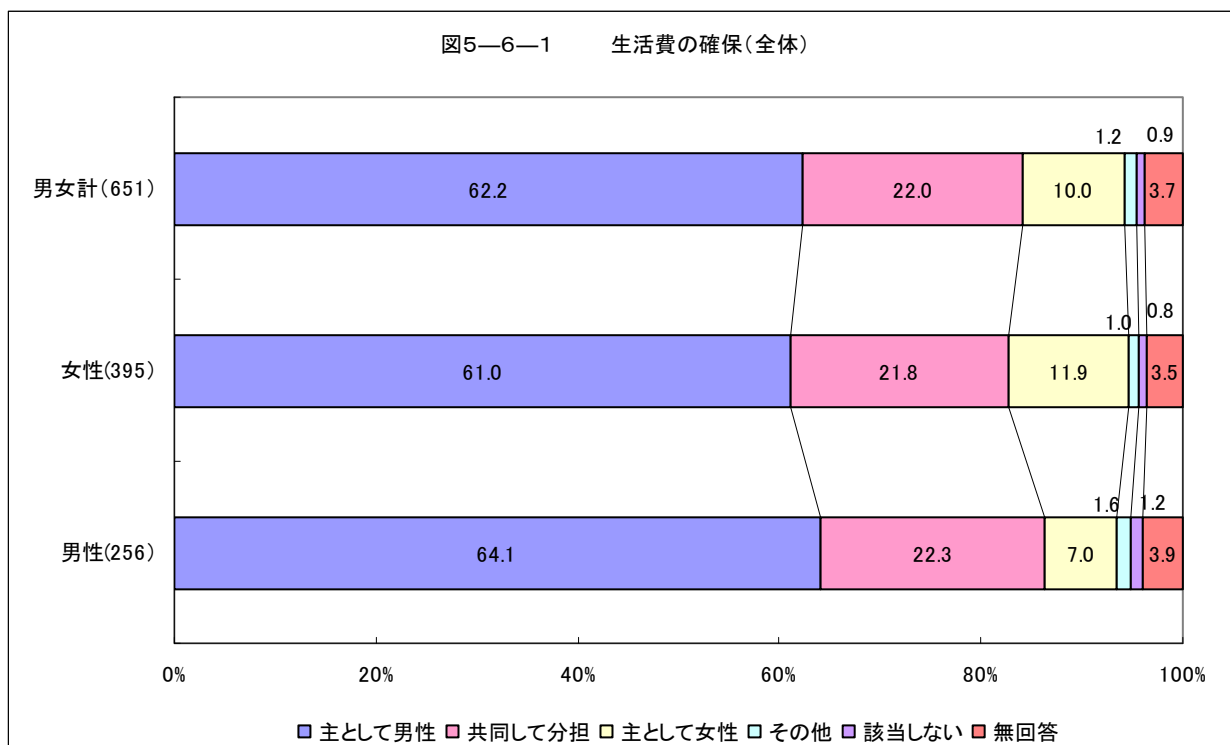


図5-6-2 生活費の確保(女性)

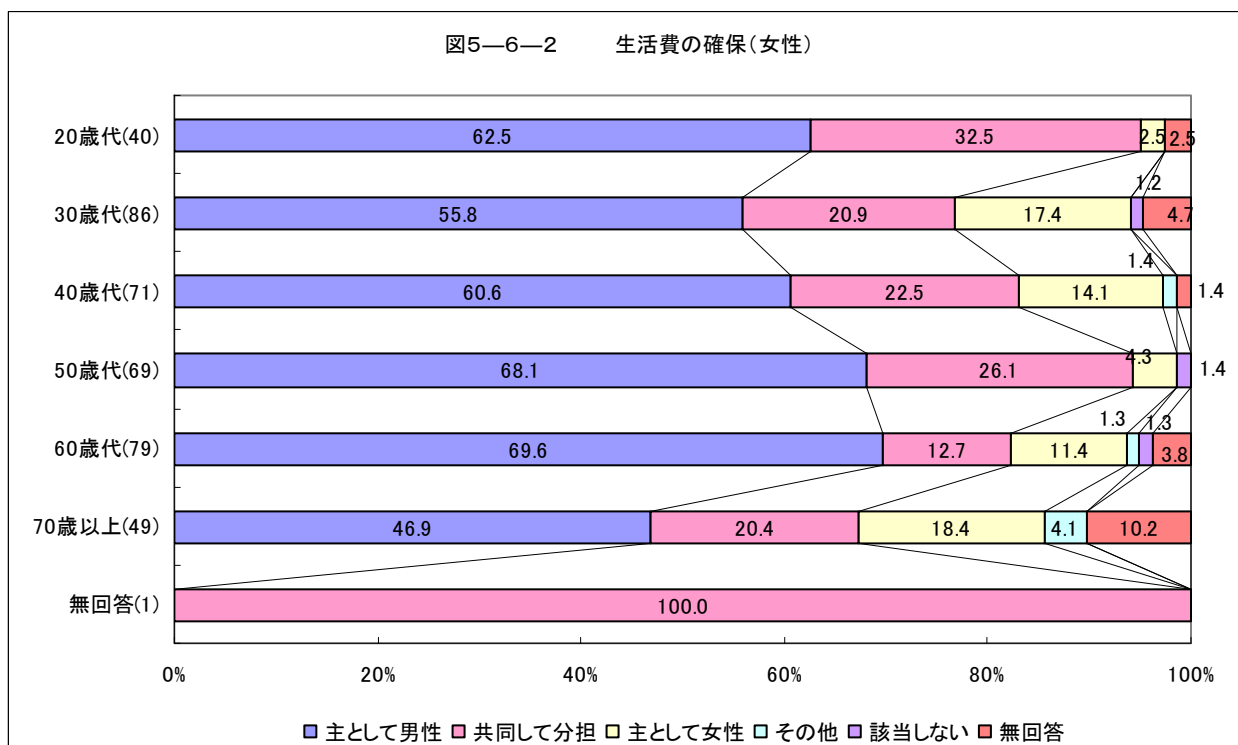
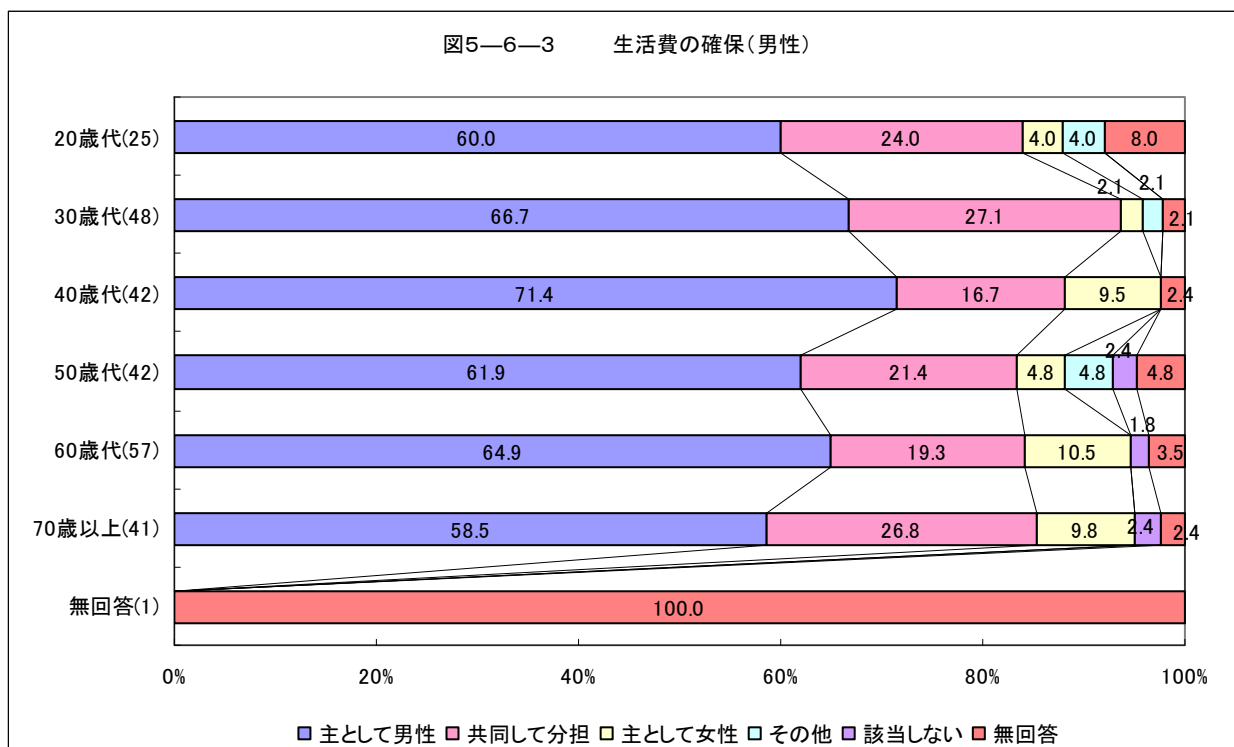


図5—6—3 生活費の確保(男性)



<全体の傾向>

女性全体、男性全体でともに、「主として男性」との回答が6割を超えています。

<女性の傾向>

女性では、20歳代で「共同して分担」(32.5%)、続いて50歳代で26.1%となります。

<男性の傾向>

男性では、30歳代で「共同して分担」(27.1%)、続いて70歳代で26.8%となります。

図5-7-1 家計の管理(全体)

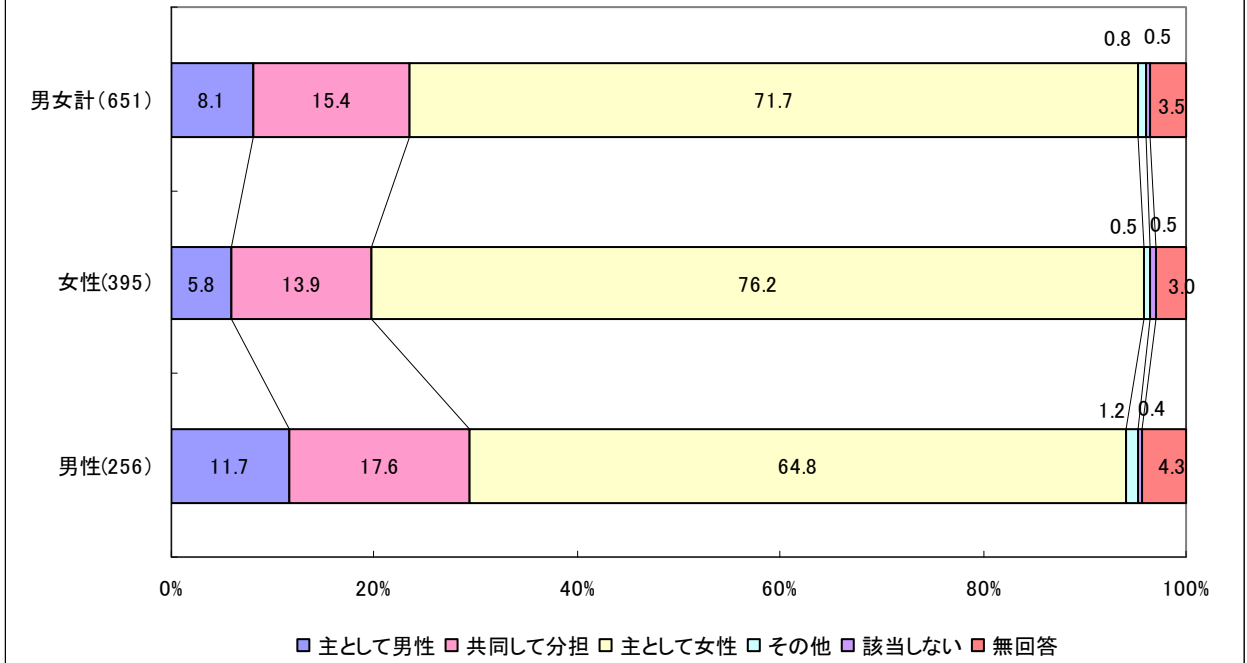


図5-7-2 家計の管理(女性)

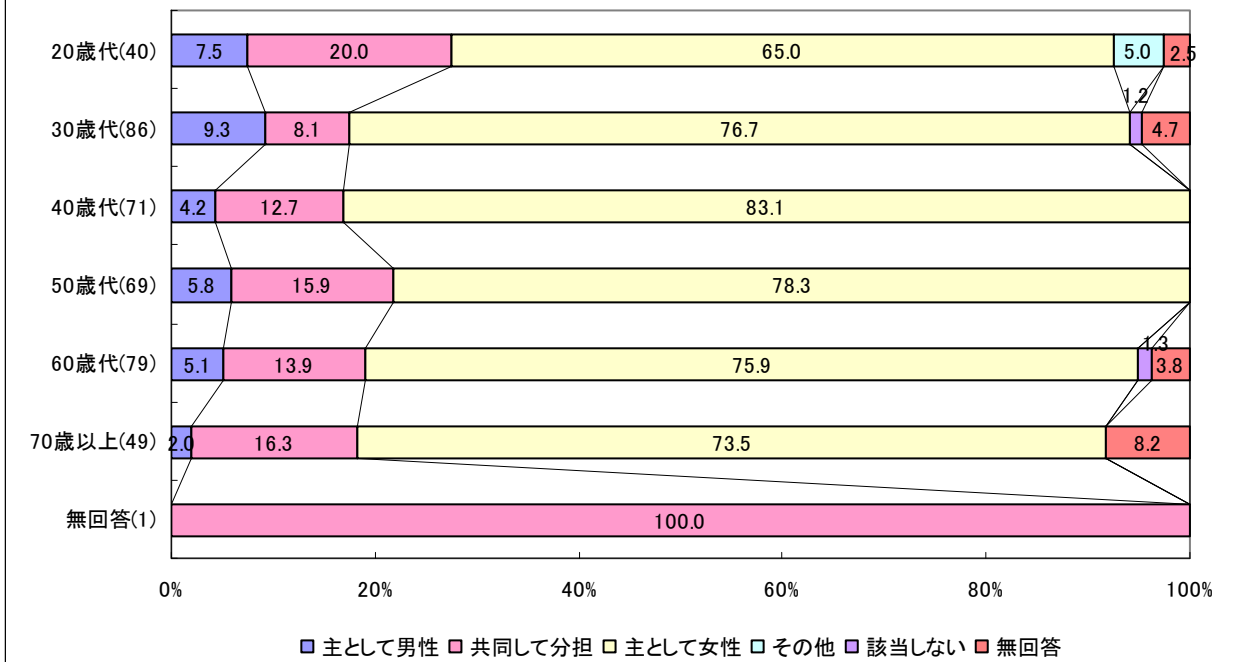
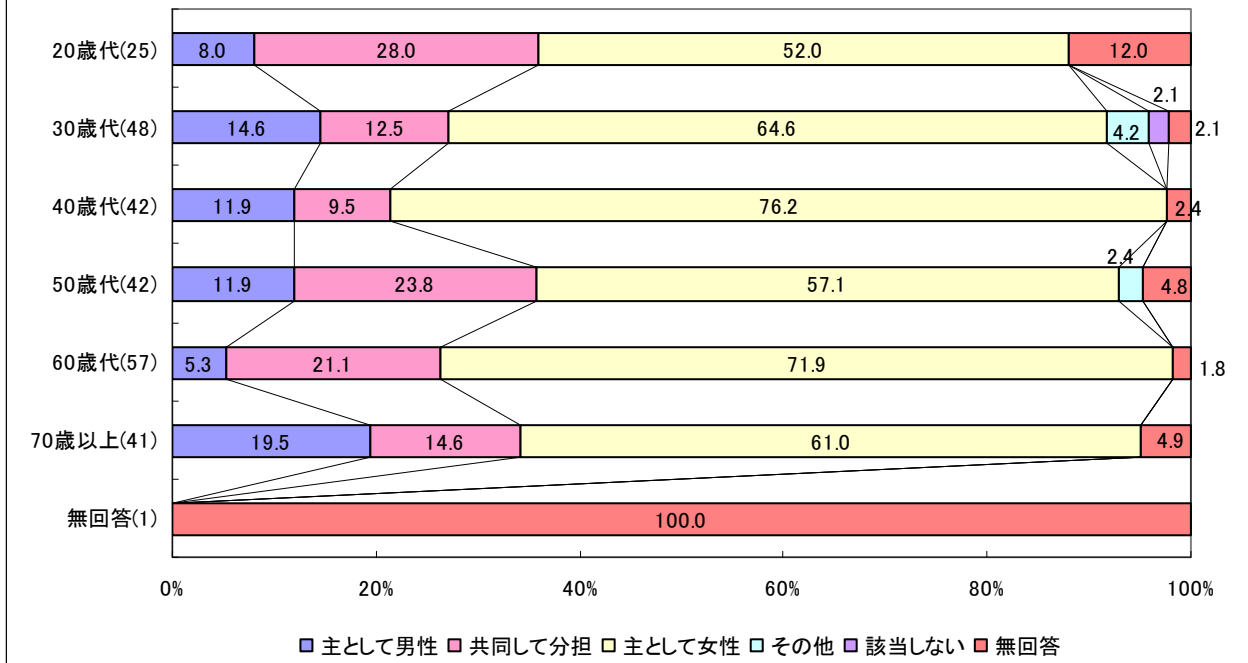


図5—7—3 家計の管理(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(13.9%)となり、男性全体では、17.6%となり、3.7ポイントの差があります。女性全体で「主として男性」(5.8%)となり、男性全体では、11.7%と5.9ポイントの差があります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代で「共同して分担」(20.0%)、30歳代で8.1%となり、その差が11.9ポイントとなります。

〈男性の傾向〉

男性では、20歳代で「共同して分担」(28.0%)、40歳代で9.5%となり、その差が18.5ポイントとなります。

図5—8—1 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(全体)

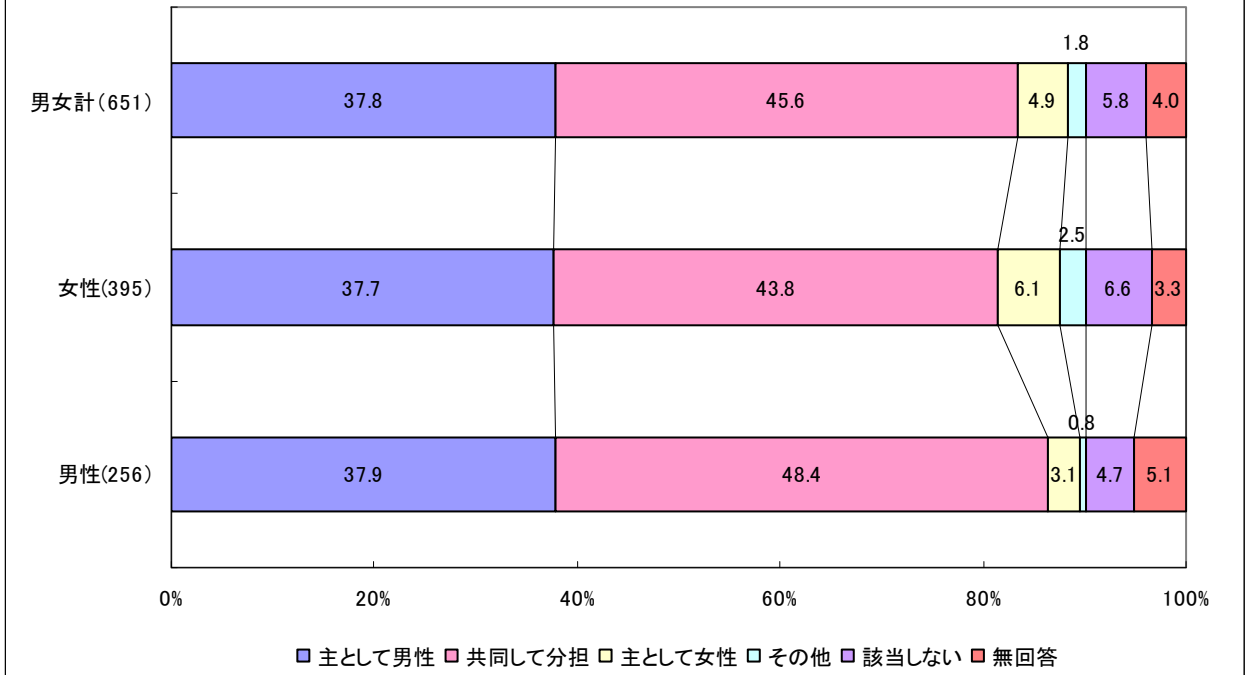


図5—8—2 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(女性)

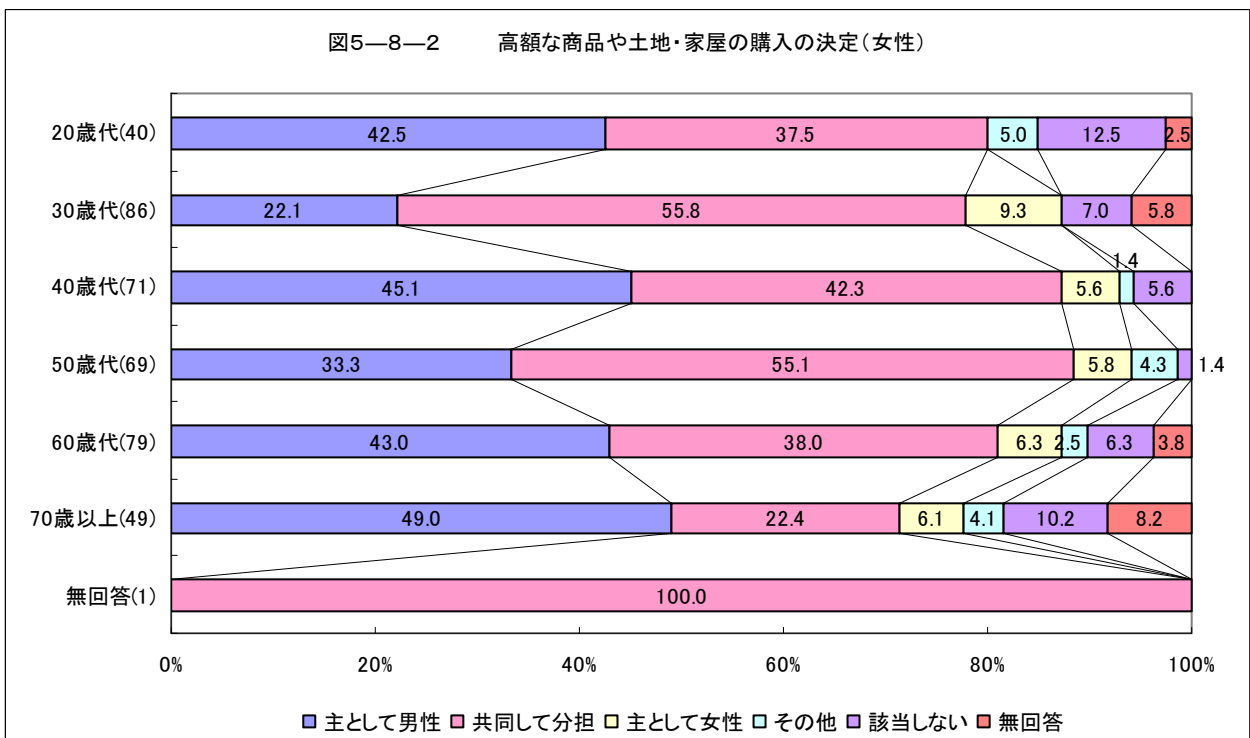
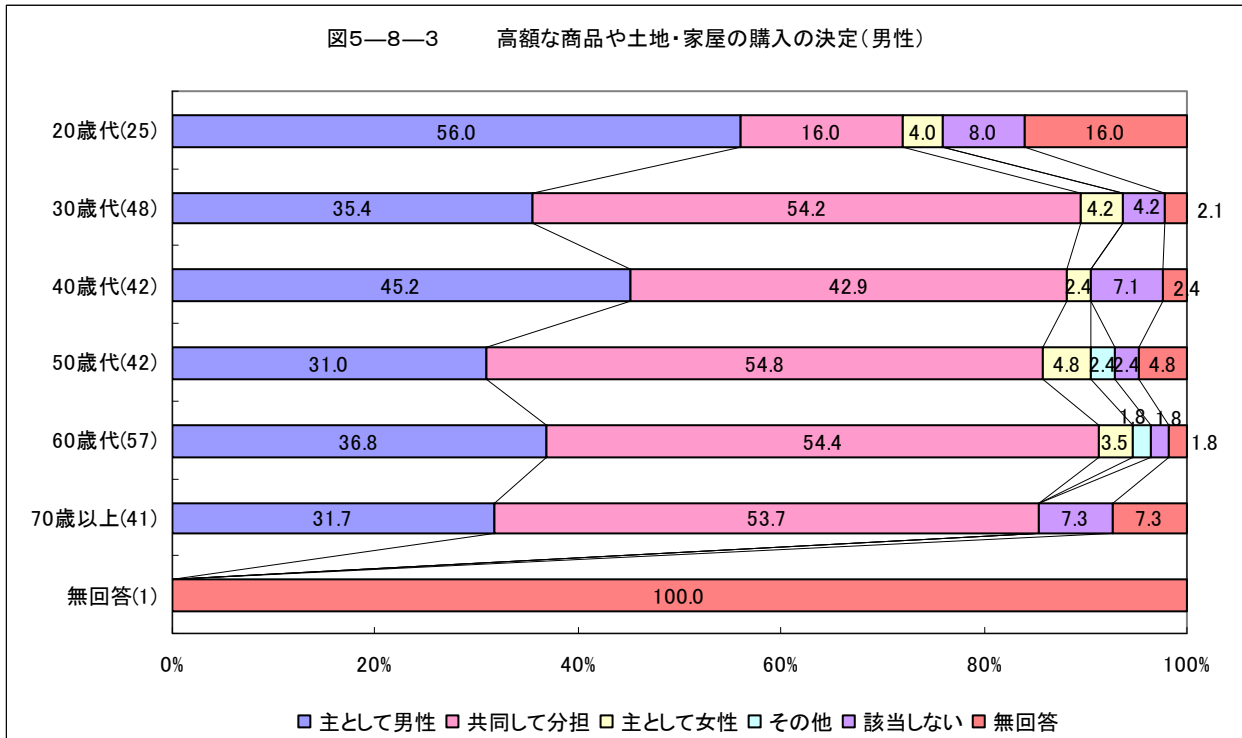


図5—8—3 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体、男性全体とも、「主として男性」はほぼ同数となります。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代で「共同して分担」(55.8%)、50歳代で55.1%と5割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、20歳代で「共同して分担」(16.0%)と2割に満たない割合ですが、その他の世代では、4割を超えています。

質問6 家庭生活における役割分担（理想）について

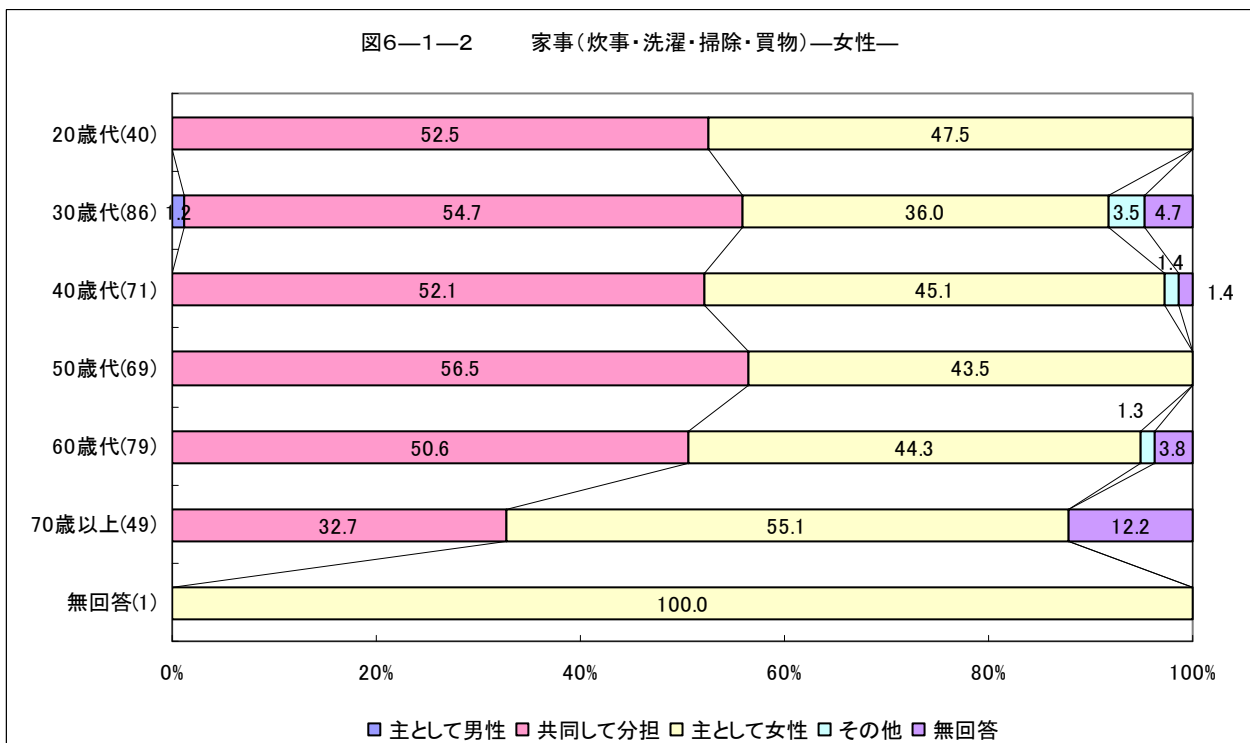
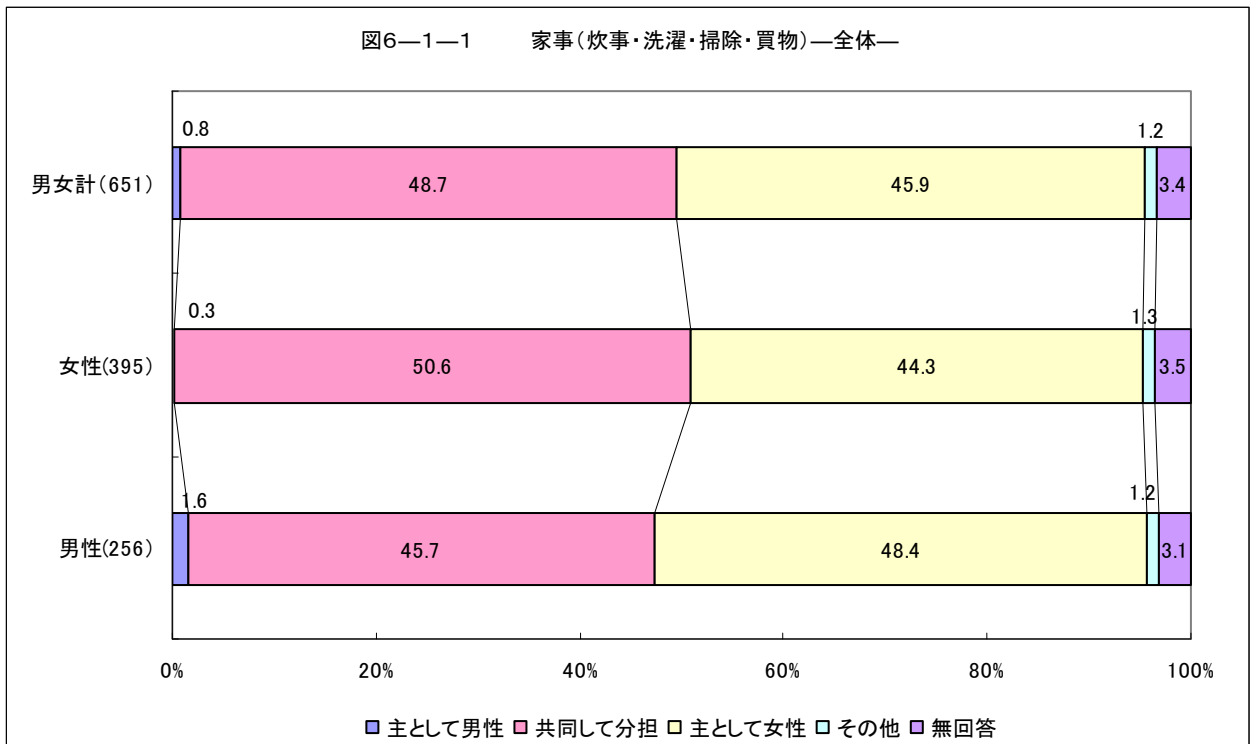
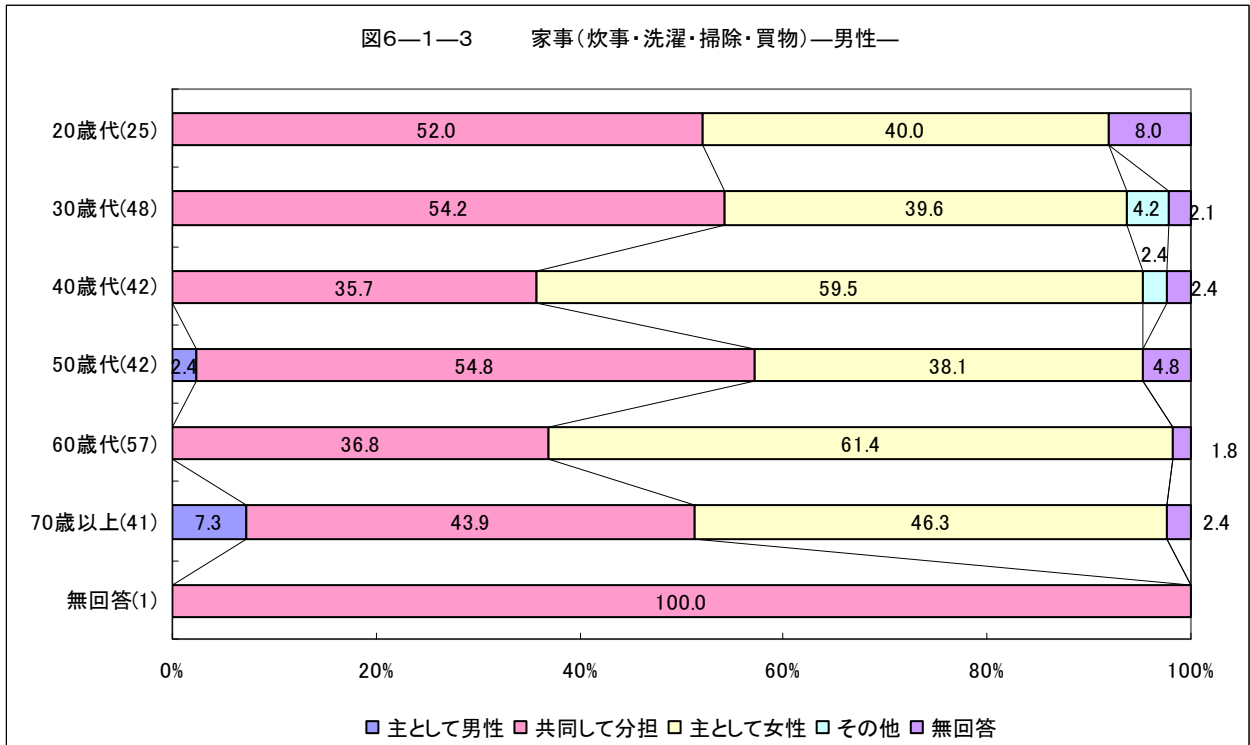




図6—1—3 家事(炊事・洗濯・掃除・買物)—男性—



〈全体の傾向〉

家庭における役割分担(理想)について女性全体では、「共同して分担」(50.6%)となり、「主として女性」(44.3%)と6.3ポイントの差があります。男性全体においては、「共同して分担」(45.7%)となり、「主として女性」(48.4%)と2.7ポイントですが、「主として女性」が若干上回っています。

〈女性の傾向〉

女性では、70歳以上を除いて、すべての世代で、「共同して分担」が「主として女性」を上回った回答を得ています。

〈男性の傾向〉

男性では、50歳代において「共同して分担」(54.8%)となり、40歳代の「共同して分担」(35.7%)と60歳代の「共同して分担」(36.8%)と2割近い差があります。

図6—2—1 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—全体—

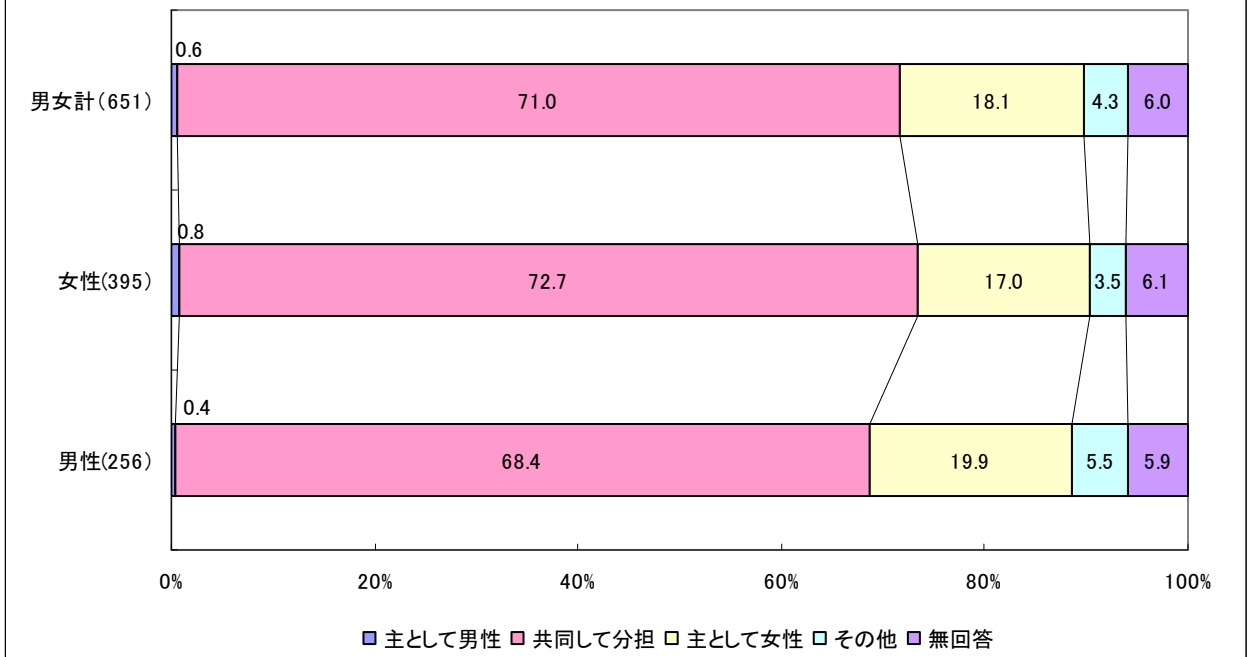


図6—2—2 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—女性—

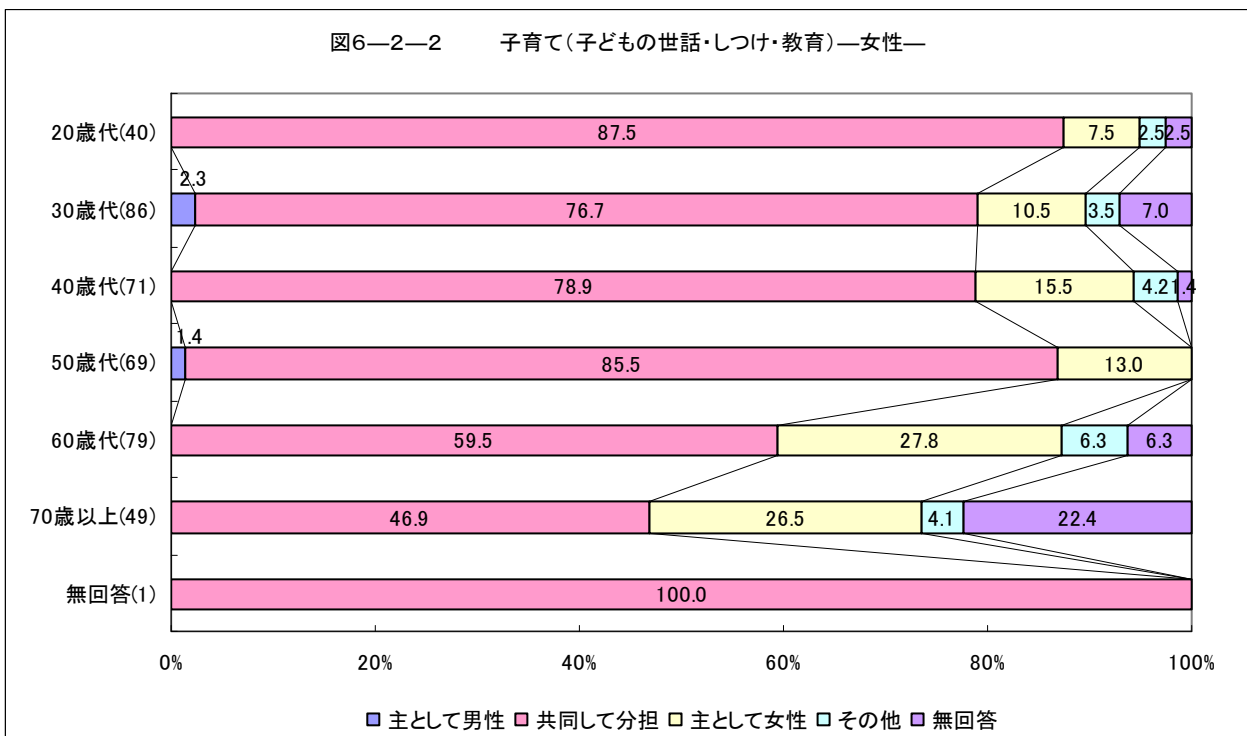
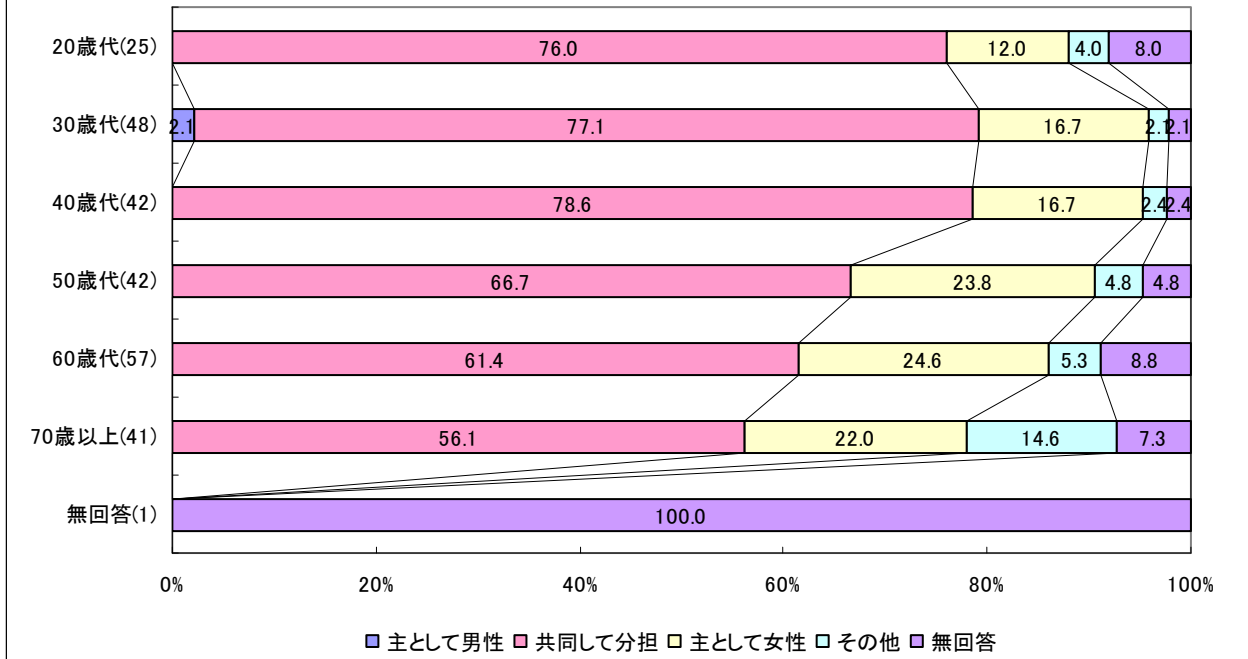


図6—2—3 子育て(子どもの世話・しつけ・教育)—男性—



<全体の傾向>

女性全体では、「共同して分担」(72.7%)となり、男性全体でも「共同して分担」(68.4%)となります。

<女性の傾向>

女性では、70歳以上を除いて、すべての世代で、「共同して分担」がほぼ6割を超えています。

<男性の傾向>

男性では、主な子育て世代である20歳代、30歳代、40歳代で「共同して分担」が、7割を超えています。

図6—3—1 介護(介護の必要な親の世話・病人の介護)—全体—

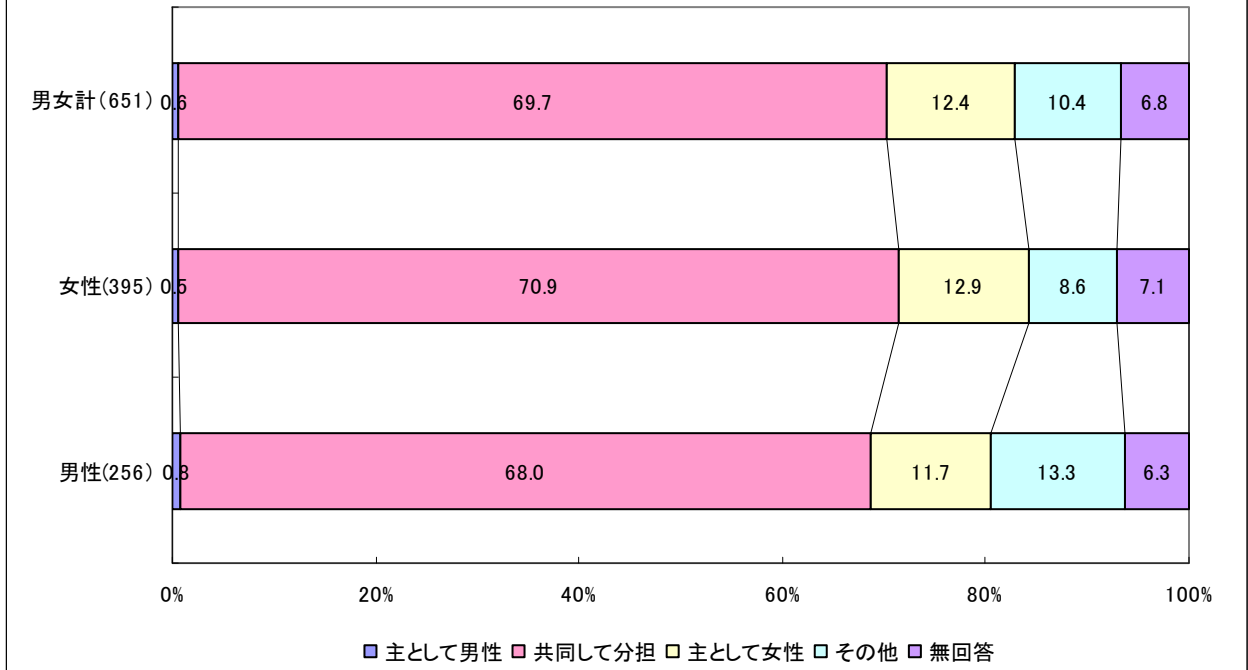


図6—3—2 介護(介護の必要な親の世話・病人の介護)—女性—

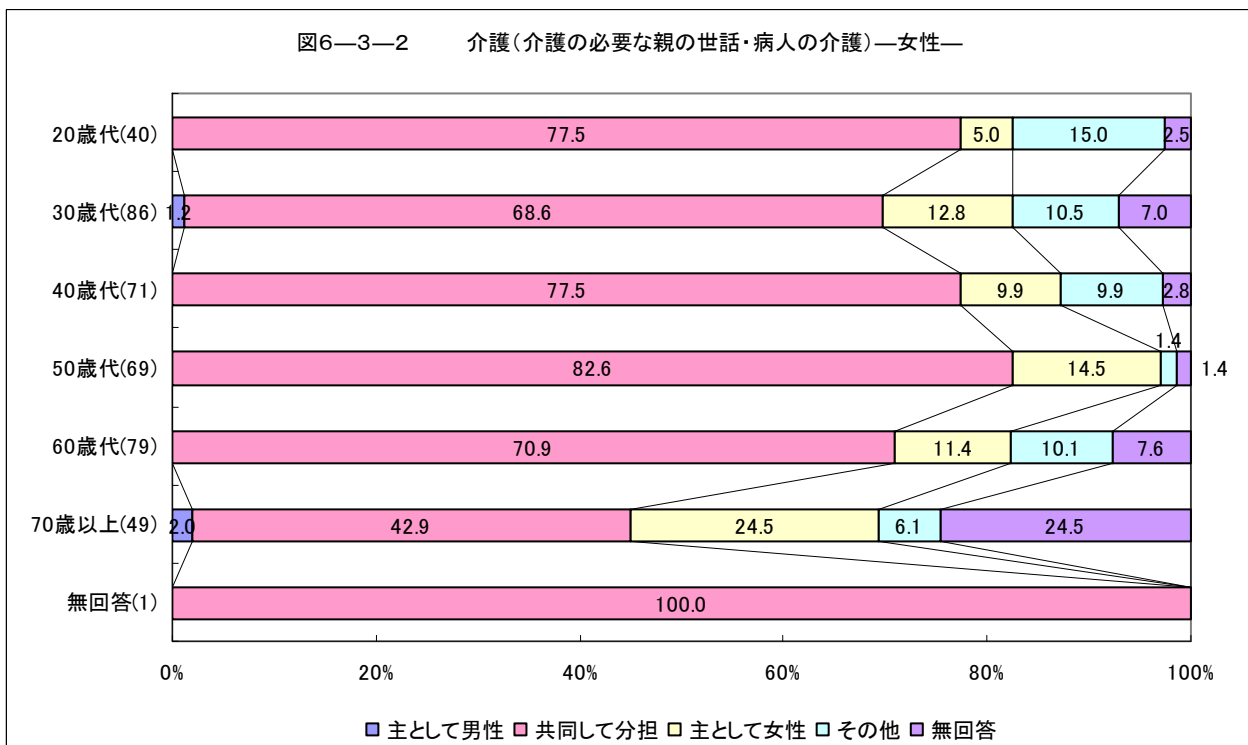
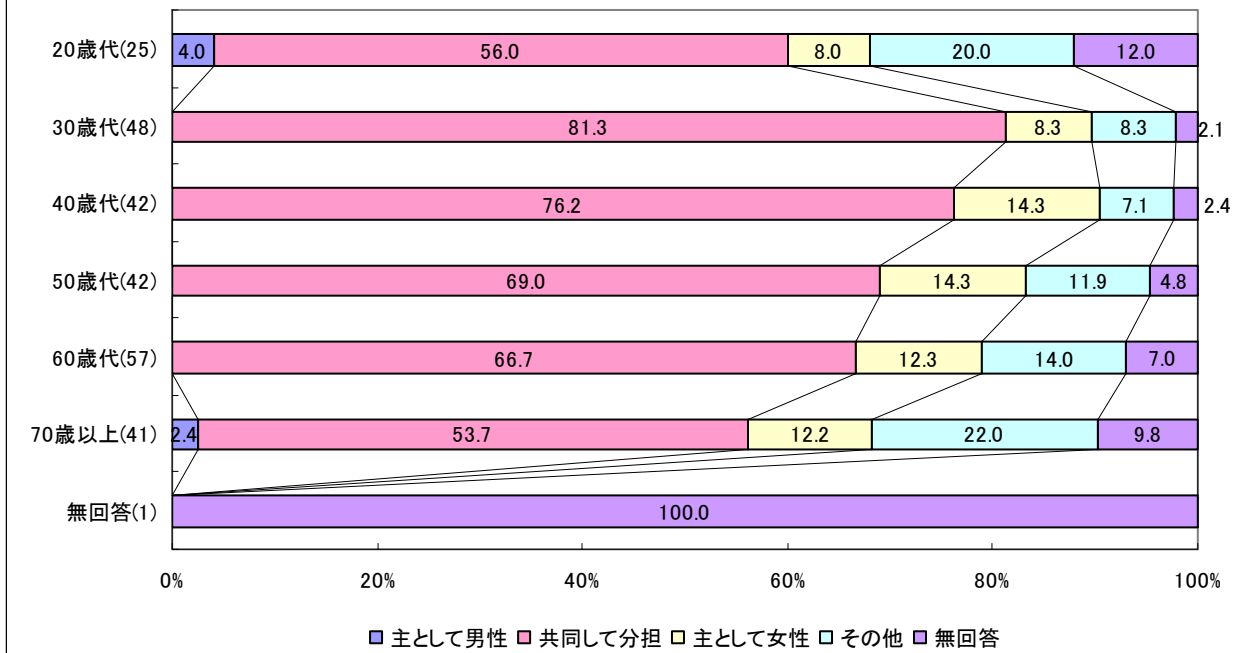


図6—3—3 介護(介護が必要な親の世話・病人の介護)—男性—



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(70.9%)となり、男性全体でも「共同して分担」(68.0%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、70歳以上を除いて、すべての世代で、「共同して分担」がほぼ7割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、30歳代で、「共同して分担」(81.3%)となりますが、20歳代で56.0%と25.3ポイントの差があります。

図6-4-1 地域の行事への参加(全体)

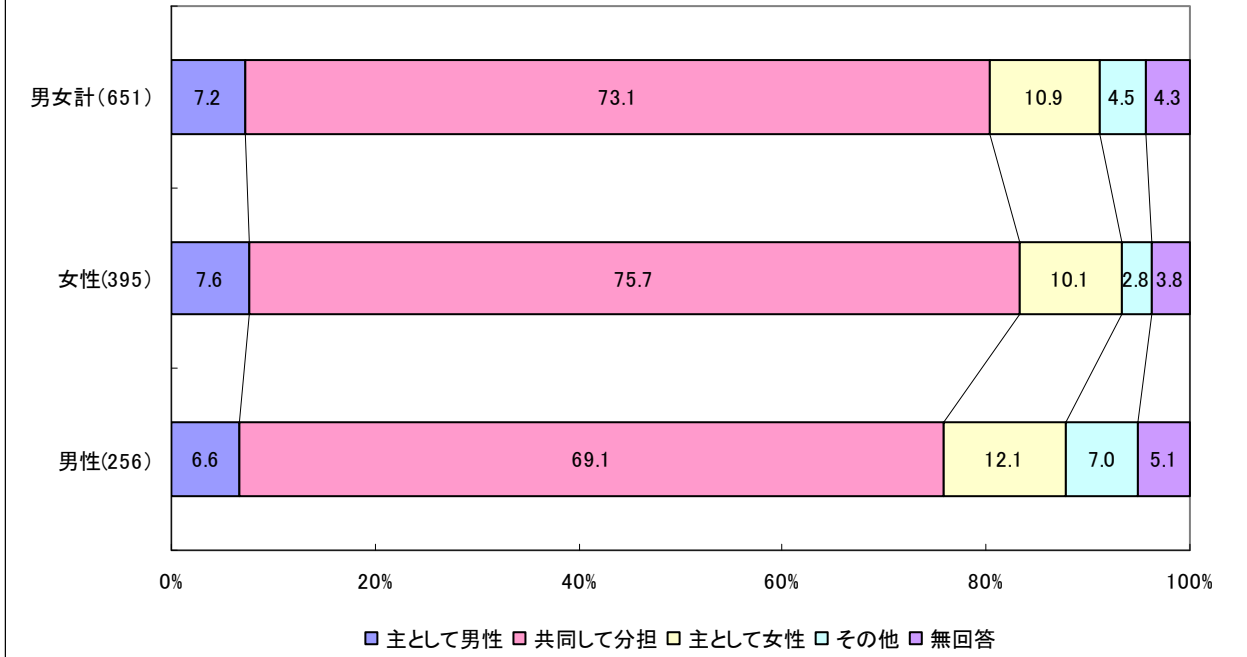


図6-4-2 地域の行事への参加(女性)

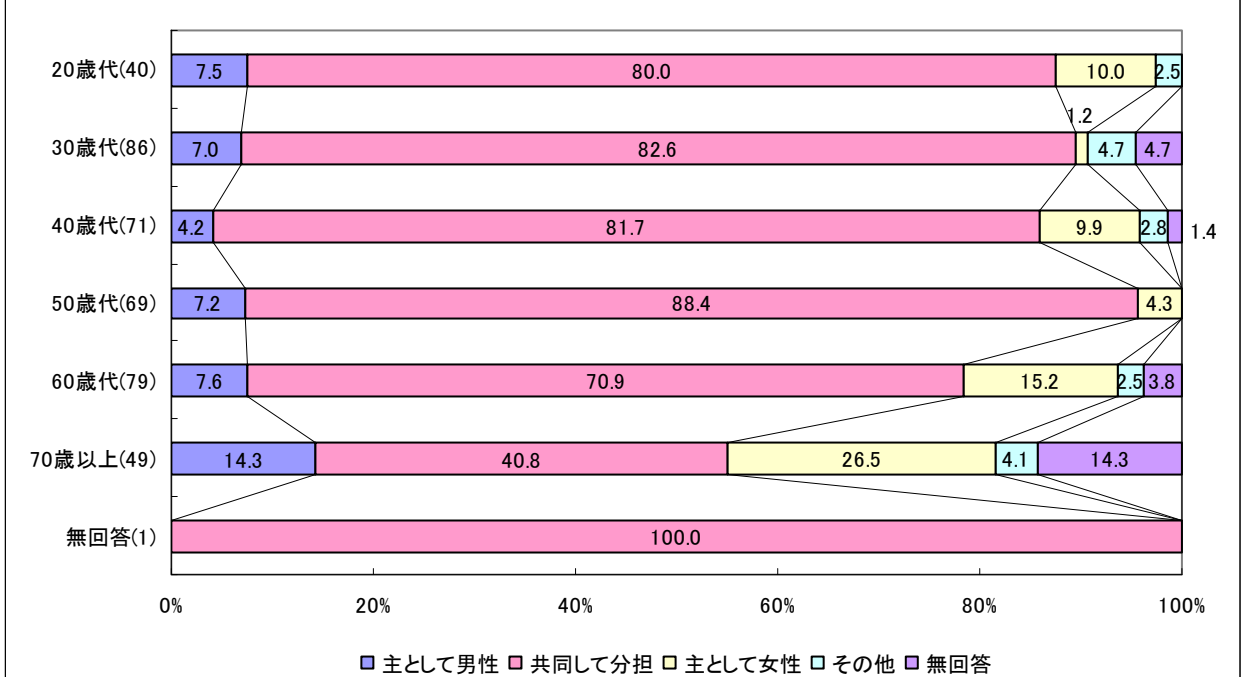
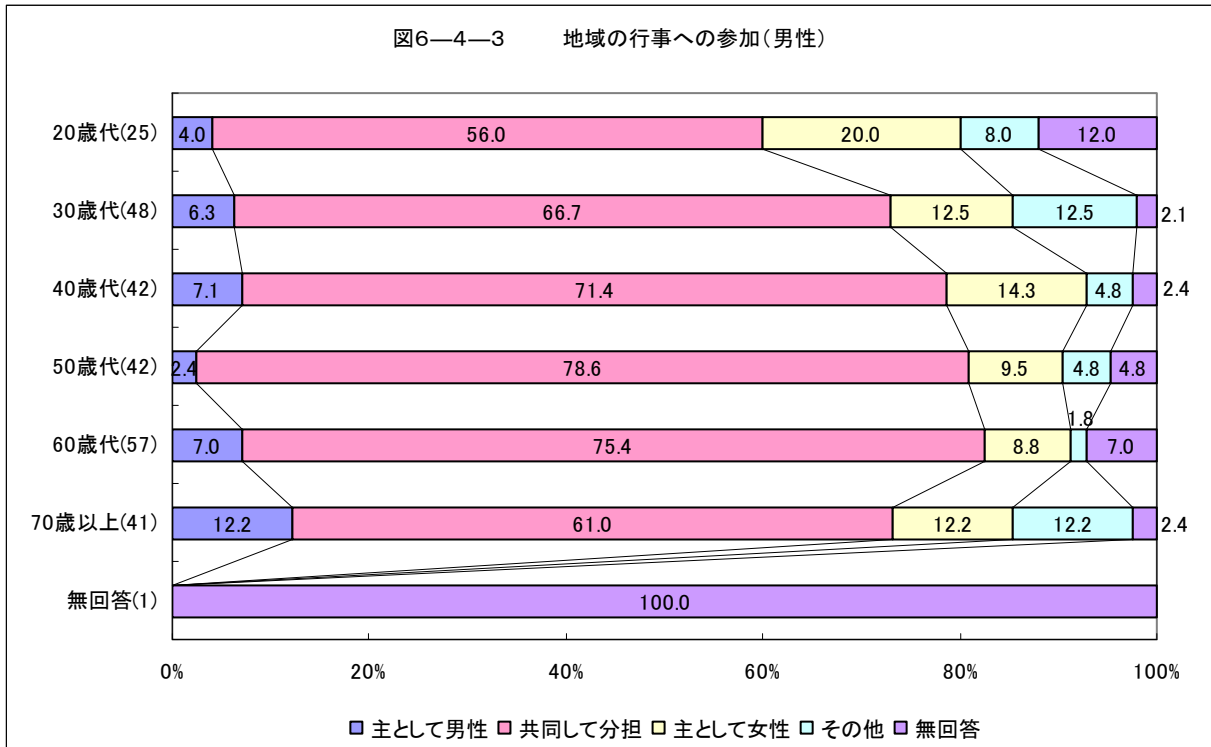


図6—4—3 地域の行事への参加(男性)



<全体の傾向>

女性全体では、「共同して分担」(75.7%)となり、男性全体でも「共同して分担」(69.1%)となります。

<女性の傾向>

女性では、60歳代、70歳以上を除いて、すべての世代で、「共同して分担」が8割を超えています。

<男性の傾向>

男性では、20歳代で、「共同して分担」(56.0%)となり、その他の世代で、6割以上となります。

図6—5—1 自治会・PTA活動への参加(全体)

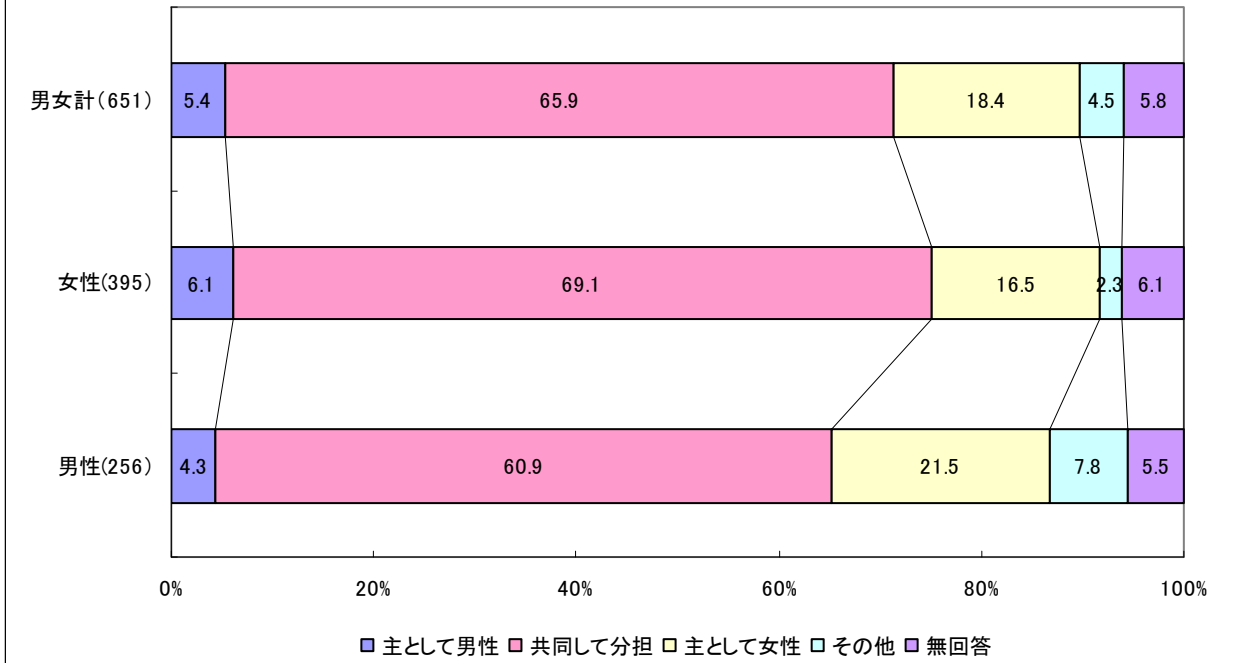


図6—5—2 自治会・PTA活動への参加(女性)

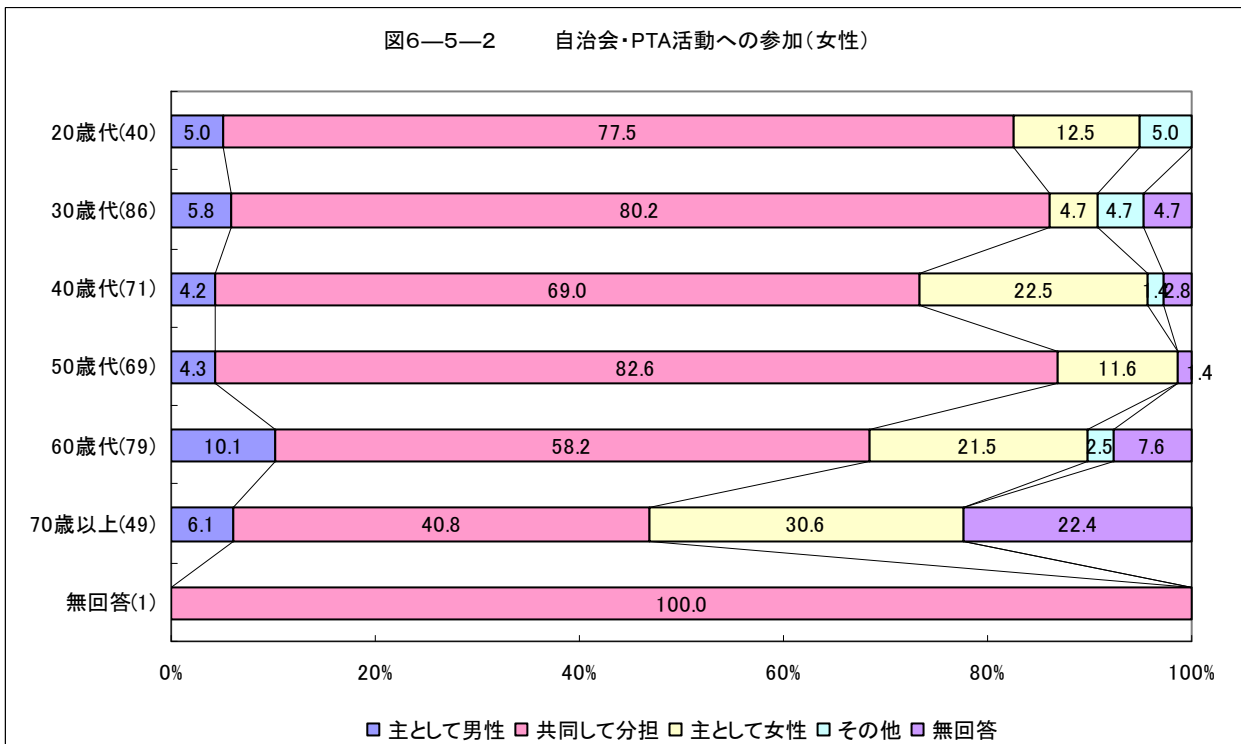
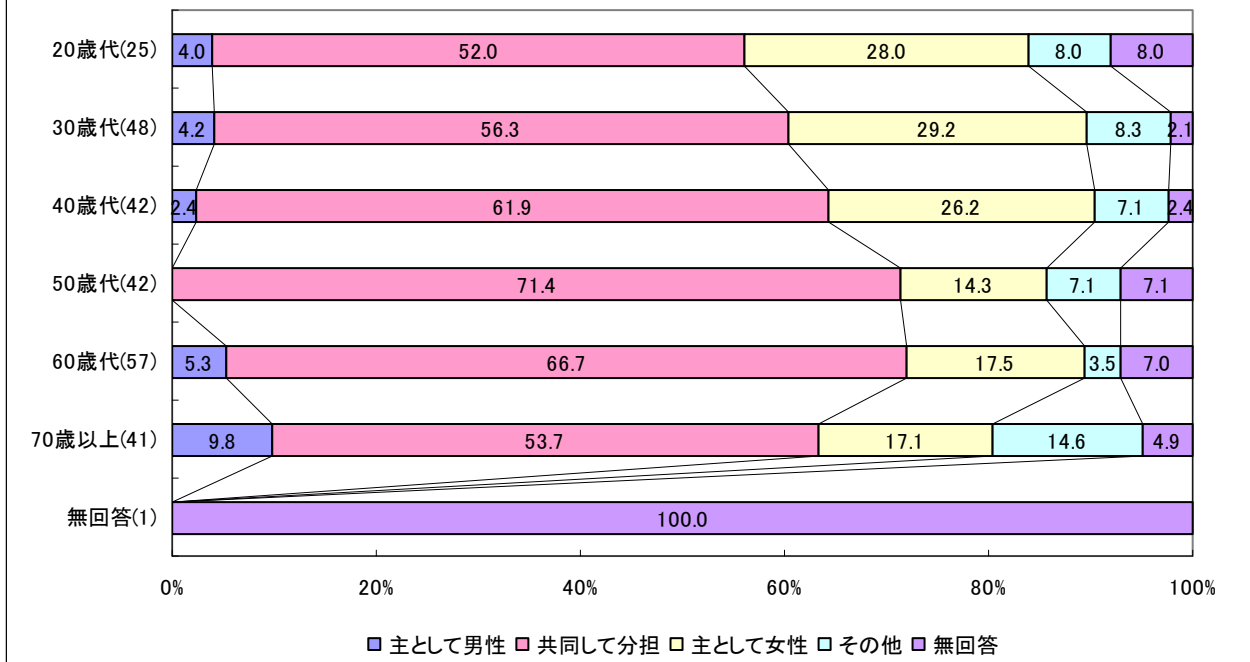




図6—5—3 自治会・PTA活動への参加(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(69.1%)となり、男性全体でも「共同して分担」(60.9%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、50歳代で「共同して分担」(82.6%)続いて30歳代で80.2%となります。

〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で、「共同して分担」が5割以上となります。

図6—6—1 生活費の確保(全体)

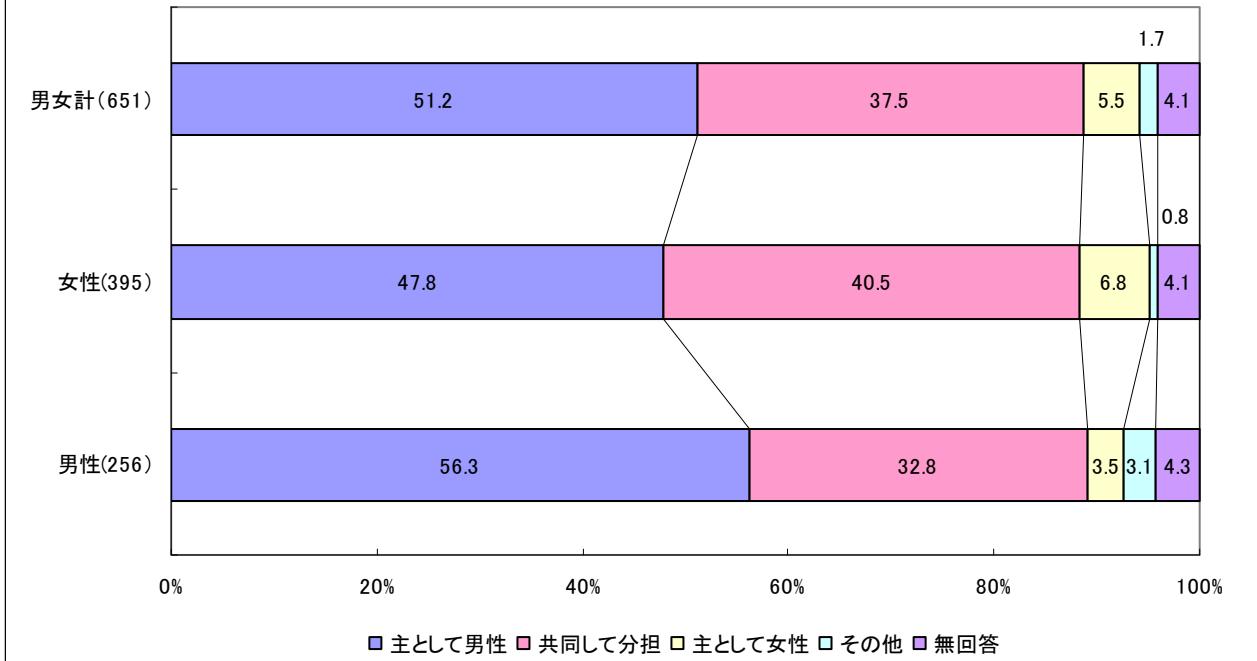


図6—6—2 生活費の確保(女性)

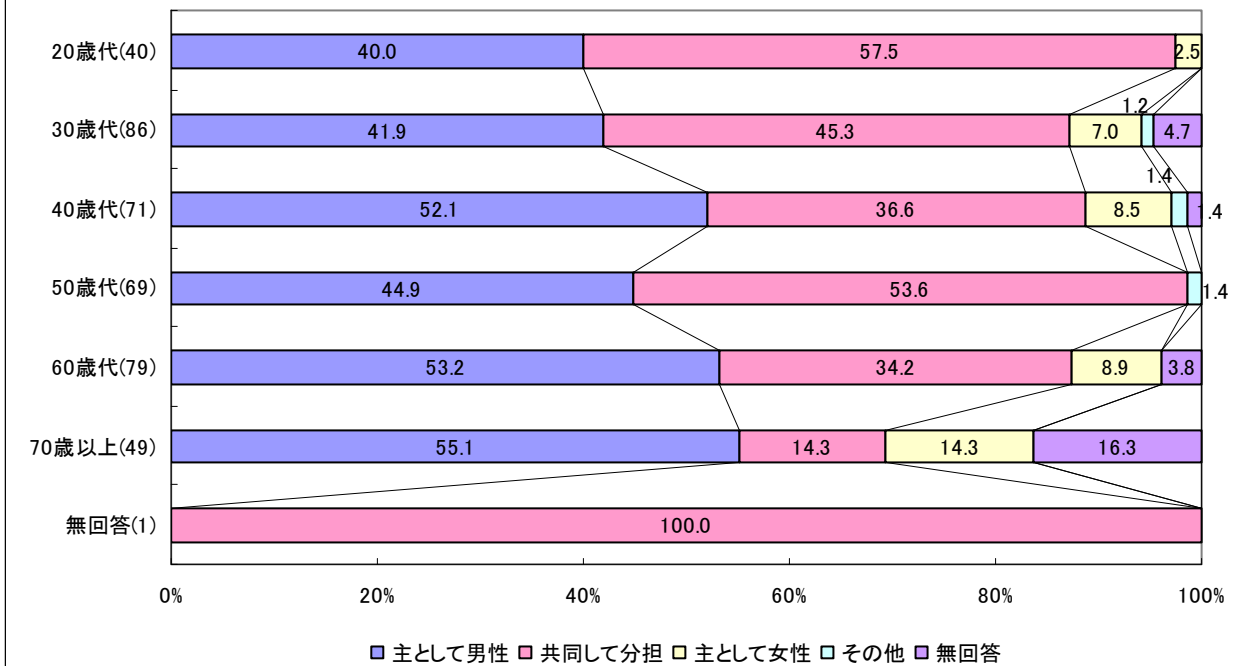
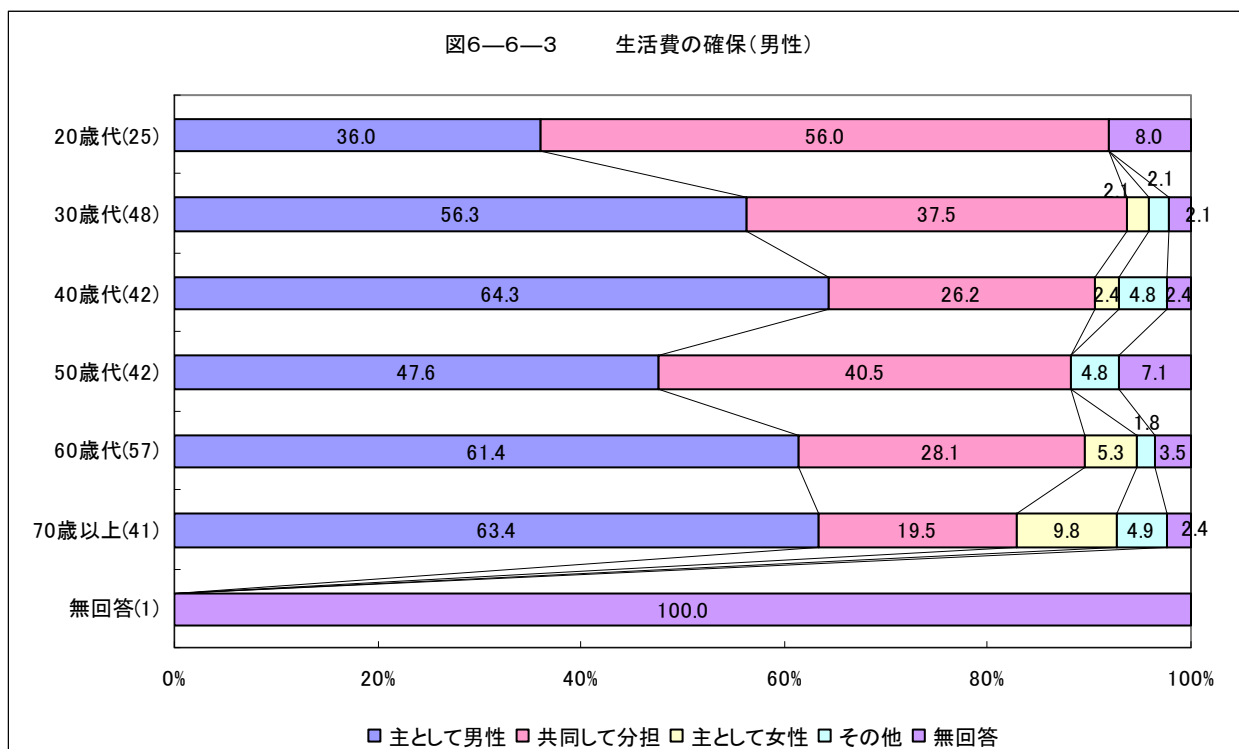


図6—6—3 生活費の確保(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(40.5%)となり、男性全体では「共同して分担」(32.8%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代、30歳代、50歳代で「共同して分担」が、「主として男性」より多い回答となっています。

〈男性の傾向〉

男性では、20歳代で「共同して分担」が、「主として男性」より多い回答となっていますが、他の世代では、「主として男性」が多い回答となっています。40歳代では、「主として男性」(64.3%)と「共同して分担」(26.2%)の差が38.1ポイントとなります。

図6—7—1 家計の管理(全体)

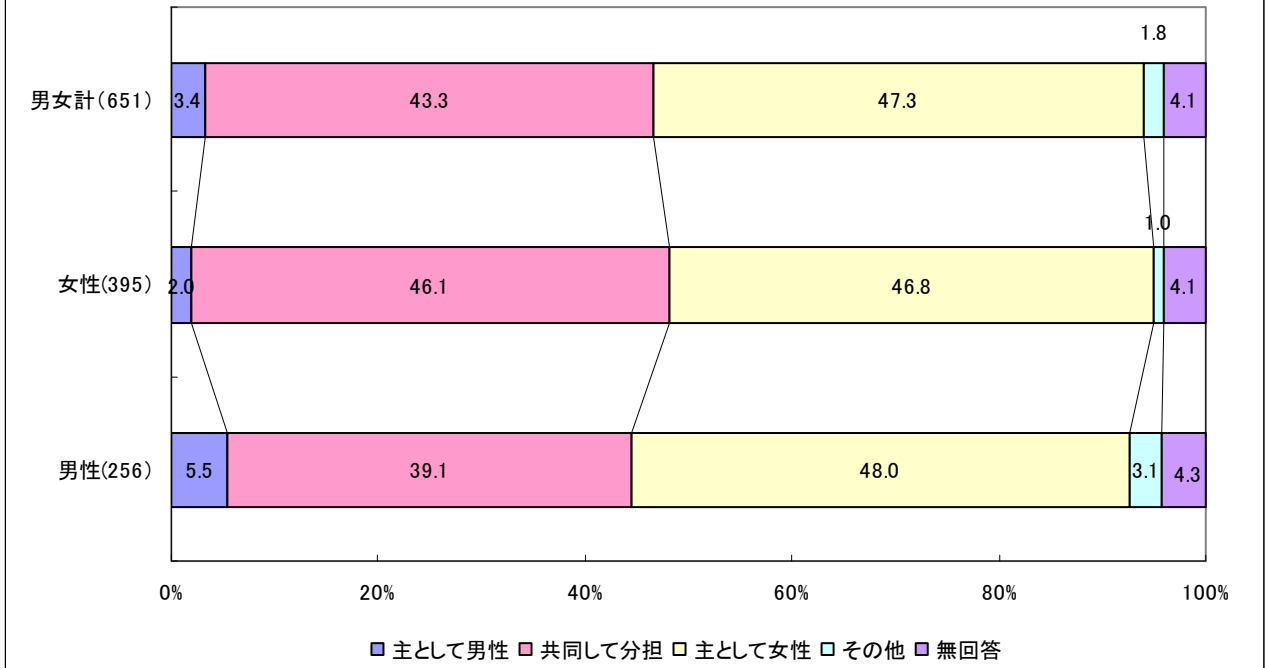


図6—7—2 家計の管理(女性)

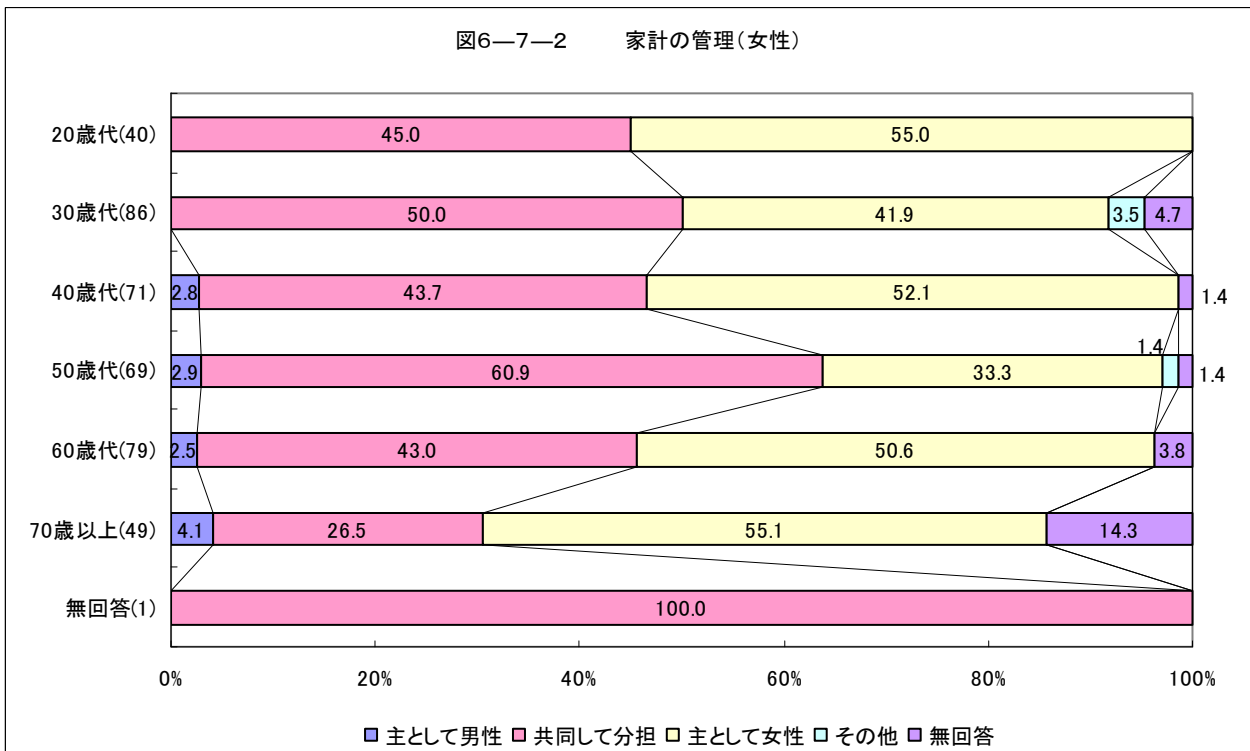
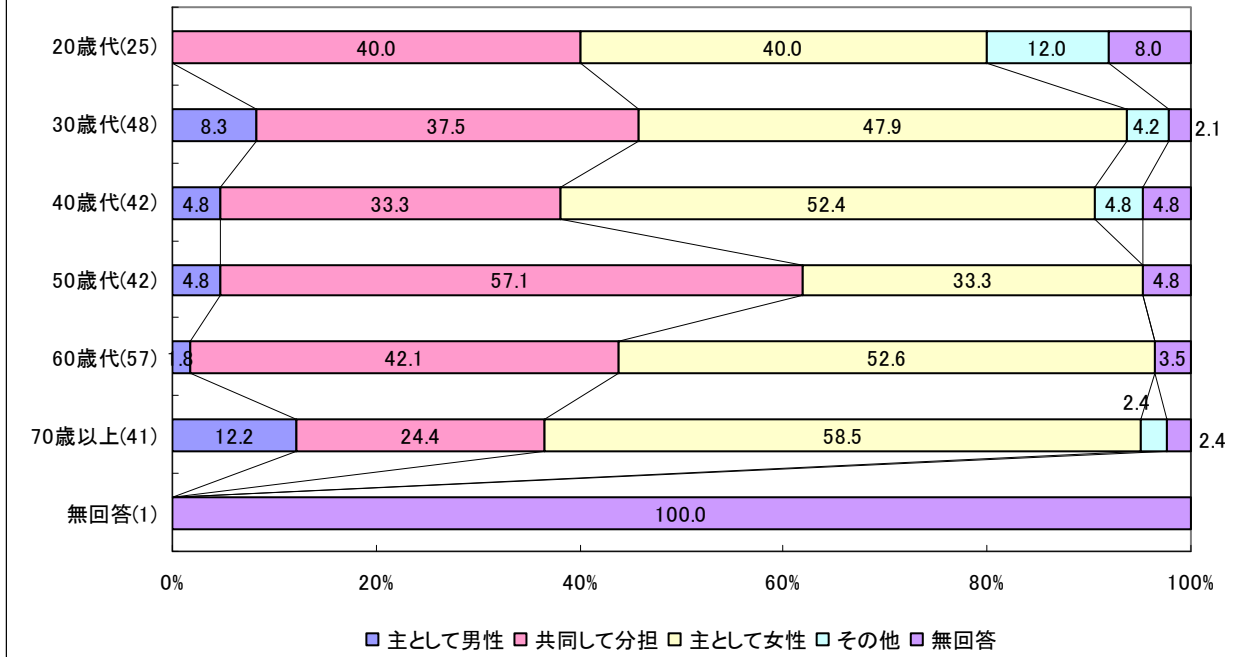


図6—7—3 家計の管理(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(46.1%)となり、男性全体では「共同して分担」(39.1%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、50歳代で「共同して分担」(60.9%)と「主として女性」(33.3%)の差が27.6ポイントとなります。20歳代、30歳代、40歳代、60歳代で「共同して分担」と「主として女性」の差が1割未満となります。

〈男性の傾向〉

男性でも50歳代で「共同して分担」(57.1%)と「主として女性」(33.3%)の差が23.8ポイントとなります。その他の世代で、「主として女性」が上回っています。

図6—8—1 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(全体)

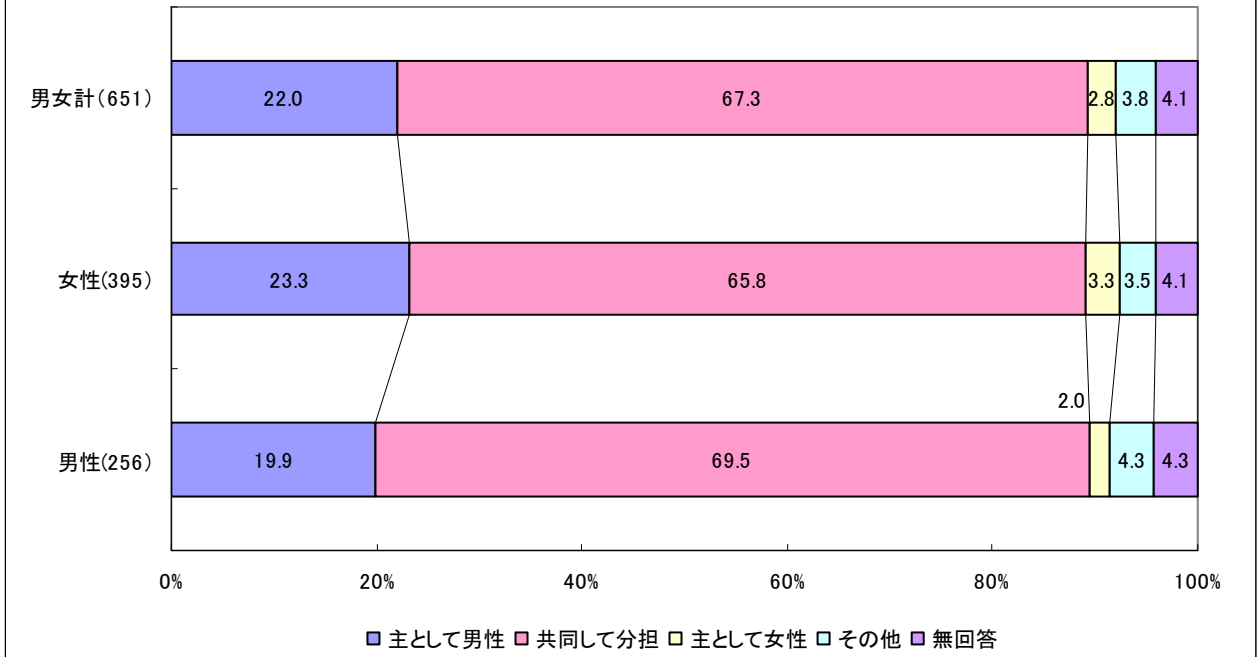


図6—8—2 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(女性)

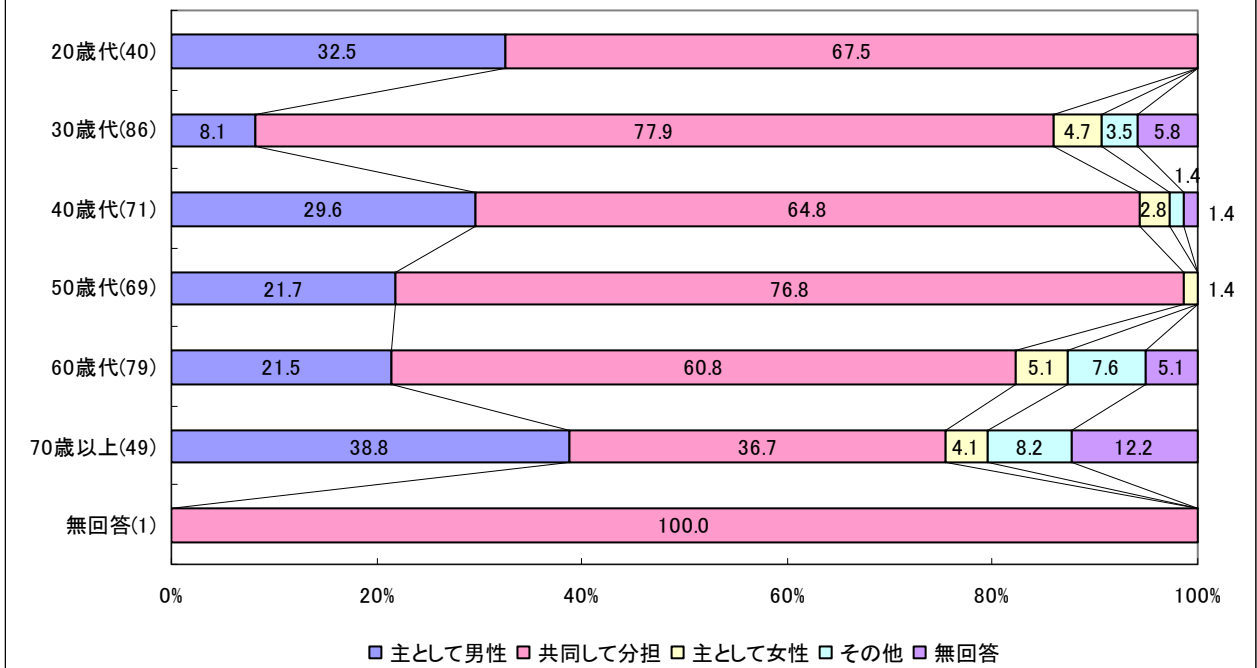
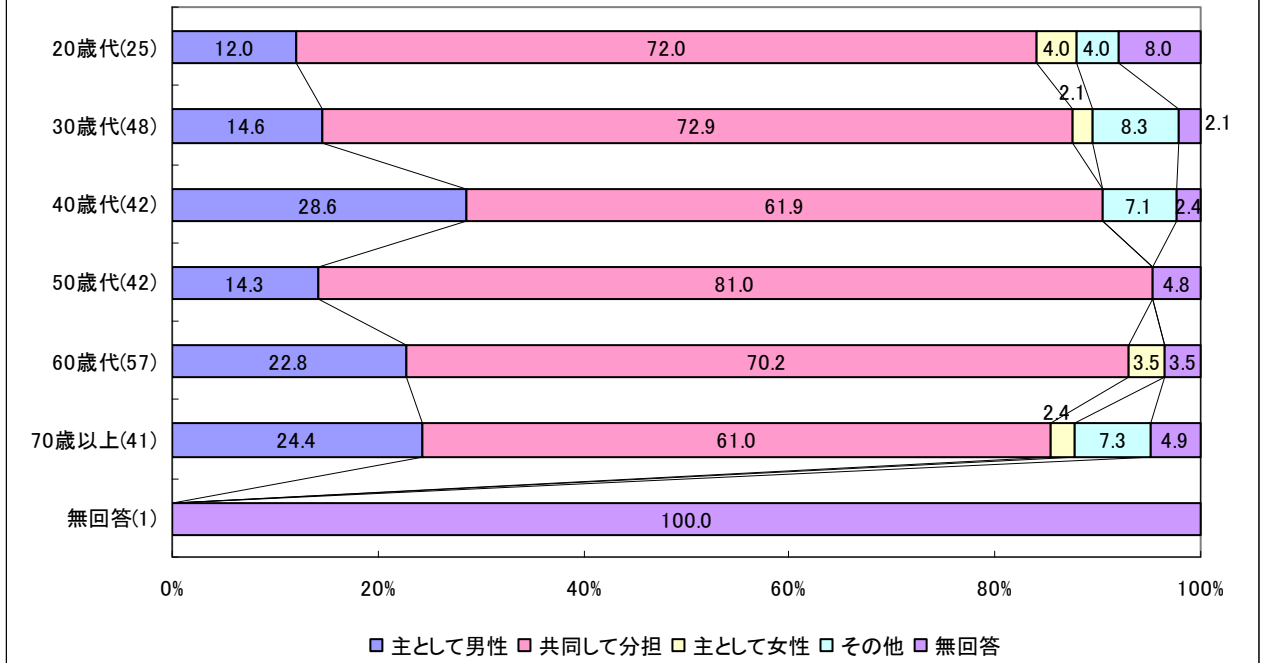


図6—8—3 高額な商品や土地・家屋の購入の決定(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「共同して分担」(65.8%)となり、男性全体では「共同して分担」(69.5%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、70歳以上を除いて、すべての世代で、「共同して分担」との回答が6割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で「共同して分担」との回答が6割を超えています。

### 3 人権について

#### 質問7 夫婦間での行為における暴力としての認識について

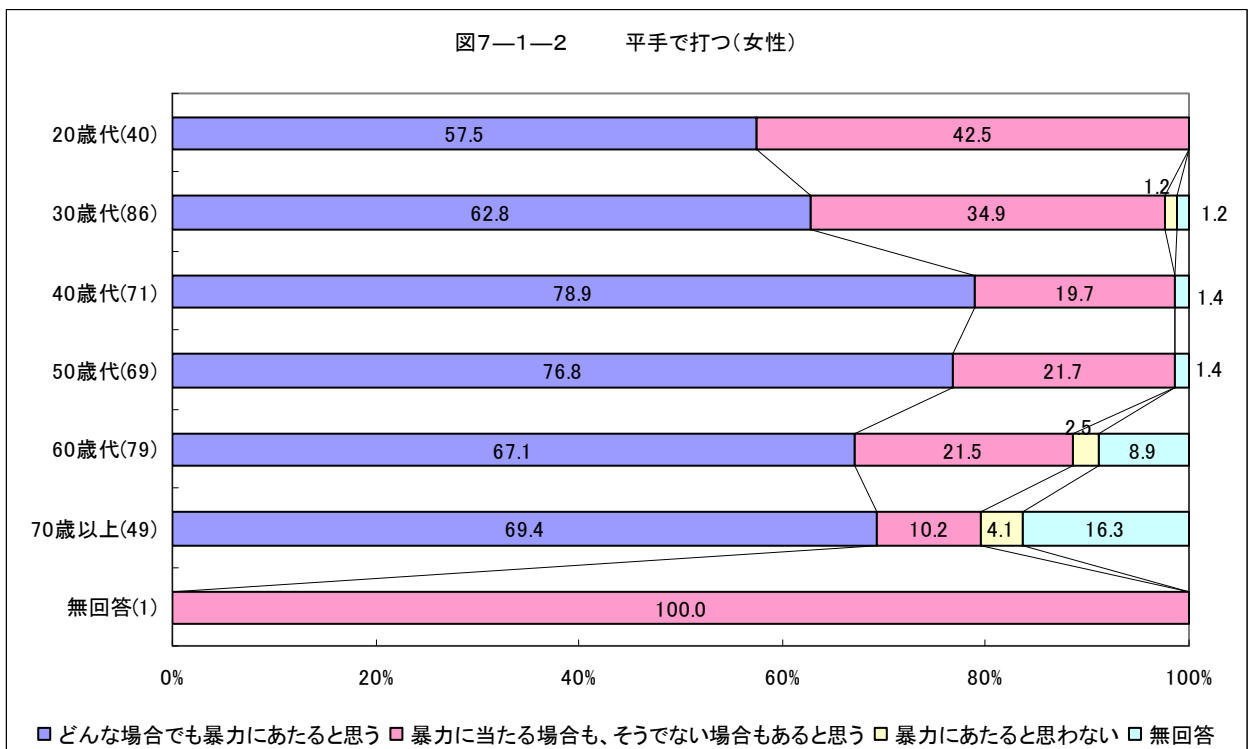
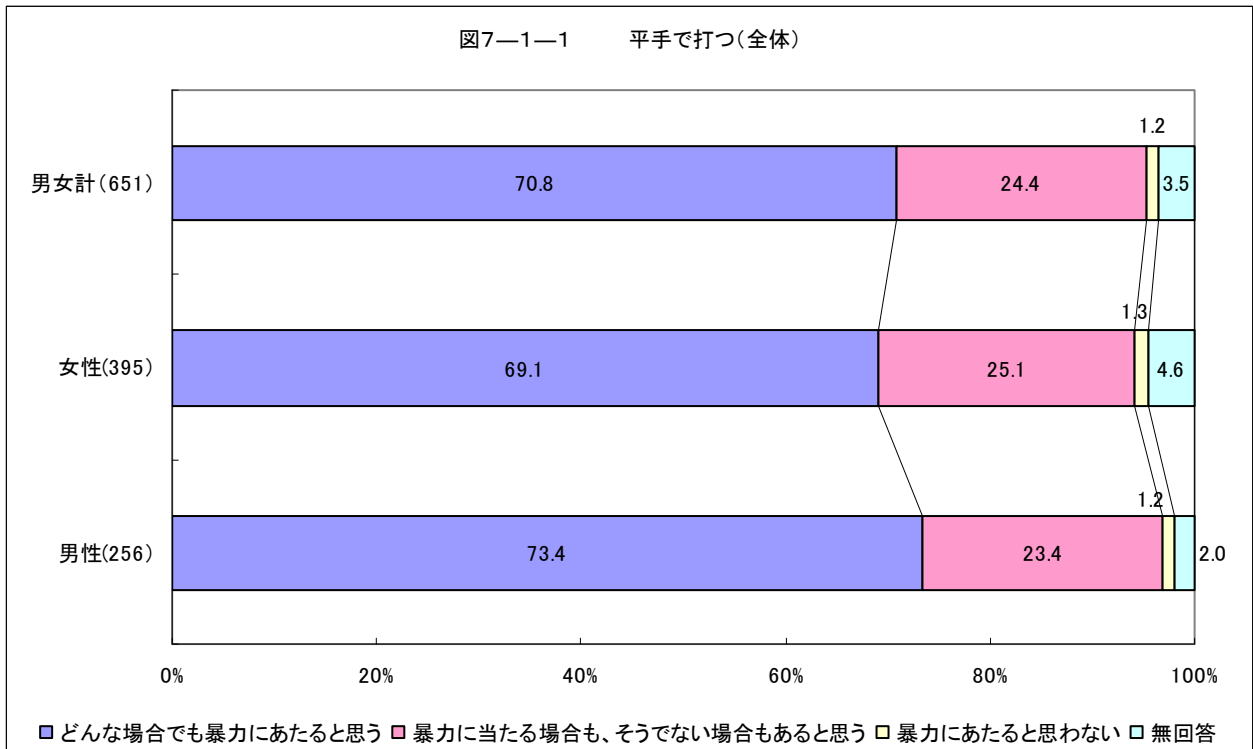
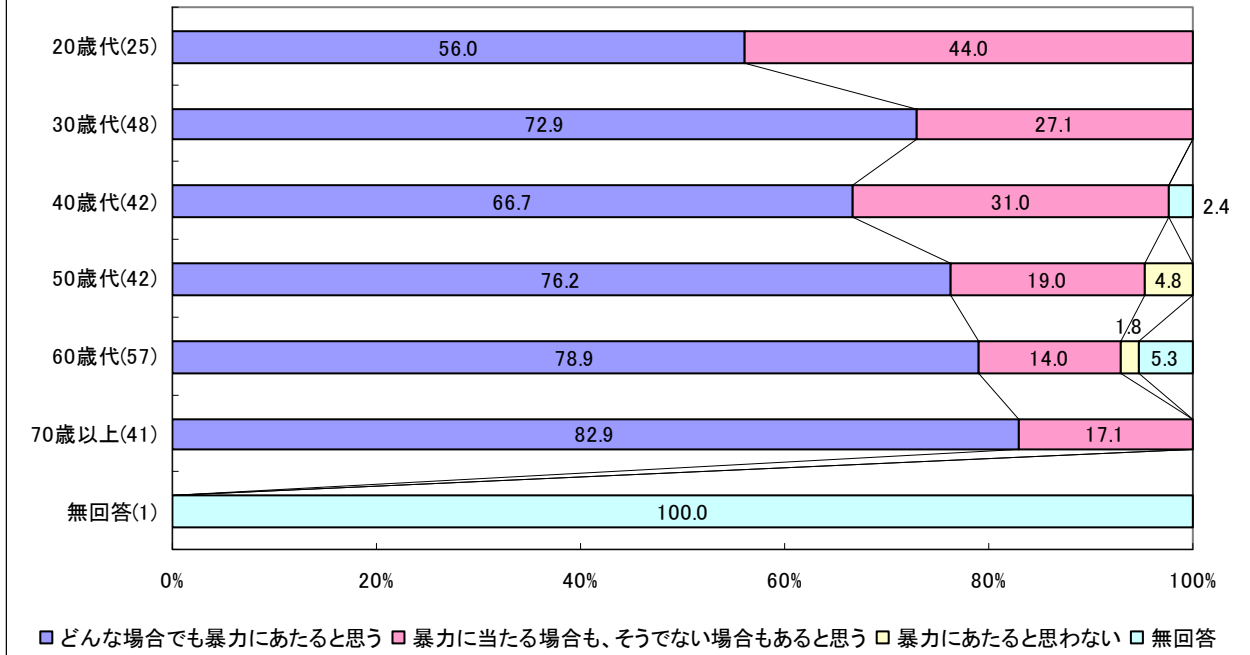




図7-1-3 平手で打つ(男性)



〈全体の傾向〉

夫婦間での行為における暴力としての認識について女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(69.1%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(73.4%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(57.5%)との回答ですが、その他の世代では、6割を超えています。20歳代で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(42.5%)になります。

〈男性の傾向〉

男性においても、20歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(56.0%)との回答ですが、その他の世代では、6割を超えています。20歳代で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(44.0%)になります。

図7-2-1 足でける(全体)

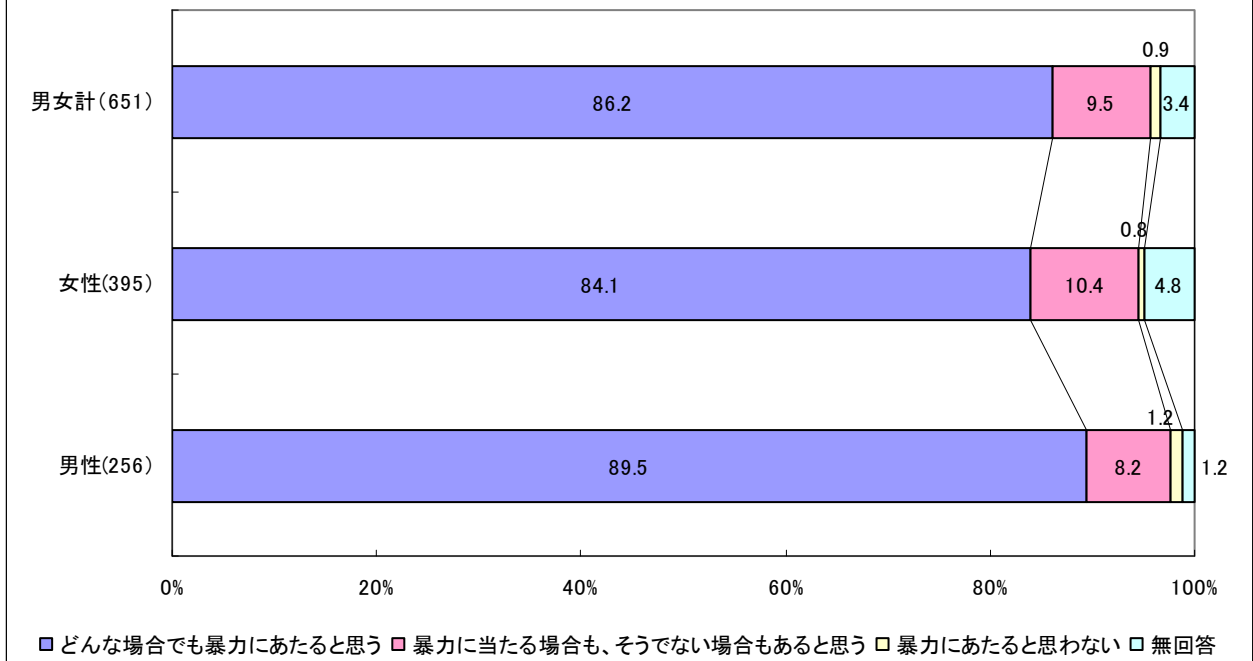


図7-2-2 足でける(女性)

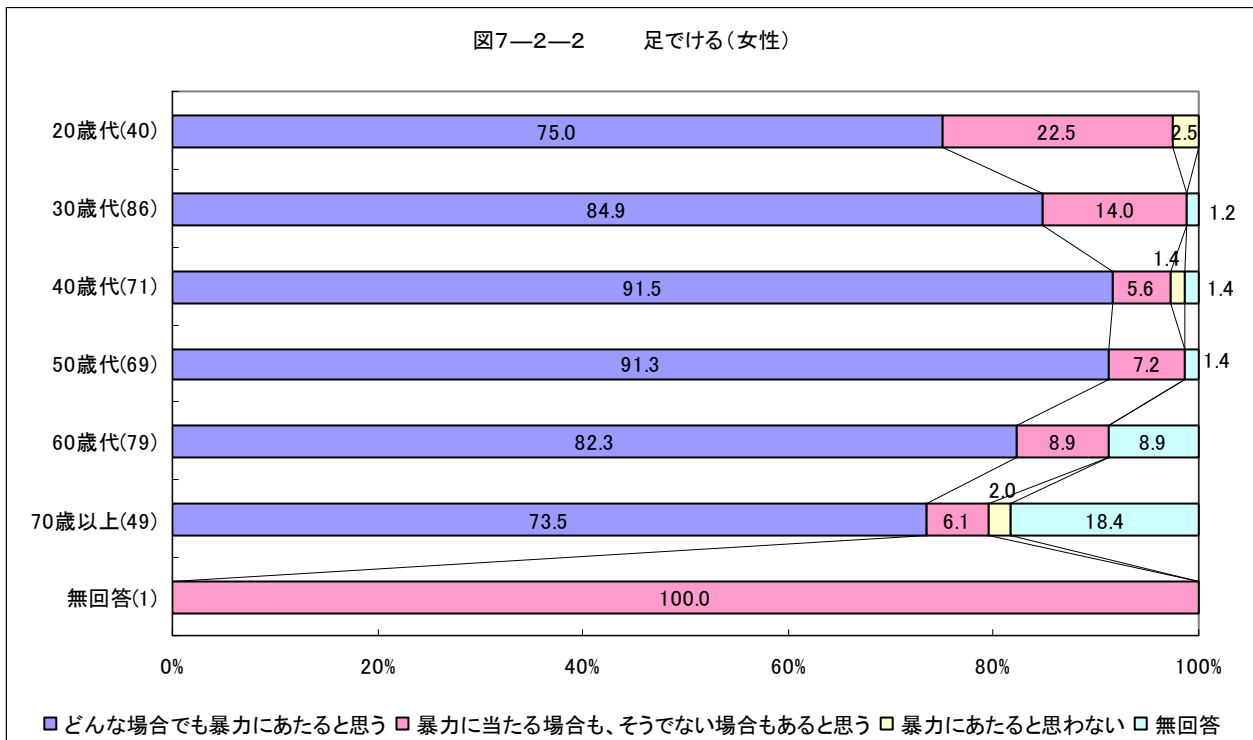
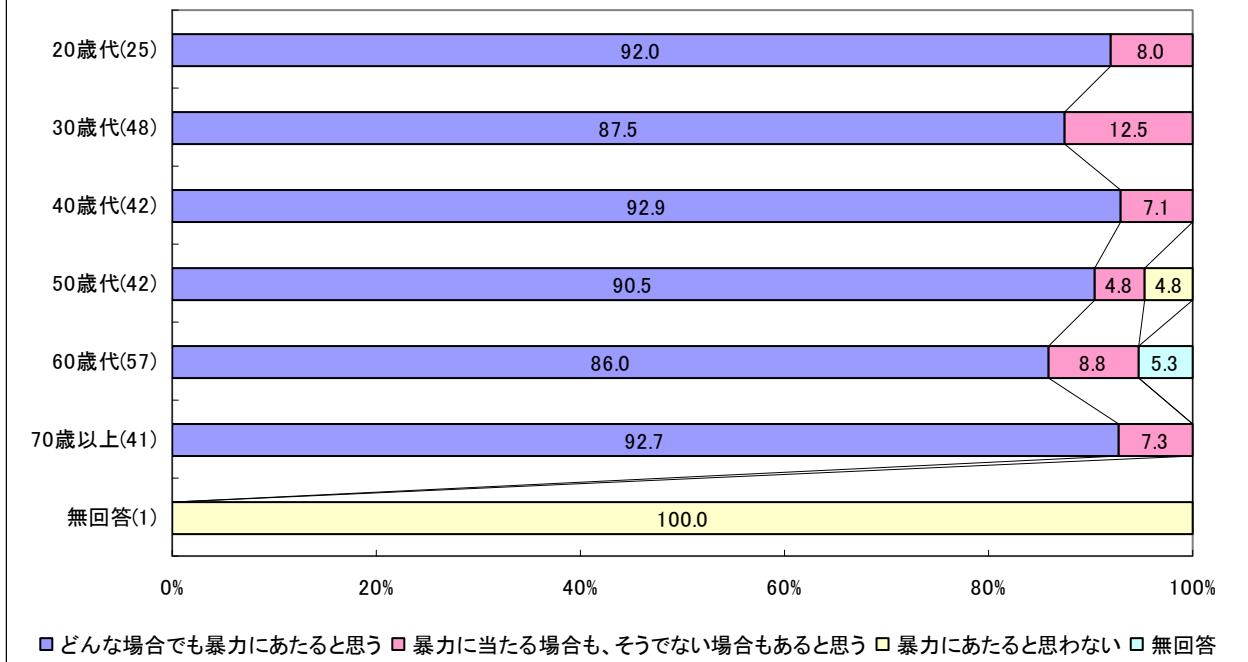


図7—2—3 足でける(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(84.1%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(89.5%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が7割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が、8割半ばを超えています。

図7—3—1 身体を傷つける可能性のあるものでなく(全体)

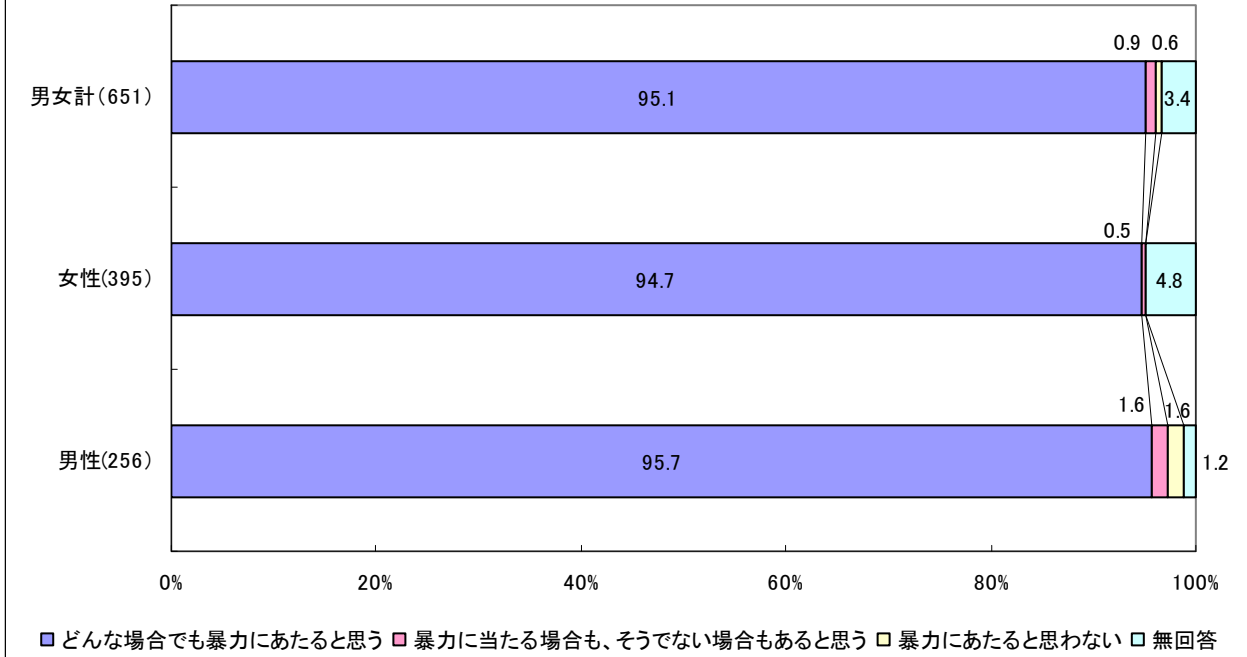
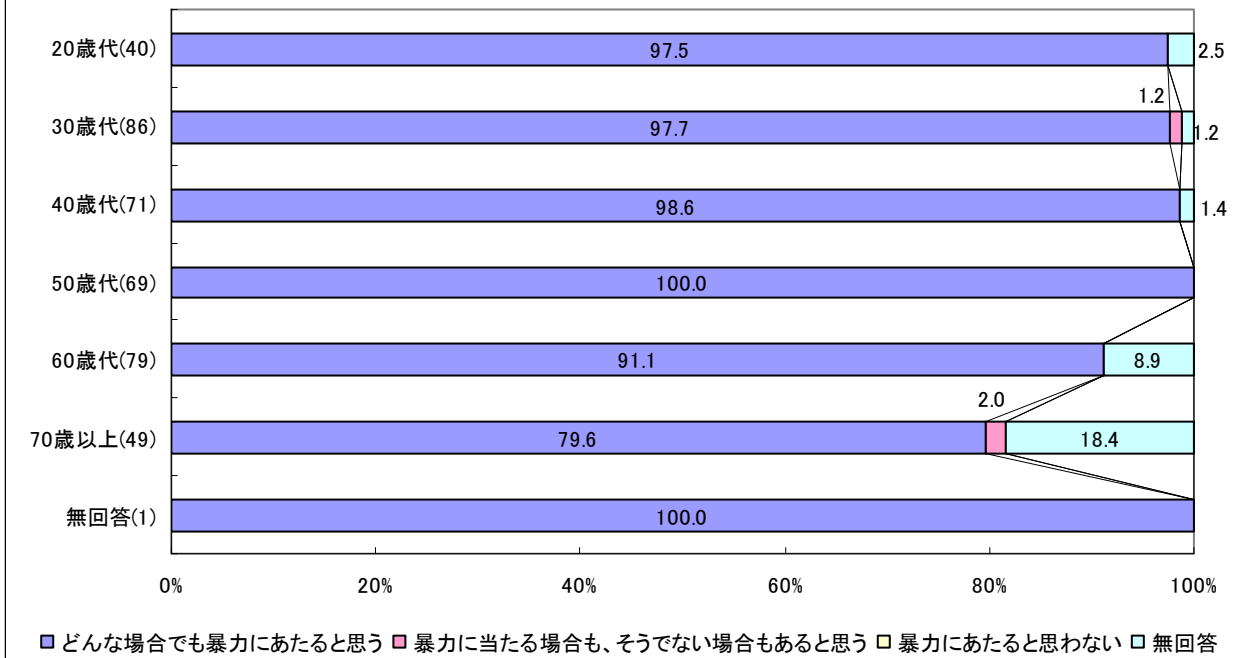
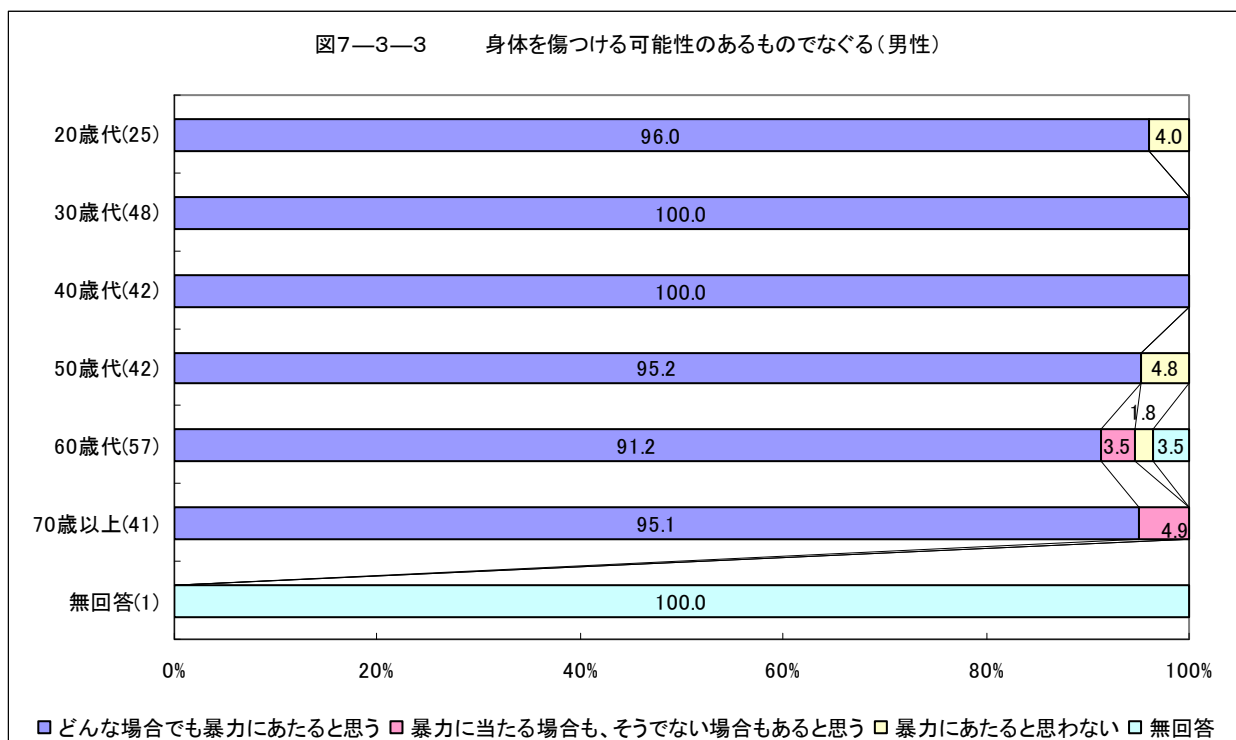


図7—3—2 身体を傷つける可能性のあるものでなく(女性)





#### <全体の傾向>

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(94.7%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(95.7%)となります。

#### <女性の傾向>

女性では、70歳以上の世代を除いた各世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が9割を超えています。

#### <男性の傾向>

男性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が、9割を超えています。

図7-4-1 なぐるふりをして、おどす(全体)

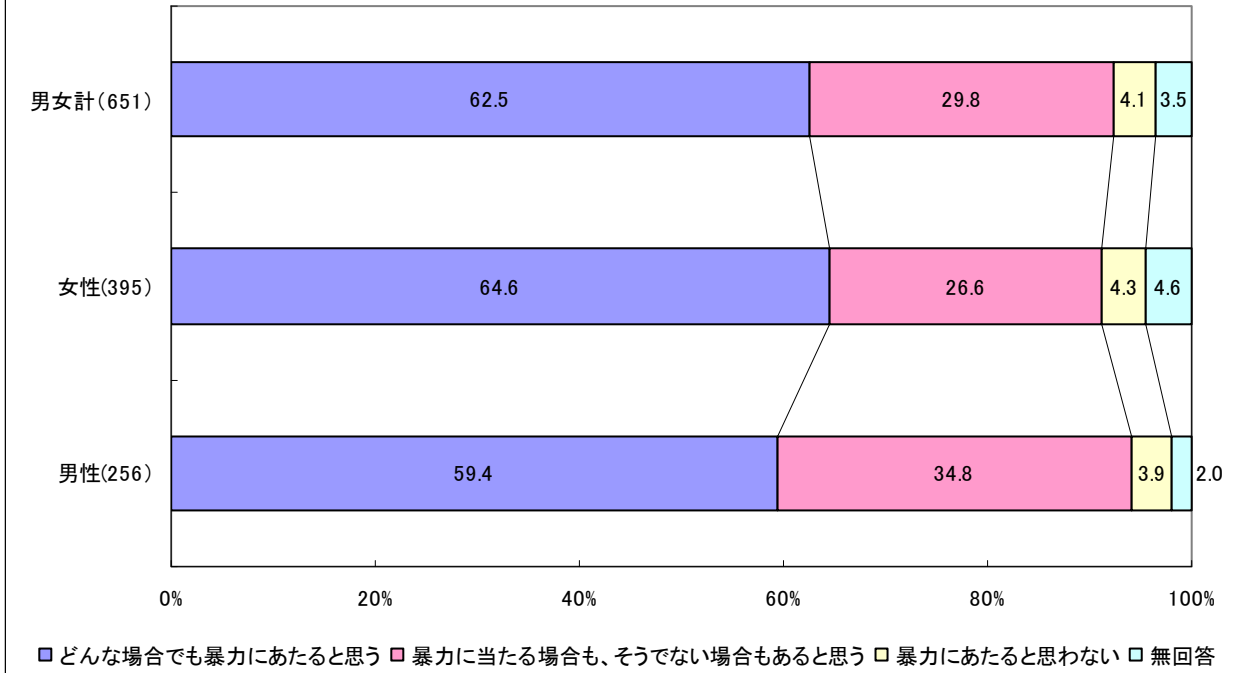


図7-4-2 なぐるふりをして、おどす(女性)

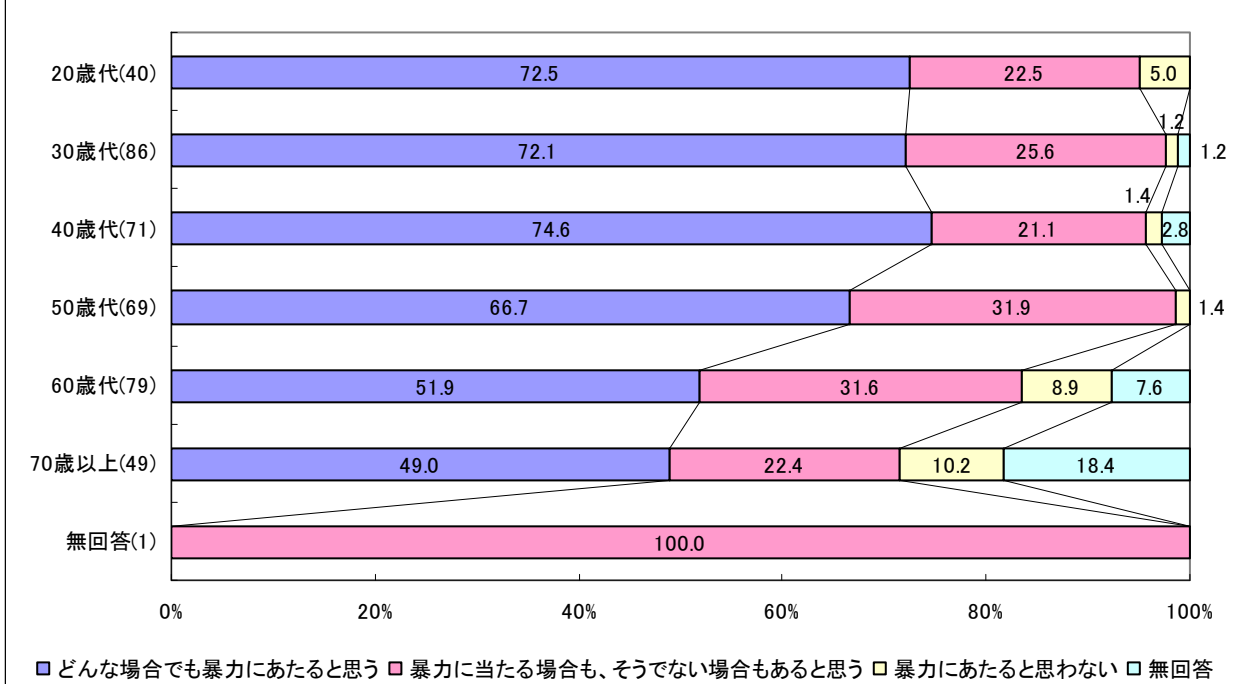
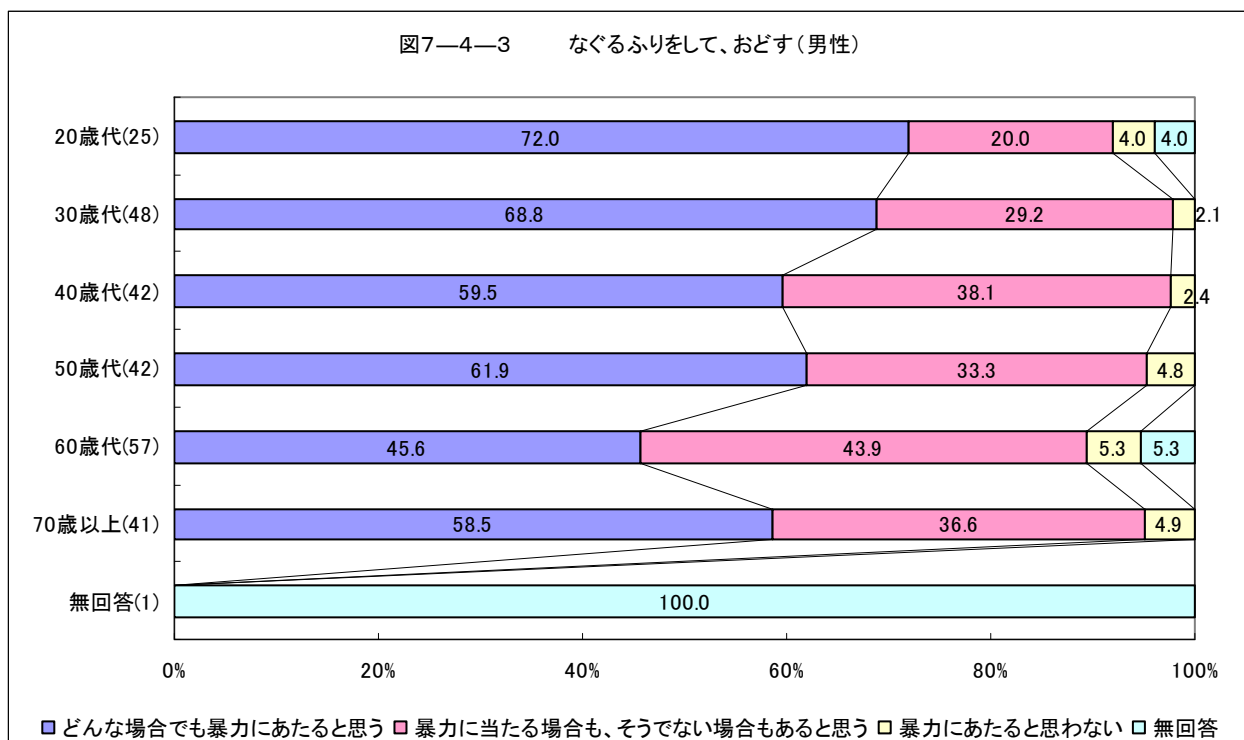


図7—4—3 なぐるふりをして、おどす(男性)



＜全体の傾向＞

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(64.6%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(59.4%)となり、男女計でも、3人に1人は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答となります。

＜女性の傾向＞

女性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答がほぼ5割を超えていますが、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答も50歳代、60歳代で3人に1人は回答しています。

＜男性の傾向＞

男性では、60歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(45.6%)、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(43.9%)とほぼ同数に近い回答となります。

図7—5—1 刃物などを突きつけて、おどす(全体)

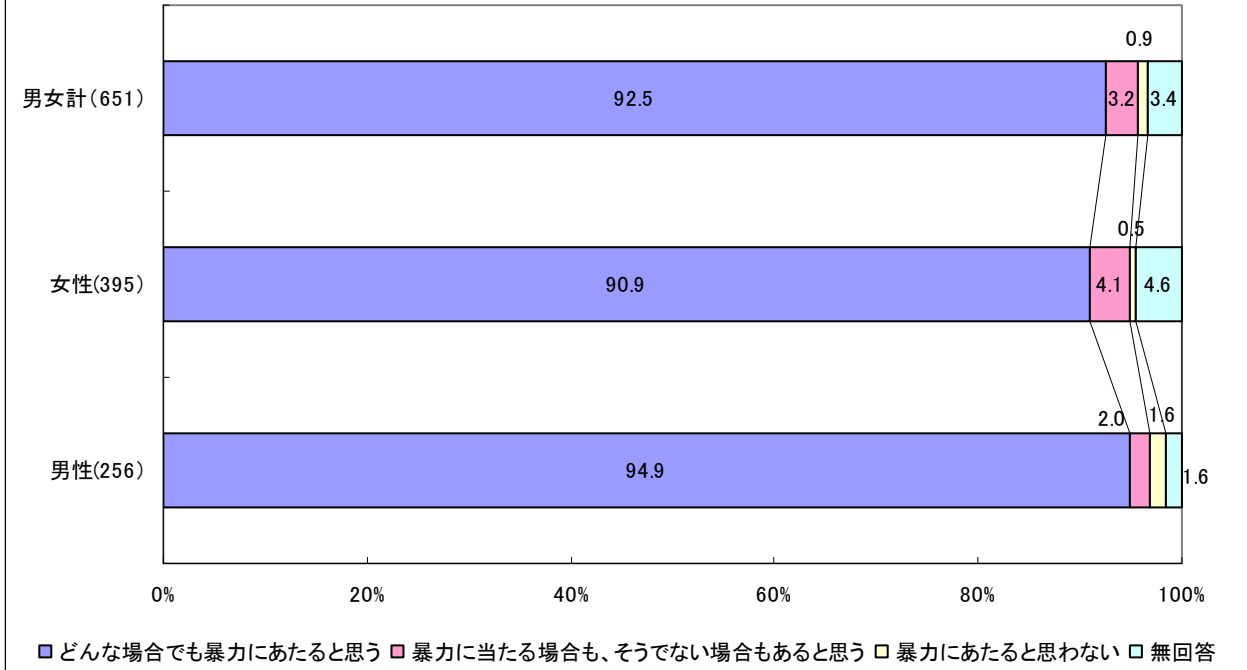


図7—5—2 刃物などを突きつけて、おどす(女性)

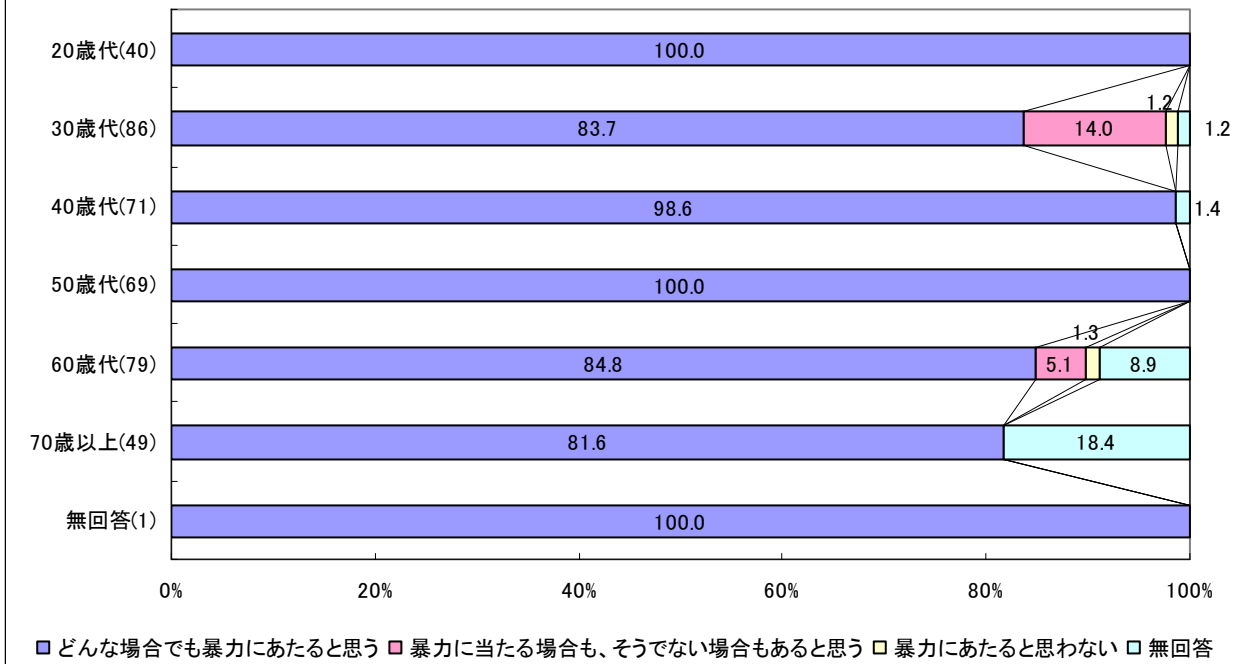
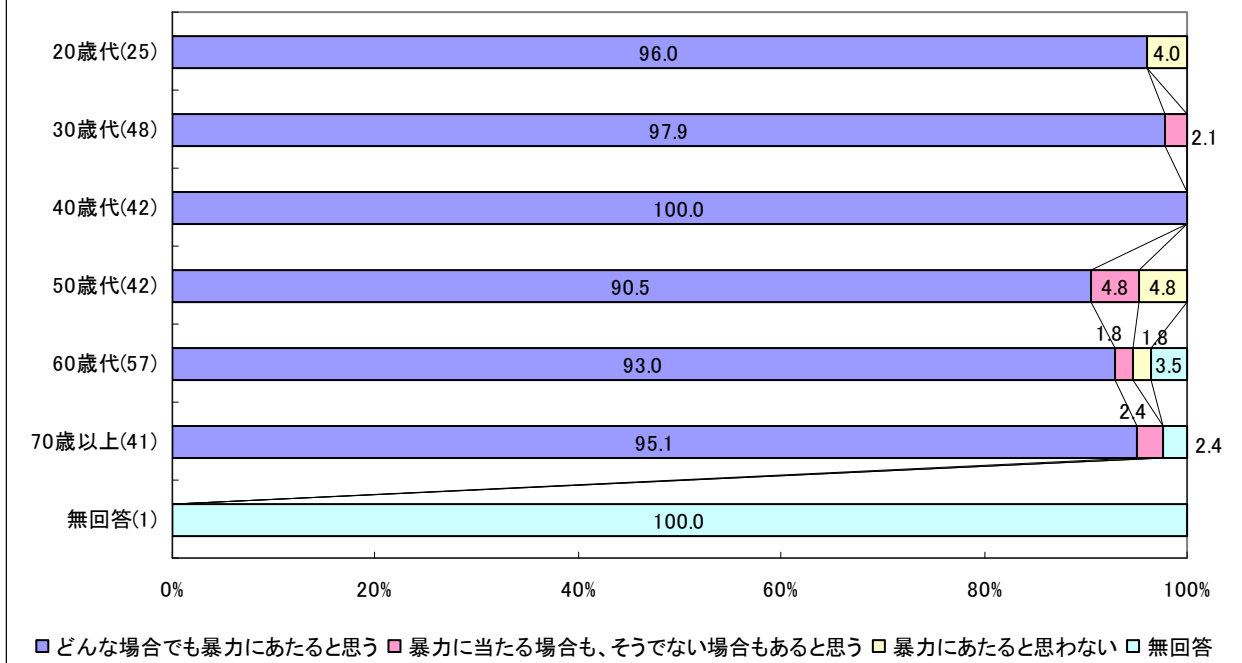




図7—5—3 刃物などを突きつけて、おどす(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(90.9%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(94.9%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、30歳代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(14.0%)との回答があるものの、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が、8割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が、9割を超えています。

図7—6—1 いやがっているのに性的な行為を強要する(全体)

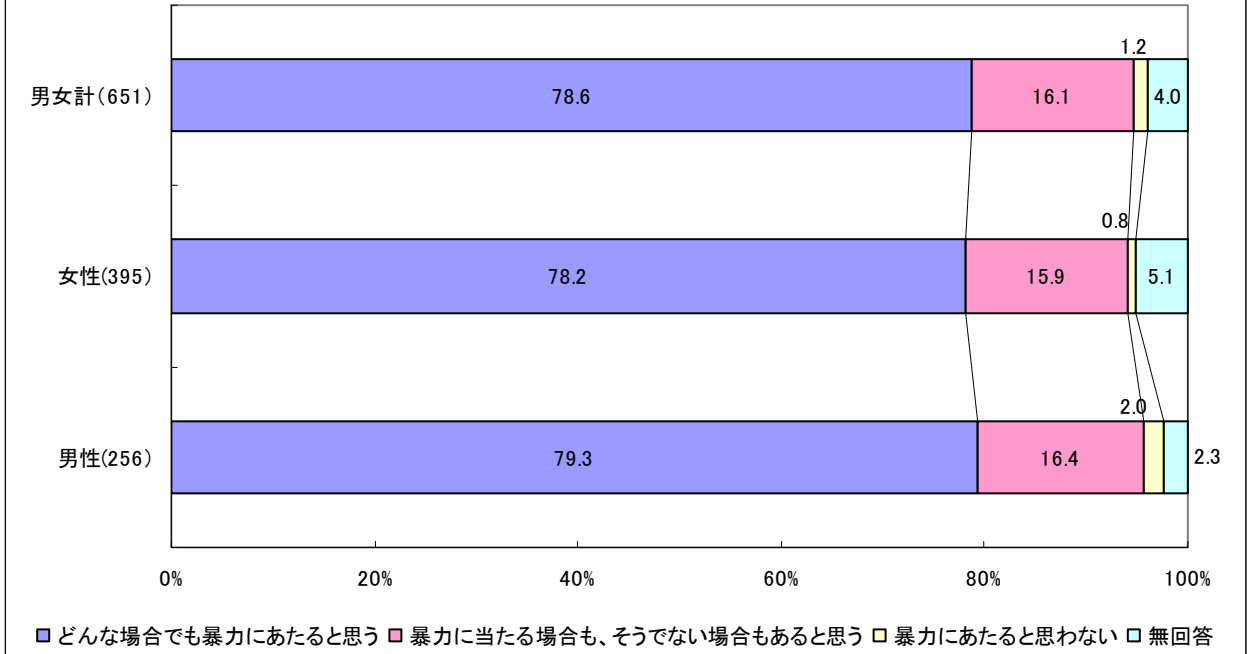


図7—6—2 いやがっているのに性的な行為を強要する(女性)

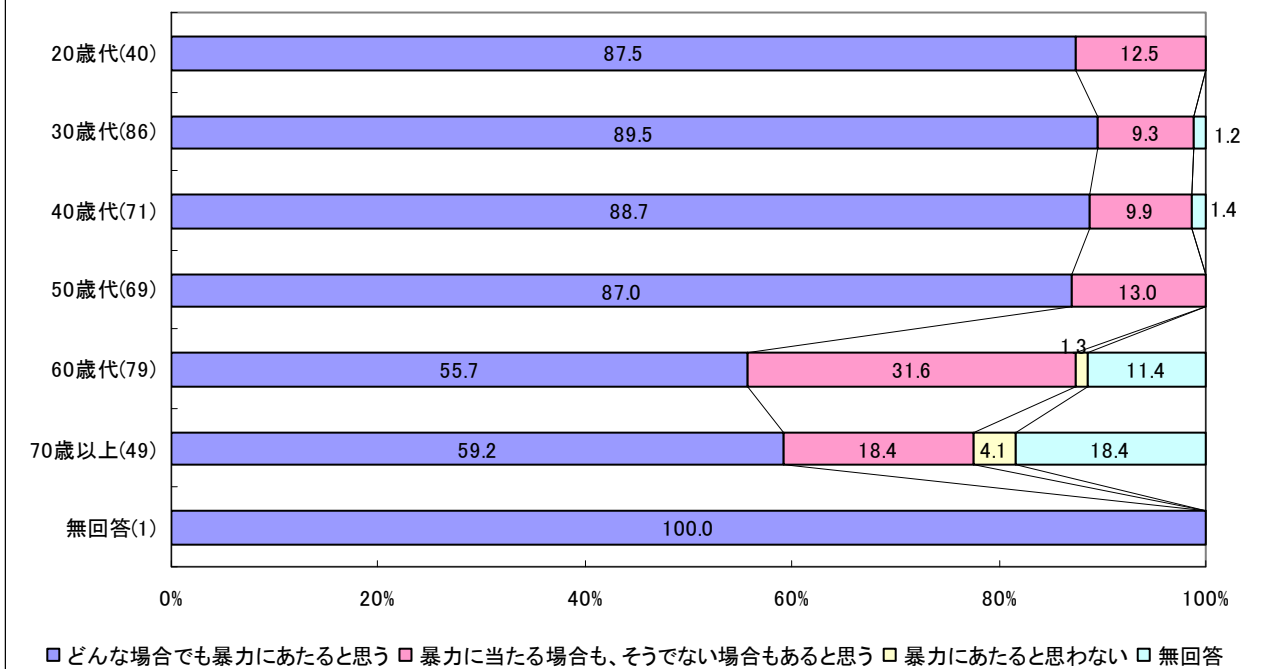
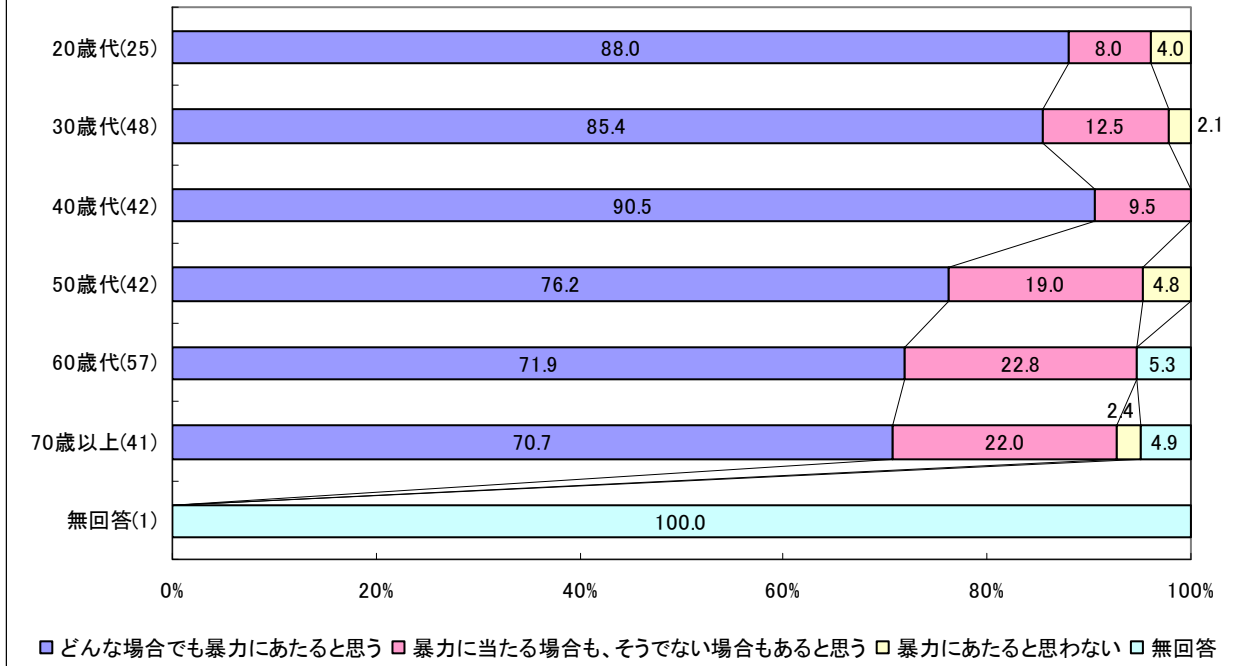


図7—6—3 いやがっているのに性的な行為を強要する(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(78.2%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(79.3%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代より50歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が8割半ばを超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が9割を超えており、その他すべての世代でも7割を超えています。特に、20歳代、30歳代、40歳代と若い世代で8割半ばを超えています。

図7-7-1 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる(全体)

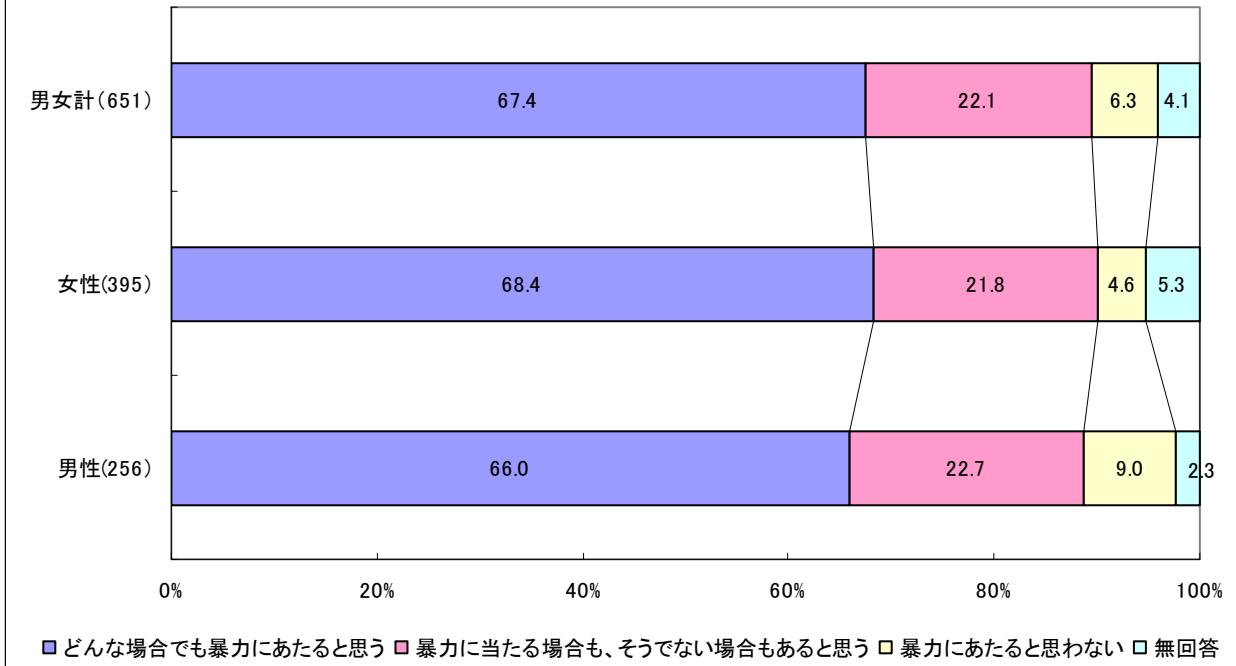


図7-7-2 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる(女性)

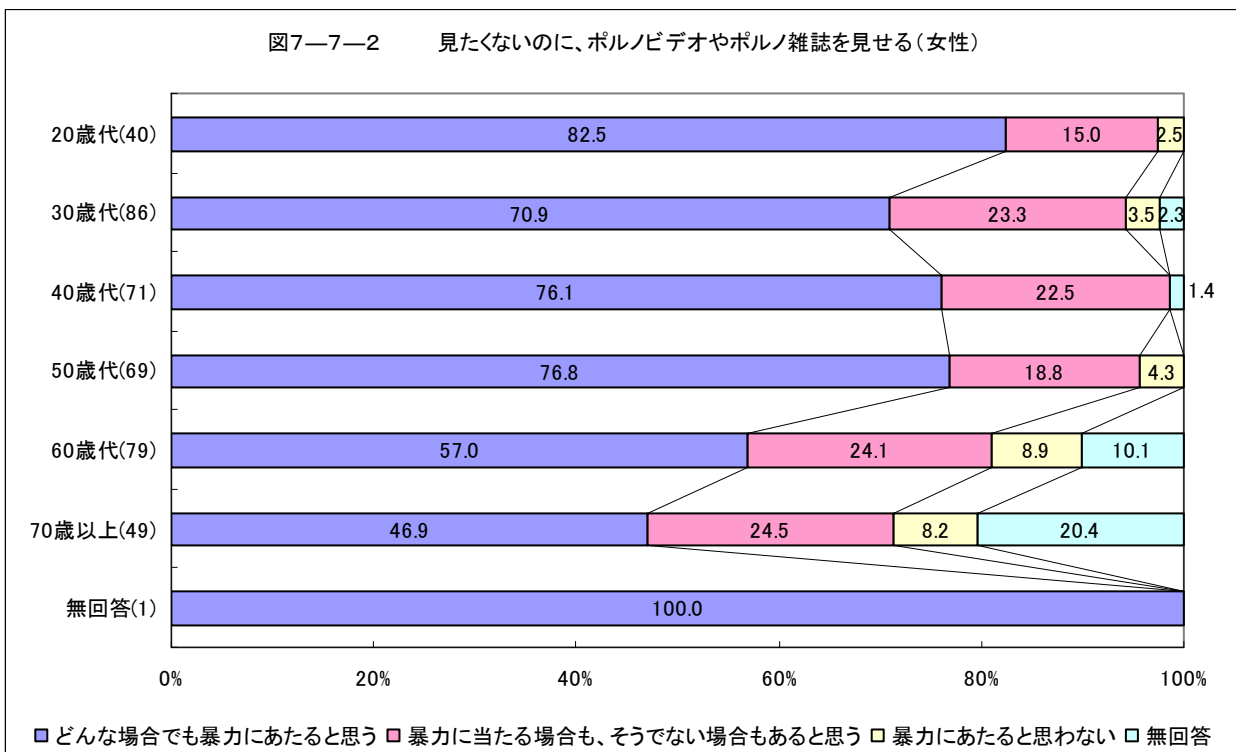
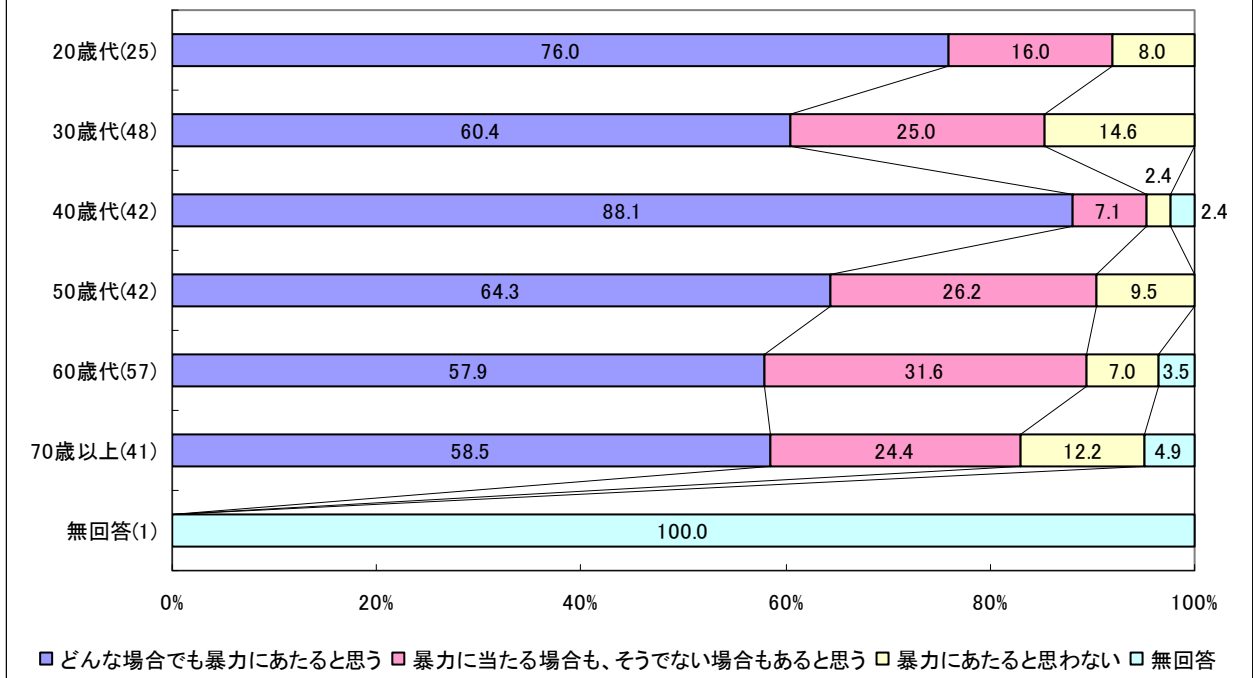


図7-7-3 見たくないのに、ポルノビデオをやポルノ雑誌を見せる(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(68.4%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(66.0%)となります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代より50歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が7割を超えています。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(88.1%)と9割近くの回答があります。その他、20歳代、30歳代、50歳代においても「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が6割を超えています。60歳代で3人に1人が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答をしています。

図7—8—1 何を言っても長時間無視し続ける(全体)

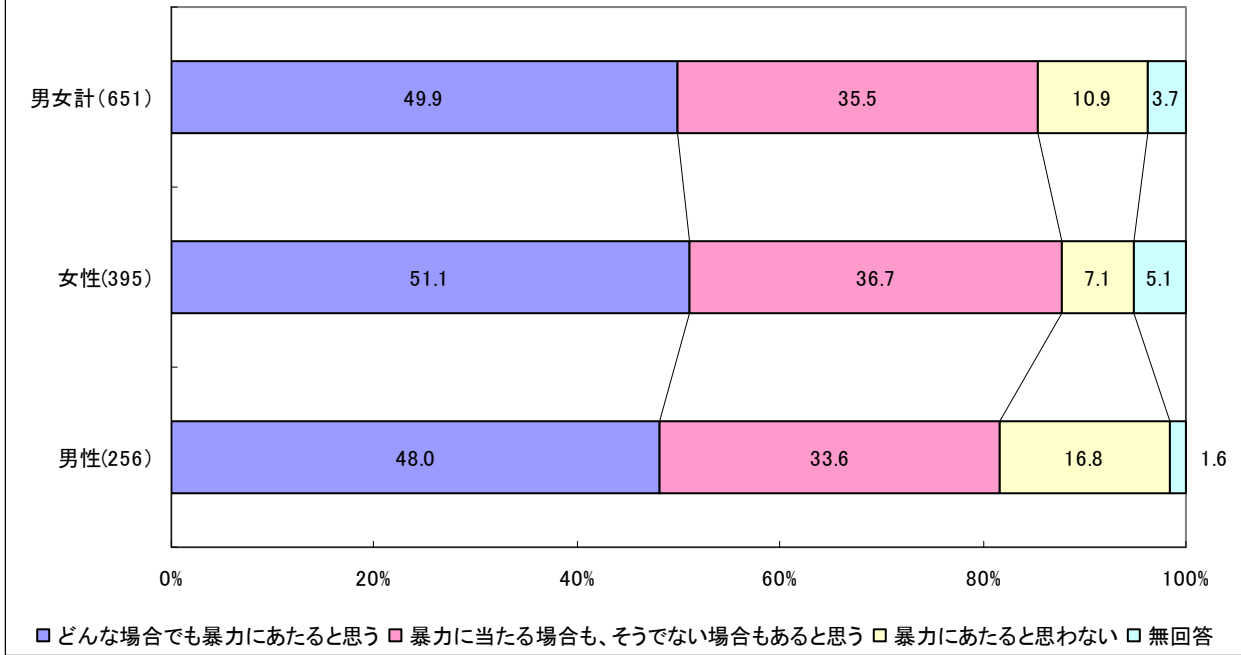


図7—8—2 何を言っても長時間無視し続ける(女性)

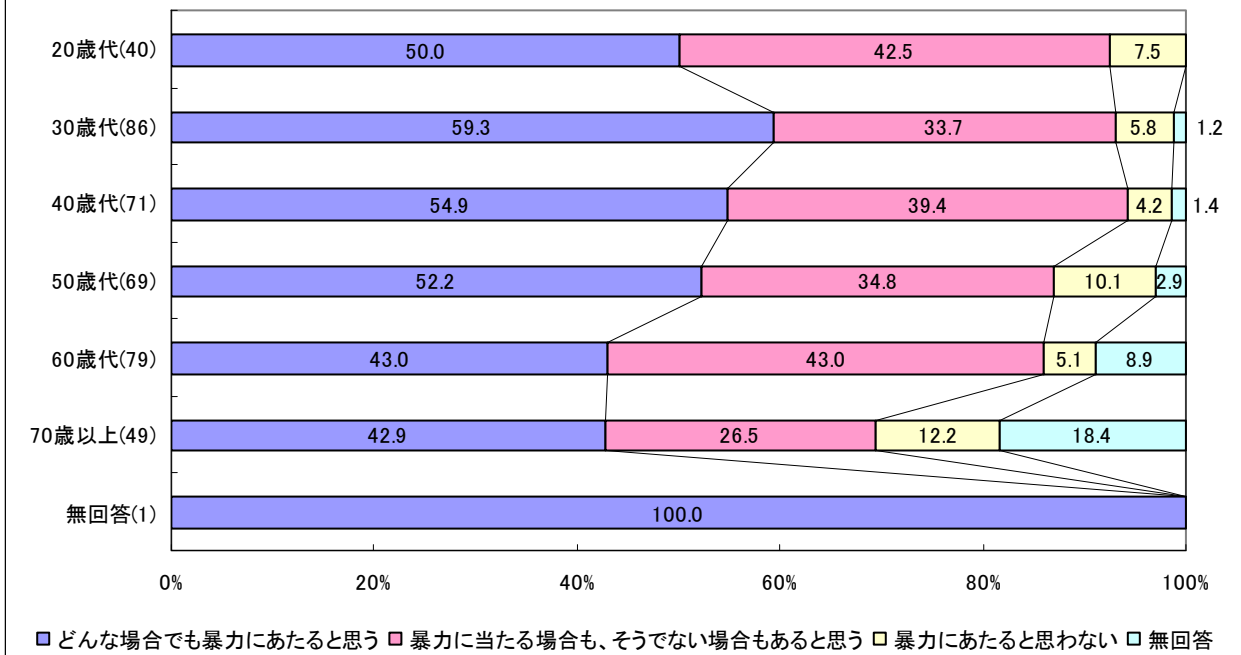
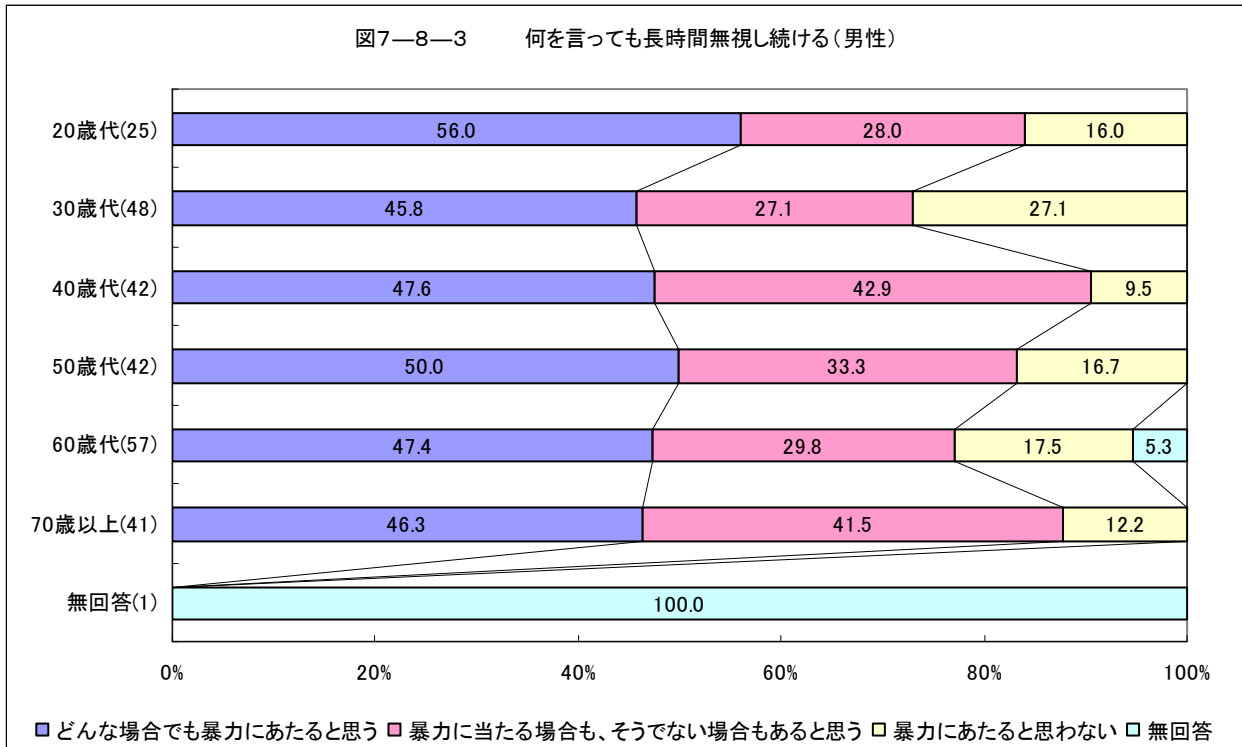


図7—8—3 何を言っても長時間無視し続ける(男性)



＜全体の傾向＞

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(51.1%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(48.0%)となります。

女性全体、男性全体共に、3人に1人が「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答をしています。

＜女性の傾向＞

女性では、60歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答が同数となっています。

＜男性の傾向＞

男性では、40歳代と70歳以上で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答が4割を超えています。

図7—9—1 交友関係や電話を細かく監視する(全体)

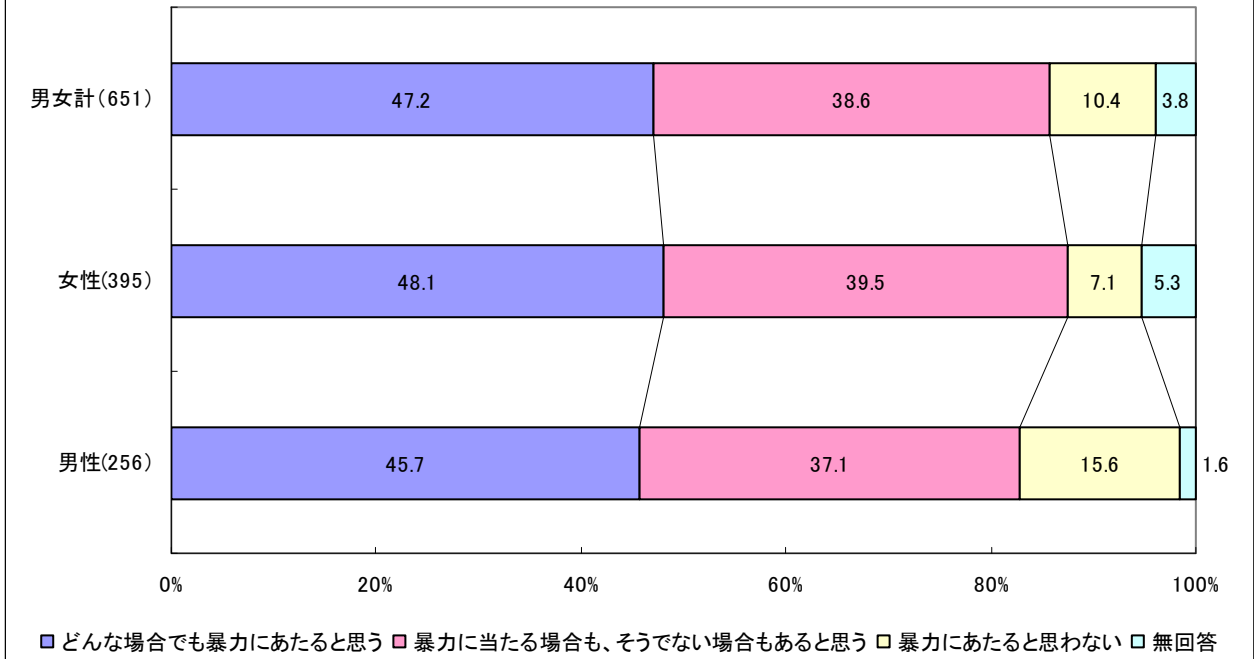


図7—9—2 交友関係や電話を細かく監視する(女性)

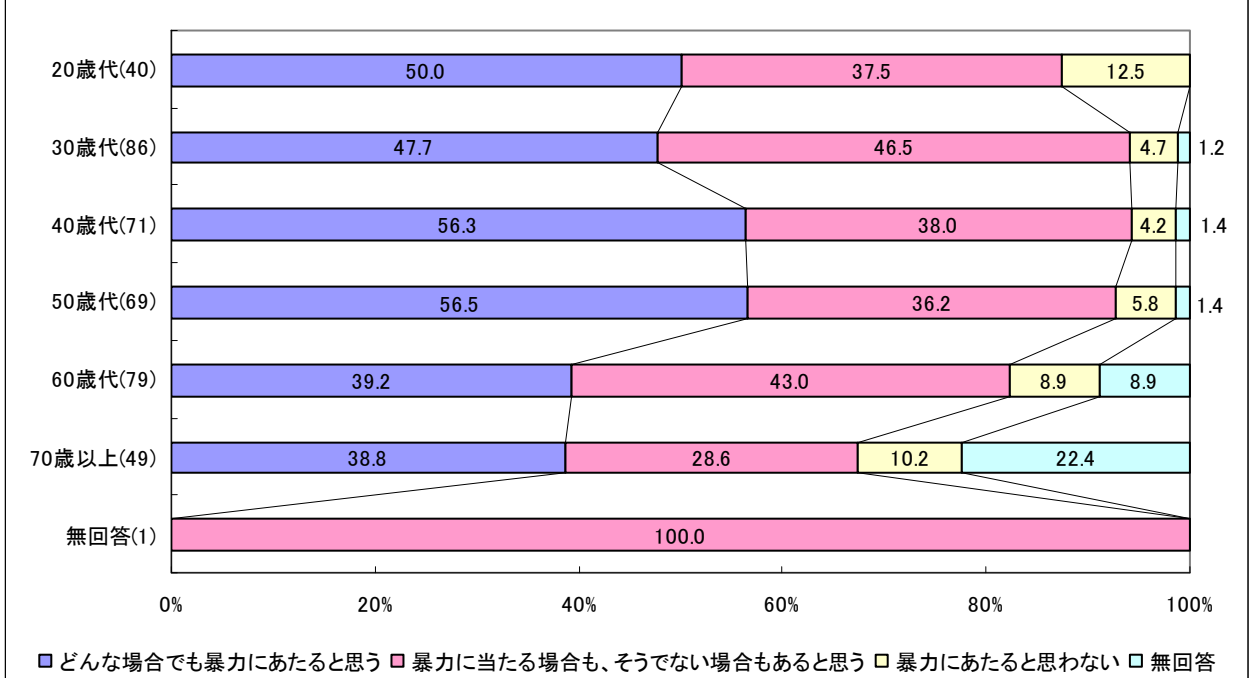
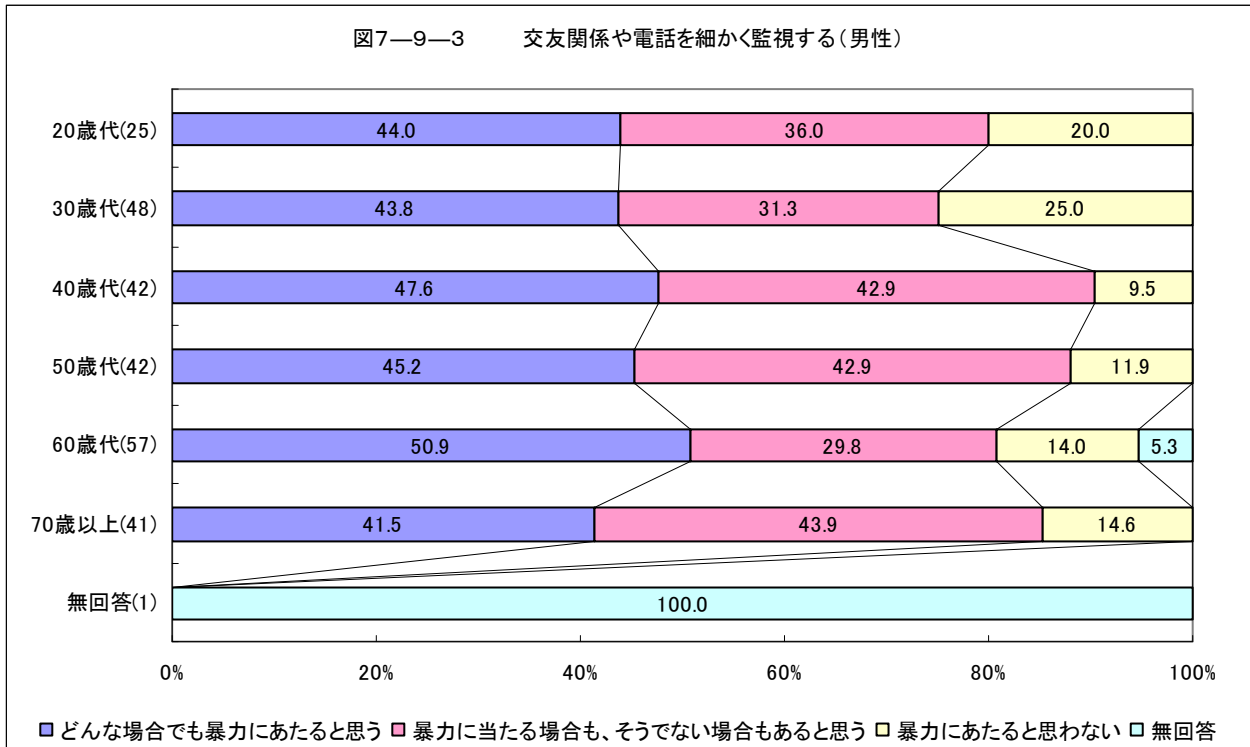




図7-9-3 交友関係や電話を細かく監視する(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(48.1%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(45.7%)となります。

「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答の差は、女性全体、男性全体とも1割未満となります。

〈女性の傾向〉

女性では、50歳代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(56.5%)、「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」(36.2%)と20.3ポイントの差で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が上回っていますが、60歳代では、「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答の方が、3.8ポイント上回っています。

〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が4割を超えています。しかしながら、70歳以上では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(43.9%)となり、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(41.5%)より、2.4ポイント上回っています。

図7—10—1 「誰のおかげで生活できるんだ。」とか、「かいしようなし」という(全体)

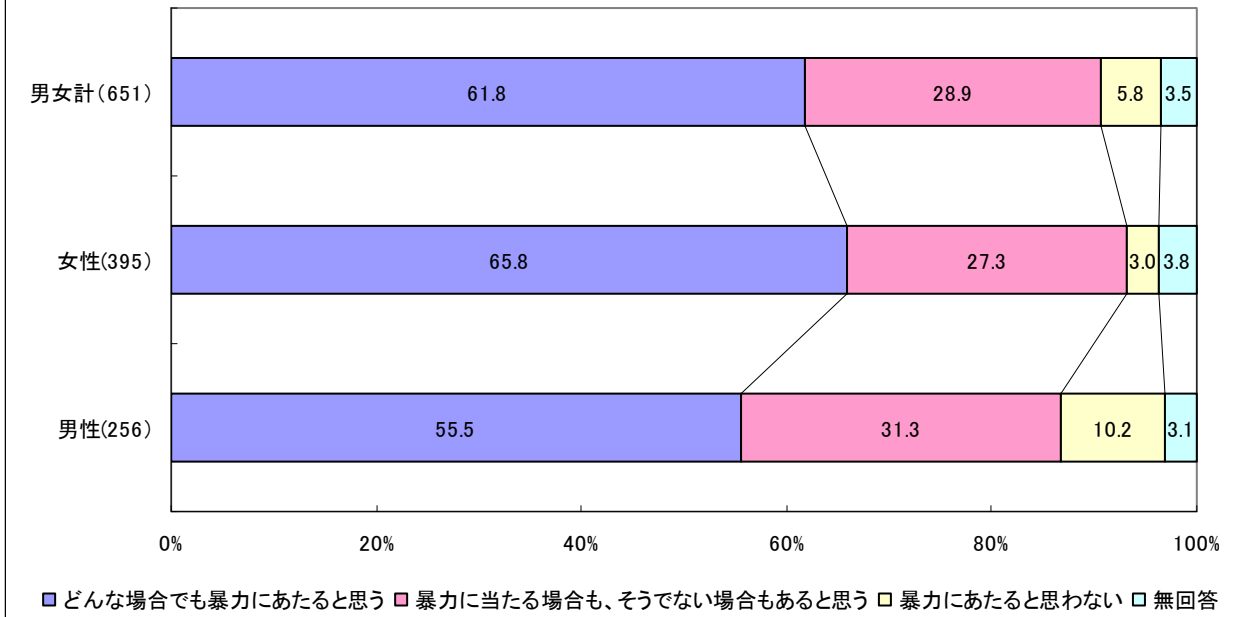
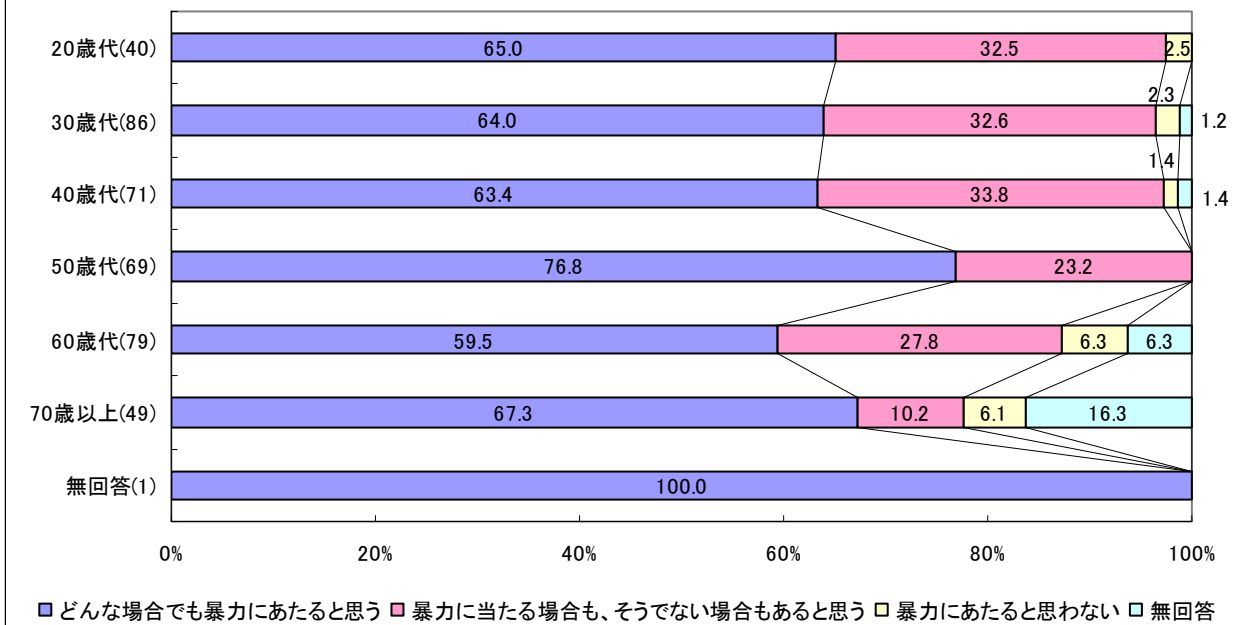
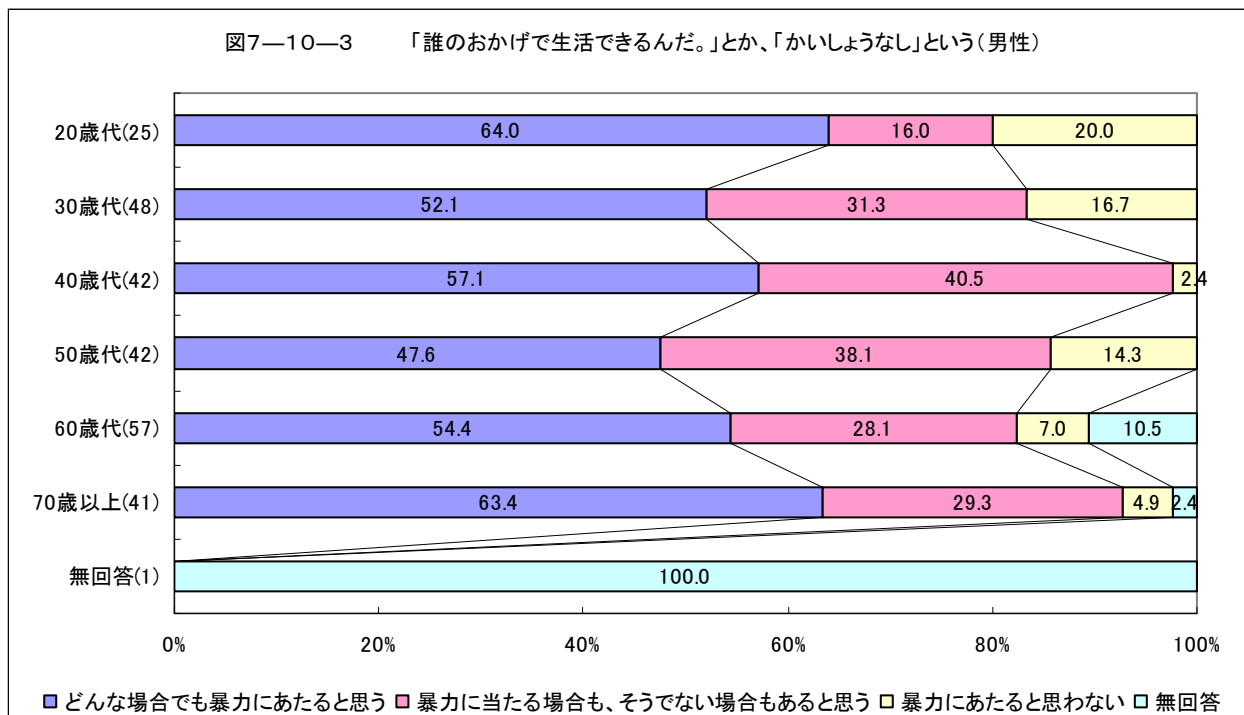


図7—10—2 「誰のおかげで生活できるんだ。」とか、「かいしようなし」という(女性)





#### 〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(65.8%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(55.5%)となります。

#### 〈女性の傾向〉

女性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答がほぼ6割を超えています。

20歳代、30歳代、40歳代では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」との回答も3割を超えています。

#### 〈男性の傾向〉

男性では、すべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が4割を超えていますが、40歳代では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(40.5%)あり、20歳代の16.0%と24.5ポイントの差があります。

図7-11-1 大声でどなる(全体)

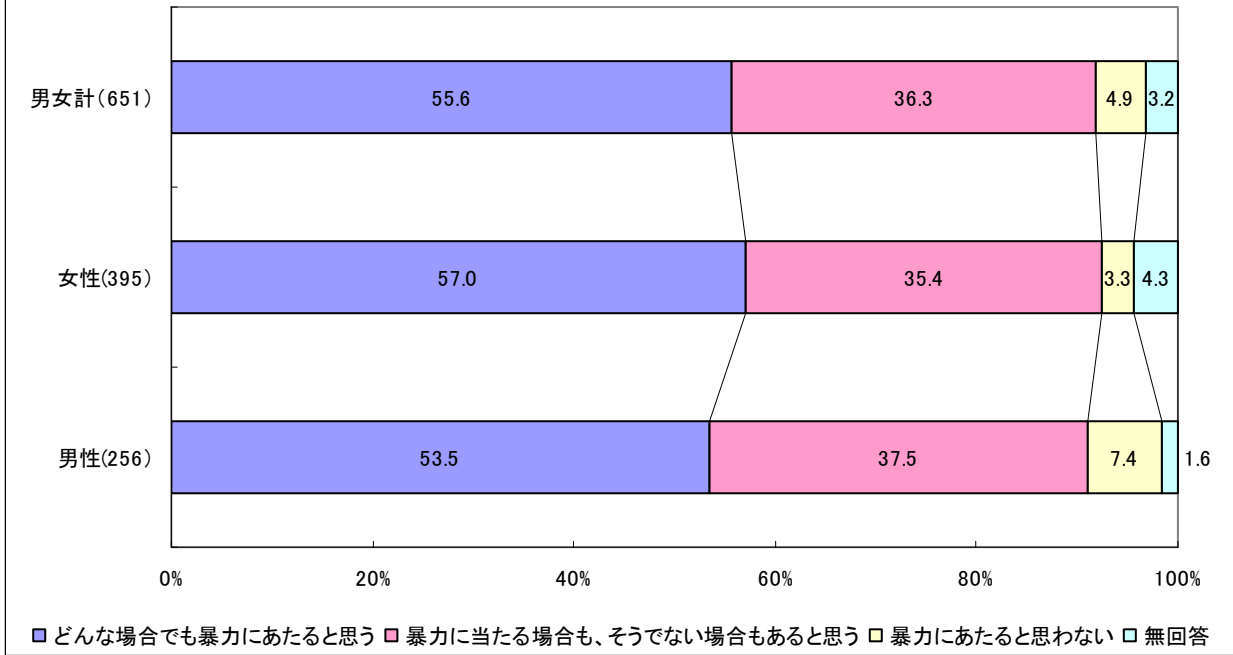


図7-11-2 大声でどなる(女性)

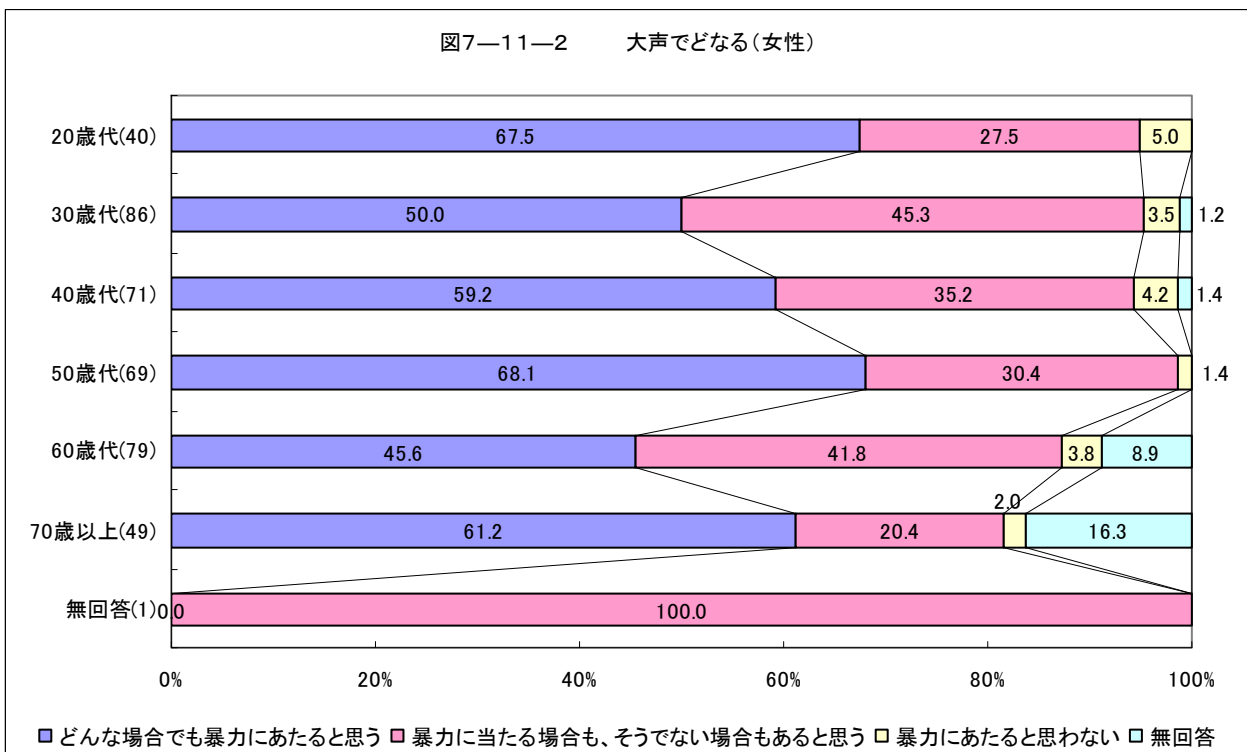
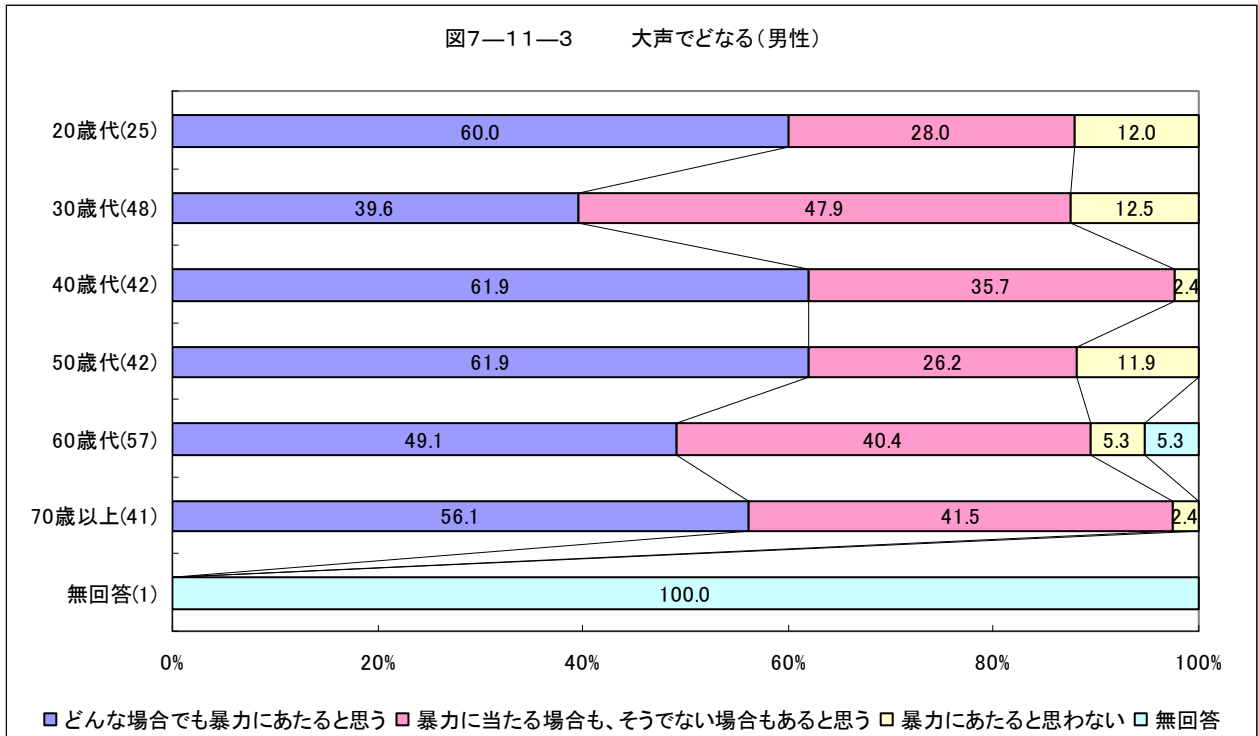


図7-11-3 大声でどなる(男性)



〈全体の傾向〉

女性全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(57.0%)、男性全体で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(53.5%)となります。

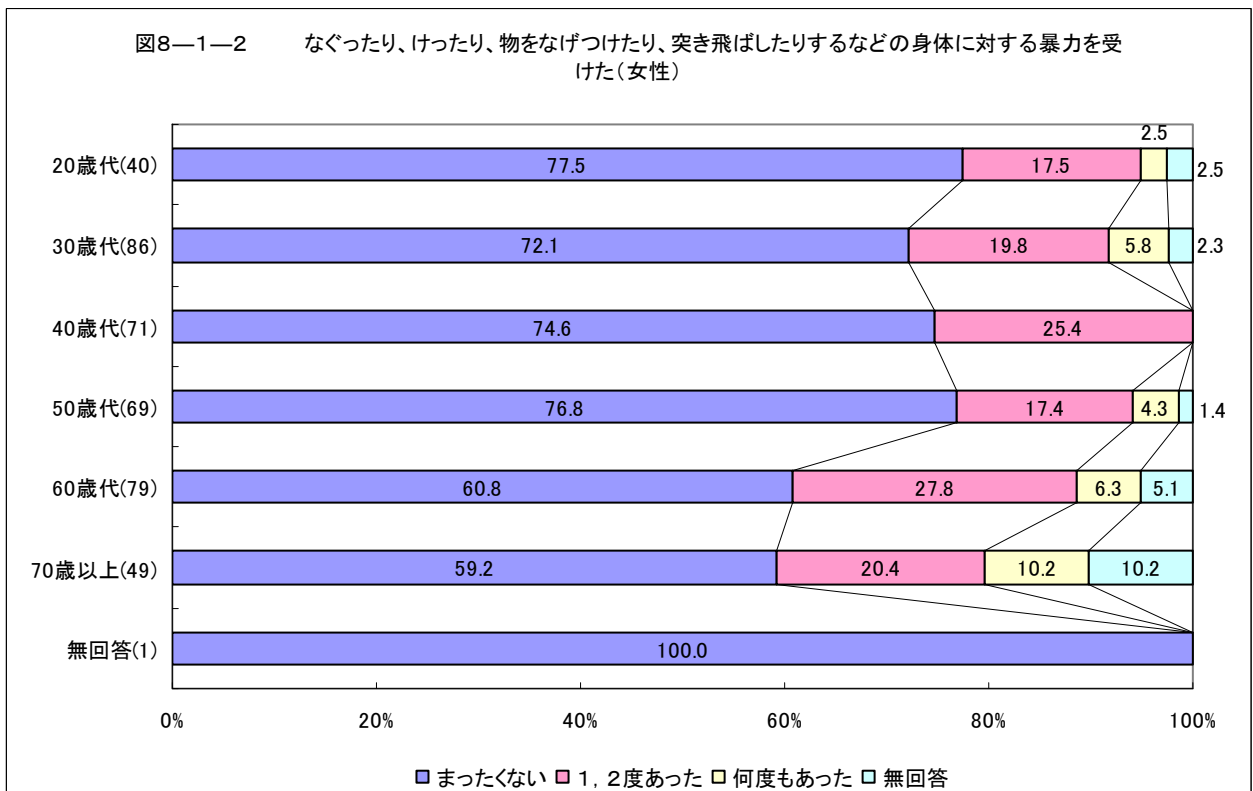
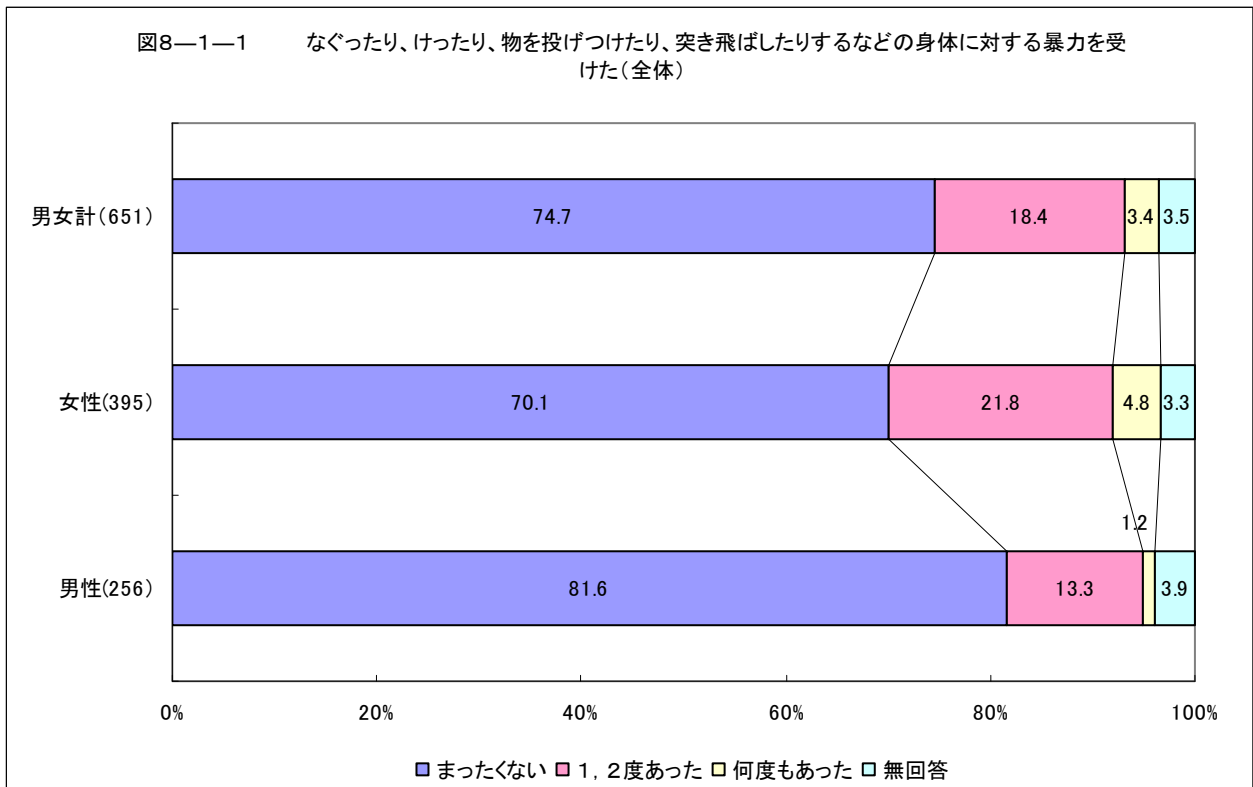
〈女性の傾向〉

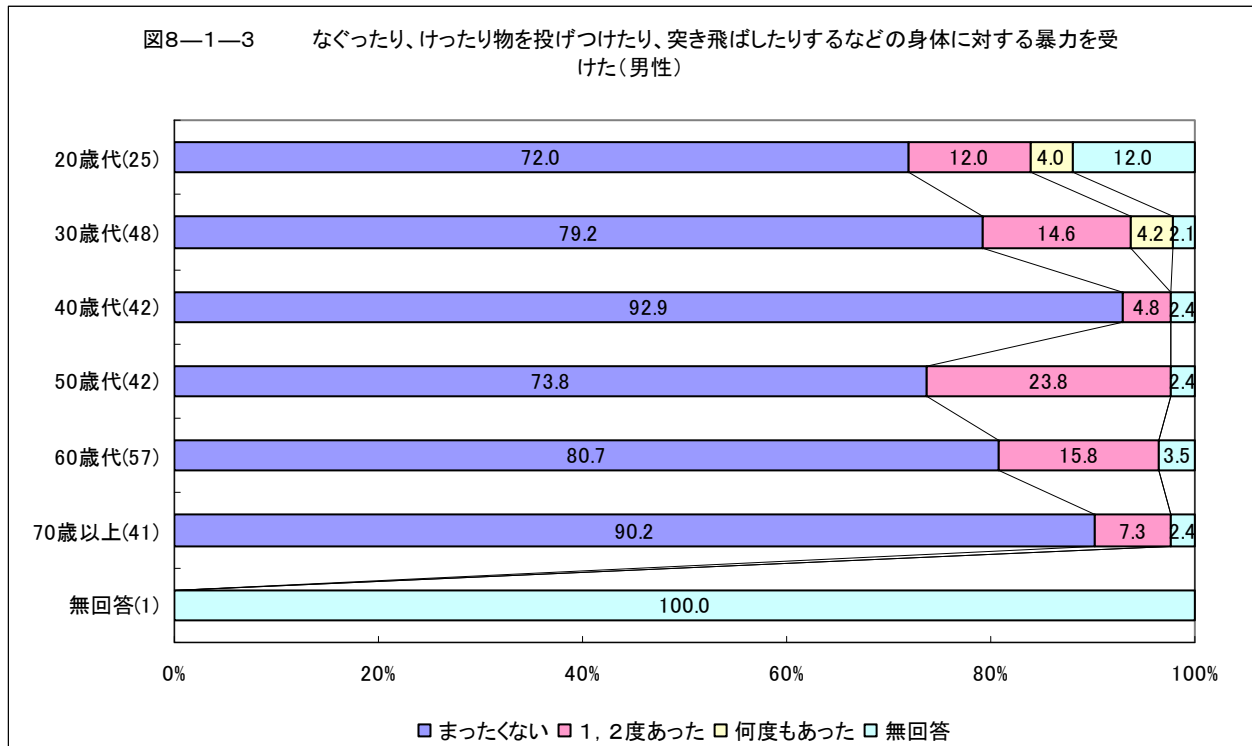
女性では、60歳代を除くすべての世代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が5割を超えています。30歳代では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(45.3%)との回答も半数近くなっています。

〈男性の傾向〉

男性では、30歳代で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(47.9%)となり、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(39.6%)との差が8.3ポイントあります。

質問8 配偶者・交際相手からの被害経験について





#### 〈全体の傾向〉

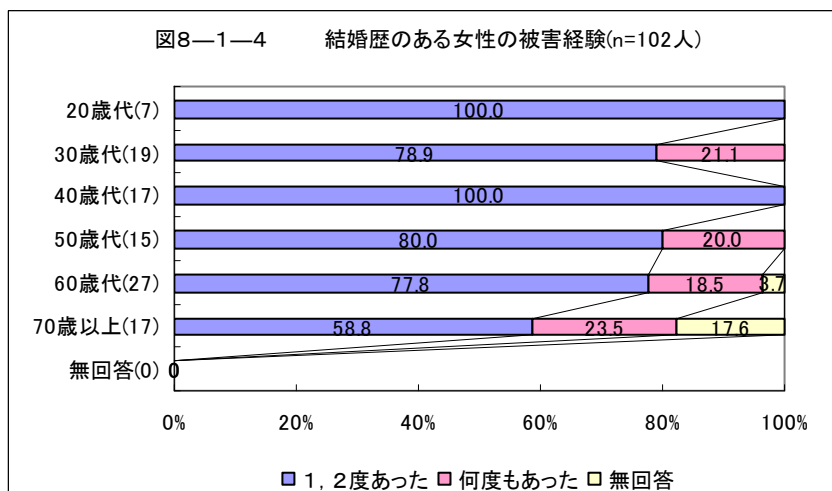
配偶者・交際相手からの「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた」経験について女性全体では、「1, 2度あった」(21.8%)、男性全体で「1, 2度あった」(13.3%)となり、女性の5人に1人は、暴力の被害経験者となります。

#### 〈女性の傾向〉

女性では、子育て世代の30歳代で、「何度もあった」(5.8%)との回答があり、「1, 2度あった」(19.8%)と合わせると25.6%と4人に1人の割合で被害経験があります。

#### 〈男性の傾向〉

男性では、50歳代で「1, 2度あった」(23.8%)、との回答となり、40歳代の4.8%との差が19ポイントとなります。



左のグラフは、結婚歴がある女性の被害経験を表しています。

「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた」経験のある女性のうち、「何度もあった」という回答のあった、各世代ともおよそ5人に1人は、「何度もあった」という被害経験をもっています。

図8—2—1 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫をうけた(全体)

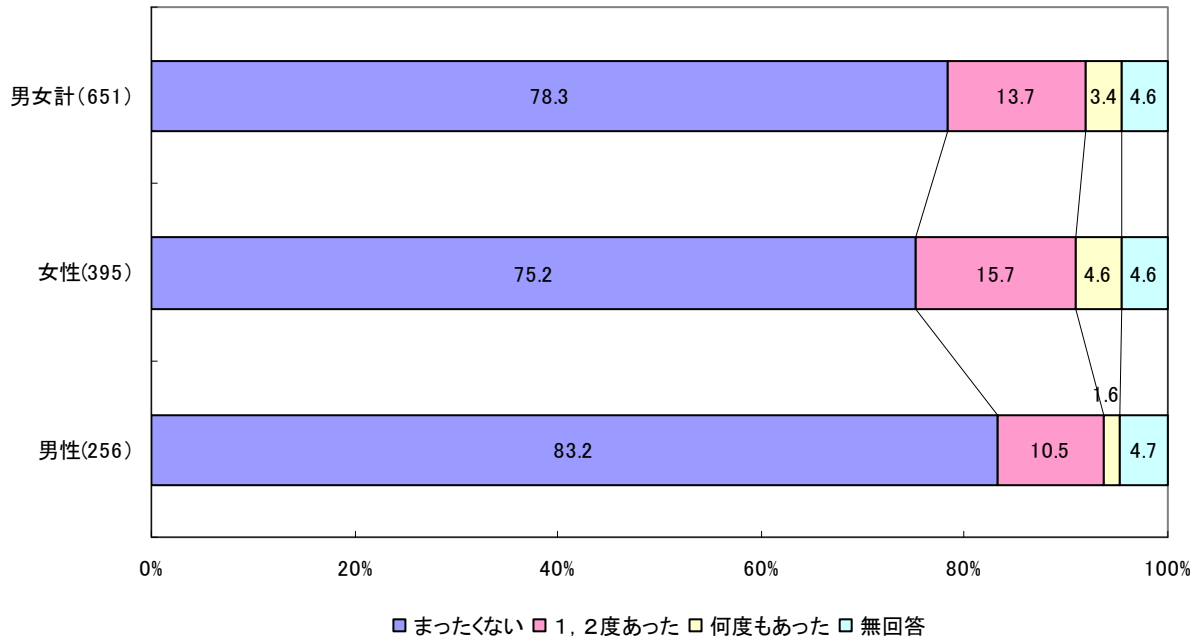
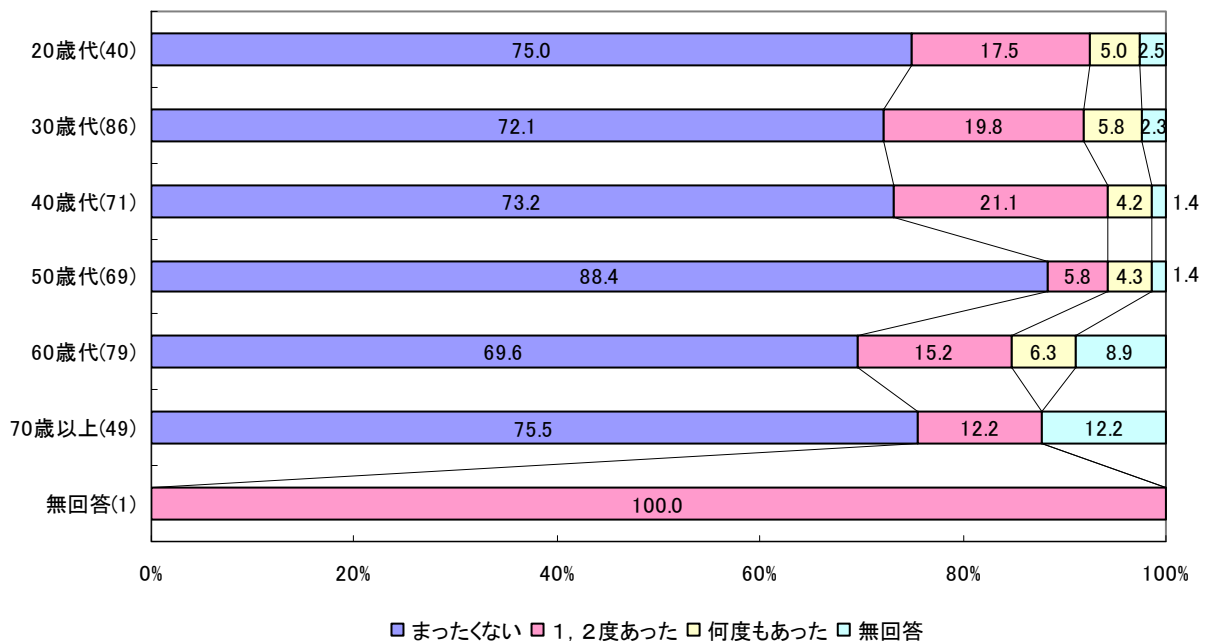
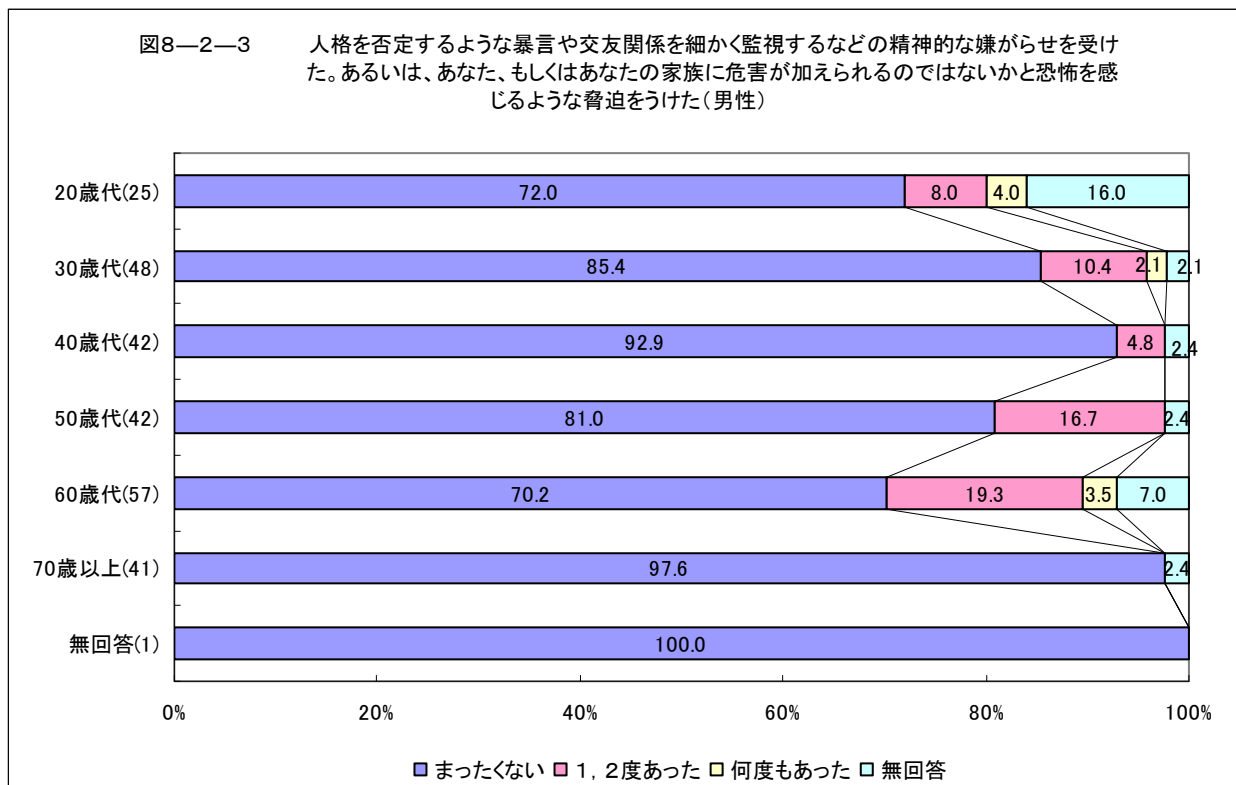


図8—2—2 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫をうけた(女性)







<全体の傾向>

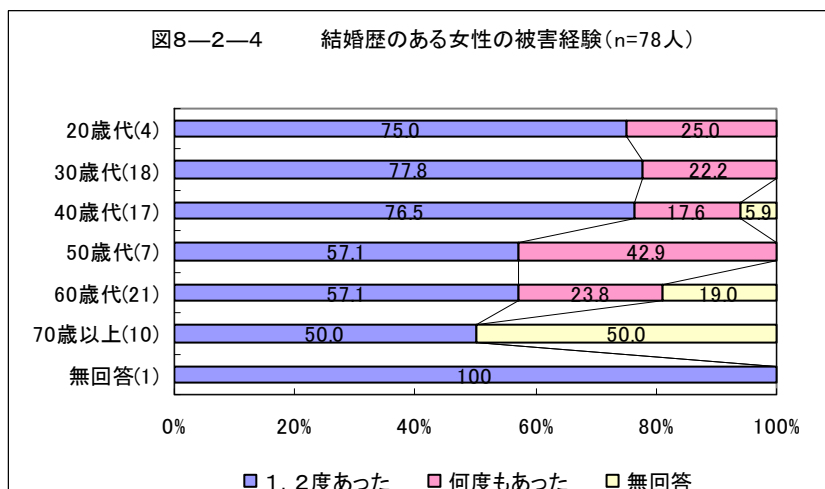
配偶者・交際相手から「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」被害経験について女性全体では、「1, 2度あった」(15.7%)、男性全体で「1, 2度あった」(10.5%)となります。

<女性の傾向>

女性では、20歳代、30歳代、40歳代で「何度もあった」、「1, 2度あった」を合わせると2割を超える被害経験の回答となります。

<男性の傾向>

男性では、50歳代、60歳代で「1, 2度あった」との回答が15.0%を超える回答となります。



左のグラフは、結婚歴がある女性の被害経験を表したグラフになります。「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」経験のある女性のうち50歳代で4割が「何度もあった」という被害経験を持っています。

図8—3—1 いやがっているのに性的な行為を強要された(全体)

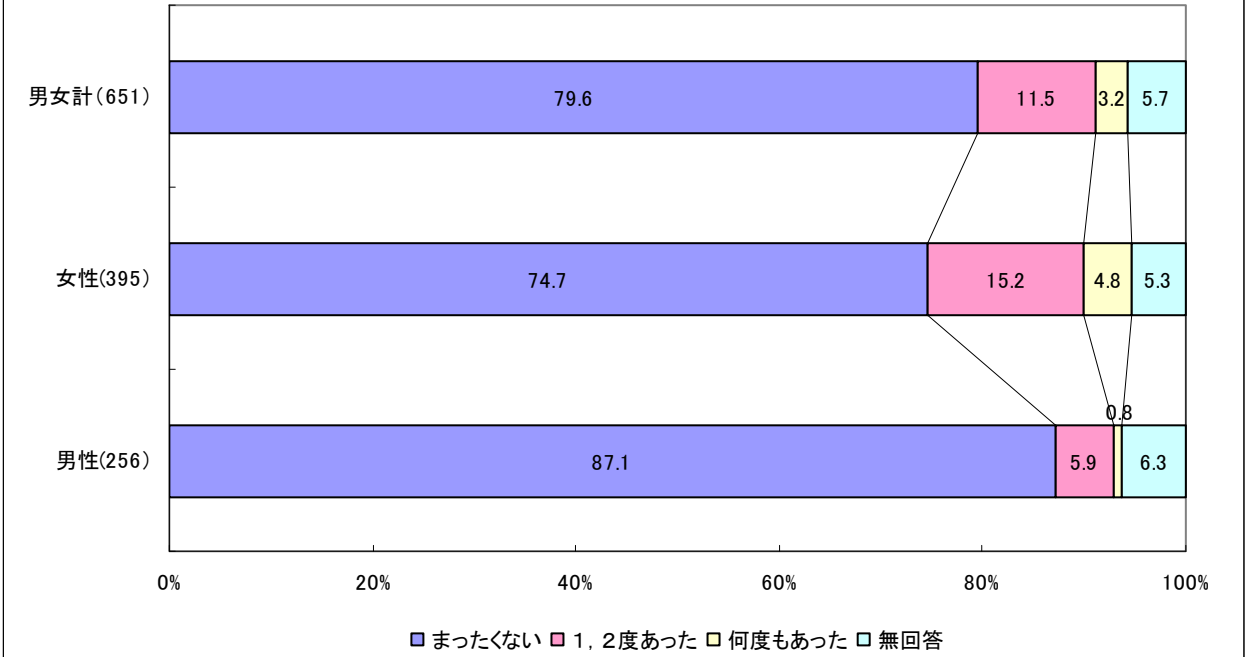
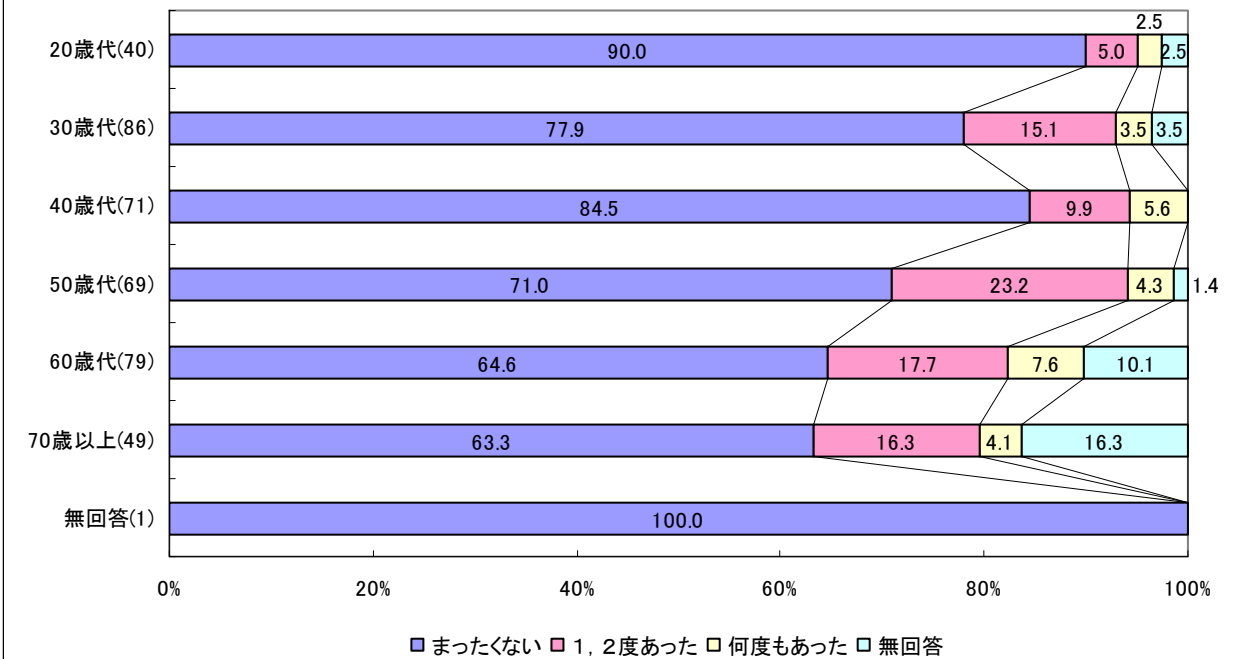
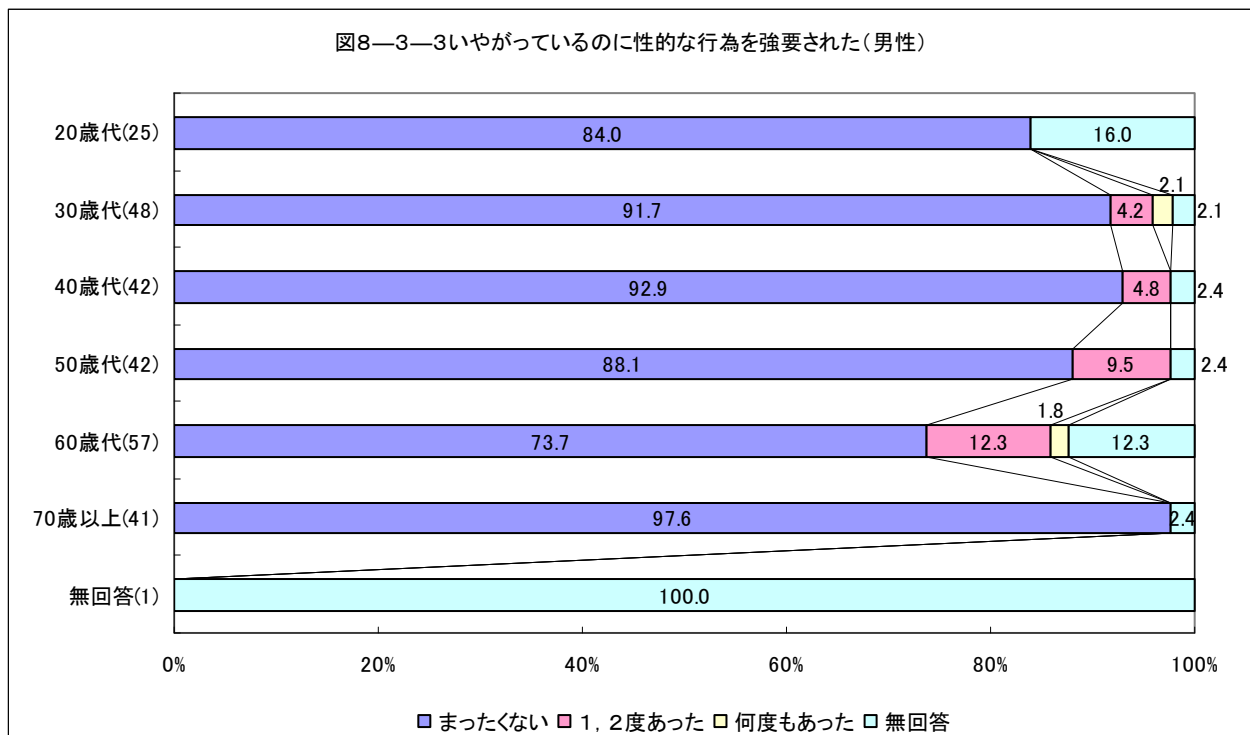


図8—3—2 いやがっているのに性的な行為を強要された(女性)





#### <全体の傾向>

配偶者・交際相手から「いやがっているのに性的な行為を強要された」被害経験について女性全体では、「1, 2度あった」(15.2%)、「何度もあった」(4.8%)と5人に1人が被害経験をもっています。

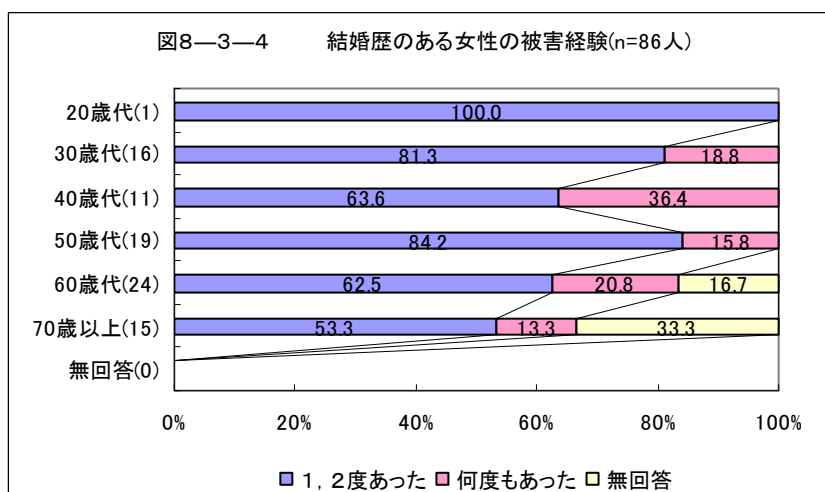
男性全体では、「1, 2度あった」(5.9%)、「何度もあった」(0.8%)と合わせて6.7%となります。

#### <女性の傾向>

女性では、20歳代で、「1, 2度あった」(5.0%)、「何度もあった」(2.5%)と合わせると7.5%となります。50歳代では、それぞれ、23.2%と4.3%と合わせると27.5%となり、20.0ポイントの差があります。

#### <男性の傾向>

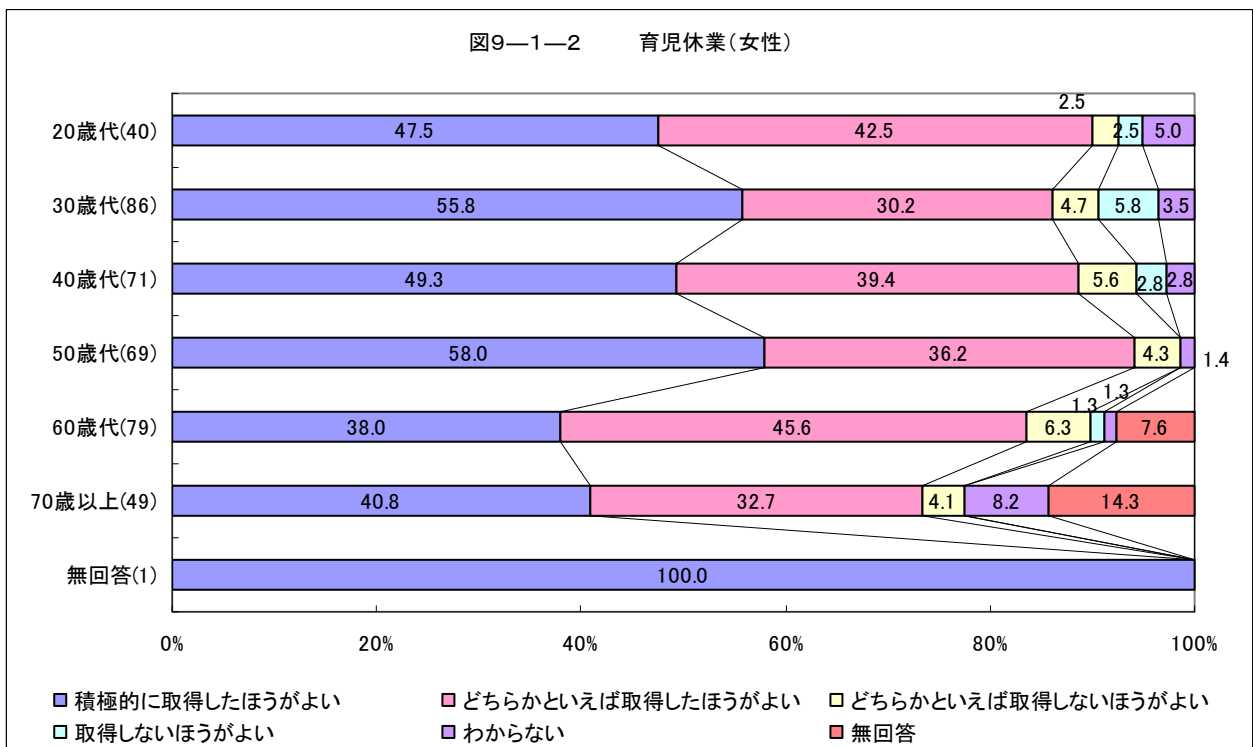
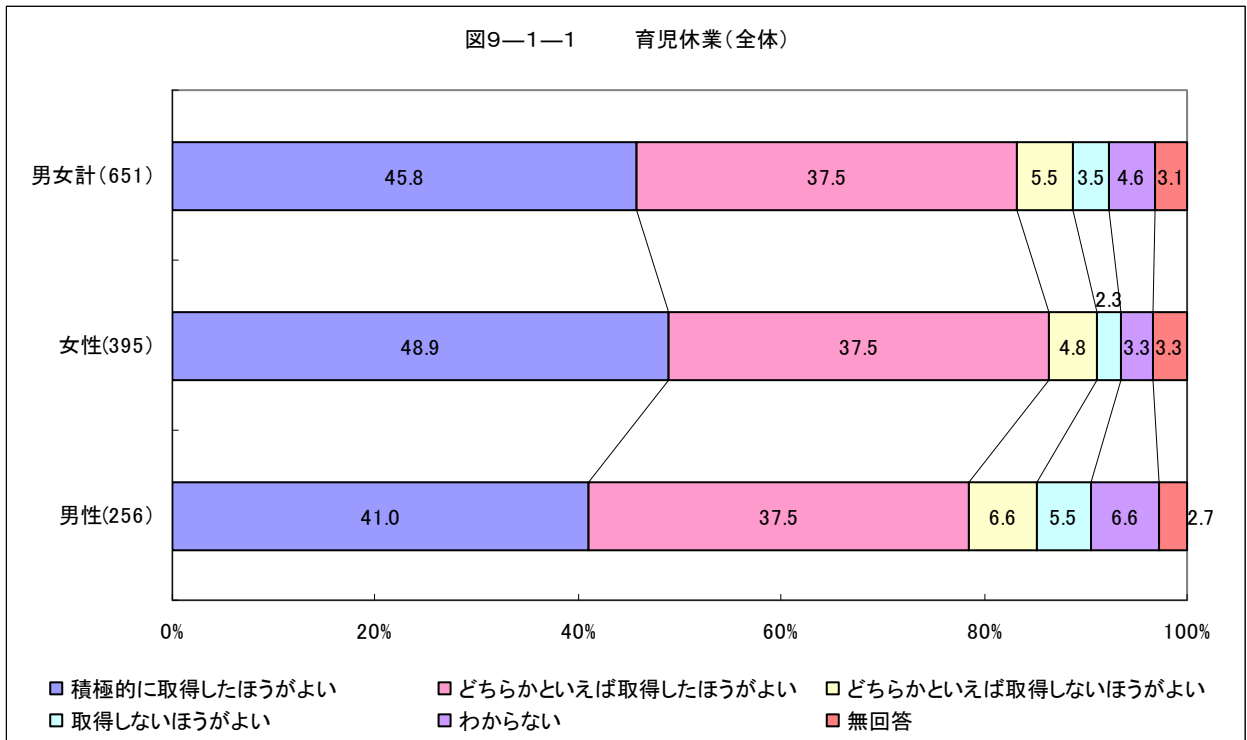
男性では、20歳代、70歳以上を除く世代で、性的な被害経験があります。60歳代では、「1, 2度あった」(12.3%)、「何度もあった」(1.8%)と合わせて14.1%になります。

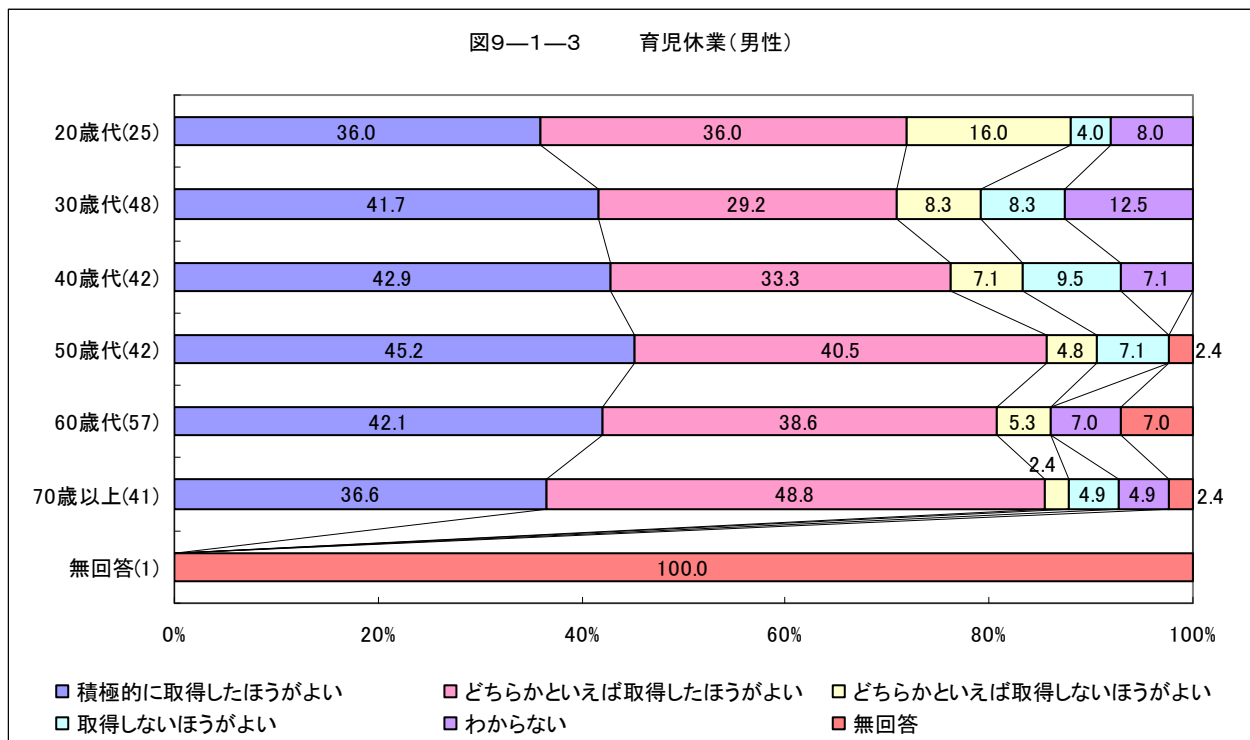


左の表は、結婚歴がある女性の被害経験を表したグラフになります。「いやがっているのに性的な行為を強要された」経験のある女性のうち、40歳代で3割を超える女性が「何度もあった」経験があります。

#### 4 就業について

##### 質問9 男性が育児休業・介護休業を取得することについて





＜全体の傾向＞

男性が育児休業を取得することについて、女性全体では、「積極的に取得したほうがよい」(48.9%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(37.5%)と合わせて、86.4%が育児休業の取得に肯定的です。

男性全体では、積極的に取得したほうがよい(41.0%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(37.5%)と合わせて、78.5%が育児休業の取得に肯定的です。

＜女性の傾向＞

女性では、50歳代が、「積極的に取得したほうがよい」(58.0%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(36.2%)と合わせて、94.2%が育児休業の取得に肯定的です。続いて、20歳代の「積極的に取得したほうがよい」(47.5%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(42.5%)の合わせて、90.0%が続きます。

＜男性の傾向＞

男性では、50歳代が、「積極的に取得したほうがよい」(45.2%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(40.5%)と合わせて、85.7%が育児休業の取得に肯定的です。子育て世代の20歳代、30歳代は、「積極的に取得したほうがよい」、「どちらかといえば取得したほうがよい」が72.0%、70.9%とそれぞれ7割を超える回答がありました。

図9—2—1 介護休業(全体)

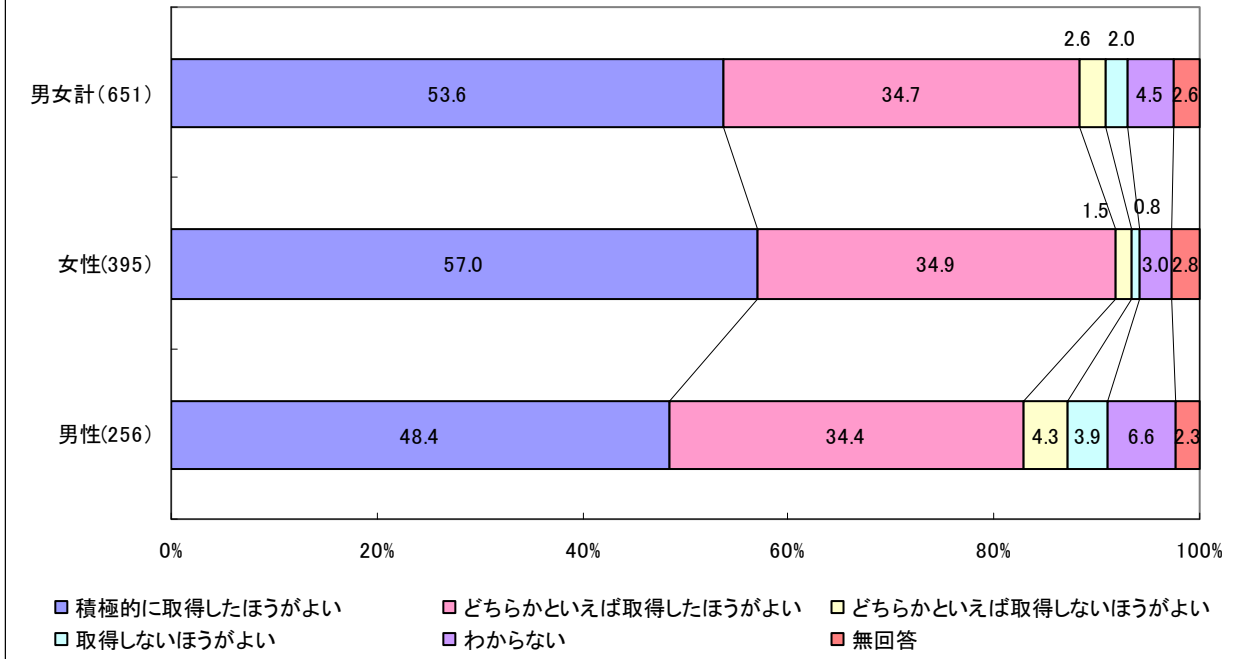


図9—2—2 介護休業(女性)

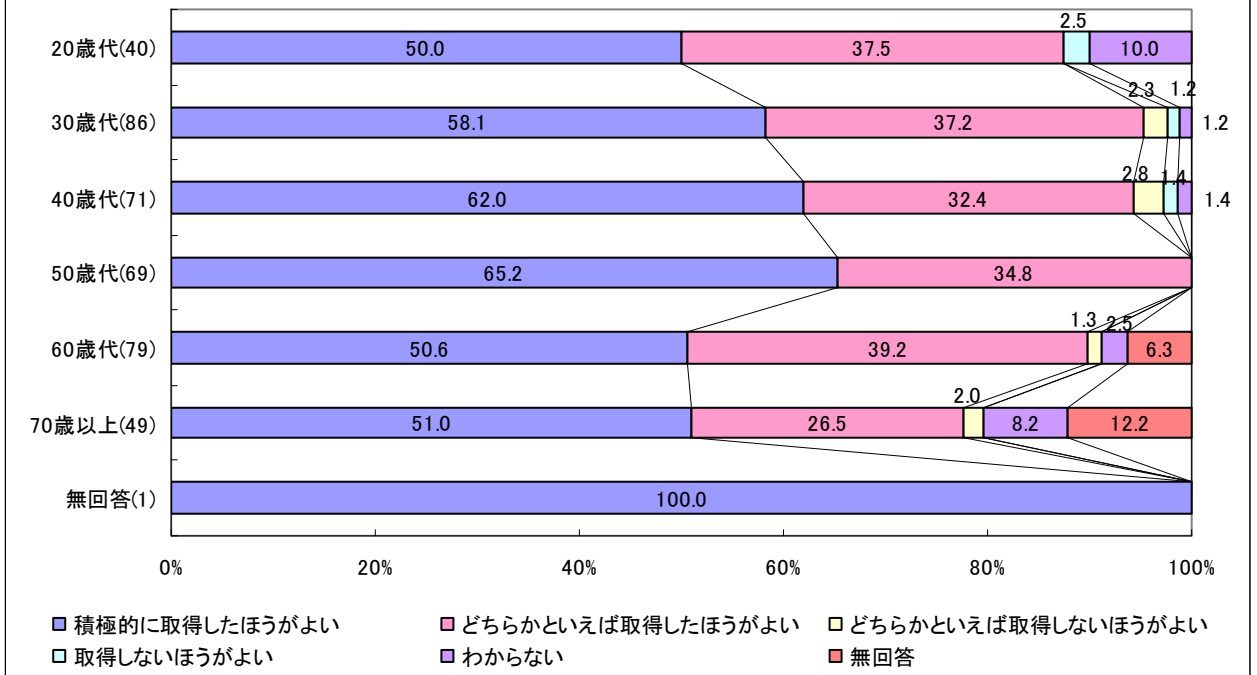
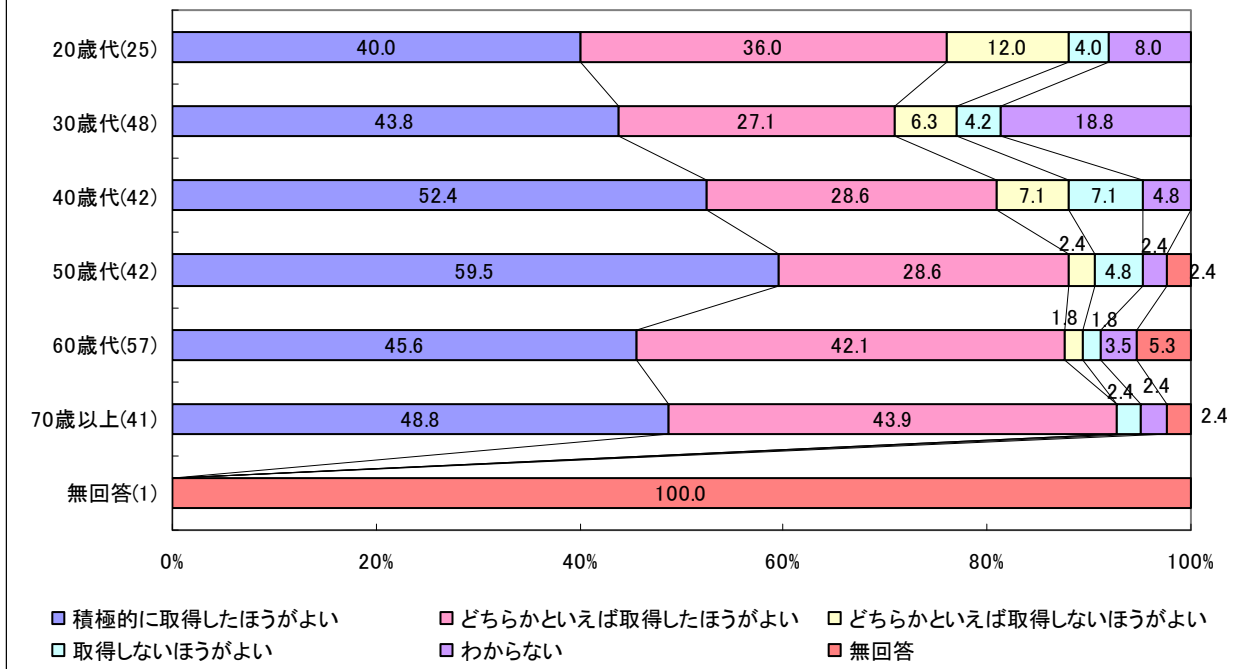


図9—2—3 介護休業(男性)



＜全体の傾向＞

男性が介護休業を取得することについて、女性全体では、「積極的に取得したほうがよい」(57.0%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(34.9%)と合わせて、91.9%が介護休業の取得に肯定的です。

男性全体では、積極的に取得したほうがよい(48.4%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(34.4%)と合わせて、82.8%が介護休業の取得に肯定的です。

＜女性の傾向＞

女性では、50歳代が、「積極的に取得したほうがよい」(65.2%)、「どちらかといえば取得したほうがよい」(34.8%)と合わせて、回答者全員にあたる100.0%が介護休業の取得に肯定的です。

＜男性の傾向＞

男性では、40歳代、50歳代で、「積極的に取得したほうがよい」との回答が5割を超えています。

質問 10 女性が職業を持つことについての理想について

図10—1 女性の働き方について、理想はどうあるべきと思いますか。(全体)

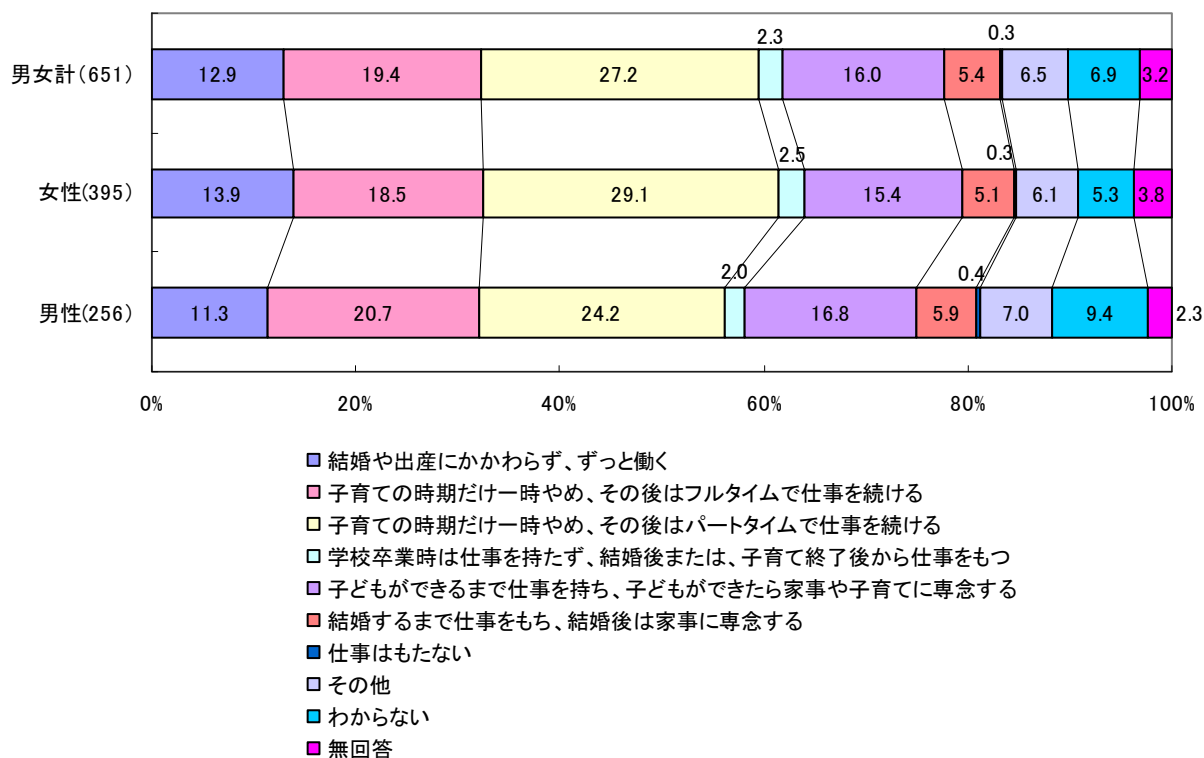


図10—2 女性の働き方について、理想はどうあるべきと思いますか。(女性)

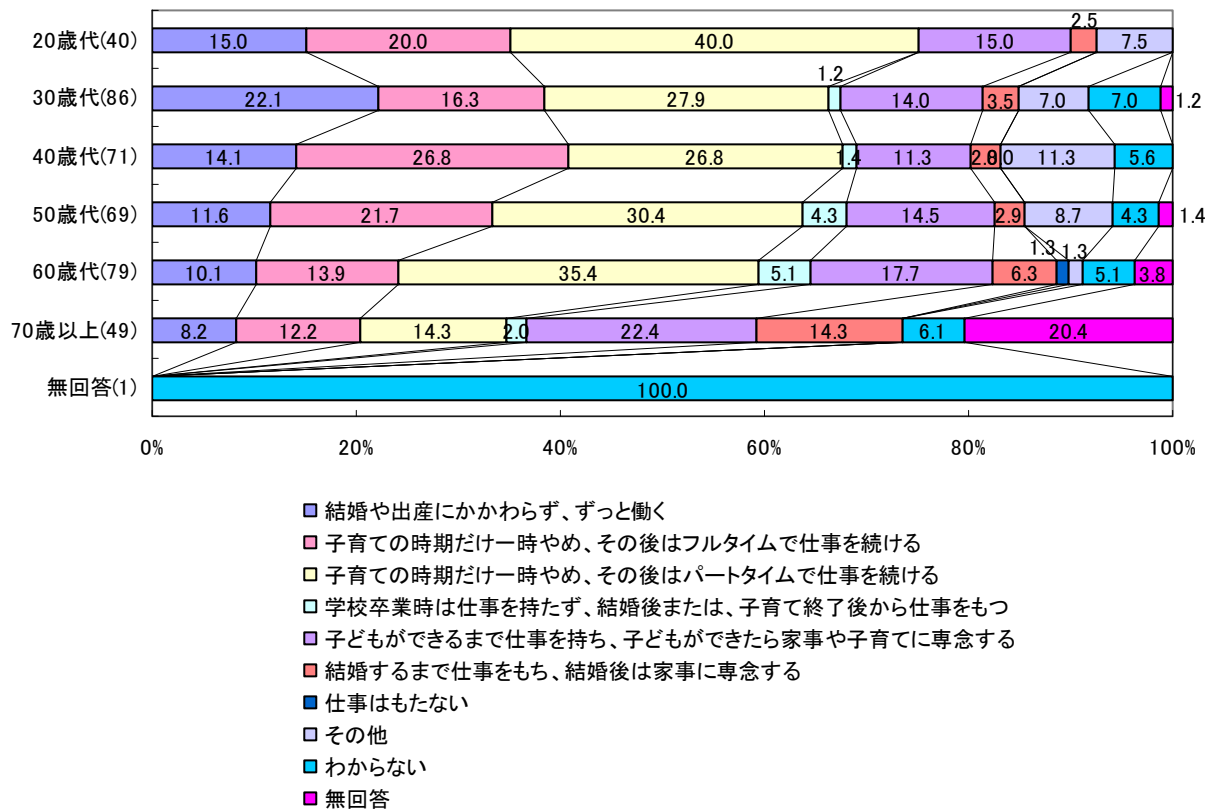
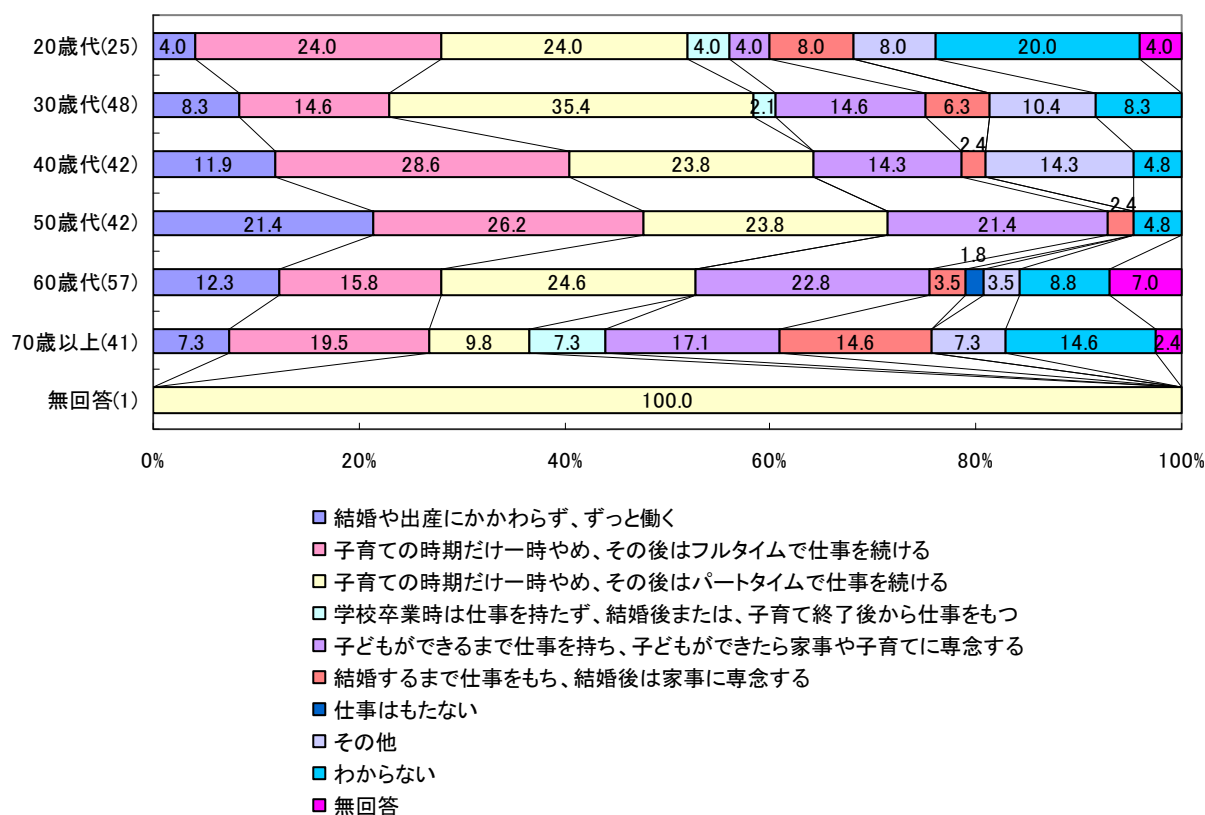




図10—3 女性の働き方について、理想はどうあるべきと思いますか。(男性)



〈全体の傾向〉

女性が職業を持つことについて女性全体では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(18.5%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(29.1%)、「学校卒業時は仕事を持たず、結婚後または、子育て終了後から仕事をもつ」(2.5%)の再就職を希望する項目の3つを合わせると50.1%となります。

男性全体でも上記の3つを合わせると、46.9%となります。

〈女性の傾向〉

女性では、20歳代から、60歳代の世代で最も多い回答を得ているのが「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」となります。「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念する」もそれぞれの世代で1割以上の回答を得ています。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代、50歳代において、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」との回答の割合が、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」を上回っています。

質問 1 1 女性が職業を持つことについての現実について

図11—1 結婚歴のある方が、現実についてお答えください。女性の働き方について、実際にはどうでしょうか。(全体)

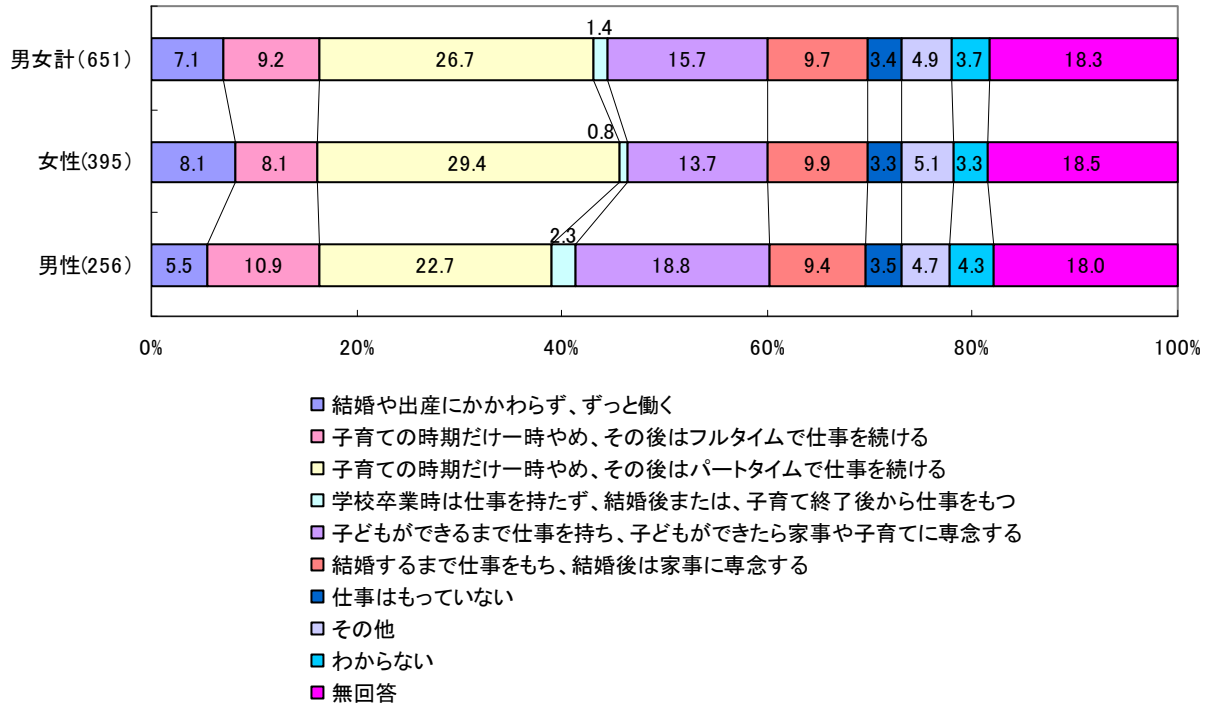


図11—2 結婚歴のある方が、現実についてお答えください。女性の働き方について、実際にはどうでしょうか。(女性)

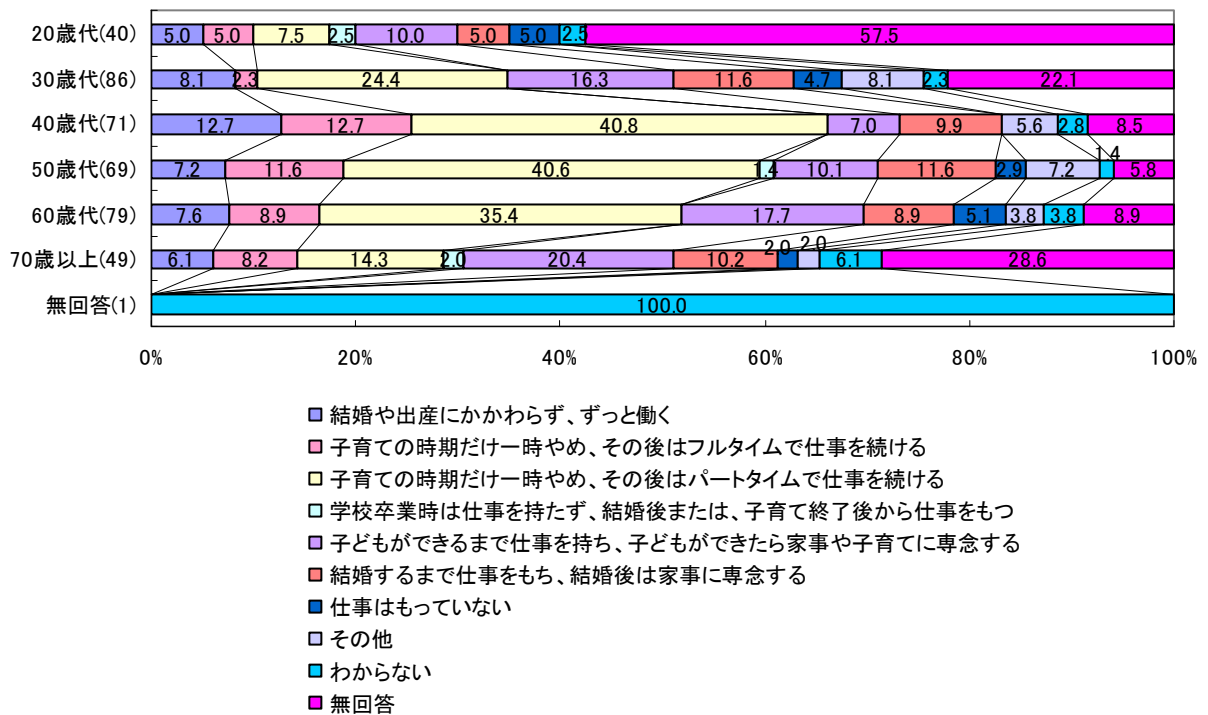
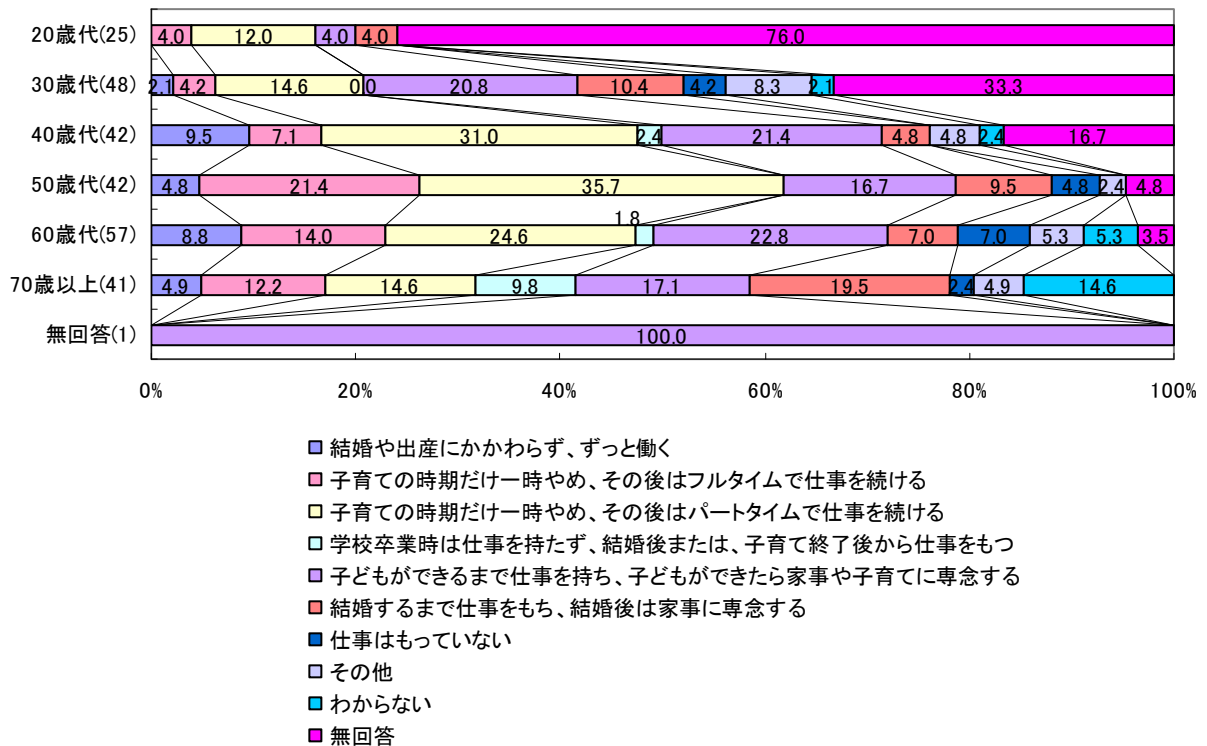


図11—3 結婚歴のある方が、現実についてお答えください。女性の働き方について、実際にはどうでしょうか。(男性)



〈全体の傾向〉

女性が職業を持つことの実際について女性全体では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(29.4%)と最も多い回答となり、続いて、「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」(13.7%)が続きます。

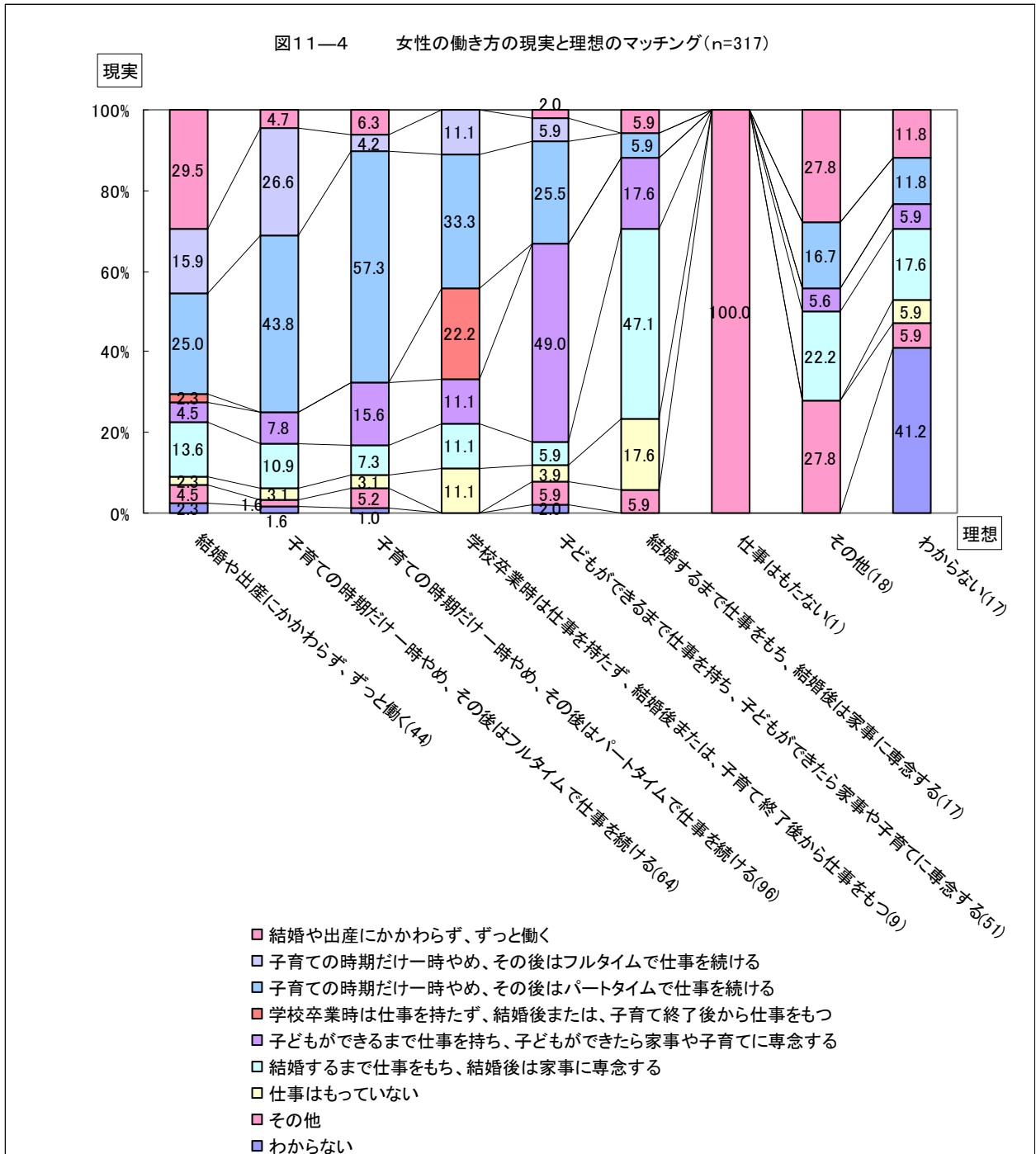
〈女性の傾向〉

女性では、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代の世代で最も多い回答を得ているのが「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」となります。

〈男性の傾向〉

男性では、40歳代、50歳代、60歳代でもっとも多い回答を得ているのが、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」となります。

図 11—4 女性の働き方の現実と理想のマッチング (n=317)



上記のグラフは、「現実」の働き方を「理想」別にみて、女性がどのような働き方を希望し、それが、実現しているのか、また、実現出来ていない場合、現実では、どのような状況なのかを確認しています。なお、このグラフでは、対象を「結婚歴」のある女性にかぎり、「現実」、「理想」ともに回答をしている方にかぎっています。

＜全体の傾向＞

理想において、「結婚や出産にかかわらず、ずっと働く」を希望している回答の 29.5%が現実においても一致しています。「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができた後には家事や子育てに専念する」(49.0%) 「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する」(5.9%)、など、合わせると 54.9%の回答で家事に専念していることがうかがえます。

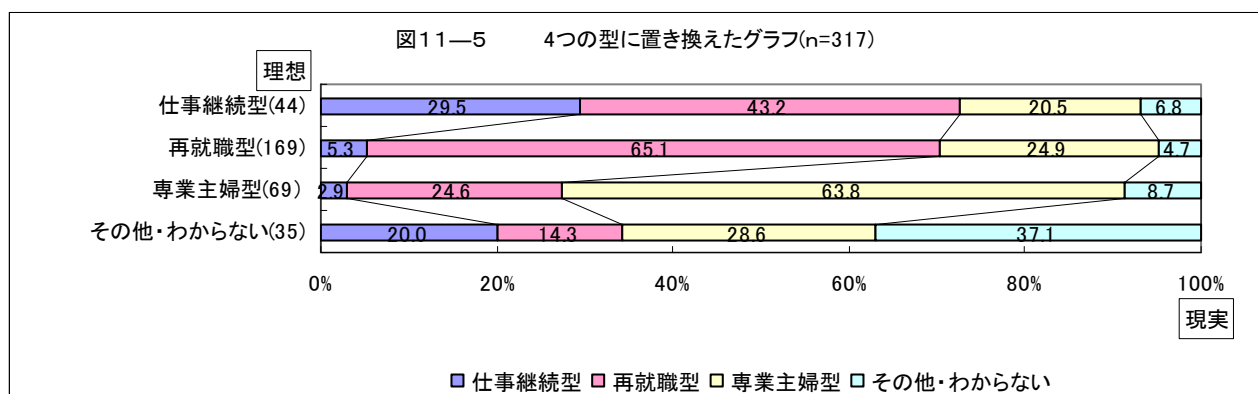
「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」を希望している回答の26.6%が現実においても一致しています。

「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」を希望している回答の57.3%が現実においても一致しています。

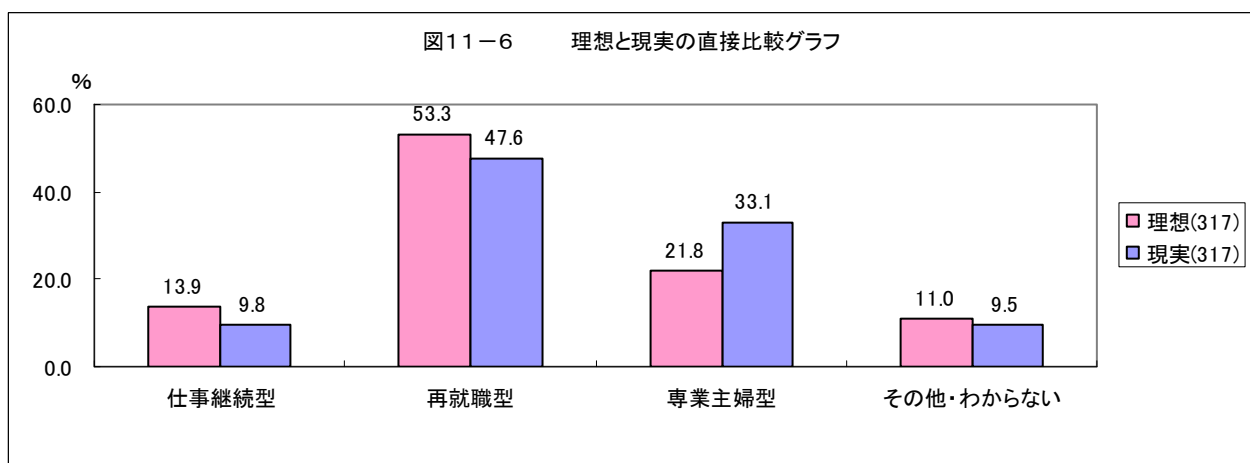
**\*質問項目を下記のように分類します。**

①	結婚や出産にかかわらず、ずっと働く	仕事継続型
②	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	再就職型
③	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	
④	学校卒業時は仕事を持たず、結婚後または、子育て終了後から仕事をもつ	
⑤	子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する	専業主婦型
⑥	結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する	
⑦	仕事はもたない	
⑧	その他	その他・わからない
⑨	わからない	

下記に、左記のグラフを、上記の型に分類したグラフに置き換えます。



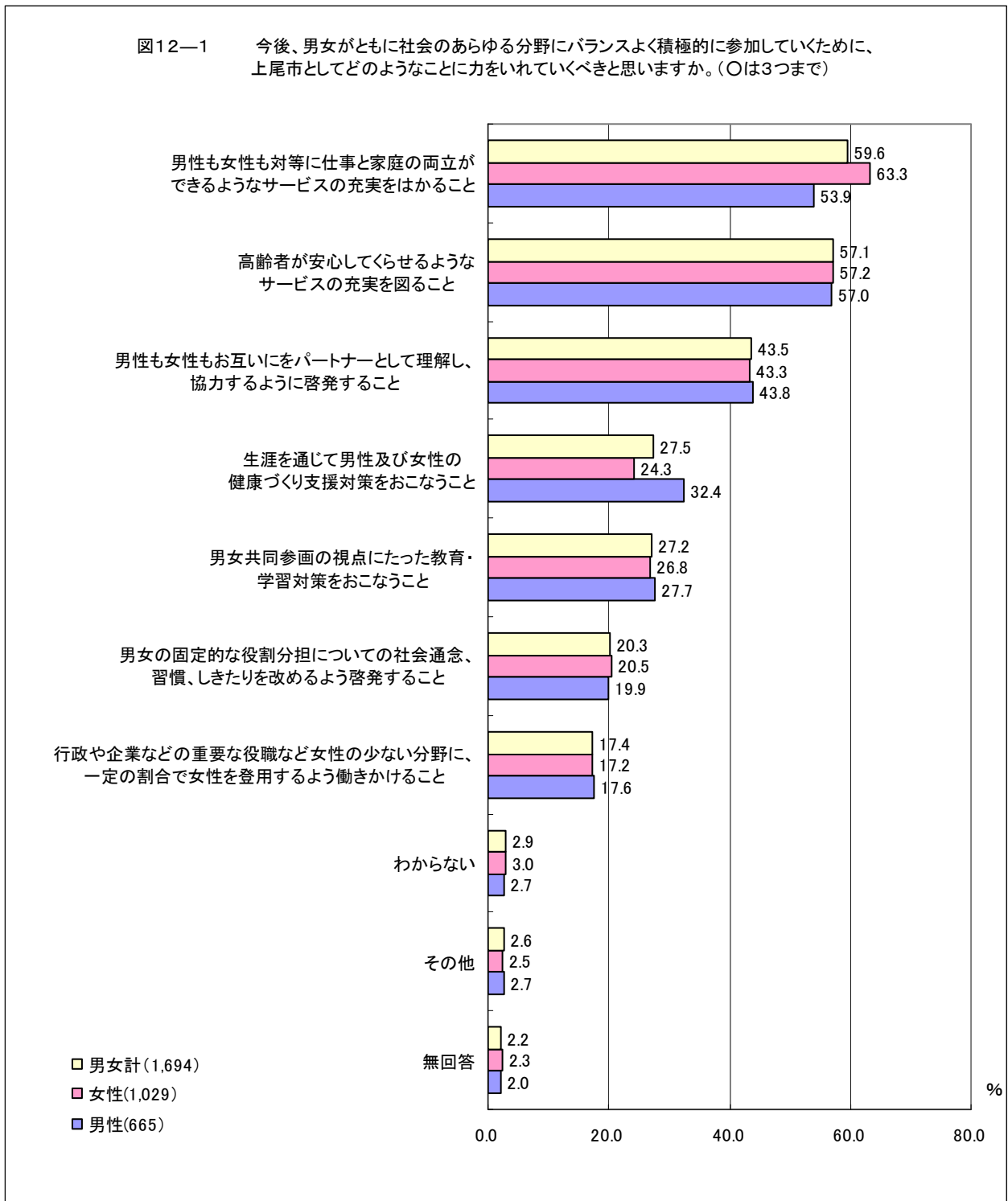
理想において「仕事継続型」の3人に1人は、現実においても「仕事継続型」です。「再就職型」の3人に2人が同様に現実においても「再就職型」となります。「専業主婦型」の3人に2人も現実においても「専業主婦型」となっています。



「専業主婦型」のみ理想より現実が11.3ポイント上回っています。

## 5 市の男女共同参画の推進に関する施策について

### 質問 1 2 上尾市の施策について



#### <全体の傾向>

女性全体において、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実をはかること」(63.3%)、「高齢者が安心してらせるようなサービスの充実をはかること」(57.2%)が続きます。

男性全体では、「高齢者が安心してらせるようなサービスの充実をはかること」(57.0%)、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実をはかること」(53.9%)が続きます。

### <女性の傾向>

ほとんどの世代において、「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力するように啓発すること」、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実をはかること」、「高齢者が安心してらせるようなサービスの充実をはかること」の3つの項目が大きな割合を占めています。

(表12-2)を見ると20歳代、30歳代、40歳代において、「男女共同参画の視点にたった教育・学習対策をおこなうこと」との回答も5人に1人にあります。

### <男性の傾向>

ほとんどの世代において、「男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力するように啓発すること」、「男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実をはかること」、「高齢者が安心してらせるようなサービスの充実をはかること」の3つの項目が大きな割合を占めています。

(表12-2)

	男性も女性もお互いをパートナーとして理解し、協力するように啓発すること	しきたりを改めるよう啓発すること	男女の固定的な役割分担についての社会通念、慣習、	男女共同参画の視点にたった教育・学習対策をおこなうこと	男性も女性も対等に仕事と家庭の両立ができるようなサービスの充実をはかること	行政や企業などの重要な役職など女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用するよう働きかけること	生涯を通して女性及び男性の健康づくり支援対策をおこなうこと	高齢者が安心してらせるようなサービスの充実をはかること	その他 ( )	わからない	無回答
女性 20/歳代(61)	32.8%	14.8%	21.3%	57.4%	14.8%	13.1%	27.9%	1.6%	3.3%	0.0%	
30 歳代(121)	25.6%	14.0%	20.7%	47.9%	15.7%	14.9%	33.1%	2.5%	3.3%	0.0%	
40 歳代(109)	24.8%	15.6%	19.3%	49.5%	8.3%	13.8%	34.9%	1.8%	0.0%	0.0%	
50 歳代(120)	28.3%	12.5%	16.7%	34.2%	11.7%	15.0%	35.8%	0.8%	0.8%	0.0%	
60 歳代(146)	27.4%	11.6%	10.3%	27.4%	6.8%	15.8%	37.7%	2.1%	1.4%	2.1%	
70 歳以上(107)	16.8%	5.6%	11.2%	20.6%	5.6%	13.1%	29.9%	0.0%	2.8%	5.6%	
無回答(1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性/20 歳代(61)	13.1%	6.6%	14.8%	26.2%	13.1%	9.8%	11.5%	3.3%	0.0%	1.6%	
30 歳代(121)	16.5%	10.7%	7.4%	24.0%	4.1%	11.6%	20.7%	1.7%	3.3%	0.0%	
40 歳代(109)	12.8%	5.5%	12.8%	24.8%	3.7%	11.9%	24.8%	1.8%	0.9%	0.9%	
50 歳代(120)	21.7%	7.5%	10.0%	16.7%	8.3%	15.8%	18.3%	0.8%	0.8%	0.0%	
60 歳代(146)	16.4%	8.2%	11.6%	19.9%	4.8%	10.3%	26.7%	0.0%	0.7%	1.4%	
70 歳代(107)	18.7%	5.6%	9.3%	15.9%	10.3%	15.0%	24.3%	0.0%	0.0%	0.9%	
無回答(1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

## 6 自由回答

質問 10 女性の働き方について、理想はどうあるべきかと思いませんか

番号	主な意見の内容
1	本人の意志を尊重できるような周りの理解と協力を得られる環境であること(20歳代 女性)
2	個人の考え方や生活の状態によるのでわからない。(20歳代 女性)
3	人それぞれの考えでいい。(30歳代 女性)
4	理想は、①(結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける)だけど、気持ち、時間に余裕をもちたいなら③(子育て時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける)(30歳代 女性)
5	子育て時期は専念し、落ち着いたら状況を見て無理しない働き方をする。(30歳代 女性)
6	働きたいと思った時に働ける環境が整っている事。(30歳代 女性)
7	その人それぞれで良いと思う。(30歳代 女性)
8	各人、各家庭の状況に応じて、家族で話し合っ決めてるのが一番だと思います。(40歳代 女性)
9	子育てが落ち着いたら再度働く。(20歳代 女性)
10	その人その人の信念に基づいてでよいと思う。(50歳代 女性)
11	仕事を続けた方が良いとは思いますが、3歳までは家にいたい。(50歳代 女性)
12	環境が許せばいつ仕事しても良いと思う。ただ現実には難しいと感じる。(30歳代 女性)
13	その人・その家族構成、人それぞれの選択でよいと思う。(30歳代 女性)
14	型にはめこむ必要はないと思う。個人の考え方を尊重すべき。(40歳代 女性)
15	個人の自由に選択できる事がベスト。(40歳代 女性)
16	子育ての時期は、長期休暇がとれるとよい。(40歳代 女性)
17	女性の働き方は、人それぞれなので決めるべきではないと思う。(30歳代 女性)
18	子供が中学卒業するまではパートで、後はフルタイムでの仕事がよい。カギっ子にはしたくない。(50歳代 女性)
19	自分の理想と一般女性との理想があるので。(50歳代 女性)
20	働きたい人は、いつでも働けるように制度等が整っている。(50歳代 女性)
21	結婚出産に関係なく仕事の出来る人は続ける方がよい。(70歳以上 女性)
22	①～⑥まで好きなように選択できること(20歳代 男性)
23	子供が精神的に落ちつく3歳頃まで育児に専念、その後は、フルタイムで仕事する。(30歳代 男性)
24	配偶者の収入、仕事に対する意欲などにより相対的(30歳代 男性)
25	本人が選択できる。(30歳代 男性)
26	本人が希望すれば働くべき。(30歳代 男性)
27	本人の意思を尊重(30歳代 男性)
28	その人その人の考え方に任せる。それが実現可能な社会をつくるだけ(30歳代 男性)
29	子どもを持っていないので、わからないが、もっと柔軟に働けたらいいと思う。(20歳代 男性)



30	女性の希望による。(40歳代 男性)
31	人それぞれだと思う。(40歳代 男性)
32	本人の適性がある作業(家事でも仕事でも)を選択すればよい。(40歳代 男性)
33	②子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける ③子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける で子供の学校・体調等でキッチンと休みを取れる事が出来ること。 (70歳以上 男性)
34	本人の意思を尊重(30歳代 男性)
35	相手の考え方を尊重する。(60歳代 男性)
36	本人しだい。(60歳代 男性)
37	一人住まい(70歳以上 男性)
38	健康なら働く事は良いこと。(70歳以上 男性)
39	家族それぞれの経済面とかにあった事をすれば良い。(30歳代 性別不詳)
40	個々の必要に応じて又、家族の福祉を優先できるよう柔軟でありたい。 (30歳代 性別不詳)
41	保育場の確保が可能であればフルタイム・パートタイム、共に子育て中でも仕事を続ける。 (30歳代 性別不詳)
42	人それぞれ(①~⑦ すべて)(30歳代 性別不詳)
43	子どもがおおきくなるまでは、子育てに専念してほしい。 (40歳代 性別不詳)
44	仕事をする事は、女性にとっても必要なこと。家族の理解が必要。 (50歳代 性別不詳)
45	職種、その子どもの状況にもよる(50歳代 性別不詳)
46	本人の生き方によるもの(60歳代 性別不詳)
47	子育てが終わったら仕事につく フルタイム?パートタイム? (60歳代 性別不詳)
48	(子育ての時期、中学卒業まで)その後フルタイムで仕事を続ける。 (60歳代 性別不詳)
49	家族で話し合い、同意の上で働く(70歳以上 性別不詳)
50	やめることはない。その人本人の考えしだい。(70歳以上 性別不詳)
51	結婚前実家手伝い 結婚後は専業主婦(70歳以上 性別不詳)

質問 1 1 結婚歴のある方が、現実についてお答えください。実際にはどうでしょうか。

番号	主な意見の内容
1	パートタイムで働きたいが、子育て支援などが十分でないから働けない。(20歳代 女性)
2	子供が幼稚園に上がるまでは仕事はせず、その後はバイト。(30歳代 女性)
3	夫婦で方針を話し合い、お互い協力してできるなら、どの道でも良いと思う。(30歳代 女性)
4	パートから正社員になりたくても年齢的に受け入れてもらえない(30歳代 女性)
5	小学校特にPTAなど、仕事に対しての理解が薄いと思うので、実際には、とても大変である。(30歳代 女性)
6	子育てをしながらパートタイムで仕事をしている。(30歳代 女性)
7	子供はいないが家庭が一番なので結婚後はパートを選択。夫も賛成。(30歳代 女性)
8	保育時間中や父親のいる時間を利用してアルバイト中(30歳代 女性)
9	結婚するまで仕事を持ち、子育て終了後からパートタイムにでる。(40歳代 女性)
10	働いて欲しくないと言われ自由に出来なかった。(40歳代 女性)
11	結婚時に仕事を辞し、子育て終了後パートで仕事。(40歳代 女性)
12	③(子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで働く)のあと、家事に専念(40歳代 女性)
13	子育てのはっきりした時期が不明です。いつまでという事ですか?子育てに終わりはない。(50歳代 女性)
14	常に家に根をおく事。第1子出産後10年家にいて後フルタイム。(50歳代 女性)
15	学校より帰宅時は「おかえり」の声かけはするようにした。10時~14時位のパートを少ししました。(50歳代 女性)
16	内職(60歳代 女性)
17	家事をしながら内職で生活費を確保(60歳代 女性)
18	③(子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける)の様な働き方をして、家計を助け、持家の希望を叶え、現在は、高齢のため家庭に在るだけ。(70歳以上 女性)
19	老齢になっても元気であれば出来る仕事を持つべき。高齢者の職場ボランティア等有れば知らせしてほしい。(70歳以上 女性)
20	結婚するまで仕事、結婚後は家事に専念、子育てが終わったらパートタイムで仕事(30歳代 男性)
21	本人が希望すれば、②(子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける。)か③(子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける。)で仕事を続ける。(30歳代 男性)
22	どうでもよい、本人の好きにすればよい。(30歳代 男性)
23	興味ある仕事があるときには働く。(40歳代 男性)
24	好きな様にすればいい。(60歳代 男性)
25	結婚して子供が生まれ子育てが終了後からパートで働く。(60歳代 男性)

26	家庭が経済的に自立できたら妻は仕事を辞めた。(60歳代 男性)
27	一人住まい(70歳以上 男性)
28	一時的にパートタイムで仕事をした。(70歳以上 男性)
29	子供が小さいので預ける所がないと仕事はできない。(30歳代 性別不詳)
30	仕事熱心だったが、過労で働けない身となり子育てにも後悔している。(30歳代 性別不詳)
31	子育て中も保育所等の保育場が確保できれば仕事をする。フルタイム・パートタイムどちらでも。(30歳代 性別不詳)
32	子供がいなかったので、パートタイムからフルタイムに切り替えた (40歳代 性別不詳)
33	子育て中はパートタイム、手が離れてからは現在もフルタイム(50歳代 性別不詳)
34	⑤(子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する)の後、子供が大学生のとき、パートタイムで仕事をした。(60歳代 性別不詳)
35	仕事というよりライフワークをもつ(60歳代 性別不詳)

質問 12 今後、男女がともに社会のあらゆる分野にバランスよく積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。

番号	主な意見の内容
1	男女差を理解した上で、男女差がない様に男女協力して生活できる社会を作ってほしい。 (20歳代 女性)
2	教育現場で男女平等の観念を教え、子供のころから学習させる。(30歳代 女性)
3	男女のことよりももっと大切な問題があると思う。子供の医療費を伸ばすなど。 (30歳代 女性)
4	出産、育児のしやすい環境。救急の小児科がないのは問題。育児をしながら働く身としても、どーにかしてほしい！！主に女性が育児をしている中近くの病院がないのは大変！！ (30歳代 女性)
5	たとえば（東京都〇〇区と比較）学童保育が区で年間 5,000 円で預けたい日のみで長期休業の時等も OK→上尾は日額約 15,000 円位、しかも週 2～3 日とかでも同じ金額だし、働きにくい。早く中学まで医療費の補助（通院）を拡大してほしい。近くに親類のない私達には、とても住みにくい県だと思います。何とかしてほしい・・・。(30歳代 女性)
6	子供の学校の PTA 活動や地域の行事（こども会、交通安全母の会、自治会行事等）母親の負担になることばかりだと、常々思っています。 上記の活動がある度に、仕事を休んだりするのでは、よほど理解のある職場でないと仕事をつづけられません。その為、私は、正社員で働くことを躊躇してしまいます。  *「質問 10」の子育ての時期というのは、何歳を基準にしているのでしょうか？“子どもが小さいうち”ということですが、PTA や学校行事の参加も働く女性には、大変負担です。“子どもが小さいうち”だけが大変なのではありません。(40歳代 女性)
7	地域に細かい仕事をしてくれるボランティアを作って交流してほしい。(50歳代 女性)
8	男性の意識を変える教育(60歳代 女性)
9	「女は家庭、男は仕事」という分業も決して悪い事ではないと思う。その家庭、家庭により価値観も違うので、そういう家があっても良いのでは。そのような時代のほうが、「まともな子供」が多かったような気がする。DV なども親の愛を感じず育った人が行ったりするのではないのでしょうか。(40歳代 女性)
10	このネーミングはしっくりしません。イメージがわからない。(60歳代 女性)
11	「なぜ」不平等の現実があるのかを考えるべき。(20歳代 男性)
12	バランスよくと書いてある時点でまだバランスはよくない様なのでその辺の意識が無くなればよいのではないかと思っている。(20歳代 男性)

1 3	<p>女性が男性の真似事をして仕方がない。 EX:力仕事</p> <p>男性が女性の真似事をして仕方がない。 EX:子育て(母乳)</p> <p>生き物としての役割も視野に入れる必要がある。人も動物であるから社会的側面のみでは、逸脱している。市がどうのこうのではない。</p> <p>その人ならで、力のある女性→力仕事。家事の好きな男性→家の仕事</p> <p>“相談があれば対応する程度”で。若い人の意識は変わってきている。かなり柔軟であると思う。(30歳代 男性)</p>
1 4	小・中学生の医療費をタダにする。(30歳代 男性)
1 5	育児休業、介護休業を積極的に男性に取らせている会社に補助金を支給する。(30歳代 男性)
1 6	<p>余計な事は、行わず、先ず社会福祉を充実させるべきである。</p> <p>中途半端にあれこれ行い、無駄な税金を使用せず、民間と同じく余剰な人員は整理すべきである。また、公務員の給与体系を明確に開示し、市民の承認を受けるべきであると思う。</p> <p>(40歳代 男性)</p>
1 7	保育園、介護施設が不足しているので、充実させるように増設させる。(50歳代 男性)
1 8	単身世帯(一人住まい)(70歳以上 男性)
1 9	企業に協力を求める。(30歳代 性別不詳)
2 0	男性が育児休業や介護休業を取得する制度があっても現実には、取得しにくい職場も多く、取得できるよう働きかけや対策を行って欲しい。(50歳代 性別不詳)
2 1	<p>行政がしっかりと育休・産休を義務付けたとしても、女性の場合であっても、教育現場、市役所勤務など国から守られている立場にいる方々が取り入れる事であって、実際問題、男性・女性を問う前の問題ではないでしょうか？</p> <p>私も現実、子供を3人産み、2人目までは正社員で育休を何とかもらえました。しかし、3人目になるとパートタイムに移行、その時、市役所の方に言われた言葉は、「仕事を探してから保育所を探してください」でした。『子育てでは良い環境の上尾市』と言っている市役所の方の言葉ではないと感じています。まずは、男女うんぬんよりも『子育て』を皆でしている気持ちになる事が必要ではないのでしょうか？(30歳代 性別不詳)</p>
2 2	個人が自己の人生をいかに目標をもって生きるか(60歳代 性別不詳)
2 3	男中心の社会をつくること(70歳以上 性別不詳)